奥尻島松江遺跡

1982

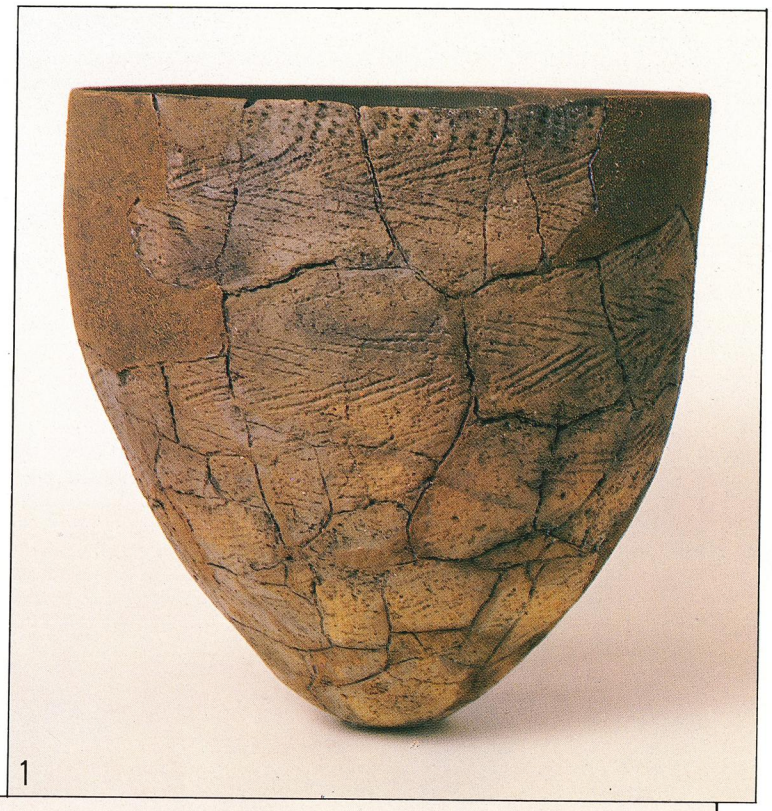
奥尻町教育委員会

奥尻島松江遺跡

— 松江原野１号線道路改良工事に伴なう記録保存の発掘調査報告 —

1982

奥尻町教育委員会



カラー図版i　２号竪穴出土（１・２）の復元土器

カラー図版ii　３号竪穴Ｖ層出土（３・４），１号竪穴出土（５・６）の復元土器

例　　言

i　本書は，北海道奥尻郡奥尻町字松江49－1，447，448番地に所在する松江遺跡の発掘調査報告書である。

ii　本調査は，農作物等の生産向上，産業開発の発展と地域住民の生活安定を図ることを目的とした，松江原野1号線道路改良工事に伴なうものである。

iii　発掘調査は，昭和57年4月21日に着手し9月24日に完了，引き続き昭和57年9月25日より昭和58年3月10日まで整理作業をおこなった。

iv　本調査の主体者は，奥尻町産業建設課ならびに奥尻町教育委員会である。

v　調査は，日本考古学協会員・佐藤忠雄が担当者となり，佐藤芳子が調査員としてこれに当った。

vi　本書の執筆はⅠ・II_2・II_3（遺構・土器）Ⅲ・Ⅳをを佐藤忠雄，II_1・II_2を佐藤芳子，I_3・II_3（石器）・Ⅲ　を千代肇が分担した。

vii　発掘・整理ならびに本書の作成にさいして，下記の機関と各位より指導・助言・協力を賜った。ここに感謝の意を表したい。北海道教育庁文化課，北海道土木部道路係市町村道室，桧山教育局，大沼忠春，河野本道，下倉正昭，竹田輝雄，成田敏雄，中村経雄，中村福彦，安本勝広.（敬称略）

viii　石器の実測・トレースは，千代宏子・内海和子，土器の実測・拓影は梶沼聖樹が主として受持ち，佐藤忠雄・千代　肇がそれを修正した。写真撮影は現場を佐藤忠雄，室内を佐藤雅彦がおこなった。

ix　土器拓影の縮尺は1：3，石器実測図は第11・18・26・29・37・38図が1：4，外は1：2である。写真図版は土器が1：3，石器は第15・20・26・29・37・38図版が1：3，外は1：2で，その他の図には，すべてにスケールを付した。

x　整理終了ごの出土遺物は，奥尻町教育委員会が保管し，今秋竣工予定の奥尻町郷土資料館に収蔵展示される。

目　　次

例　言

Ⅰ．松江遺跡の概要……1

1.遺跡の立地……1

2.調査の方法……3

3.遺物の分類……5

a.土　器……5

b.石　器……6

Ⅱ．発掘調査……12

1.遺跡の層序……12

2.遺物の出土状況……12

3.遺構と遺物……16

a.1号竪穴……16

b.2号竪穴……27

c.3号竪穴……48

d.4号竪穴……65

e.遺構外の遺物……71

Ⅲ．総　括……98

Ⅳ．結　語……101

参考文献

図　　版

挿図目次

第１図　奥尻島松江遺跡位置図
第２図　発掘区付近の地形図
第３図　石器分類模式図　(1)
第４図　石器分類模式図　(2)
第５図　発掘区の概念と層位実測位置図
第６図　層位実測図
第７図　遺構の位置と遺物の出土状況
第８図　１号竪穴実測図
第９図　１号竪穴出土の復元土器
第10図　１号竪穴 Ⅶ・Ⅵ$_3$・Ⅵ$_1$・Ⅴ層出土の土器
第11図　１号竪穴 Ⅶ・Ⅶ$_1$ 層出土の石器　(1)
第12図　１号竪穴 Ⅶ・Ⅶ$_1$ 層出土の石器　(2)
第13図　１号竪穴 Ⅶ$_1$・Ⅶ$_2$ 層出土の石器　(3)
第14図　２号竪穴実測図
第15図　２号竪穴出土の復元土器
第16図　２号竪穴Ⅶ$_1$・Ⅵ$_2$層出土の土器　(1)
第17図　２号竪穴Ⅶ$_1$・Ⅵ$_2$層出土の土器　(2)
第18図　２号竪穴Ⅶ$_1$・Ⅵ$_2$層出土の土器　(3)
第19図　２号竪穴Ⅶ$_1$・層出土の石器　(1)
第20図　２号竪穴Ⅶ$_1$・層出土の石器　(2)
第21図　２号竪穴Ⅶ$_1$・層出土の石器　(3)
第22図　２号竪穴Ⅶ$_1$・Ⅶ$_2$層出土の石器　(4)
第23図　２号竪穴Ⅵ$_1$・層出土の石器　(1)
第24図　２号竪穴Ⅵ$_1$・層出土の石器　(2)
第25図　３号竪穴実測図
第26図　３号竪穴Ⅴ層出土の復元土器
第27図　３号竪穴Ⅵ$_1$・Ⅵ$_2$・Ⅴ層出土の土器　(1)
第28図　３号竪穴Ⅵ$_1$・Ⅵ$_2$・Ⅴ層出土の土器　(2)
第29図　３号竪穴Ⅵ$_1$・Ⅴ層出土の土器　(3)
第30図　３号竪穴Ⅵ$_1$ 層出土の石器　(1)
第31図　３号竪穴Ⅵ$_1$ 層出土の石器　(2)
第32図　３号竪穴Ⅵ$_2$ 層出土の石器　(3)
第33図　３号竪穴Ⅵ$_1$・Ⅴ層出土の石器　(1)
第34図　３号竪穴Ⅵ$_1$・Ⅴ層出土の石器　(2)
第35図　４号竪穴実測図
第36図　４号竪穴Ⅵ$_2$層出土の石器　(1)
第37図　４号竪穴Ⅵ$_2$層出土の石器　(2)
第38図　遺構外出土の土器　(1)
第39図　遺構外出土の土器　(2)

第40図　遺構外出土の土器　(3)
第41図　遺構外出土の土器　(4)
第42図　遺構外出土の土器　(5)
第43図　遺構外出土の土器　(6)
第44図　遺構外出土の石器　(1)
第45図　遺構外出土の石器　(2)
第46図　遺構外出土の石器　(3)
第47図　遺構外出土の石器　(4)
第48図　遺構外出土の石器　(5)
第49図　遺構外出土の石器　(6)
第50図　遺構外出土の石器　(7)

図版目次

カラー図版 i　2号竪穴出土（1，2）の復元土器
カラー図版 ii　3号竪穴Ⅴ層出土（3，4），1号竪穴出土（5，6）の復元土器

第1図版　調査前の発掘区近景
第2図版　調査終了時の発掘区近景（東から南を望む）
第3図版　発掘区東隅に検出された沢址
第4図版　1号竪穴全景
第5図版　2号竪穴全景
第6図版　2号竪穴遺物の出土状況
第7図版　3号竪穴全景
第8図版　3号竪穴遺物の出土状況
第9図版　4号竪穴全景
第10図版　発掘作業の状況
第11図版　発掘区の遺物出土状態
第12図版　1号竪穴Ⅶ$_1$・Ⅵ$_3$・Ⅵ$_1$・Ⅴ層出土の土器
第13図版　1号竪穴Ⅶ・Ⅵ$_1$層出土の石器　(1)
第14図版　1号竪穴Ⅶ・Ⅵ$_1$層出土の石器　(2)
第15図版　2号竪穴Ⅶ$_1$・Ⅵ　層出土の土器　(1)
第16図版　2号竪穴Ⅶ$_1$・Ⅶ$_2$層出土の土器　(2)
第17図版　2号竪穴Ⅶ・Ⅵ$_2$層出土の土器　(3)
第18図版　2号竪穴Ⅶ$_1$　　層出土の石器　(1)
第19図版　2号竪穴Ⅶ$_1$・Ⅶ$_2$層出土の石器　(2)
第20図版　2号竪穴Ⅵ$_1$・　　層出土の石器
第21図版　3号竪穴Ⅵ$_1$・Ⅵ$_2$・Ⅴ層出土の土器　(1)
第22図版　3号竪穴Ⅵ$_1$・Ⅵ$_2$・Ⅴ層出土の土器　(2)
第23図版　3号竪穴Ⅵ$_1$・Ⅴ層出土の土器　(3)

第24図版　3号竪穴Ⅵ1層出土の石器　(1)
第25図版　3号竪穴Ⅵ2層出土の石器　(2)
第26図版　3号竪穴Ⅵ1・Ⅴ層出土の石器
第27図版　4号竪穴Ⅵ1層出土の石器　(1)
第28図版　4号竪穴Ⅵ2層出土の石器　(2)
第29図版　遺構外出土の土器　(1)
第30図版　遺構外出土の土器　(2)
第31図版　遺構外出土の土器　(3)
第32図版　遺構外出土の土器　(4)
第33図版　遺構外出土の土器　(5)
第34図版　遺構外出土の土器　(6)
第35図版　遺構外出土の石器　(1)
第36図版　遺構外出土の石器　(2)
第37図版　遺構外出土の石器　(3)
第38図版　遺構外出土の石器　(4)

表　目　次

第1書　1号竪穴出土土器一覧表
第2書　1号竪穴出土石器一覧表
第3表　1号竪穴ピット計測一覧表
第4表　2号竪穴ピット計測一覧表
第5表　2号竪穴出土土器一覧表
第6表　2号竪穴床面出土石器一覧表
第7表　2号竪穴覆土出土石器一覧表
第8表　2号竪穴出土図示外石器一覧表
第9表　3号竪穴ピット計測一覧表
第10表　3号竪穴出土土器一覧表
第11表　3号竪穴床面出土石器一覧表
第12表　3号竪穴覆土出土石器一覧表
第13表　3号竪穴出土図示外石器一覧表
第14表　4号竪穴ピット計測一覧表
第15表　4号竪穴床面出土石器一覧表
第16表　4号竪穴出土図示外石器一覧表
第17表　遺構外出土土器一覧表
第18表　遺構外出土石器一覧表
第19表　遺構外出土図示外石器一覧表
第20表　土器片出土量一覧表
第21表　Flake出土量一覧表
第22表　球状礫器出土一覧表
第23表　石器出土一覧表

Ⅰ．松江遺跡の概要

1．遺跡の立地

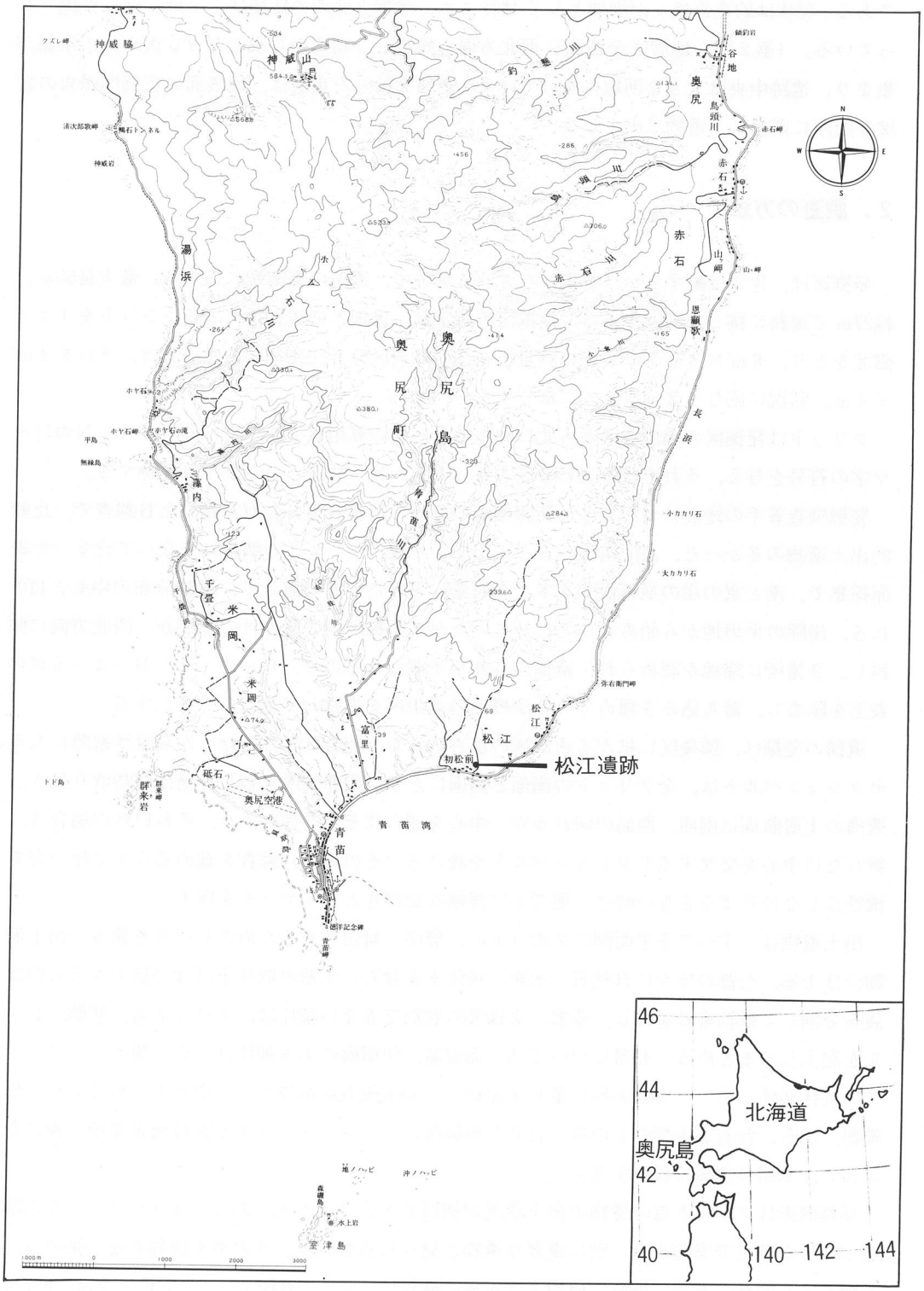
奥尻島は北海道渡島半島の西方海上にある離島で，奥尻港の真東に当る大成町平浜との直線距離は約30km，晴天に望めば浜の家並みを見ることができる。島の大きさは，東西11km，南北27km，周囲60km，面積143.27km²である。形状は，西岸に偏在する神威山584m を折点とした「く」の字型，側面観は低平で海成段丘が発達し，丘陵性台地が形成されている。

松江遺跡は北海道奥尻郡奥尻町松江447，448，49－1に所在する。そこは松江市街地より1.5km南に離れた地名を初松前と呼ばれる小集落で，青苗市街からは鰍澗より2.5km北にあり，ちょうど青苗岬に対峙する青苗湾の一方の基部にあたる。初松前は，古くアイヌ名で「ツマイ」―中広い入江の場所―，「ハマシマイ」―潮の半島・大きな入江の場所―と呼ばれていたが，明治2年，国郡制定のおりに松前藩の始祖・武田信広が1454年，南部大畑より蝦夷島に渡るとき時化で遭難，この地に漂着し，上ノ国脱出までの間，暫らく居を構えたというアイヌ口碑に基づいて改称された地名である。

遺跡が所在する地点は北緯42°04′18″，東経139°28′45″にある。市街地のほぼ中央から北に伸びる松江原野1号線（松江50番地先を起点とし，松江原野414番地を終点とする）登坂口の左側，旧松江小学校裏の丘陵上である。本調査の対象となった地点の地番は，阿部正治氏所有地49－1，448，阿部元一氏所有地447のそれぞれ東面の一部である。

この遺跡は，昭和27年8月，当時函館市立博物館学芸員であった石川政治と深瀬真澄・千代肇ら三氏によって確認され，考古学雑誌にその概要が報告された。奥尻町埋蔵文化財包蔵地調査カードには，登録番号C・07・9，種別・遺物包蔵地，所在地・奥尻町字松江446・大須田喜代治氏所有地，時期（型式）中期・円筒上層式土器，出土遺物・石鏃・磨製石斧，保管者・青苗小学校とあるが，本調査に先立って実施した踏査では，446番地に遺跡が存在する証左は得られなかったし，青苗小学校保管の遺物も遺憾ながら所在不明になっていた。

奥尻島の海成段丘発達の顕著さは古くから知られているが，その研究成果は遺跡の分布調査を至便にしてくれる。瀬川秀良氏の分類によると，島の海成段丘は，つぎのように区分される。神威山Ⅰ面，神威山Ⅱ面，青苗川面，フケ歌沢面，松江Ⅰ面，松江Ⅱ面，赤石面，米岡面，寺屋敷面，赤石岬面，青苗岬面の11面である。これらの中で，縄文時代早期，前期，中期の遺跡は殆んどが重複し，寺屋敷段丘に立地が限定されている。したがって寺屋敷面は即遺跡の存在と結びつけられ，たとえ登録がなくても，開発行為等に対する事前対処が容易なのである。この寺屋敷段丘が広範囲にあるのが，青苗岬・奥尻空港・群来岬に至る，千畳と呼ばれている処で，青苗遺跡群がその中に立地している。松江遺跡が立地する寺屋敷面は標高23～25m，松江市街外れのラント川から西の赤川間に，幅150m～200mで帯状に延びており，ラント川口には薬師遺跡がある。松江遺跡の範囲は，登坂口より北に50m，西に80m，面積にして凡そ4,000m²



第１図　奥尻島松江遺跡位置図

である。現状は約半分近くが畑地として耕作され，崖縁と北西の低地はシノ地，他は荒地となっている。（第２図）地形は全体的に西北方面へ傾斜し，周辺から小さなカレ沢や地下水脈が集まり，遺跡中央は大きな凹地になっている。道路を挟んだ東側は，地表面に花崗閃緑岩の岩塊が随所に露呈し，遺物は出土しない。

２．調査の方法

発掘区は，片こう配すりつけ工事がなされる部分で，遺跡の東南端にあたる，最大長65m，幅27mで道路に接した範囲である。発掘区の設定は，民地との境界線にトランシットをすえて磁北をとり，８ｍ×８ｍグリッドに測量杭をうって大区分し，発掘にあたっては，それを４ｍ×４ｍ，状況に応じて２ｍ×２ｍに細分する。

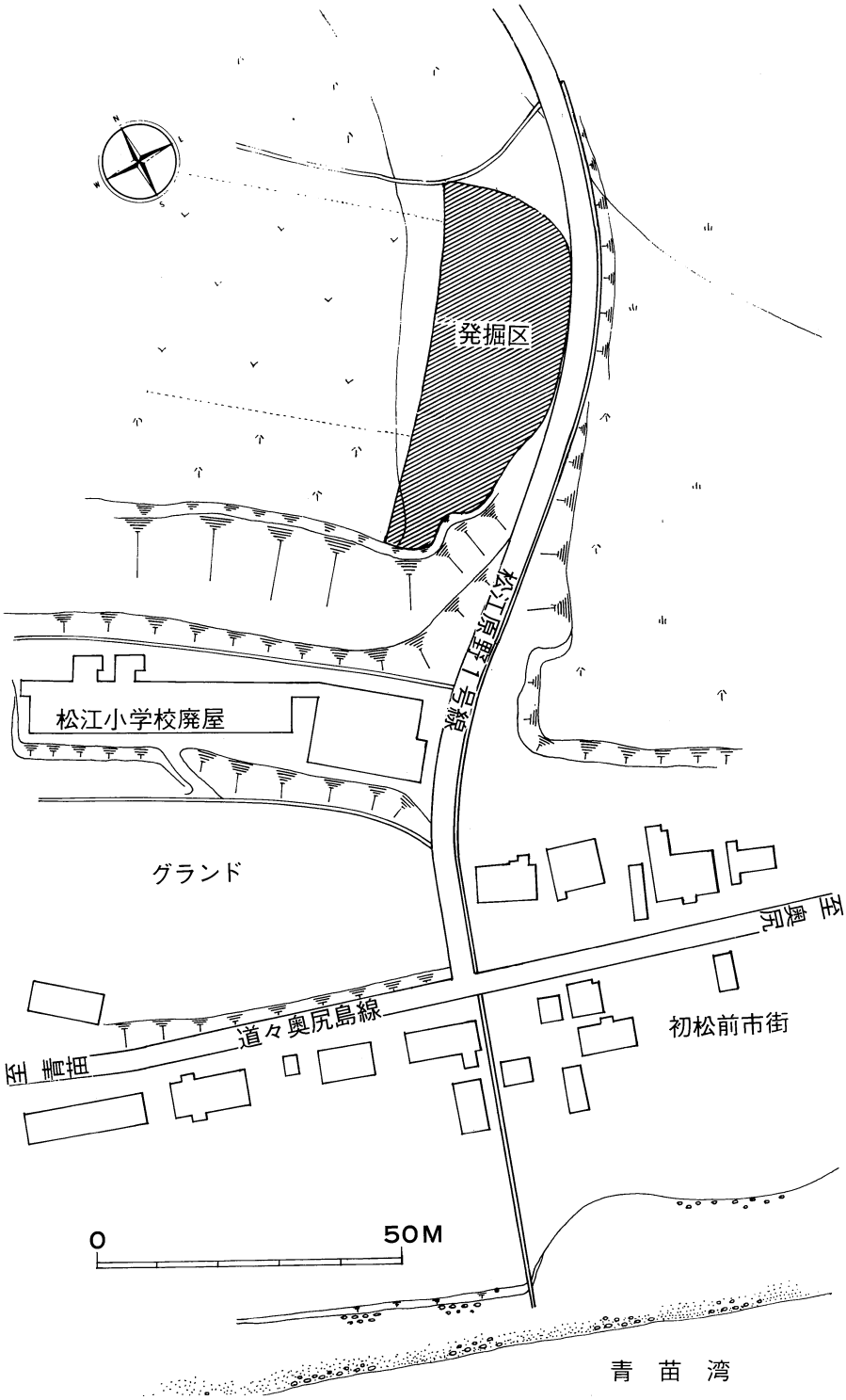
グリッドは発掘区の南西角隅から北に向って１～15の算用数字を，東に向ってＡ～Ｎのローマ字の符号を与え，それぞれの交わる区をＡ－１区，Ｎ－12区というように呼称する。

発掘調査着手の地点については，範囲確認のために道教育委員会が実施したＢ調査で，比較的出土遺物の多かった，高圧電柱のある平坦なシノ地，また，この調査に先立って行なった表面採集で，南と東の崖の崩落面から多くの石器片を得たのを考慮して，遺物分布の中心と目される，崖際の平坦地から始めることにしていたが，発掘区内の見かけの地形が，西北方向に傾斜し，２箇所に窪地が認められ，遺構の存在が予測されるので，Ｇ－４・５，Ｈ－４・５区の表土を除去し，落ち込みを埋めている淡橙色の火山灰を追跡して進めることにする。

遺構の発掘は，隣接区に拡がる火山灰の落ち込みを，完全に露呈させてから深度掘開に入る。セクションベルトは，全グリッドの南面と西南にとり，主要箇所を残し，他は随時取り払う。遺構の土層断面は南面，西面の何れかが，中心を通ればそれを代行させ，それ以外の場合は，新らたに中心を交叉するセクションベルトを設ける。その場合，調査を進めるうえで片一方を犠牲にしなければならない時は，層ごとに詳細な記録をとりスケッチを残す。

出土遺物は，すべてを平面図にスポットし，層序に対照させるためのレベルを測る。出土遺物には土器，石器のほかに自然石，木炭，炭化木を含む。土器の取り上げは一括できるものは袋を分割して遺物番号を付し，器形，文様等の判別できない細片は，グリッド名，層順，レベルを記入してまとめる。石器については，完成品，使用痕のある剥片は一点一袋とし，フレイクは共伴関係にあった完成品等の番号を記録し，30cm四方を単位として取りまとめる。その他，礫器，砥石，台石等大型のものは，目立たぬ箇所にマジック・インキで直接所定事項・番号を記入し，木製の魚箱に収納する。

写真撮影はグリッド毎の遺物の出土状況が把握できるフェイス，あるいはプロフィールの清掃が終った時点で実施する。別に重要な遺物と見られるものは，その出土過程を逐一納める。遺構もまた同様である。撮影に使用する現場の機材は，マミヤRB67，ニコンF_3，FM，F_2，各１台，ジナーＰ4″×5″１台。フィルムはイルフォードFP4，フジネオパンss，コダカラーII，



第２図　発掘区付近の地形図

エクタクロームEPD，同EPYを用途に応じて使いわける。フィルム現像は一週間単位で処理し，モノクロームは必らずコンタクトをとる。

実測図の作成は写真撮影終了ご，遺物の平面分布1：50，遺構1：20，土層断面1：20の縮尺を原則とする。

層序の記載については，標準層序にⅠ～Ⅶのローマ字を付し，間層，2次堆積層等に対して1～3の算用数字を与え，$Ⅵ_1$，$Ⅶ_2$層のように標記する。土色の判定は湿土の色調をとり，土色名は標準土色帖に準拠する。

3．遺物の分類

a. 土　器

松江遺跡から出土した土器片の総数は12,281点で，すべてが縄文時代の所産であり，早期，前期，中期，後期に及んでいる。量的には，早・前期のものが最も多く，ついで中期，後期は2パーセント程度である。以下に古い順からⅠ・早期～Ⅳ・後期の4群に時期区分し，識別される器形，文様，施文原体等の諸特徴を既存の型式に対照させ，各群を類別した。

Ⅰ群土器

縄文時代早期後半に位置するもので，貝殻文系と撚糸文系に分けられる。

a 類　貝殻腹縁条痕文を施した鳴川式，あるいは住吉町下層式に相当すると見られるもの。

b 類　短縄圧痕文を施した東釧路3式土器とみられるもの。

c 類　器形は深鉢形で口径が底径の約3倍，あるいは，それ以上の比率のもので，口縁は平縁で直立するか，やゝ外反気味である。口唇は薄く稜状ないしは丸味を帯びている。体部は，1.口縁部から胴部に向って緩やかな脹らみをもち，底部近くで強く細まり，直立する底部に移行するものと，2.胴部に脹らみがなく，括れて外に張り出した底部にテーパー状で連なるものとがある。文様は撚糸絡条体廻転文，圧痕文，撚糸圧痕文，組紐圧痕文，羽状縄文等の組み合わせによるもので，幅3mmほどの平たい粘土紐による区画的貼付帯のあるのが特徴である。それは横位と縦位に用いられ，波状のものもあるが，直線的なものの方が多い。なお，(2)の施文は貼付帯と羽状縄文のみ，という例が多く単調である。コッタロ式土器に相当する。

d 類　c類に比らべると器高の低い，ずんぐり型のようであるが，器厚は4mm弱で薄い深鉢形土器である。出土量がそう多くないので明らかではないが，施文形態から浅鉢形もあるようだ。中茶路式土器に相当するもので，道南地方では中野A遺跡8住居址に良好なセット資料が出土している。調査では復元資料こそ得られなかったが，ほぼ同一内容のものと推測される。文様は貼付帯がc類より更に細く薄くなり，断面が三角形で稜になっており，微隆起線に近いものがある。貼付の形状は，波状，曲状を累積させたもの，方形に区画したとみられるものなどである。施文は貼付帯の上から撚糸絡条体を縦位に廻転させたものが主体で，細い撚りの原体に

よる斜行縄文も少量見受けられる。

e 類　器形は口径と器高が等しい逆三角形であるが，見た眼では縦長の砲弾形である。東釧路4式に相当する。b・c・d類とともに全道的な分布を示している。道南地方では栄浜遺跡第2地点，元和遺跡第3・第5地点に好例があるが，同類の資料と目されるものは松前町鬼沢遺跡，建石遺跡等数多く知られている。本遺跡出土のものの施文は，美沢2遺跡でみられるような口縁の分化がある。文様は撚糸絡条体の原体押圧文が口縁部に縦位に並列し，その原体を用いた廻転文を1方向とそれに対する直角の2方向から施して横位の羽状撚糸文を作出している。

II群土器

縄文時代前期初頭に位置するもので，交叉状斜行縄文，羽状縄文，隆起帯と無文の口縁部のあるものなどである。

a 類　平縁丸底の深鉢形土器である。器高1に対し口径約1.5倍で広口，体部は緩やかにカーブする。口唇断面は角形に近く内外面とともに横ナデによる調整が加えられている。器形は中野式より綱文式に近く，胎土に繊維を含有しない。静川8遺跡第2群土器に類例がある。文様は$L\left\{\begin{smallmatrix}R\\R\end{smallmatrix}\right.$と$R\left\{\begin{smallmatrix}\ \\l\end{smallmatrix}\right.$の2種の原体を用い，斜行縄文を交叉させている。

b 類　$R\left\{\begin{smallmatrix}\ \\l\end{smallmatrix}\right.$の原体の施文方向を変えた羽状縄文で，口唇部が上面の調整によって少し内面にめくれ加減になっている。他はa類と共通する。

c 類　$R\left\{\begin{smallmatrix}\ \\l\end{smallmatrix}\right.$の原体による羽状縄文を施したもので，胎土に少量の微砂粒を含有する。口唇部の特徴等はc類と同じだが，口縁下3cmほどが無文で，幅1cmほどの三角状の隆起帯が周らされ，縦位の太い縄圧痕が等間隔にみられる。このc類は円筒土器下層式に平行あるいは直前に位置するものでないかと思う。

III群土器

縄文時代中期中葉に位置する円筒土器上層式，余市式土器に相当するもので，前者をa類，後者をb類とする。

a 類　円筒土器上層b～d式。

b 類　余市式にはノダップII式の一部の資料も含む。便宜上，施文形態から次のように分ける。1．$L\left\{\begin{smallmatrix}r\\r\end{smallmatrix}\right.$の撚糸文あるいは縄文地に原体の圧痕による縄線文と押引文・円形刺突文のあるもので，隆起帯を周らすものも含む。2．無文地に横位，斜位の縄線文による区画文があり，中を円形竹管文で埋めるもの。3．無文地に横位，縦位の押引文，刺突文，瓜形文を施すもの。4．網目状撚糸文と円形刺突列点文を施すもの。5．縄文地の口縁部に1～4条の平行縄線文を施すもの。器形は平縁の小型深鉢形土器で出土量も多い。6．無文地に篦がき曲線文を施すもの。7．その他

IV群土器

縄文時代後期に属するもの。　（佐藤忠雄）

b. 石　器

721点の石器を種類別にみると，石鏃，石銛，石槍，石錐，ナイフ状石器，掻器，削器，ヘラ状石器，剝片石器，大形剝片石器，磨製石斧（有孔磨製石器を含む），球状礫器，擦石類に分類することができる。石器は，大きく原石から加工した剝片を利用した剝片石器と剝離の過程で鋭くなった刃を利用したもの，原石の部分のみを使用したもの，または，原石自体を使用したもの，自然石を使用したもの，磨製石斧のように石材を研ぎ磨いて使用したもの，砥石のように部分を利用して石器を磨いたり，研いだりしたものなどがある。

松江遺跡から出土した剝片33,650点には，定形化したものでなく剝片そのものを利用するか，部分，局部を加工した石器も相当数あるので，その分類ではナイフ状石器の分類とあわせて別の機会に報告したいと考えている。

石器と石質の関係については，石器の種類と分類とかかわりがあるが，石器の加工と使用をもとに類別したので，それぞれの石器の種類のところで述べることにした。

Ⅰ．石鏃　石鏃は薄手で細長い五角形石鏃に近いものⅠ－a，体が細く長いものⅠ－b，柳葉形のものⅠ－c，三角形石鏃で基部にえぐり込みがあり，長さと幅がほぼ同じ比率のものⅠ－d，三角形石鏃でえぐり込みがあり，長さが幅よりもあるものⅠ－e，三角形石鏃で基部にえぐり込みのないものⅠ－f，有柄石鏃で肩が水平に張り出すものⅠ－Jg有柄石鏃で尖端と張りが鋭いものⅠ－Hの8種類がある。

Ⅱ．石銛　石銛に分類したもので石鏃として使用したものがあるかも知れないが，柳葉形で幅広のものⅡ－a，幅広であるが基部が丸味をもたず，水平になっているものⅡ－b，菱形で幅広のものⅡ－c，有舌で基部が幅広く造り出しているものⅡ－d，五角形で基部にややえぐり込みのあるものⅡ－e，五角形で両側が内湾しているものⅡ－f，五角形で大形となり体部が長く，えぐり込みが顕著なものⅡ－gの7種類がある。

Ⅲ．石錐　石錐には，ドリルとオウルの二種がある。しかし，棒状石鏃かドリルかと思われるものを除くと刺器に用いたと考えられるものがある。石片の尖端部を細くしたものⅢ－a，石片の一端だけを尖らせたものⅢ－bがある。

Ⅳ．石槍　柳葉形石鏃を大きくしたような形のものⅣ－a，両端が尖らずに一端の基部がやや丸味をもっているものⅣ－b，Ⅳ－bのタイプであるが幅広のものⅣ－cの3種に分けられる。

Ⅴ．ナイフ状石器　一般に石匙，石小刃などと呼ばれているが，紐をつけて使用したと考えられるものでナイフ状石器と呼ぶことにした。この種類は大きく細長のものと幅広のものに分類することができる。細長のものは縄文早期から出現するが幅広のものは前期になると多くなる傾向がある。この種類は完形化した石器のなかで47パーセントをしめている。つまみはすべて縦形である。肩部を水平にしてみると刃部の稜線が垂直に下がるものと右傾または左傾するものがある。右傾や左傾は刃部の造り出しによってきまるが，左傾する例は極めて少なく，そのほとんどが右傾する。こ

れは右きき，左ききに起因するのだろうか。プレッシャーフレーキングによる刃部の造り出しは，多く左から右にやや上向きに剝離され，それら剝離痕が平行して続けられている。縦長の剝片は打撃痕のあるほうを上部としている。裏面に加工しているものは，側線に細かな打欠きによるものである。

Ⅴ－１．（細長なもの）　刃部の稜線が垂直に走るものⅤ－1a，形が柳葉状で刃部の稜線が途中で右に孤を描くものⅤ－1b，形が柳葉形で先端部が横に直線的になり刃部稜線が右寄りになるものⅤ－1c，先端部が右尖りとなり刃部稜線が右傾するものⅤ－1d，体が左傾して刃部稜線が右寄りにあるものⅤ－1e，体が右傾して刃部稜線が左寄りにあるものⅤ－1fがある。

Ⅴ－２．（幅広のもの）　刃部稜線が垂直に下るものⅤ－2a，先端部が右寄りに尖り刃部稜線が右寄りにあるものⅤ－2b，刃部稜線が右傾し体部の左側にふくらみをもつものⅤ－2c，刃部稜線が左傾し体部の右側にふくらみをもつものⅤ－2d，体の先端部が右寄りに尖り，刃部稜線が左側から右先端部に伸びるものⅤ－2e，体部が極度に左傾し，刃部稜線が右側にあるものⅤ－2fがある。

Ⅵ．掻器　刃部が厚味をもち，片面のみ加工したものと裏面も調整加工したものがある。形は円形に近いものや基部が光っているものもある。円形で周縁を使用したものⅥ－ａ，円形に近い形をしているが，刃部が一端にある側縁も刃部として使用したものⅥ－ｂ，形態的に削器に似ているがおもな刃部が一端にあるものⅥ－ｃ，刃部が一端にあり，周縁を加工した基部の尖ったものⅥ－ｄ，基部が尖り一端と周縁を刃部とするが，裏面の側縁の一部にも調整痕があるⅥ－ｅがある。

Ⅶ．削器　側縁の刃部が機能をもつもので，ナイフ状石器など特定のものを除いたものを分類した。函館の梁川町遺跡のように片側に剝離原面および原石面を残して片側の側縁を刃部とした特徴的なものはみられず，それに近いもので片側に剝離原面や原石面を残さずに調整した長方形の削器が出土している。やや長方形で片側の側線をおもな刃部として，先端部の水平部分および側縁をも刃部加工したものⅦ－ａ，長方形で片側をおもな刃部としているものⅦ－ｂ，形は不定であるが片側をおもな刃部としたものⅦ－ｃ，長方形で縄文早期末から前期初頭に出土する長方形で片側におもな刃部をつけたものⅦ－ｄ，これらの石器裏面はほとんど調整加工していないで剝離面をそのまま残しているが，Ⅶ－ｄのように刃部の機能を効果的にするために裏面調整しているものもある。

Ⅷ．ヘラ状石器　この石器を注意したのは八幡一郎で，津軽半島の円筒式土器に伴出する石器の特徴的タイプとして論考したことがある。その中に槍に似ているが，先端部が尖っていないで，基部と同じように丸味をもつものとバチ形のものをあげているが松江遺跡では前者の完形品がなく，バチ形がほとんどであった。先端部が水平で刃部をなしている。裏面を調整していることが多い。刃部の水平部分が厚いなどの特

徴がある。刃部の水平部分と基部の比率が他のものよりも基部の柄が短いものⅧ－a，刃部が幅広いものⅧ－b，ヘラ状石器の標準的なものⅧ－cがある。

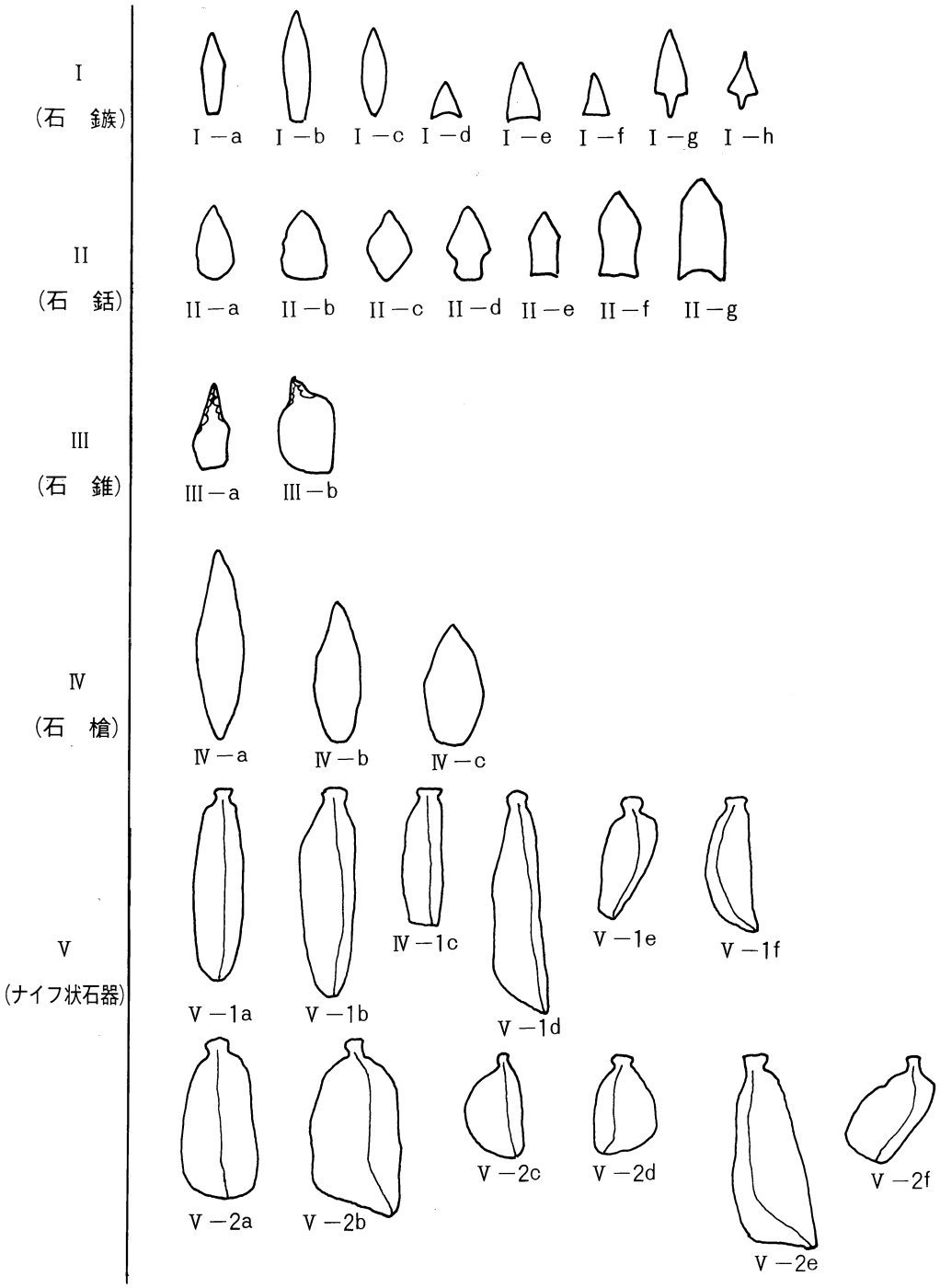
Ⅸ．大形剝片石器　剝片石器で掻器，削器と分類できない大形の石器である。機能的には削るとか，割る補助的な用途に使ったと考えるものである。刃部の加工にはプレシンヤーフレイキングの技法を用いないで，細かな打ち欠きがある。大形の削器と考えてよいものⅨ－a，粗く削るとか細かく割る補助的な用途，刃部が厚く魚包丁に相当するものⅨ－bがある。

Ⅹ．球状礫器　自然石の球状か円形で厚味がある円盤形のもので用途が明らかでない石器がある。球状で自然石を何らかに用いたために表面が磨かれたようになっているものである。例えば，皮なめしにたたくとか固くなった皮をもみほぐして柔かくするときに用いたと考えられるものである。球体のものⅩ－a，やや扁平に近い球体でないものⅩ－bである。

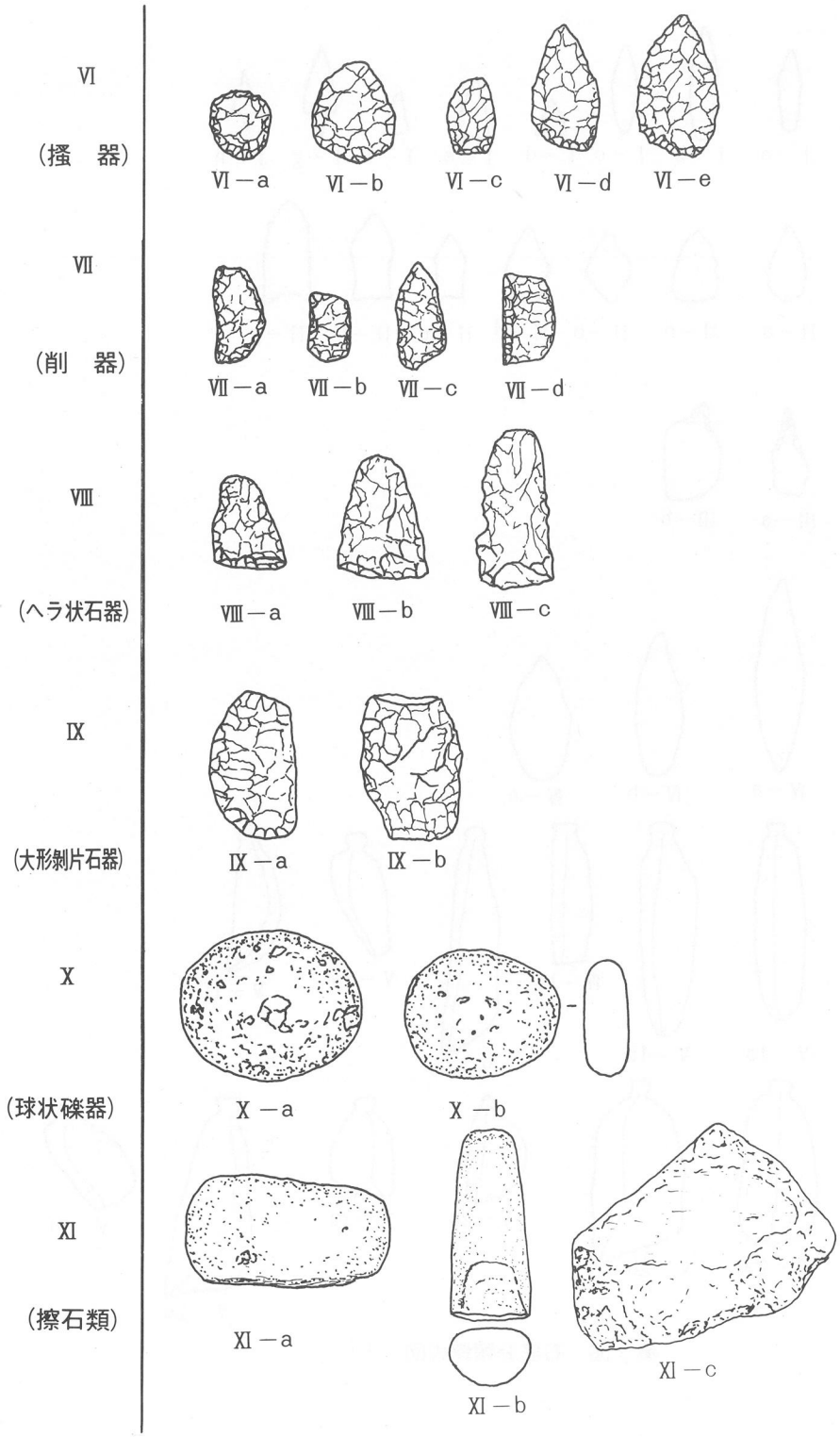
Ⅺ．擦石類　剝片石器などでない礫器を擦るとか，研ぐなどしたものがある。自然石の安山岩，玄武岩，凝灰岩といった用材で，薄手で片手で使用できる自然石の一端または稜線部分を擦って用いたもの，縄文前期から中期に比較的多く出土し，擦石と呼ばれているものⅪ－a，安山岩質で石棒のように全面を最終的に擦ったり研いで定形化したものであるが定形器でないために分類できなかったものⅪ－b，砥石に類するもので，自然石の一部を砥いでいるものである。なかには細い溝があって矢柄などを作るときに用いたと思われるものがある。砥石には大形のものと比較的小形で片面または両面を擦っているものⅪ－cがある。　（千代　肇）

岩質名の略号

略　号	英　　名	和　　名
Aga.	Agate	めのう
And.	Andesite	安山岩
Bl-Mu.	Black Mudstone	黒色泥岩
Gr-Mu.	Green Mudstone	緑色泥岩
Obs.	Obsidian	黒曜石
Sa.	Sandstone	砂　岩
Mu.	Mudstone	泥　岩
She.	Hardshell	硬質頁岩
Bl-Sch.	Black Schist	黒色片岩
Da.	Dacite	石英安山岩
Py-An.	Two Pyroxene Andesite	複輝石安山岩
Ba.	Basalt	玄武岩
Che.	Chert	硅　岩
Propy.	Propyrite	変朽安山岩
Gre-Sch.	Green Schist	緑色片岩
Ho-An	Hornblend Andesite	角閃安山岩
Rhy.	Rhyolite	流紋岩
Tu.	Tuff	凝灰岩
Tu-Sa.	Tuffacecus Sadstone	凝灰質砂岩



第３図　石器分類模式図（１）



第４図　石器分類模式図（２）

II．発掘調査

1．遺跡の層序

発掘区シノ地の平坦面で観察した標準土層は，現地表からⅠ渡島大島火山灰層（Osa），Ⅱ乙部層，Ⅲ渡島大島ｂ層（Osb），Ⅳ駒ヶ岳ｅ層（Koe），Ⅴ渡島大島白ハン層（Os白ハン），Ⅵ奥尻ロームＡ層，Ⅶ奥尻ロームＢ層からなる７層によって構成されている。

Ⅰは渡島大島1714年の噴火による降下堆積物であることは周知されている。層厚は20cm前後，色調は褐灰色10YR6/1であるが，シノ地に近い耕地は灰黄褐色10YR4/2，凹地の部分は流動が大きく，暗褐色，黒褐色とブロック状に変化している。

Ⅱは浅黄橙色の火山灰でＯsaの直下に堆積する。層厚は15cm前後で噴出源不明である。耕地内は殆んど欠層している。

Ⅲはその直下に続く黒褐色10YR3/1の火山灰で層厚は５cm前後である。

Ⅳは駒ヶ岳に由来する火山灰で黄橙色7.5YR7/8を呈する。層厚は５cm以下である。

Ⅴは渡島大島を起源とする火山灰層である。長期間の風化をうけて多量の腐植を集積し，黒色10YR2/1化したもので，部分的に白い斑点状の火山灰を残している。層厚は厚いところで30cm前後，薄いところは５cmほどである。

Ⅵは粘土質土壌で色調は褐色10YR4/4，灰黄褐色10YR4/2，黄褐色10YR5/6，にぶい黄褐色10YR4/3と場所によって可なり異なり，遺物を包含する。奥尻Ａローム層である。

Ⅶも粘土質土壌で色調もⅥと殆んど変らないが，どちらかというと灰黄褐色が強く，粘土化が進んだ奥尻Ｂローム層である。遺構の床面で遺物を包含する。

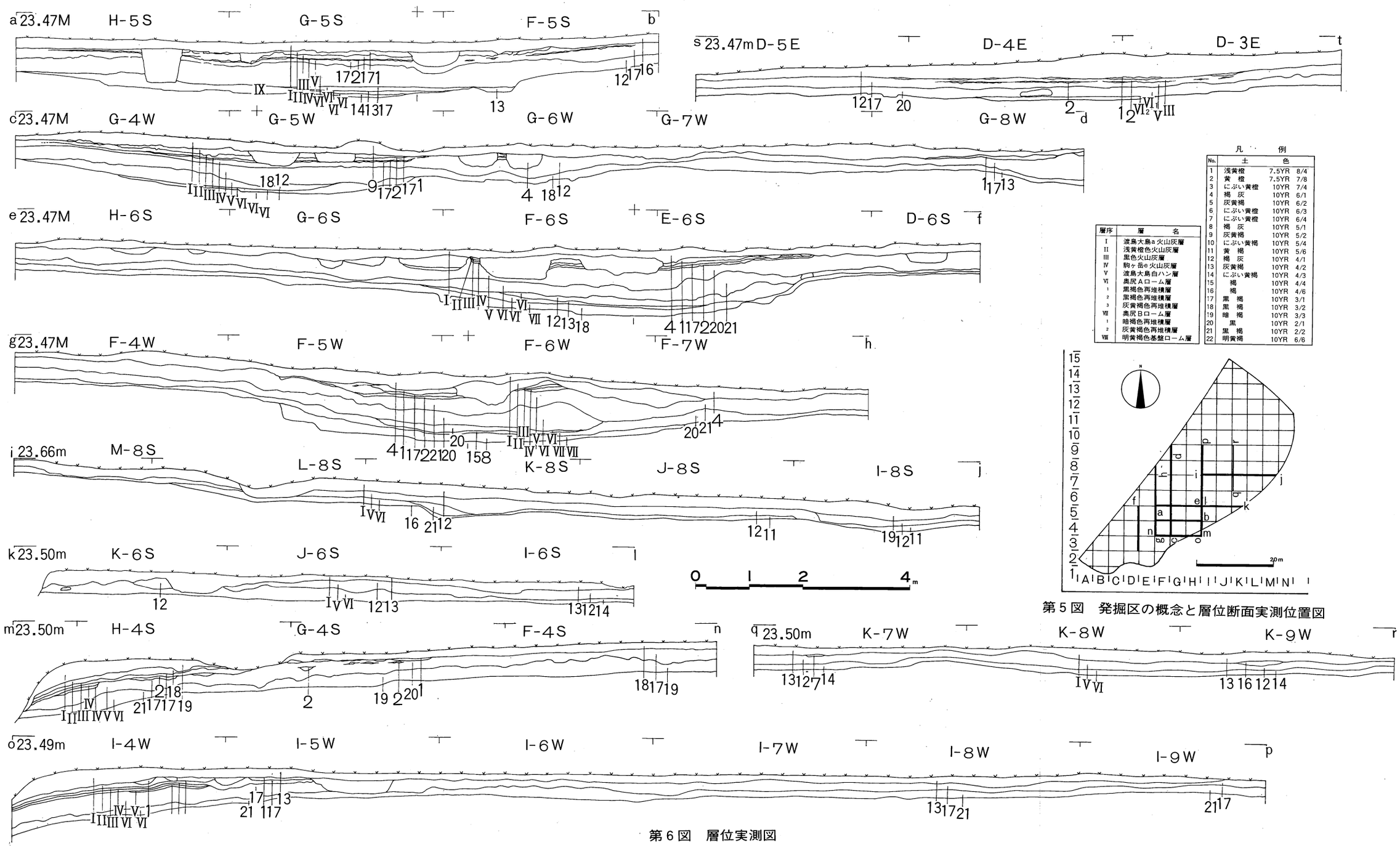
本遺跡の層序を概観すると，全体の地形が西北に傾斜しており，とくに沢址のような凹地に検出された１・２号竪穴付近は融雪時の凍上匍行や風雨がもたらした周辺の高所からの土壌の吹溜り現象がみられる。シノ地であっても，該地の年間風速が平均６～７ｍ，しかも懸崖地点とあっては堆積も著しく削減されるのであろう。層厚は全般に薄く，とくにⅡ層からⅤ層までの欠層が目立つ。

（佐藤芳子）

2．遺物の出土状況

高所にある平坦地のグリッド・遺構，斜面のグリッド・遺構の順に述べる。平坦地では，Ⅵ層：灰黄褐色10YR4/2の上半から遺物が出土する。Ｂ－３・４，Ｃ－３・４区に濃い分布を示すが，Ｃ－４区の土器は縄文時代前期から中期にかけての小片，石器は剝片が殆んどであるが別表のように異常な物量である。包含状態は下半になるほどコンパクトで密圧されている。周囲の地形からも，恐らくこの延長に本来の松江遺跡の中心があるのではないかと思う。この東

に隣接して３号竪穴がある。Ｄ－３区の覆土のＶ層：黒褐色10YR3/1から貼付帯に円形刺突文のある土器と網目状撚糸文のある土器が良好な状態で共伴した。（第11図版５）Ⅵ$_1$ 層:黒色10YR2/1では上半から網目状撚糸文，縄線文のある土器，円筒土器上層式が渾然となって出土し，（第８・11図版６・７）Ｄ－３，Ｅ－３区の南壁付近で羽状縄文や羽状撚糸文の円底土器が，基盤層に張りついた状態で出土している。竪穴中央の窪みの部分のⅥ$_2$ 層:灰黄褐色10YR5/2からは，縄文早期末のコッタロ式土器が散点状に出土したのみであるが，石器は比較的まとまっており，Ｅ－３区では壁外の焼土付近から流入したとみられる大量の剝片の出土があった。１号竪穴の場合は，Ⅶ$_1$ 層:黒褐色10YR3/1がＧ－４区の斜面からＧ－５区にかけて流れ込んでおり，石器は基盤層の上面のやゝグライ化した層に突き刺さるように出土し，土器は文様の識別できない小片がＧ－５区に多かった。ただ，炉址を覆っていたⅦ$_2$ 層との境いから，体部に隆帯状の段をもつ無文の丸底土器が，丸底とみられる羽状撚糸文の土器を伴出した。この竪穴の床面はⅦ$_2$ 層:灰黄褐色10YR5/2が東の緩斜面から入り込み，先端が炉址のある南西角隅に及んでいて，そこに復元されたコッタロ式土器が有孔石斧を伴って出土した。壁面の崩落や南西に残るベンチ様テラス，不規則な全体形状，遺物の出土傾向から竪穴あるいは生活址面が重複しているものと見られる。２号竪穴は１号竪穴の西北に連続してあるが，出土遺物に現われているようになり複雑な様相を呈している。遺物が出土するのはＶ層：黒褐色10YR3/2からで量的には少ない。中期末から後期初頭の土器片と若干の剝片を得たのみである。Ｅ－５区は１号竪穴のＧ－４区同様の斜面で，Ⅵ$_1$ 層:暗褐色10YR3/3からⅦ$_1$ 層:褐色10YR4/4へと下部になるにつれ密圧状態になり，フレイクが押流され突き刺さったり，集積しているものもあるが，土器片の場合ブロック状にまとまっていたものはない。原位置に近いのではないかと見られるものはＥ－６区東ベルトにかかる，Ⅵ$_1$ 層:黒色10YR2/1の下部からⅥ$_2$ 層:にぶい黄褐色10YR4/3上半の間に出土した前期に属する復元された円底の大型縄文土器である。（図版ｉ－２）それは一個体分横倒しの状態で検出され，柳葉形石鏃３本を伴っていた。（第11図版３）その下層であるⅥ$_2$ 層:にぶい黄褐色10YR4/3～灰黄褐色10YR4/2は西側から流れ込み，竪穴の中心部を覆っている。この層の土器の出土量は以外と多く，東釧路４式土器を主体としたまとまりがある。（第６図版）撚糸・絡条体廻転文，圧痕文による羽状文を主要文とする丸底の土器で１個体が復元された。（図版ｉ－１）つぎのⅦ$_1$ 層:褐色10YR4/4～暗褐色10YR3/3ではＥ－５・６，Ｆ－6区におよんで中茶路式土器の特徴のある40点余りの土器片を出土したが，コイル状絡条体圧痕文や組紐圧痕文等のコッタロ式土器と見られるもの，また貝殻腹縁条線文のあるものまでがあり，層位的区分はできなかった。竪穴内の石器の出土状態で気付いたことだが，球状礫器はＶ層とⅥ$_1$ 層との境いに集中し，床面から出土することは少なく，逆に床面およびⅦ$_1$・Ⅶ$_2$ 層にある擦り石，砥石等がⅥ$_1$ 層より上層から出土することはない。これは両者が共存しないことを意味するものではなく，２号竪穴全体の出土傾向が１号竪穴と同様，南西の斜面あるいはその直下に集中していることから，Ⅵ$_1$ 層上面ころ長期におよぶ可なりの規模の降雨による地表の流動があったと解釈できるだろう。（第５図）Ｋ－６，Ｌ－６区の４号竪穴の遺物は，東・南・



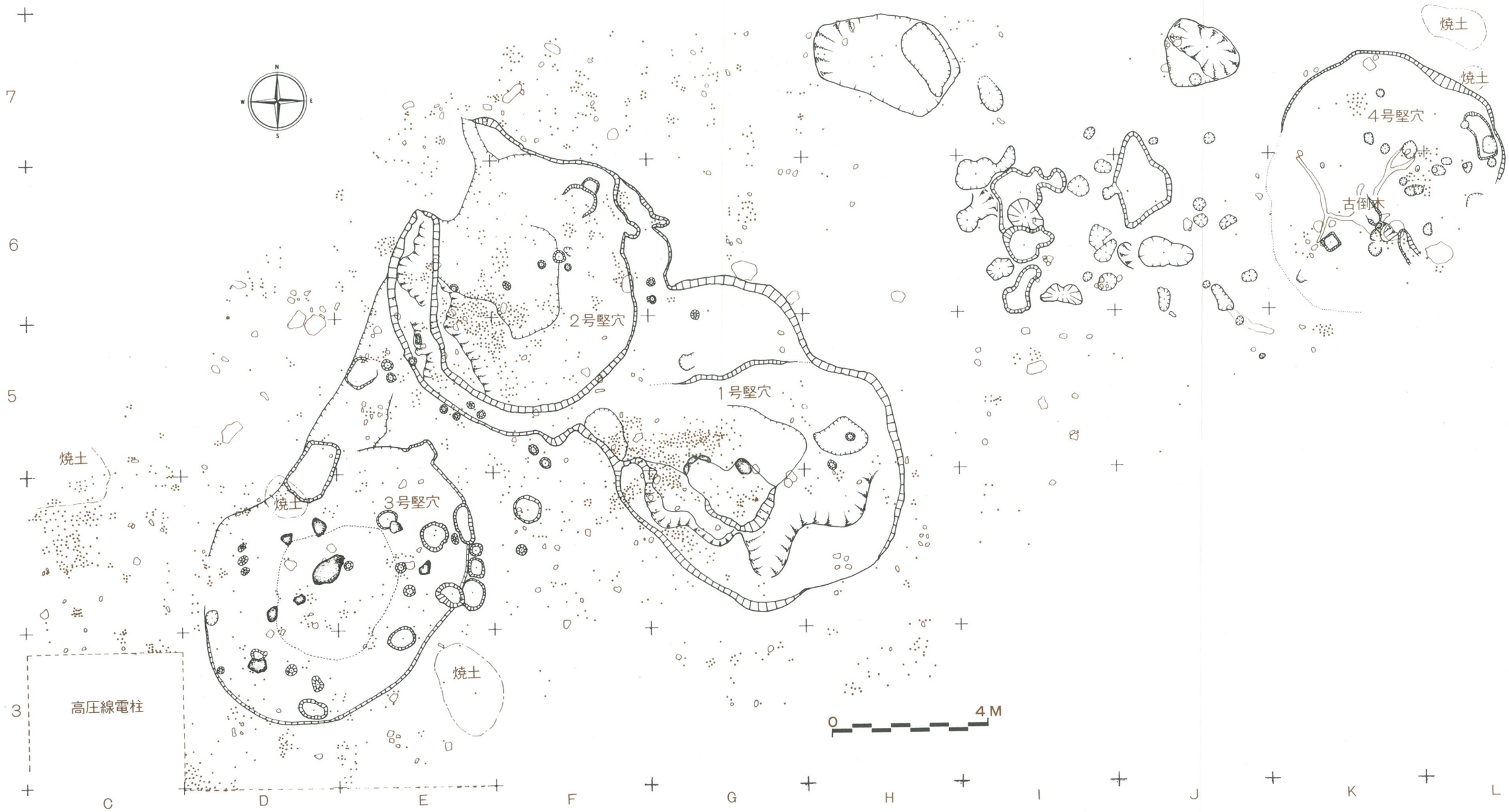
凡例

層序	層名
I	渡島大島a火山灰層
II	浅黄橙色火山灰層
III	黒色火山灰層
IV	駒ヶ岳e火山灰層
V	渡島大島白ハン層
VI	奥尻Aローム層
1	黒褐色再堆積層
2	黒褐色再堆積層
3	灰黄褐色再堆積層
VII	奥尻Bローム層
1	暗褐色再堆積層
2	灰黄褐色再堆積層
VIII	明黄褐色基盤ローム層

No.	土色		
1	浅黄橙	7.5YR	8/4
2	黄橙	7.5YR	7/8
3	にぶい黄橙	10YR	7/4
4	褐灰	10YR	6/1
5	灰黄褐	10YR	6/2
6	にぶい黄橙	10YR	6/3
7	にぶい黄橙	10YR	6/4
8	褐灰	10YR	5/1
9	灰黄褐	10YR	5/2
10	にぶい黄褐	10YR	5/4
11	黄褐	10YR	5/6
12	褐灰	10YR	4/1
13	灰黄褐	10YR	4/2
14	にぶい黄褐	10YR	4/3
15	褐	10YR	4/4
16	褐	10YR	4/6
17	黒褐	10YR	3/1
18	黒褐	10YR	3/2
19	暗褐	10YR	3/3
20	黒	10YR	2/1
21	黒褐	10YR	2/2
22	明黄褐	10YR	6/6

第5図　発掘区の概念と層位断面実測位置図

第6図　層位実測図



第７図　遺構の位置とⅥ層上面の遺物出土状況（・土器▲石器）

西面のプランが消失し，Ⅵ₂層：黒褐色10YR2/3に広く未炭化の古倒木の根・幹が延びており，その直下に文様の判然としない土器小片やフレイクを出土する。出土状況の点からK－7区から出土した擦り石8個と球状礫器1個の集まりは不自然であり，これらは北壁上L－8区の焼土周辺に検出されたチップの集積とあった石斧，石皿，擦り石等の仲間とみられ，確実にこの竪穴に伴ったものとはいい難い。

発掘区全体から見た遺物の出土分布は明らかに南の凹地，およびシノ地に偏在している。10列より北は，N－12区から西北に流路をとる古沢に向って傾斜し，遺物は全く出土しない。遺構外で出土遺物がグルーピングできるのはL－9区の円筒土器下層式に並行するとみられる土器と先きのL－8区の礫器群であり，これらは8，9列を結ぶ鞍部に生活址面があったように思われる。他に遺物が集中的な箇所は2号竪穴北壁外のF－7区にコッタロ式，1・3号竪穴南の崖の崩落斜面に東釧路4式，B－3・4区に中期の余市式・ノダップII式が比較的まとまった状態にある。また各区内には大小多形状の浅い掘り込みが数多く検出されている。そのうちの幾つかは人為的ピットの可能性もあろうが，それを想定しうるだけの積極的要件は何一つなく，遺物の出土状況もそれとは無縁に近いものであった。　　（佐藤芳子）

3．遺構と遺物

a．1号竪穴

覆　土

G－4・5・6区，H－4・5区とF－4・5区の一部にかけて検出された。東側は松江原野1号線に接する切り土のノリ肩，南は崖，西北が緩斜面の耕地になっており，南の標高は23.10m，北は22.75mで凡そ70cmの落差がある。東西はほぼ平坦でG－5区が僅かに窪んでいる。覆土は次のような層序で堆積する。

I層：褐色10YR4/6～灰黄褐色10YR4/2で腐植を含む壌土である。層厚は平均20cm，G－5・6区にV層に達する攪乱とH－5にⅦ₂層に達するテスト・ピット址がある。

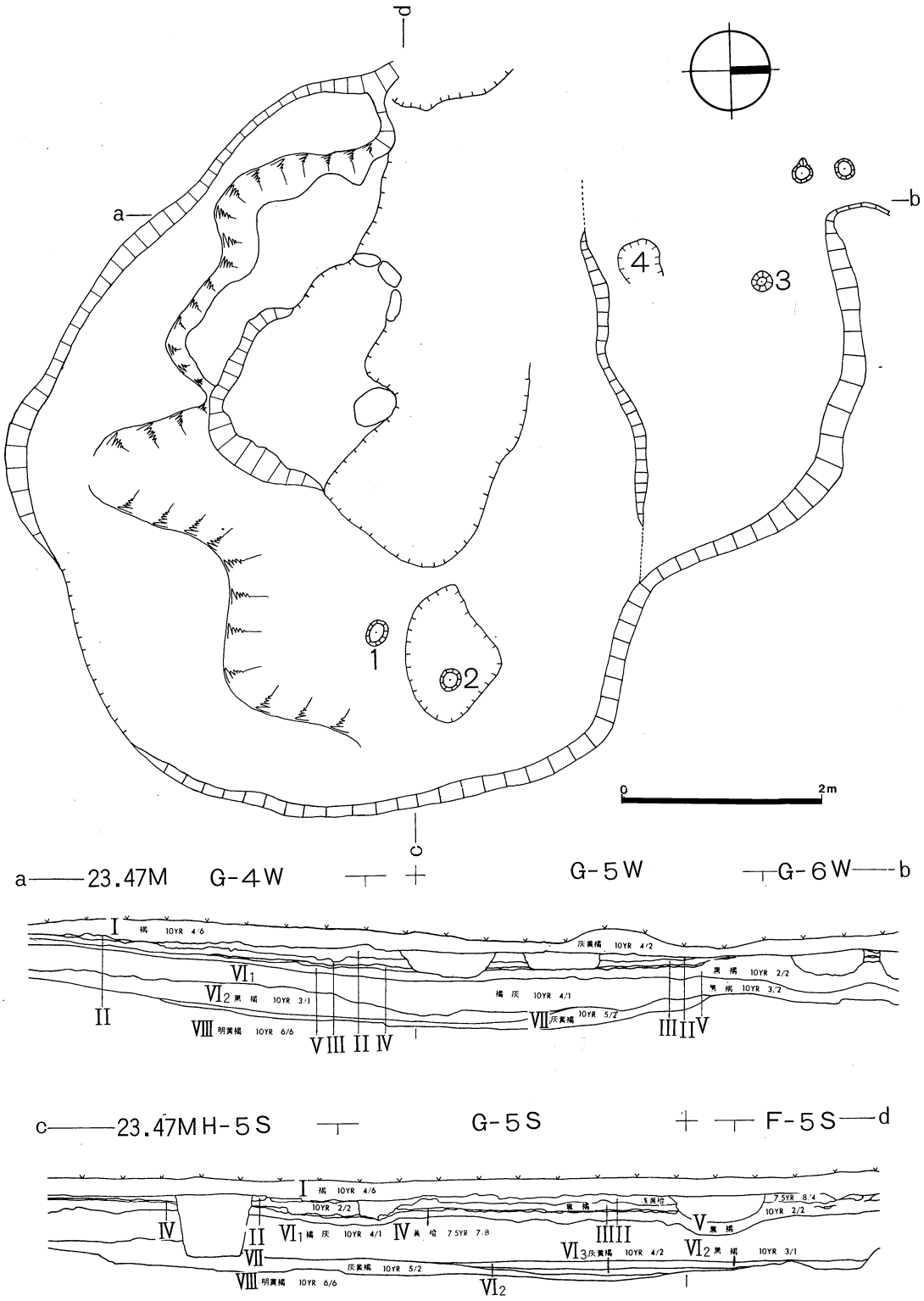
II層：浅黄橙色7.5YR8/4の火山灰の砂土で，G－4・5区の窪みに堆積する。中心の厚さは10～12cmで円状に拡がって消える。

III層：黒褐色10YR2/2の腐植に富む火山灰で層厚6～10cm。竪穴内での判別は容易である。

IV層：黄橙色7.5YR7/8の火山灰の砂土で，竪穴外では殆んど欠層になっている。この層は奥尻島南部平坦地での平均的厚さは2cm以下であるが，ここでは落ち込みで2～4cmあり，円状に拡がって消える。

V層：黒褐色10YR2/2の腐植に頗る富む壌土の火山灰層で層厚10cm前後と薄い。いわゆるOs白ハン層であるが，竪穴内の堆積では白い斑点が非常に少ない。水分を多量に含み，粘性がある。

VI層：褐灰色10YR4/1～黒褐色3/2の壌土で場所によって色調が異なる。層厚は32～50cmで上



第８図　１号竪穴実測図

面から遺物の包含がある。これをⅥ$_1$層とし，南の斜面を伝って流れ込んだG－5区中央に及ぶ堆積層：黒褐色10YR3/1は木炭粒を多量に含み，層厚10cm。これをⅥ$_2$層とし，その下層の灰黄褐色10YR4/2の厚さ6cmの粘土層をⅥ$_3$層とする。何れも再堆積層で遺物を包含する。

Ⅶ層：灰黄褐色10YR5/2は東の緩斜面から流れ込んだ再堆積層で，竪穴中央付近で層厚4cmで床面の大部分を覆っている。極めて粘性が強いロームで遺物を包含する。基盤層は明黄褐色10YR6/6で若干ラフな感じの粘土層で竪穴床面である。なお，Ⅶ・Ⅷ層は乾燥時は非常に硬く，亀裂が生じやすく冠水するとその間隙に軽い腐植土や異質の土壌が入り込んで，蔦が這ったようになる。床面は一応踏み締められているので面の追跡はそう難しいことではないが，日照り・降雨にかかわらず一旦作業を中止してしまうと見分けが困難になり壁や床を突き破る危惧がもたれた。

遺　構（第8図・第4図版）

G－4・5区とH－4・5区に火山灰の拡がりを求め，除去したのちにF－5区とG－6区を補足したが，F－5区の火山灰は別個のもの（2号竪穴）と判り，さきの4グリッドの掘り下げを行った。最初に壁が検出されたのはG－4区で，立上りは30°でなだらかではあるが認められた。だが東南に周るにしたがって，東から西に向う緩斜面に連なり，西は深く落ち込み，北東面はⅥ層とⅦ層の色調，粒度，硬度等の変化が甚しく，心もとない壁であった。G－4区の壁も結果的には2段になりベンチ様テラスとなって，更に床面の半壊した石組みの炉址へと窪む。またG－5区の中央に東から西へと延びる短い壁があり，炉址との間が擂り鉢状の凹地になっている。全体から見た床面は浅い皿形で小さな起伏がある。

平面の形状は東・南－西・北を長軸とし，長さ約7.6m，北・東－南・西を短軸とする最大幅6.9mの不整長方形で，少なくとも2軒以上が重複したものと考えられる。

遺　物

土　器（第10図・第12図版1～43）

出土した土器片は，口縁部38点，胴部833点，底部24点，総数895点でその中から2個体が復元された。拓影に摘出したものは43点である。Ⅰb：1・2，Ⅰc：3～17：27～37・39，Ⅰe：18～23，Ⅱb：24～26，Ⅱc：40，Ⅲb：38・41・42，Ⅳ：43で，Ⅰcのコッタロ式とⅠeの東釧路4式を主とする。個々の出土区，層位，特徴については第1表を参照されたい。

復元土器（第9図1・2，カラー図版ii　5・6）

1．Icのコッタロ式である。平縁で口唇部が内側に反り加減になっている。深鉢形で口縁部は僅かに外反し，体部はゆるやかな脹らみをもって底部に移る。底部は筒形で器高の10/2の高さで直立し，接合部は「く」の字を呈する。平底である。器厚は5mm前後で薄く平均しているが，底は14mmと厚い。施文は幅2～4mmの貼付帯により文様の割り付けをおこなったあとに撚糸文を加える。貼付帯は口縁上部では平行に2本，その下に1本を小波状にうねらせ，胴部では1本を周回させ上下の2本をうねらせている。底部近くにも1本が周回する。文様は撚糸文Lの

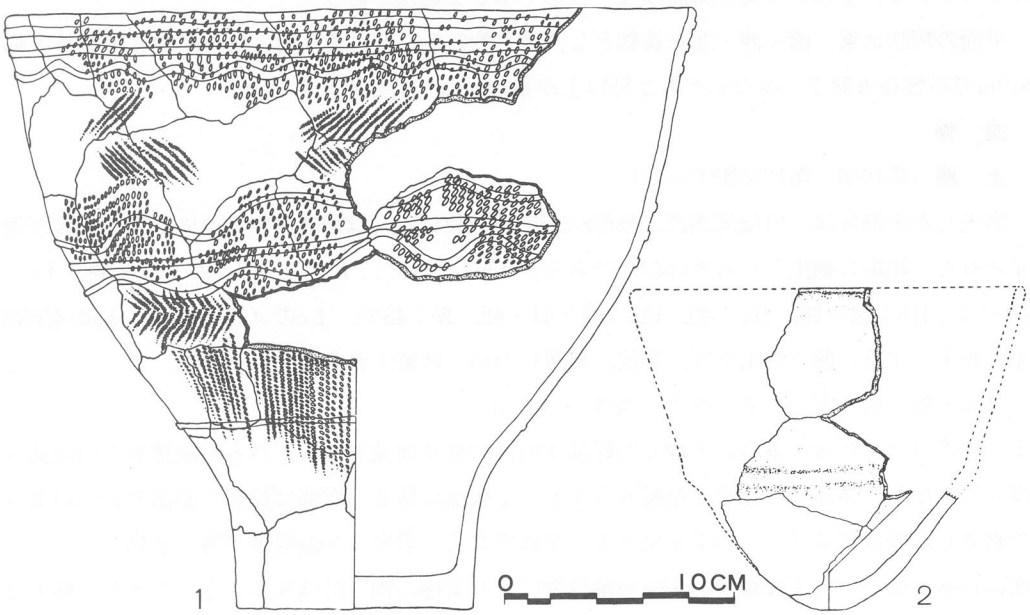
絡条体を口縁部と胴部の貼付帯中心に縦位に施し，撚糸文Rを密に巻いた絡条体を用いた方向の異なる羽状文と直行文を胴部貼付帯の上下に加えている。内面は横ナデによる調整がなされている。色調はにぶい黄褐色で焼成はやゝ脆い。細かい砂粒を含む。

器高26.2cm，口径30.2cm，底部径10.4cm。

2．Ieの東釧路4式に相当するものと思われる無文の丸底土器である。平縁で口唇は若干丸味がかっている。体部の中央よりやゝ下に意識的に隆帯状の脹らみが作出され，それより上部はテーパー状に外傾し，下部は内角が80°の丸底である。内面は横ナデ，隆帯状の部分は指頭による調整がみられる。胎土に砂粒を含む。色調はにぶい黄橙色で焼成は硬い。

器高14cm，口径推定17.4cm，器高6～8mm。

つぎに拓影土器のうち特徴的なものについて述べる。9は，底部に近い部分のもので幅2～3mmの薄い貼付帯が5段平行する。その上からR$^{l}_{l}$の絡条体の縦位圧痕文が施されている。Icとしたが Idとした方がよいかも知れない。10は，幅3mmの平板状のものに径 0.8mmほどの繊維の類をコイル状に巻き付けた原体を押圧したもので，その端に原体を押えたときの円形痕がみられる。なお繊維というのはそれ自体が極細のコイル状になっており，何なのか想定できない。15，16は同一個体で張りのある胴部付近のもの。3本組紐による斜位と横位の押圧文が施され，縄端による刺突列，原体端を押えたときの円形痕が装飾的である。18～22は同一個体に属するもので，18は口縁部で口唇断面は丸形，22は弱い脹らみをもつ胴部でL$^{r}_{r}$の絡条体が縦横2方向から施し羽状文としている。整形が悪く，輪積みの凹凸が目立つ。この種の器形は概ね逆三角形状の丸底であり，どちらかというと器高より口径のほうが大きい傾向にある。つぎの23の



第9図　1号竪穴出土の復元土器

例は，R$\{\}_{1}$の絡条体を前例と同様の手法で施文したものであるが，器厚も9mmと厚く微砂粒を多量に含んでおり，全く趣きを異にする。24～26は同一個体に属するもので，24は，口縁部で口唇断面は角形，口縁2cm幅に横走するL$\{^{R}_{R}$の縄文，同一原体を縦横2方向から施した横位の大型羽状縄文が施されている。胎土に0.2～0.5mmの多量の礫と若干の繊維を含む器厚9～11mmで黄橙色，焼成は硬い。28～30も同一個のもので，28は胴部，29・30は底部に近い部分である。幅5～6mmの貼付帯があり断面は三角形を呈す。その稜上に縄端による押圧文が並列する。施文はL$\{^{R}_{R}$・R$\{^{L}_{L}$による繊細な結束のある羽状縄文である。40はL$\{^{R}_{R}$・R$\{^{L}_{L}$の結束のある縦位の羽状縄文で極めて少ない施文例である。IIcに分類したが早期末の可能性もある。41は網目状撚糸文である。42はIeの山形に分化する口縁部かも知れない。

石　器（第11図1～24～第12図25～40，第13図版1～40）

1号竪穴から出土した石器は，定形化した石器55点，石片類559点で，総点数614点であるが，それぞれの出土した層，石器の計測値については第2表を参照されたい。　（佐藤忠雄）

石鏃　細形の石鏃I－a，I－b，I－cと三角形石鏃のI－dが出土している。細形の石鏃が5点，三角形石鏃1点で6点出土しているが，五角形石鏃に類するものもある。

石銛　有舌の石銛II－dと菱形のII－cがある。II－dが2点，II－cが1点で特色ある有舌の石銛は黒曜石製である。

石錐　ここで石錐と分類したものは，棒状のものと，同じ棒状で基部が太くて厚味のあるもの，刺器に類するものである。

ナイフ状石器　定形化した石器55点中22点出土しているが，分類すると細身のV－1a，V－1b，V－1c，V－1d，V－1fと身幅の広いV－2a，V－2b，V－2c，V－2d，V－2eがある。V－1c，V－1d，V－2bが多い。これらにつまみの小さいもの（15，29，33）や幅広で小形なもの（28，29，30）がある。

掻器　槍状のVI－dと扁平なVI－eがある。VI－eの34は裏面に剝離原面を残しているが刃部が孤状で厚味をもっていて，器面の加工はプレッシャーフレイキングによる。

ヘラ状石器　幅広のVIII－bである。刃部が水平で厚く，裏面を平らに加工している。

磨製石斧　石斧は2点出土しているが，1点は基部で薄く仕上げられ穴を両側からあけた有孔石斧である。1点は短柵形で器面叩き打つ技法で形を整えてから刃部を部分磨製によって造り出している。横断面形は円形に近い。遺構外の石器で磨石類のIX－bとしたなかにあるいはこの種の石斧の柄が混入しているのかも知れないがIX－bは石棒の類かも知れないので擦石類に入れておいた。

球状礫器　自然石の球状のものを用いて皮なめしなどそのままで叩くとかすり付けるとかの方法で使用したと考えられるもので，部分または全面が磨いたようにつるつるしているものである。8点出土している。これは竪穴の上部から出土している。

擦石類　安山岩の自然石の一部，稜線部分を擦るなどで使用したもの（41～44）砥石のように使用したもの（45～47）が7点出土している。　（千代　肇）

第1表　1号竪穴出土土器一覧表

図	図版	番号	分類	出土区	層位	備　　考	図	図版	番号	分類	出土区	層位	備　　考
10	12	1	Ib	G－4	Ⅶ		10	12	23	Ie	H－4	Ⅵ1	胎土微砂礫多
〃	〃	2	〃	〃	〃		〃	〃	24	IIb	G－4	〃	
〃	〃	3	Ic	〃	〃		〃	〃	25	〃	〃	〃	
〃	〃	4	〃	G－5	〃	内Co.	〃	〃	26	〃	〃	〃	
〃	〃	5	〃	〃	〃	5～8同一個体	〃	〃	27	Ic	H－4	Ⅶ	胎土砂粒多.内Co.
〃	〃	6	〃	〃	〃	内Co.	〃	〃	28	〃	〃	〃	
〃	〃	7	〃	〃	〃	〃	〃	〃	29	〃	〃	〃	
〃	〃	8	〃	〃	〃	〃	〃	〃	30	〃	〃	〃	
〃	〃	9	〃	H－4	〃	〃	〃	〃	31	〃	G－5	〃	
〃	〃	10	〃	〃	〃	〃	〃	〃	32	〃	G－4	〃	
〃	〃	11	〃	〃	〃	表Co.付着. 胎土微小礫	〃	〃	33	〃	〃	Ⅵ1	
〃	〃	12	〃	〃	〃	胎土微小礫多	〃	〃	34	〃	〃	Ⅶ	
〃	〃	13	〃	G－4	〃		〃	〃	35	〃	H－4	〃	
〃	〃	14	〃	G－5	Ⅵ3		〃	〃	36	〃	G－5	〃	
〃	〃	15	〃	H－4	Ⅶ		〃	〃	37	〃	G－4	〃	
〃	〃	16	〃	〃	〃	焼成脆い	〃	〃	38	IIIb	G－5	Ⅵ1	
〃	〃	17	〃	〃	〃		〃	〃	39	Ic	H－4	Ⅶ	
〃	〃	18	Ie	G－5	〃		〃	〃	40	IIc	〃	〃	
〃	〃	19	〃	〃	〃		〃	〃	41	IIIb	G－4	Ⅴ	
〃	〃	20	〃	〃	〃		〃	〃	42	Ie	H－4	Ⅶ	表面赤橙色
〃	〃	21	〃	〃	〃		〃	〃	43	Ⅳ	〃	Ⅴ	
〃	〃	22	〃	〃	〃								

第2表　1号竪穴出土石器一覧表

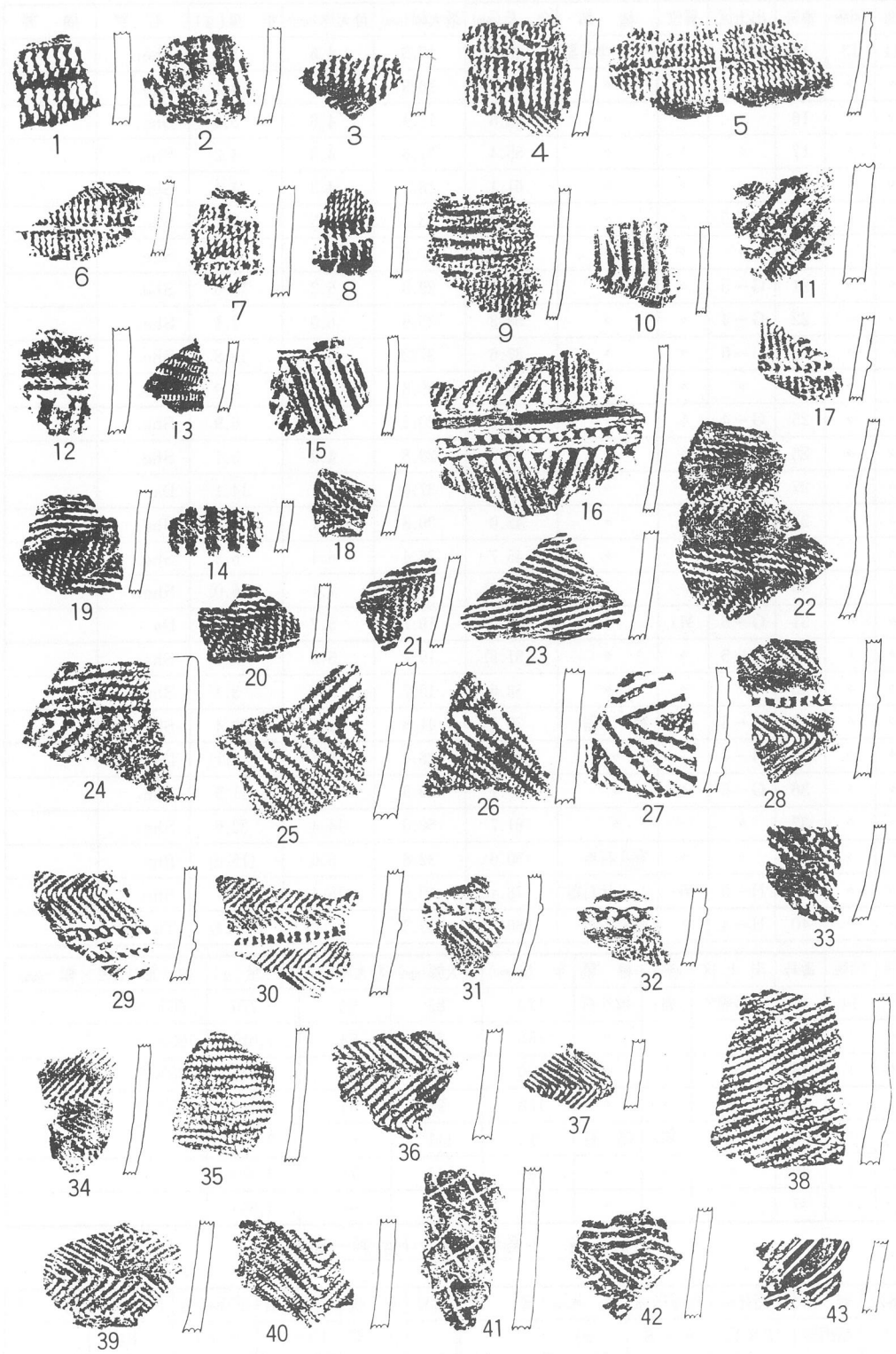
図	図版	番号	出土区	層位	種　類	全　長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重　量(g)	石　質	摘　要
11	13	1	H－5	Ⅶ	石　鏃	35.3	10.8	2.6	1.4	She.	
〃	〃	2	G－4	〃	〃	(29.2)	12.4	4.7	1.2	She.	
〃	〃	3	G－5	〃	〃	45.2	11.5	5.0	1.4	She.	
〃	〃	4	〃	〃	〃	40.2	16.2	6.5	2.4	She.	
〃	〃	5	G－6	Ⅵ1	〃	17.6	14.9	4.2	0.8	Da.	
〃	〃	6	H－4	〃	〃	21.8	12.5	3.6	1.2	Obs.	
〃	〃	7	H－5	〃	〃	34.8	18.8	4.3	1.6	Obs.	
〃	〃	8	G－6	〃	〃	33.2	19.9	18.4	2.4	She.	
〃	〃	9	H－5	Ⅶ	石　錐	32.4	6.2	3.6	1.2	She.	
〃	〃	10	G－5	Ⅵ1	〃	39.6	9.0	5.8	1.2	She.	
〃	〃	11	〃	Ⅶ	〃	33.4	14.6	4.8	1.4	She.	
〃	〃	12	〃	〃	ナイフ状石器	37.7	17.8	5.0	1.8	She.	
〃	〃	13	H－5	〃	〃	43.6	19.8	4.2	2.8	She.	

図	図版	番号	出土区	層位	種　類	全　長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重　量(g)	石　質	摘　要
11	13	14	G－5	Ⅶ	ナイフ状石器	48.6	17.0	4.6	3.1	She.	
〃	〃	15	〃	〃	〃	53.5	20.9	4.7	4.1	She.	
〃	〃	16	〃	〃	〃	48.8	17.4	4.8	3.8	She.	
〃	〃	17	〃	〃	〃	55.4	21.6	4.3	4.2	She.	
〃	〃	18	〃	〃	〃	61.1	18.7	4.3	4.1	She.	
〃	〃	19	H－5	〃	〃	68.7	23.1	5.5	7.7	She.	
〃	〃	20	〃	〃	〃	66.4	20.8	6.6	8.2	She.	
〃	〃	21	G－5	〃	〃	85.8	29.0	5.2	13.6	She.	
〃	〃	22	G－4	〃	〃	58.8	23.9	6.0	7.1	She.	
〃	〃	23	G－6	〃	〃	87.6	37.2	5.9	19.8	She.	
〃	〃	24	〃	〃	〃	50.4	19.8	4.4	3.9	She.	
〃	〃	25	G－4	〃	〃	60.4	20.3	5.6	6.9	She.	
〃	〃	26	H－4	〃	〃	52.0	23.8	4.9	5.1	She.	
〃	〃	27	G－5	〃	〃	70.9	37.0	8.5	14.1	Da.	
〃	〃	28	G－6	〃	〃	42.0	30.8	5.7	5.8	She.	
〃	〃	29	G－4	〃	〃	45.7	26.4	6.4	6.2	She.	
〃	〃	30	H－4	〃	〃	(37.7)	26.1	7.1	(6.0)	She.	
〃	〃	31	G－6	Ⅵ1	〃	44.4	19.7	5.2	3.2	Da.	
〃	〃	32	G－5	〃	〃	(51.2)	19.7	5.3	(4.7)	She.	
〃	〃	33	〃	〃	〃	52.6	15.7	4.7	3.1	She.	
〃	〃	34	G－3	Ⅶ	掻　器	70.3	41.8	11.3	32.4	She.	
〃	〃	35	H－4	〃	〃	(47.2)	26.4	8.8	(6.1)	Da.	
〃	〃	36	G－5	〃	〃	46.1	29.3	8.8	11.5	She.	
〃	〃	37	〃	〃	〃	61.7	50.0	14.4	32.6	She.	
〃	〃	38	〃	〃	有孔石斧	(50.0)	32.8	5.6	(15.6)	Rhy.	
〃	〃	39	H－5	Ⅵ1	へら状石器	78.4	50.9	15.4	69.7	She.	
〃	〃	40	H－4	〃	磨製石斧	(150.5)	39.3	32.4	(312.4)	Tu-Sa.	

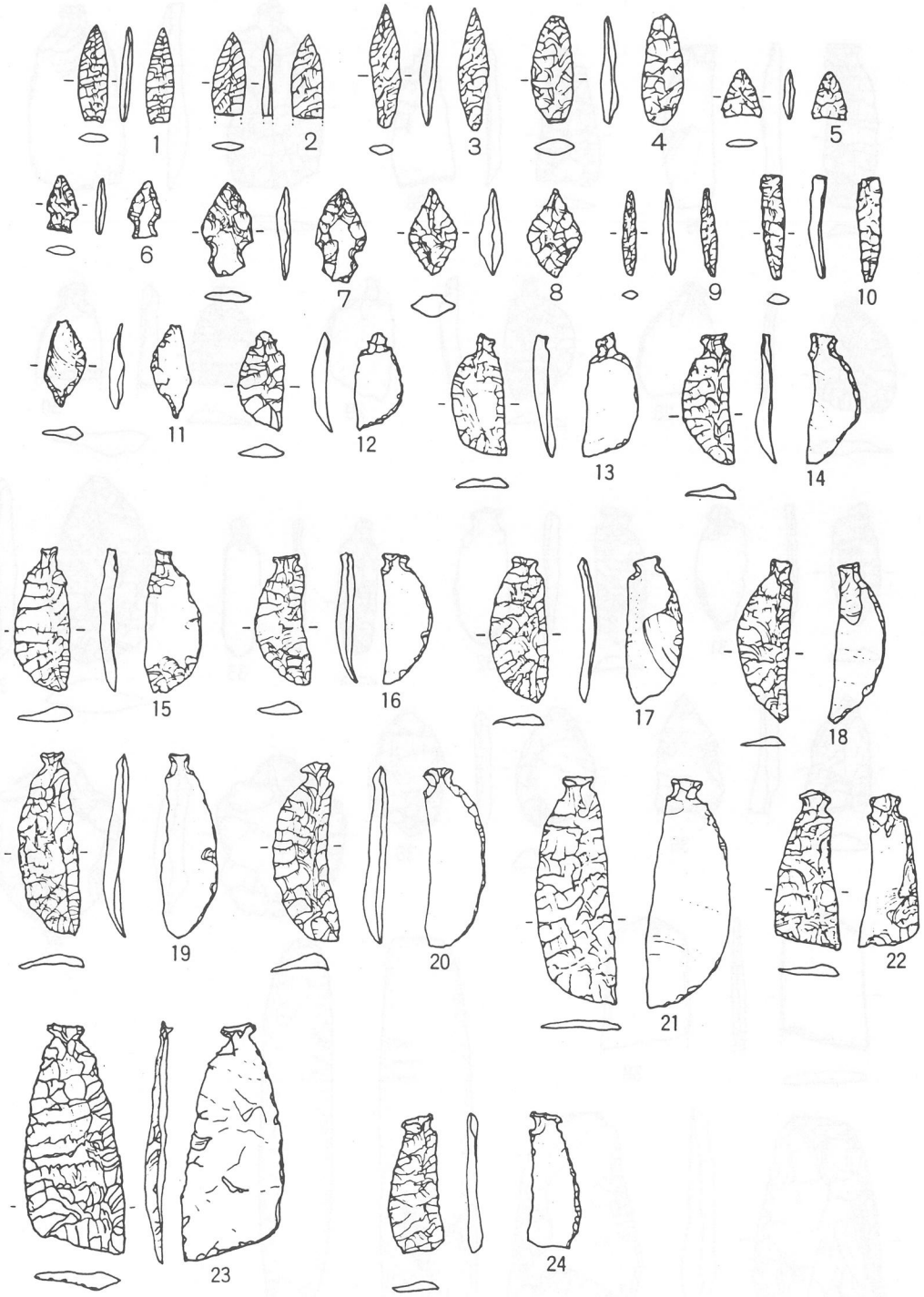
図	図版	番号	出 土 区	層位	種　類	全　長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重　量(g)	擦り面の長さ×幅 (mm)
13	14	41	1号竪穴	Ⅶ1	擦り石	123	85	55	770	66× 6
〃	〃	42	〃	〃	〃	165	70	54	1,010	105× 8
〃	〃	43	〃	〃	〃	170	85	55	1,230	90×13
〃	〃	44	〃	〃	〃	178	91	67	1,510	90× 9
〃	〃	45	〃	Ⅶ2	砥　石	215	141	60	2,000	
〃	〃	46	〃	〃	〃	147	145	75	1,370	
〃	〃	47	〃	〃	〃	270	115	90	4,250	

第3表　1号竪穴ピット計測一覧表

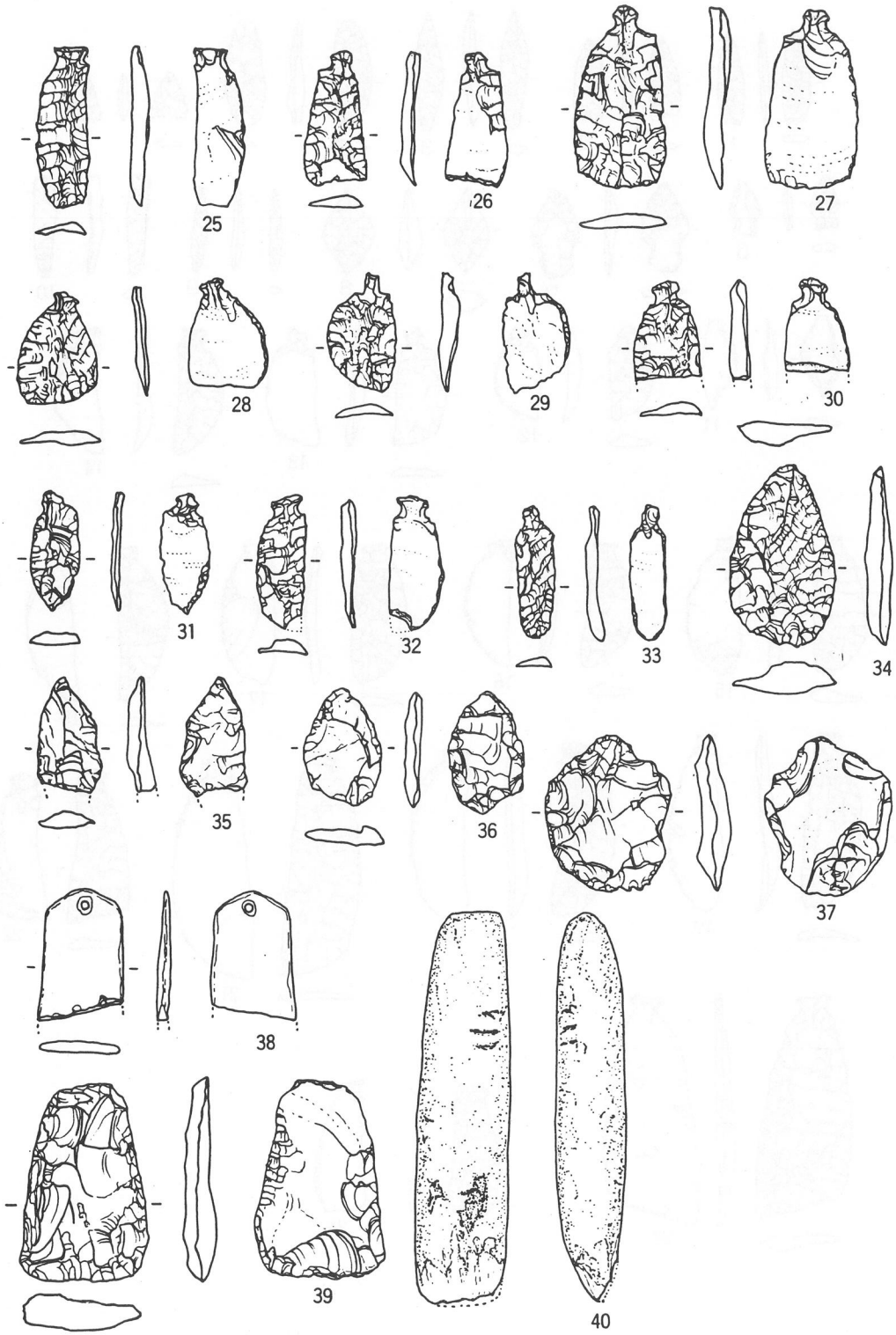
番号	形　状	上面径cm	底面径cm	深　さcm	備　考	番号	形　状	上面径cm	底面径cm	深　さcm	備　考
1	楕円形	13×11	9 × 8	20		3	円　形	10×10	8 × 6	18	
2	円　形	12×11	8 × 8	15		4	〃	20×22	—	6	東開口



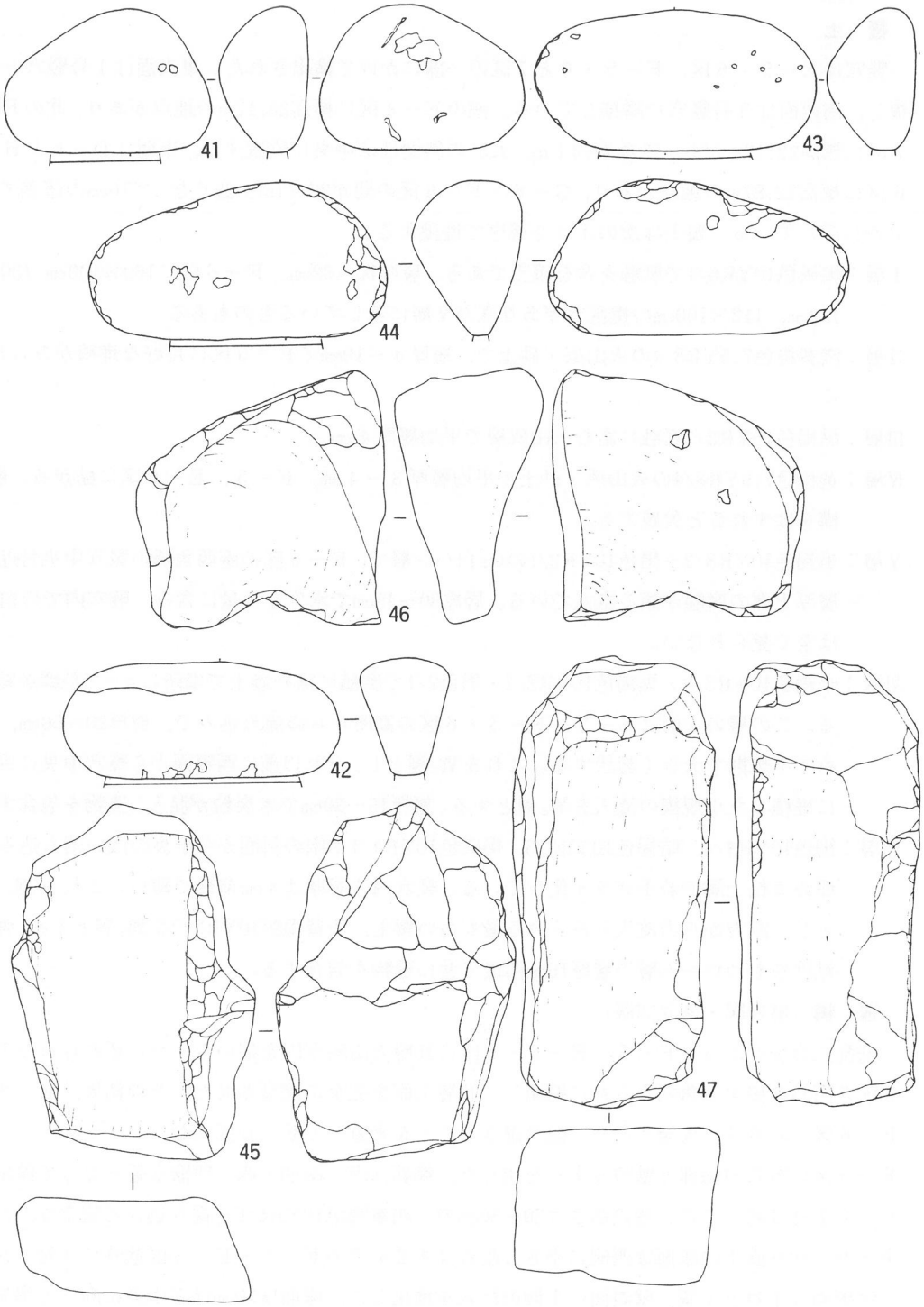
第10図　1号竪穴 Ⅶ・Ⅵ3・Ⅵ1・Ⅴ層出土の土器



第11図　1号竪穴 Ⅶ1・Ⅶ2 層出土の石器（1）



第12図　1号竪穴 Ⅶ・Ⅵ1 層出土の石器（2）



第13図　1号竪穴Ⅶ1・Ⅶ2層出土の石器（3）

b. 2号竪穴

覆　土

竪穴はE－5・6区，F－5・6と7区の一部にかけて検出された。東南面は1号竪穴と重複し，南西面は3号竪穴に隣接している。南のF－4区に標高23.17mの地点があり，北のF－7区に標高22.13mがあって落差約1m，3.5°の斜面ほぼ中央に位置する。東西はD－6とH－6区に標高22.87mの地点があり，G－6・F－6区の間が22.71mと低くなって16cmの落差で緩やかに窪んでいる。覆土は次のような層序で堆積する。

Ⅰ層：褐灰色10YR6/1で腐触を含む壌土である。層厚10～32cm，F－6区に160×100cm，130×120cm，112×100cmの攪乱穴があり底がⅤ層に達しているものもある。

Ⅱ層：浅黄橙色7.5YR8/4の火山灰・砂土で，層厚4～10cmでF－5区に良好な堆積がみられる。

Ⅲ層：黒褐色10YR2/2腐触に富む火山灰層で平均層厚4cm。

Ⅳ層：黄橙色7.5YR8/4の火山灰・砂土で平均層厚3～4cm。F－5，E－6区に拡がる。遺構をはずれると欠層する。

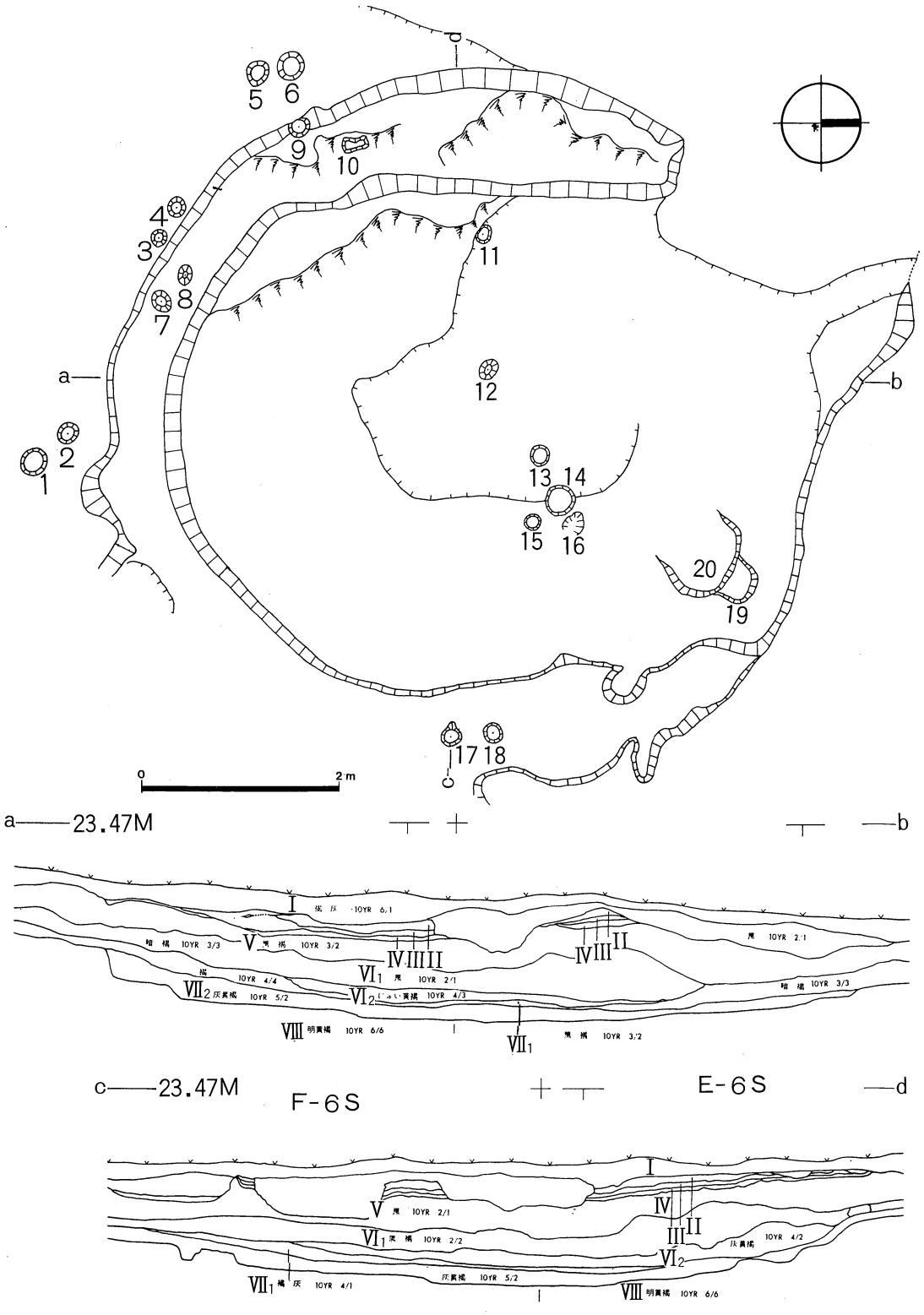
Ⅴ層：黒褐色10YR3/2～黒色10YR2/1のOs白ハン層で，F－6区の南西角隅の竪穴中央付近は，層厚上面の腐触が頗る富んでいる。層厚30～45cmで水分を多量に含み，竪穴内での白斑は全く見られない。

Ⅵ層：暗褐色10YR3/3・黒褐色10YR2/2・黒色2/1で腐植に富む壌土で場所によって色調が異なる。この層の上面はE－5，E－5・6区の高所からの流れ込みで，層厚20～50cm，極めて不規則で大きく起伏する。これを$Ⅵ_1$層とし，それ以前に西斜面から竪穴中央に舌状に堆積した小規模の流入を$Ⅵ_2$層とする。層厚15～30cmで木炭粒が混入し遺物を包含する。

Ⅶ層：褐色10YR4/4，暗褐色10YR3/3，褐灰色10YR4/1で南の斜面から中央の浅い落ち込みを埋める粘土層で若干グライ化している。竪穴内の層厚は4cm前後で薄い。これを$Ⅶ_1$層とし，四方からの流入とみられる最も古い覆土，灰黄褐色10YR5/2を$Ⅶ_2$層とする。強い粘性をもつローム層で層厚16cm前後で共に遺物を包含する。

遺　構（第14図・第5図版）

攪乱穴の少なかったF－5，E－5・6区にⅡ層火山灰が円を描いたように認められたので，5区の円心に接する角隅から外に掘開し，Ⅱ層上面を完全に露呈させた。その結果，E－6，F－6区の北寄りに欠層があり，掘り過ぎることを考慮してE－6区西面，F－5区，ついでE－5区に竪穴の輪郭と壁の立上りを求めた。輪郭は南・南西・西に明瞭な弧となって検出され，立上りは45°～77°，壁の高さは20～30cmで，明黄褐色10YR6/6を掘り込んだ堅牢なものであった。その直下の床面は西側に小さな乱れはあるもののF－5・E－5区壁外に3対，E－5区床面に1対と1個，壁斜面に1個の柱穴を検出した。床面は50cmほど中央に向うと黒褐色の$Ⅵ_1$層が一段と深く円状に落ち込んでいたが，当面，水平面を保って掘開を進めた。その落ち込み面ではF－5・E－5区から遺物が出土し，また4箇所に直径20～25cmの柱穴らしいもの



第14図　２号竪穴実測図

を検出した。その柱穴らしきものは黒色で腐植に富み，土色の点からⅥ$_1$層との区別は難しいように思えたが，その部分は細い粒状で硬度が軟らかく，竹箸を人差し指で軽く押しても入っていくほどであった。深さは30cm前後でⅥ$_2$層に達していたが，それを掘り込んだ痕跡は認められなかった。２段目の落ち込みの輪郭は，Ｅ－５・Ｆ－５区とＦ－６区の南側一部にかけて半円形にあり，Ｅ－６区では北に直線状に伸び，Ｆ－６区では一段目の壁に連続している。壁高は平均で16cm，北・東はやゝ低くなり10cm，西北に長さ2.5mの開口部がある。２段目の床面は南側は比較的平坦であるが，西側は起伏がある。全体に皿状で中央部は，更に６cmほどの深さで東南に向う不整形な窪みがある。

規則的に配置されたとみられる柱穴は１・２，３・４，５・６，７・８，９，10，17・18，13，14，15であり，19，20は深さ10～15cmのピットで木炭粒を含んでいたが，炉址ではない。この竪穴も１号同様で２軒が重複したものであろう。この竪穴の発掘中に２度に亘って大雨に見舞われ，完全に水没したが，基盤層が排水不良の粘土層であり，一日を要しても５cmも減水しない。周囲から水脈が集まっていることもあるが，居住地としては適地だったとは考えられない。なお調査終了ご，その粘土を採取し，土器の焼成実験を試みたが，充分造形・焼成に耐えうるものであった。これらから推測される床面内部は自然の営力によって可なり変貌していると見るべきであろう。

平面の形状は１段目の外周は直径約７ｍの円形，２段目の外周は不確かだが，南北に長軸をとり6.4m，東西を短軸とする長さ5.2mの長楕円形らしい。

遺　物

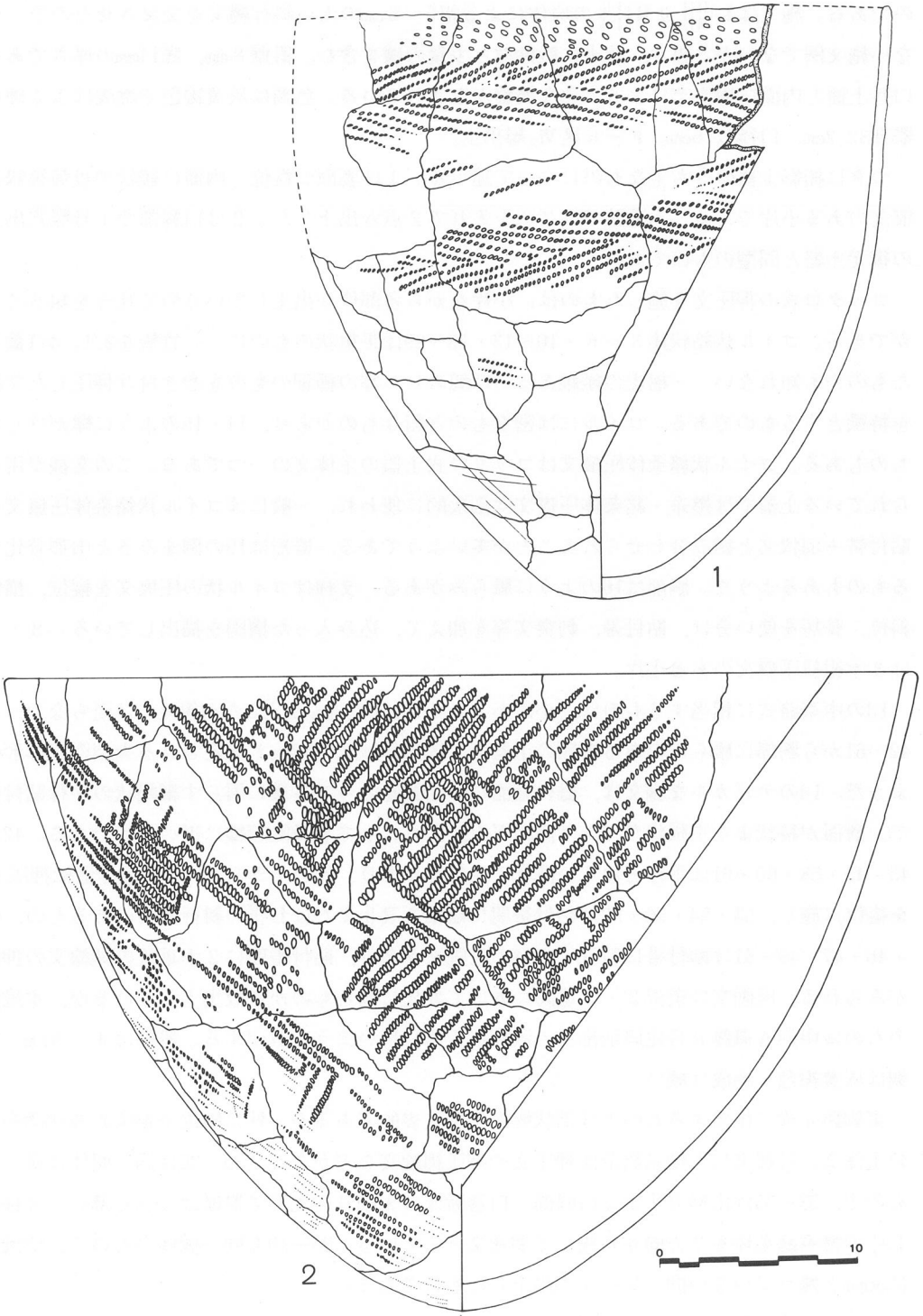
土器（第15・16・17・18図，図版ｉ１・２，第16・17・18図版１～109）

竪穴の床面および覆土から出土した土器片は，口縁部59点，胴部1366点，底部67点，総数1492点である。その中から特徴のある代表的なもの109点を摘出し拓影図示した。それらはIa：１，Ic：２～29・75～84・90～93・95～97・107～109，Id：42～61，Ie：31～61・62～73・85～89，IIIb：94・98～106に分類される。Icのコッタロ式は断片的だが，Idの中茶路式,Ieの東釧路４式に相当するものは，比較的まとまった好資料で，ほかにIe，IIIaの２個体が復元できた。なお個々の出土区・層位については第５表を参照されたい。

復元土器（第15図１・２，カラー図版ｉ１・２）

１．Ieの東釧路４式に相当する深鉢形土器である。口縁は現存する部分が 4/1弱なので明らかでないが，４箇所に低く山形分化するらしい。口唇断面は丸形で，器形は胴部中央より口縁部へと直立し，底へは緩やかに砲弾形に細まり，先端は鼻先を軽く潰した感じになっている。文様は口縁部に２cm幅のR$\left\{\begin{smallmatrix}1\\1\end{smallmatrix}\right.$の右斜位の絡条体圧痕文を並列させ，同原体を２方向から廻転押圧して羽状文を体部全面に施している。器壁６mm，底部10mm。胎土に微砂粒を多量に含む。色調は鈍い黄橙色で焼成はよく硬い。器高30cm，口径推定30.4cm。Ｆ－６区Ⅶ$_1$層出土。

２．IIaに分類した綱文式土器に相当する時期のものである。器形は丸底の深鉢形で口縁は平縁，口唇断面は，内外を少し面とりした丸味のある角形で，器高より口径が凡そ１:1.5の割合で広



第15図　２号竪穴出土の復元土器

い。体部はゆるやかなカーブで底に向って細まる。この種の器形は，いわゆる綱文式土器のものである。施文は$L\begin{smallmatrix}R\\R\end{smallmatrix}\{\begin{smallmatrix}1\\1\end{smallmatrix}$と$R\begin{smallmatrix}1\\1\end{smallmatrix}\{\begin{smallmatrix}r\\r\end{smallmatrix}$の原体による幅5～6mmの太い斜行縄文を交叉させたので，少ない施文例でないかと思う。胎土に微砂粒と少量の礫を含む。器壁8mm，底14mmの厚さである。口唇上面と内面に横ナデによる入念な調整がなされている。色調は灰黄褐色で焼成はよく硬い。器高32.2cm，口径47.6cm。F－6区$Ⅵ_2$層出土。

つぎに拓影土器のうち主なものについて述べる。1は表面に縦位，内面に綾状の貝殻復縁条痕文のある小片である。本遺跡ではこれを入れて2点が出土した。2は口縁部で1号竪穴出土の復元土器と同型のものであろう。

コッタロ式の押圧文を施したものは，小片ながら各部位が出土しているので凡そを知ることができる。コイル状絡状体3～6・10～13・16～29は平板状のものに ―竹管を2/1，4/1截したものかも知れない ―樹皮の繊維あるいは鯨のヒゲ等の極細のものを巻き付け押圧した文様を特徴とするものである。コイルには密なものと粗なものがあり，14・15のように襷がけしたものもある。コイル状絡条体圧痕文はコッタロ式土器の主体文の一つである。この文様が用いられている土器では撚糸・絡条体圧痕文は副次的に使われ，一般にはコイル状絡条体圧痕文＋貼付帯＋羽状文と組み合わせられることが多いようである。器形は19の例をみると山形分化するものもあるようだ。胴部は16のように脹らみがある。文様はコイル状の圧痕文を縦位，横位，斜位，長短を使い分け，貼付帯，刺突文等を加えて，込み入った構図を描出している。8・9は3本組紐圧痕文のある小片。

Idの中茶路式に相当するものは，小片を入れると100点近く出土したが復元には至らなかった。42・61から胴部に脹らみのある平底の土器で，底部径は凡そ13cmと推定される大型の深鉢形のようだ。Idのテピカルな施文は，器の全面に一定幅をとって多重に周らす細紐状の平行貼付帯で，断面が稜状また平板状だったり区区だが，何れにしても微隆起線に近いものである。42・43・45・58・60・61は平行とゆるい波状の貼付帯があり，その上から$R\{\begin{smallmatrix}1\\1\end{smallmatrix}$の絡条体廻転押圧文を縦位に施し，53・54・56・59は貼付帯間に繊細な$R\begin{smallmatrix}L\\L\\L\end{smallmatrix}\{$または$L\begin{smallmatrix}R\\R\\R\end{smallmatrix}\{$の斜行縄文のあるもの，44・46・47・49～51は貼付帯に斜位や方形の区画文があり，貼付帯間に2本単位の縄線文の押圧がみられる。区画文は美沢2・3遺跡において変化に富むものが多数出土しているが，本遺跡のものは中野A遺跡8号住居址出土の浅鉢形土器に近いような気がする。器厚は4～5mm，色調は灰黄褐色，焼成は硬い。

東釧路4式に相当するものでは羽状撚糸文が代表的であるが，外に横位や斜位の波状撚糸文の主体文，付加文にも撚糸絡条体押圧文や押圧縄線文などがある。30～35は同一個体に属するもので，33～35は山形分化する口縁部，口唇断面は先細りの丸形で器厚は5mmと薄い。文様は$L\{\begin{smallmatrix}r\\r\end{smallmatrix}$の撚糸絡条体を2方向から施して羽状文としている。36～40も同一個体のもので，前例とは30cmと離れていない同一レベルで出土したものである。

36～40も同一個体に属するものである。36～38は口縁部片で，口縁は大きく山形に分化するらしい。口唇は薄く，口縁部は前例が直線状であるのに対し，やゝ内反し脹らみをもつ。文様

は口縁から胴部にかけて1cmの幅を保った2本単位のR{l/l の平行撚紐押圧文が3～4段施され，その間に斜位の撚糸の廻転押圧文がある。40は径4mmの補修孔があり，その内面に厚い炭化物が付着する。器厚5～6mm。焼成は硬い。

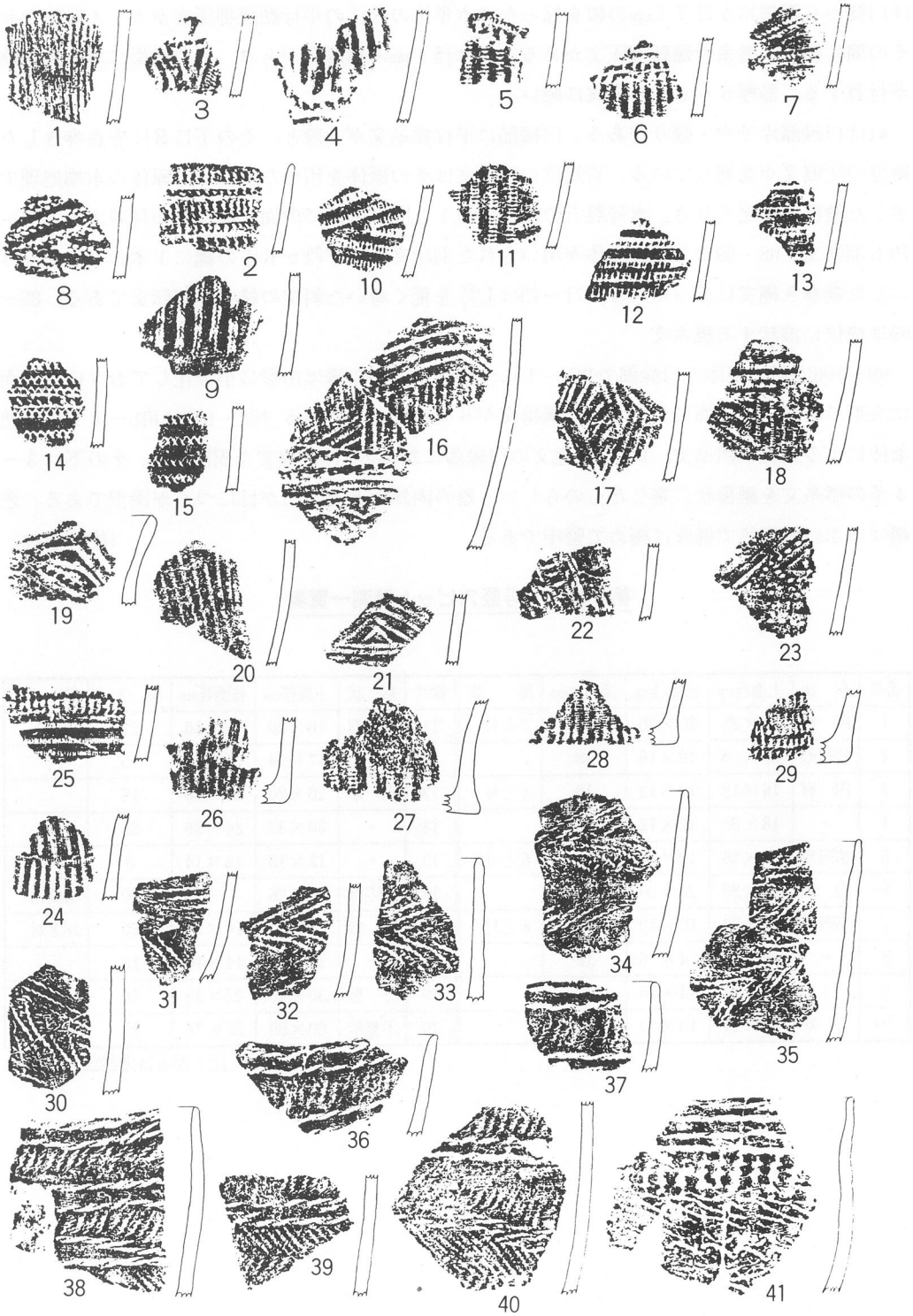
41は口縁部片でやゝ張りがある。口縁部に平行撚糸文が4段と，その下にR{l/l を右巻きした縦位の圧痕文が並列している。右斜位の羽状文はその原体を用いたもので，原体の末端処理で生じた綾絡文も見られる。本号竪穴の復元土器1と同じ仲間で内面に炭化物が付着する。64～70も羽状文，68・69は2種の原体が用いられた羽状文で，下段がR{L/L の縄に1本のRを左巻きにした縄巻き縄文になっている。71～73はL{r/r を荒く巻いた斜位の絡条体廻転文である。85～89は横位に波状する撚糸文。

99～106は同一個体の口縁部でⅢb－1に分類される。口縁は山形に小分化しており口唇断面は丸形である。口縁部にL{r/r の平行縄線文が6条施文されている。102・103はⅢb－4 L{r/r の絡条体による網目状撚糸文，104は無地文の口縁部に2条の平行沈線文を周回させ，その下に3～4条の撚糸文を鋸歯状に施したものらしい。器の内外面とも凹凸が目につくが滑沢である。色調はにぶい黄橙色で焼成は極めて堅牢である。　（佐藤忠雄）

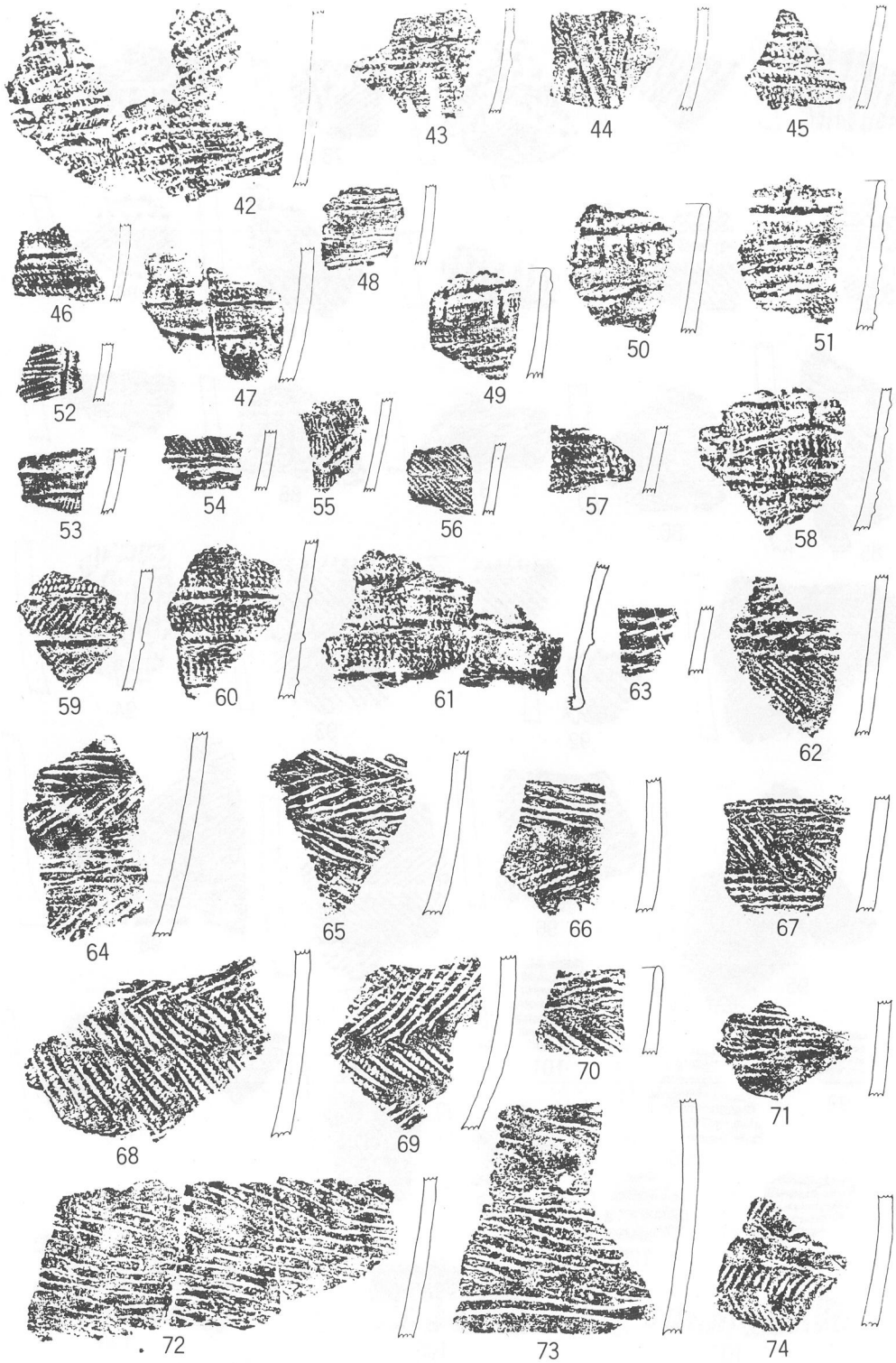
第4表　2号竪穴ピット計測一覧表

番号	形　状	上面径cm	底面径cm	深　さcm	備　　考	番号	形　状	上面径cm	底面径cm	深　さcm	備　　考
1	円　形	26×28	20×20	15	2と対	11	楕円形	16×20	12×16	22	
2	楕円形	20×24	12×16	18		12	〃	17×24	5×10	15	
3	円　形	16×18	10×12	18	4と対	13	円　形	20×20	16×16	15	
4	〃	18×20	12×12	20		14	〃	30×32	24×26	25	
5	楕円形	22×26	16×18	20	6と対	15	〃	12×16	12×14	8	
6	円　形	27×30	20×20	25		16	楕円状	20×26	—	10	東開口
7	楕円形	18×23	10×12	15	8と対	17	円　形	22×24	16×16	20	18と対
8	〃	16×20	4× 6	18		18	〃	22×20	14×16	18	
9	〃	17×22	14×16	12		19	方　形	30×40	22×38	10	
10	方　形	15×24	10×20	8		20	不整形	60×89	50×76	21	南西開口

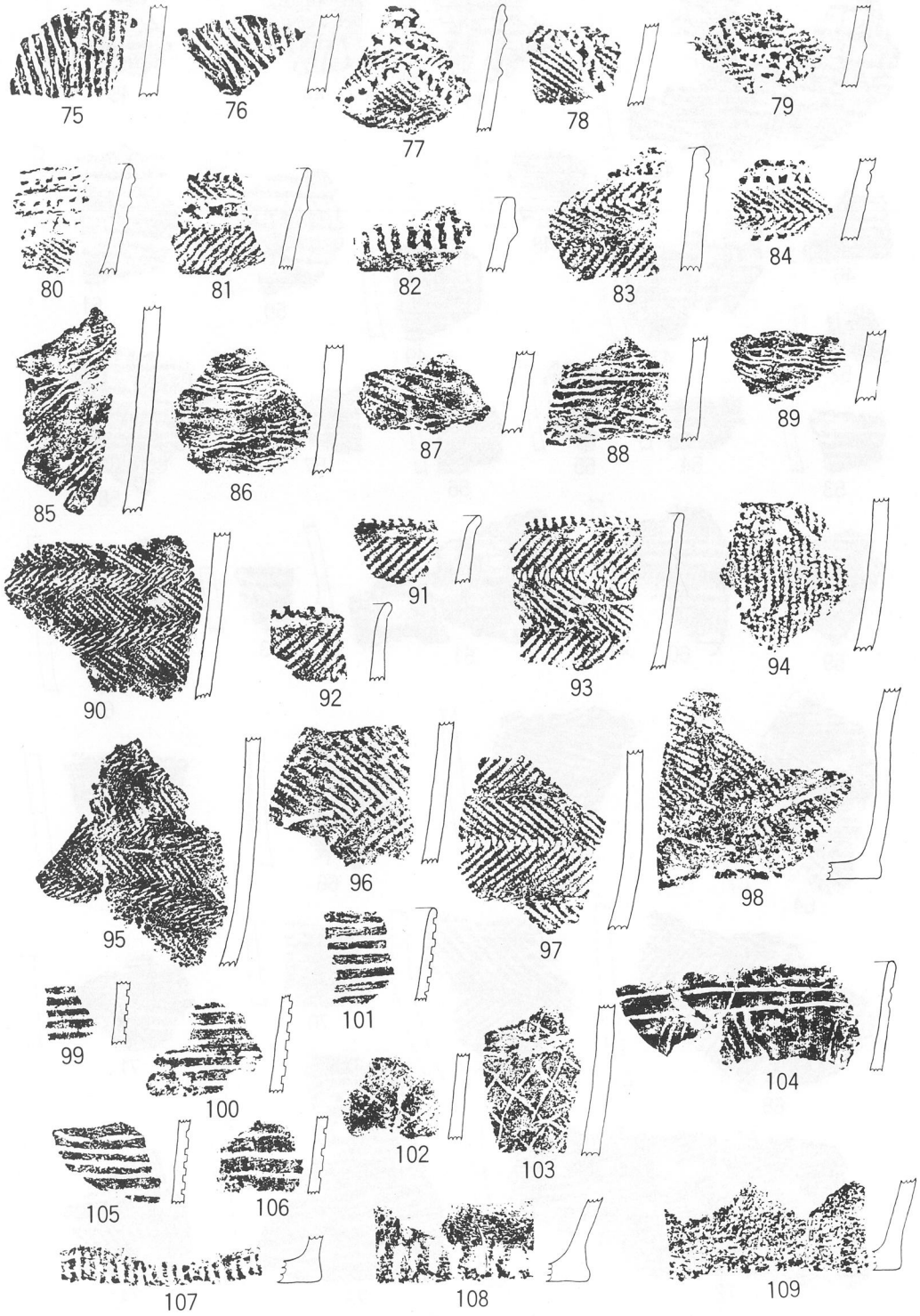
注：深さは遺構面より計測



第16図　２号竪穴Ⅶ$_1$・Ⅵ$_2$層出土の土器（１）



第17図　２号竪穴Ⅶ$_1$・Ⅵ$_2$層出土の土器（２）



第18図　2号竪穴Ⅶ1・Ⅵ2層出土の土器（3）

第5表　2号竪穴出土土器一覧表

図	図版	番号	分類	出土区	層位	備　　考	図	図版	番号	分類	出土区	層位	備　　考
16	15	1	Ia	F－6	Ⅶ1		16	15	38	Ie	E－6	Ⅵ2	
〃	〃	2	Ic	〃	〃		〃	〃	39	〃	F－6	〃	
〃	〃	3	〃	〃	〃		〃	〃	40	〃	E－6	〃	内Co.
〃	〃	4	〃	〃	〃		〃	〃	41	〃	〃	〃	内Co.
〃	〃	5	〃	〃	〃	内Co.	17	16	42	Id	〃	Ⅶ1	42・45・61同一個体
〃	〃	6	〃	〃	〃		〃	〃	43	〃	〃	〃	
〃	〃	7	〃	〃	〃		〃	〃	44	〃	〃	〃	
〃	〃	8	〃	〃	〃		〃	〃	45	〃	〃	〃	
〃	〃	9	〃	E－6	〃		〃	〃	46	〃	〃	〃	
〃	〃	10	〃	F－5	〃		〃	〃	47	〃	F－6	〃	
〃	〃	11	〃	〃	〃	胎土に砂礫	〃	〃	48	〃	E－6	〃	
〃	〃	12	〃	F－6	〃		〃	〃	49	〃	〃	〃	
〃	〃	13	〃	〃	〃		〃	〃	50	〃	F－6	〃	
〃	〃	14	〃	〃	〃		〃	〃	51	〃	E－6	〃	
〃	〃	15	〃	F－5	〃		〃	〃	52	〃	E－5	〃	
〃	〃	16	〃	F－6	〃	16～18同一個体	〃	〃	53	〃	〃	〃	
〃	〃	17	〃	〃	〃		〃	〃	54	〃	〃	〃	
〃	〃	18	〃	〃	〃		〃	〃	55	〃	〃	〃	
〃	〃	19	〃	E－6	〃		〃	〃	56	〃	〃	〃	
〃	〃	20	〃	〃	〃		〃	〃	57	〃	〃	〃	
〃	〃	21	〃	〃	〃		〃	〃	58	〃	〃	〃	
〃	〃	22	〃	F－6	〃	22～24同一個体	〃	〃	59	〃	〃	〃	
〃	〃	23	〃	〃	〃	内Co.	〃	〃	60	〃	〃	〃	
〃	〃	24	〃	〃	〃		〃	〃	61	〃	〃	〃	
〃	〃	25	〃	〃	〃		〃	〃	62	Ie	E－6	Ⅵ2	62・63同一個体
〃	〃	26	〃	〃	〃		〃	〃	63	〃	〃	〃	
〃	〃	27	〃	E－5	〃	胎土に砂礫	〃	〃	64	〃	F－6	〃	64・65同一個体
〃	〃	28	〃	〃	〃	〃	〃	〃	65	〃	〃	〃	
〃	〃	29	〃	〃	〃		〃	〃	66	〃	E－5	〃	
〃	〃	30	Ie	E－6	Ⅵ2	30～35同一個体	〃	〃	67	〃	F－6	〃	
〃	〃	31	〃	〃	〃		〃	〃	68	〃	F－5	〃	68・69同一個体
〃	〃	32	〃	〃	〃		〃	〃	69	〃	〃	〃	
〃	〃	33	〃	〃	〃		〃	〃	70	〃	F－6	〃	
〃	〃	34	〃	〃	〃		〃	〃	71	〃	E－6	〃	71～73同一個体
〃	〃	35	〃	〃	〃	胎土に砂礫・焼成堅牢	〃	〃	72	〃	F－6	〃	内・外Co.
〃	〃	36	〃	F－6	〃	36～40同一個体	〃	〃	73	〃	E－6	〃	
〃	〃	37	〃	E－6	〃		〃	〃	74	〃	F－6	〃	

図	図版	番号	分類	出土区	層位	備　　考	図	図版	番号	分類	出土区	層位	備　　考
18	17	75	Ic	E－6	Ⅶ1	75・76同一個体	18	17	93	Ic	E－6	Ⅶ1	
〃	〃	76	〃	〃	〃		〃	〃	94	IIIb	F－6	Ⅵ1	
〃	〃	77	〃	F－6	〃		〃	〃	95	Ic	〃	Ⅶ1	
〃	〃	78	〃	F－5	〃		〃	〃	96	〃	〃	〃	
〃	〃	79	〃	〃	〃		〃	〃	97	〃	〃	〃	
〃	〃	80	〃	E－5	〃		〃	〃	98	IIIb	〃	Ⅵ1	
〃	〃	81	〃	〃	〃		〃	〃	99	〃	E－4	〃	99～102・105・106同一個体
〃	〃	82	〃	F－6	〃		〃	〃	100	〃	F－6	〃	
〃	〃	83	〃	E－5	〃		〃	〃	101	〃	E－5	〃	
〃	〃	84	〃	F－6	〃		〃	〃	102	〃	F－5	Ⅴ	
〃	〃	85	Ie	〃	Ⅵ2	85～87同一個体	〃	〃	103	〃	F－6	〃	
〃	〃	86	〃	〃	〃		〃	〃	104	〃	E－6	〃	
〃	〃	87	〃	〃	〃		〃	〃	105	〃	E－5	〃	
〃	〃	88	〃	F－5	〃		〃	〃	106	〃	E－6	〃	
〃	〃	89	〃	F－6	〃		〃	〃	107	Ic	E－5	Ⅶ1	
〃	〃	90	Ic	E－5	Ⅶ1	90・95同一個体	〃	〃	108	〃	〃	〃	
〃	〃	91	〃	〃	〃	91・93同一個体	〃	〃	109	〃	F－6	〃	
〃	〃	92	〃	〃	〃								

石　器（第19図～第24図，第18図版～第20図版，第４～６表）

この竪穴から出土した石器は定形化した石器113点，石片類1,340点で総点数1,453点である。出土量の多いのはナイフ状石器であり，石鏃，削器がそれについでいるが，ここではヘラ状石器の典型的なものが出土している。

石鏃　床面から出土した石鏃は，Ⅰ－bが４点，Ⅰ－cが１点，Ⅰ－gが１点の６点でⅠ－bの石鏃のうち３点が黒曜石製である。覆土の石鏃はⅠ－b，Ⅰ－c，Ⅰ－eで三角形石鏃の１点が黒曜石製であり，ほとんどが細身の石鏃で，覆土の12点と合せて２号竪穴では全体で18点が出土している。

石銛　石銛は１点であるが床面から出土したⅡ－aである。木の葉状の形をしているもので石鏃より肉厚である。

石錐　石錐は床面で１点，覆土から２点が出土している。床面のものは黒曜石製でⅢ－aであるが，覆土からのものはⅢ－aとⅢ－bで，刺器として用いられたと考えられⅢ－aは刃部が使用により磨耗している。

ナイフ状石器　床面から24点，覆土から15点出土しているが，床面ではⅤ－1b，Ⅴ－2a，Ⅴ－2bがほとんどであり，覆土ではⅤ－1a，Ⅴ－1b，Ⅴ－1c，Ⅴ－2b，Ⅴ－2cのタイプが出土している。床面では幅の広いⅤ－２が比較的多いのに，覆土からは細身のものが多い傾向にあった。

掻器　床面で４点，覆土で１点出土している。床面から出土したものはⅥ－c，Ⅵ－dであ

るが，床面からは円形に近いⅥ－ａが出土している。

削器　床面で８点，覆土から４点出土している。床面では長方形で片側が肉厚となるものがある。道南の縄文早期末には片側に剝離原面や原石面を残す横形の石片から製作したものが出土するが，ここから出土したものは縦形の石片から作ったものが多い。縄文早期末の特徴であるⅦ－ｄ，29が１点出土している。

ヘラ状石器　床面から２点，覆土から２点が出土している。床面ではⅧ－ｂ，Ⅷ－ｃが出土し，覆土でⅧ－ａが出土している。ヘラ状石器は縄文前期から普遍的に出土するが，刃部が水平で幅広いのが，この遺跡での特徴的といえよう。

剝片石器　不定形であるが，石片の部分に刃部があるものと大きく打欠きで器面を調整した石器がある。これらに削器の機能をもったものもあるが，破損品などのために剝片石器としたものがある。

大形剝片石器　剝片石器のなかで刃部や器面を再調整することなく，大きく刃部など打欠いてある形にしたものを分類した。これらは大きさも他の剝片石器より大きく，あるいは未製品とみることができるが，そのままでも用途によって使用することができるものであり，機能的に細分も可能である。

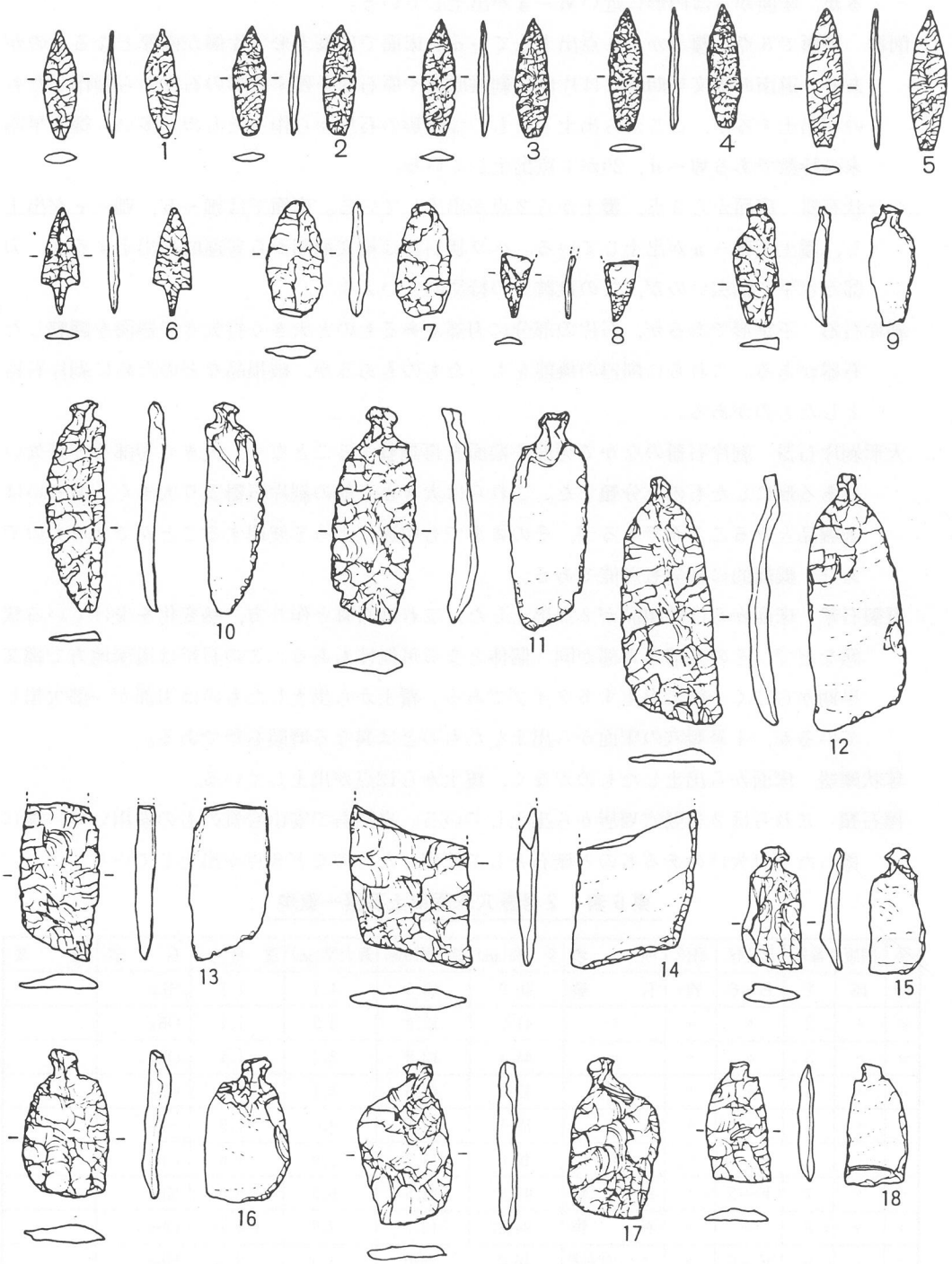
磨製石斧　床面からは破損品が２点出土した。これは石質と作り方，熱変化を受けている状態などで，その基部と刃部が同一個体となる可能性もある。この石斧は道南地方で縄文早期からごく一般に出土するタイプである。覆土から出土したものは刃部が一部欠損しているが，１号竪穴の床面から出土したものとは異なる磨製石斧である。

球状礫器　床面から出土したものがなく，覆土から12点が出土している。

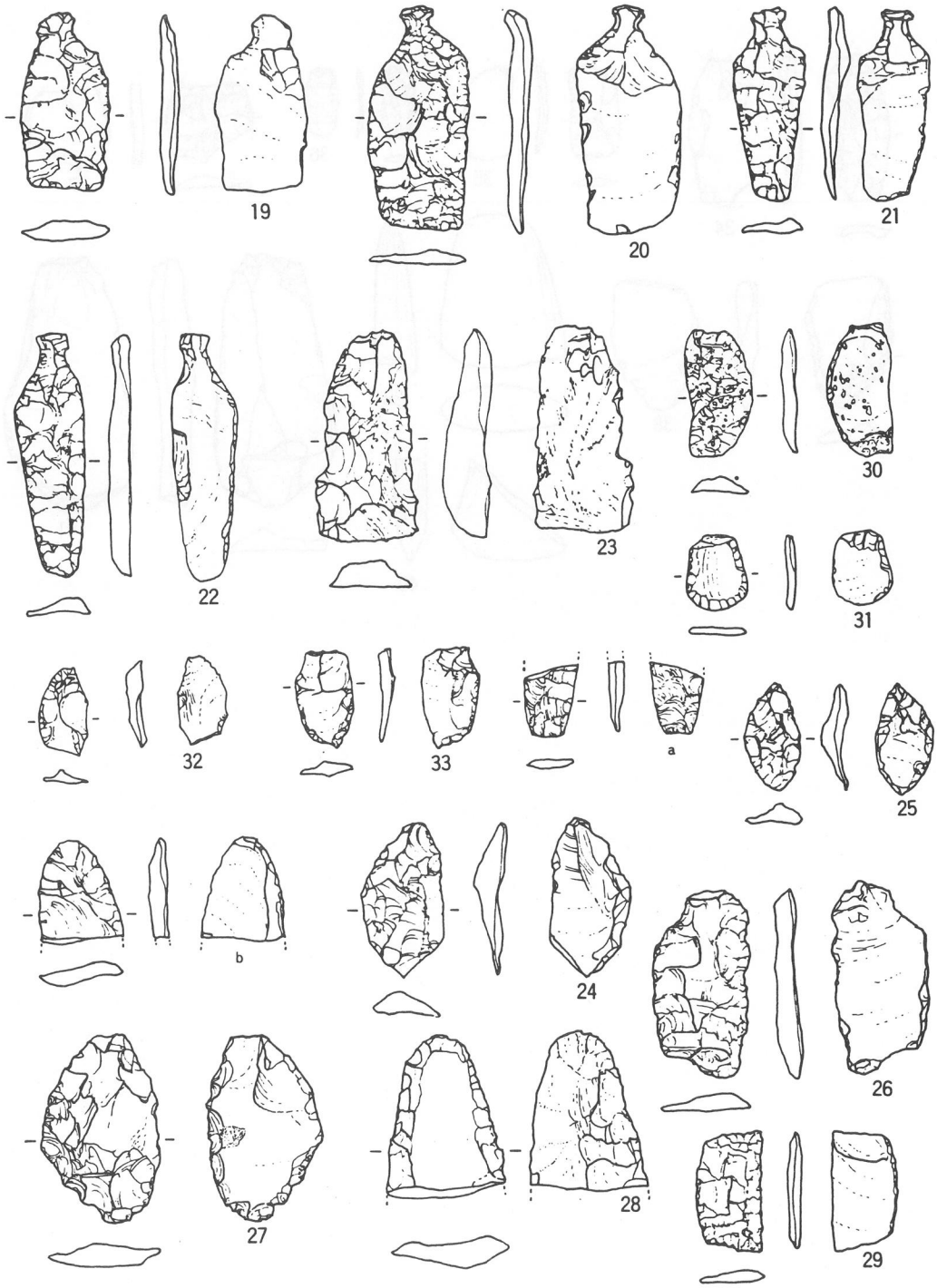
擦石類　これらは２号竪穴Ⅶ層から出土している。自然石で安山岩質のものを用いて一端に擦ったり打欠けのあるものと砥石として使用したものなど８点が出土している。

第６表　２号竪穴床面出土石器一覧表

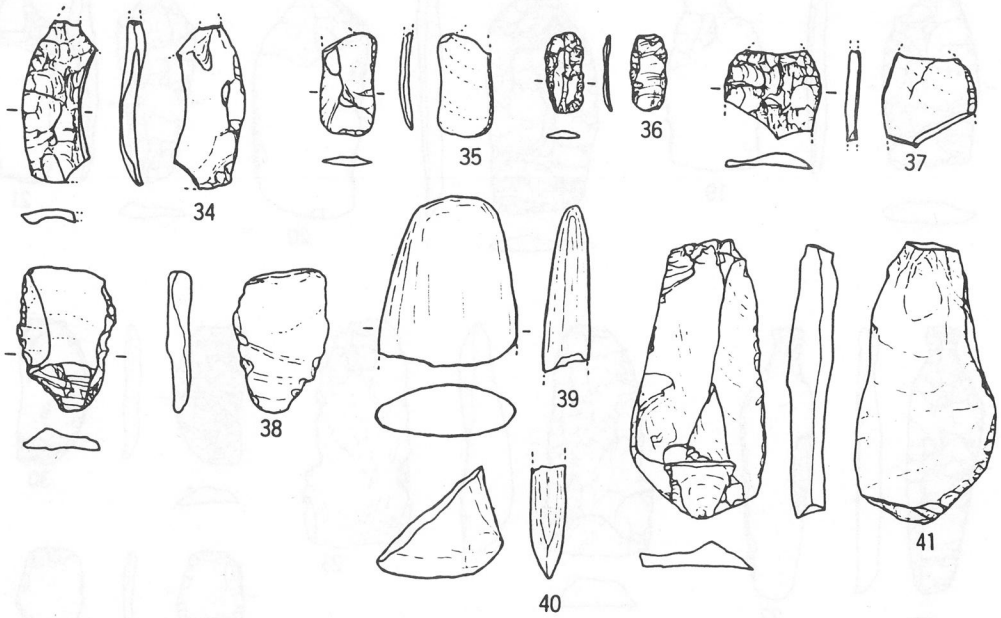
図	図版	番号	出土区	層位	種　類	全　長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重　量(g)	石　質	摘　要
19	18	1	E－6	Ⅶ1	石　鏃	40.9	13.5	4.4	1.3	She.	
〃	〃	2	〃	〃	〃	41.7	12.9	3.3	1.4	Obs.	
〃	〃	3	〃	〃	〃	44.4	12.8	3.3	1.4	Obs.	
〃	〃	4	〃	〃	〃	47.0	12.9	3.1	1.4	Obs.	
〃	〃	5	〃	〃	〃	52.1	13.8	4.0	1.5	She.	
〃	〃	6	F－6	〃	〃	40.6	14.7	3.9	1.6	Che.	
〃	〃	7	F－5	〃	石　銛	42.9	22.6	6.5	5.0	She.	
〃	〃	8	〃	〃	石　錐	(24.2)	12.7	2.2	(1.1)	Obs.	
〃	〃	9	E－6	〃	ナイフ状石器	46.2	18.0	5.3	3.3	She.	
〃	〃	10	F－6	〃	〃	81.0	22.7	5.7	12.0	She.	
〃	〃	11	E－6	〃	〃	81.7	21.4	7.6	18.1	She.	
〃	〃	12	F－5	〃	〃	95.7	35.0	7.4	21.3	She.	
〃	〃	13	F－6	〃	〃	(59.5)	30.7	7.1	(15.7)	She.	



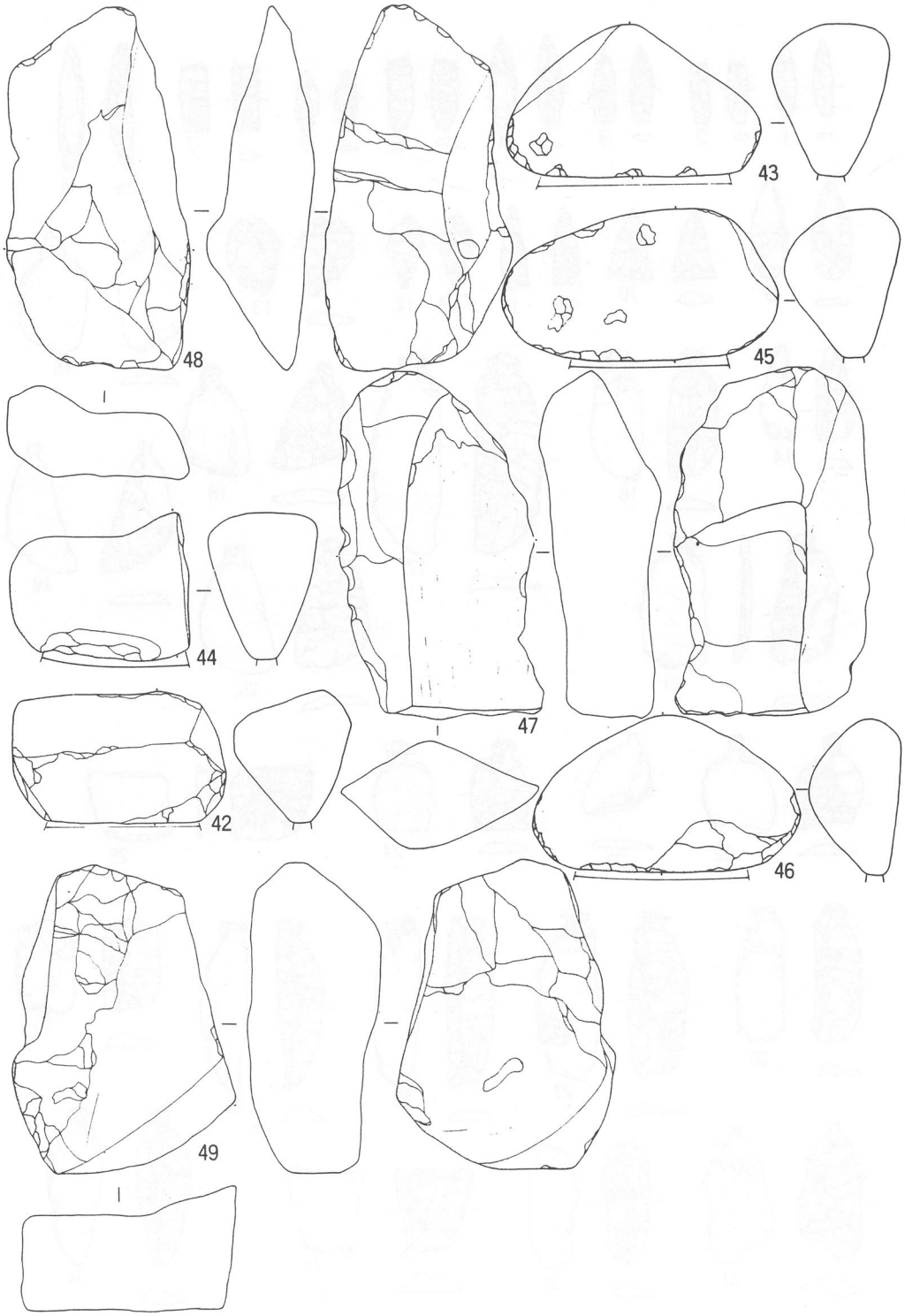
第19図　2号竪穴Ⅶ₁層出土の石器（1）



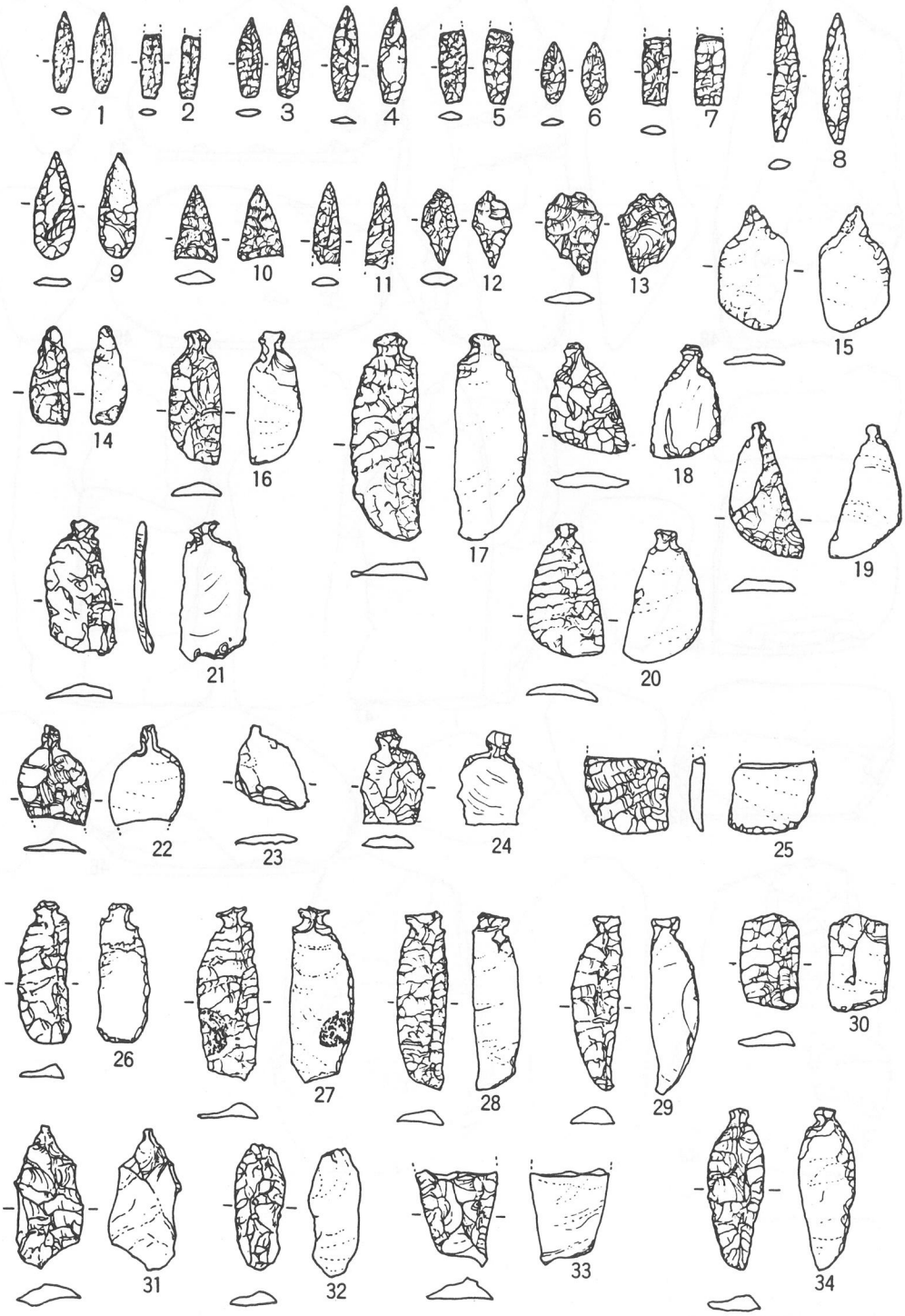
第20図　２号竪穴Ⅶ₁層出土の石器（２）



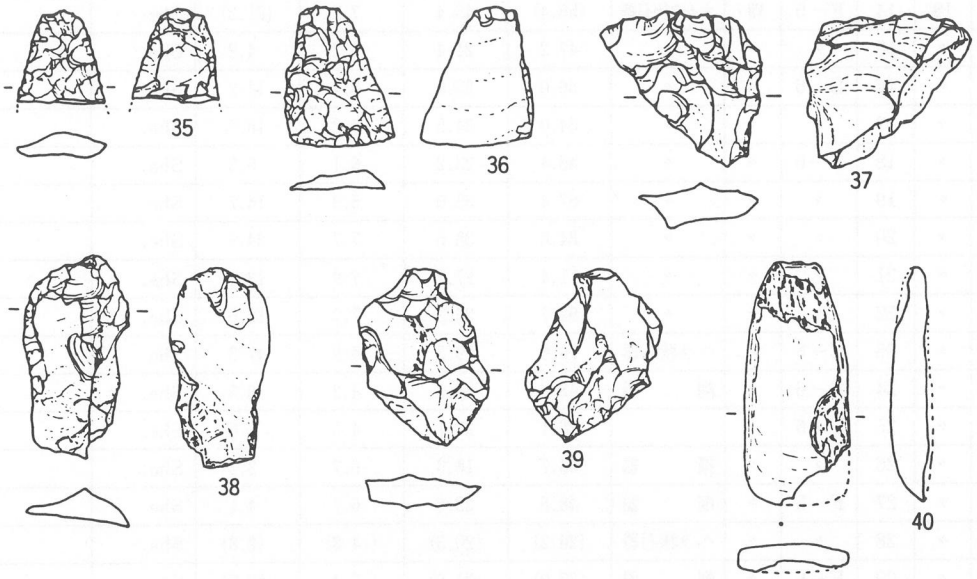
第21図　２号竪穴Ⅶ₁層出土の石器（３）



第22図　2号竪穴Ⅶ1・Ⅶ2層出土の石器（4）



第23図　2号竪穴Ⅵ₁層出土の石器（1）



第24図　２号竪穴Ⅵ₁層出土の石器（２）

図	図版	番号	出土区	層位	種　類	全　長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重　量(g)	石　質	摘　要
19	18	14	F－6	Ⅶ1	ナイフ状石器	(56.4)	45.4	7.2	(21.2)	She.	
〃	〃	15	〃	〃	〃	47.2	21.4	6.2	4.2	Che.	
〃	〃	16	E－6	〃	〃	56.0	33.0	8.1	14.2	She.	
〃	〃	17	〃	〃	〃	64.0	34.5	7.2	16.5	She.	
〃	〃	18	F－6	〃	〃	46.4	23.2	6.1	5.3	She.	
20	〃	19	〃	〃	〃	67.4	35.0	6.3	16.7	She.	
〃	〃	20	〃	〃	〃	84.6	38.6	7.7	24.5	She.	
〃	〃	21	〃	〃	〃	71.4	27.1	7.9	13.1	She.	
〃	〃	22	〃	〃	〃	92.7	25.2	7.7	18.0	She.	
〃	〃	23	E－6	〃	ヘラ状石器	79.0	39.3	14.9	47.3	She.	
〃	〃	24	F－6	〃	削　器	48.9	24.7	4.2	6.5	She.	
〃	〃	25	E－6	〃	〃	28.1	23.1	4.5	3.6	She.	
〃	〃	26	〃	〃	掻　器	33.7	18.3	6.7	3.2	She.	
〃	〃	27	F－5	〃	削　器	48.8	22.6	6.7	4.1	She.	
〃	〃	28	〃	〃	ヘラ状石器	(26.2)	(20.3)	(4.8)	(2.8)	She.	
〃	〃	29	F－6	〃	削　器	(37.9)	(31.6)	(7.4)	(10.6)	She.	
〃	〃	30	E－6	〃	掻　器	59.4	30.1	11.4	16.7	She.	
〃	〃	31	F－6	〃	石　鋸	39.4	22.8	8.0	5.4	She.	
〃	〃	32	〃	〃	削　器	72.1	35.8	7.1	23.2	She.	
〃	〃	33	〃	〃	〃	71.0	42.2	10.0	27.1	Che.	
21	〃	34	F－5	〃	〃	(62.8)	45.1	12.3	30.7	Mu.	
〃	〃	35	〃	〃	削　器	45.6	26.2	5.0	5.9	Che.	
〃	〃	36	E－6	〃	ナイフ状石器	(56.2)	(20.8)	(6.5)	(10.4)	She.	
〃	〃	37	F－6	〃	〃	(35.1)	19.2	3.6	(3.1)	She.	
〃	〃	38	F－5	〃	剝片石器	26.6	12.1	3.5	1.1	Obs.	
〃	〃	39	F－6	〃	ナイフ状石器	(30.2)	33.5	4.8	(4.8)	She.	
〃	〃	40	E－6	〃	剝片石器	47.4	34.2	7.9	43.5	She.	
〃	〃	41	F－5	〃	磨製石器	(63.8)	(45.2)	(7.6)	(53.8)	Rhy.	基部

第7表　2号竪穴覆土出土石器一覧表

図	図版	番号	出土区	層位	種　類	全　長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重　量(g)	石　質	摘　要
23	20	1	F－5	Ⅵ1	石　鏃	30.4	8.4	3.1	1.4	She.	
〃	〃	2	〃	〃	〃	(22.4)	8.0	3.2	(1.2)	She.	
〃	〃	3	E－6	〃	〃	29.2	9.2	2.4	1.5	She.	
〃	〃	4	F－5	〃	〃	35.0	5.2	3.0	1.5	She.	
〃	〃	5	F－6	〃	〃	(27.9)	5.4	3.6	(1.6)	Obs.	
〃	〃	6	〃	〃	〃	22.8	9.2	2.0	0.7	She.	
〃	〃	7	F－5	〃	〃	(26.6)	10.4	8.2	(1.8)	She.	
〃	〃	8	E－5	〃	〃	48.4	10.4	4.6	1.9	She.	
〃	〃	9	F－5	〃	〃	40.0	14.9	3.6	1.9	Che.	

図	図版	番号	出土区	層位	種　類	全　長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重　量(g)	石　質	摘　要
23	20	10	E－6	Ⅵ1	石　鏃	27.6	15.6	4.2	1.5	Obs.	
〃	〃	11	F－5	〃	〃	(30.1)	10.1	4.0	(1.5)	Che.	
〃	〃	12	〃	〃	〃	23.2	12.8	4.8	1.7	She.	
〃	〃	13	E－5	〃	掻　器	31.5	22.4	4.5	2.2	Obs.	
〃	〃	14	F－5	〃	削　器	37.4	14.8	5.4	2.2	She.	
〃	〃	15	F－6	〃	〃	47.1	26.4	3.9	3.9	She.	
〃	〃	16	〃	〃	ナイフ状石器	51.0	20.8	4.4	4.3	She.	
〃	〃	17	E－5	〃	〃	77.3	26.0	6.2	13.0	She.	
〃	〃	18	E－6	〃	〃	45.7	25.7	5.0	5.0	She.	
〃	〃	19	F－5	〃	〃	53.0	22.1	4.8	4.0	She.	
〃	〃	20	〃	〃	〃	50.9	27.8	4.0	6.2	She.	
〃	〃	21	E－5	〃	〃	48.8	24.8	4.3	5.4	She.	
〃	〃	22	E－6	〃	〃	37.0	26.6	5.0	3.2	She.	
〃	〃	23	〃	〃	剝　片	33.2	24.3	6.0	3.0	She.	
〃	〃	24	E－5	〃	ナイフ状石器	(35.5)	22.1	4.2	(3.2)	She.	
〃	〃	25	〃	〃	〃	(27.6)	31.0	5.0	(4.2)	She.	
〃	〃	26	F－6	〃	〃	52.2	18.6	5.9	6.2	She.	
〃	〃	27	F－5	〃	〃	64.8	23.0	4.8	7.1	She.	
〃	〃	28	〃	〃	〃	46.2	18.6	6.4	6.7	She.	
〃	〃	29	E－6	〃	〃	66.6	17.6	6.6	5.9	She.	
〃	〃	30	F－5	〃	削　器	36.6	22.4	5.7	4.8	She.	
〃	〃	31	E－6	〃	〃	52.1	23.6	5.9	6.2	She.	
〃	〃	32	F－5	〃	〃	47.2	18.8	4.1	2.9	She.	
〃	〃	33	E－5	〃	〃	(35.5)	29.9	7.0	(6.2)	She.	
〃	〃	34	〃	〃	ナイフ状石器	60.5	21.4	4.8	5.0	She.	
24	〃	35	〃	〃	ヘラ状石器	(31.2)	28.2	8.6	(8.6)	She.	
〃	〃	36	E－6	〃	〃	52.3	37.9	6.1	11.8	She.	
〃	〃	37	E－5	〃	大形剝片石器	64.2	41.2	15.9	37.7	She.	
〃	〃	38	〃	〃	〃	65.9	33.6	16.7	33.8	She.	
〃	〃	39	〃	〃	〃	58.2	39.6	18.1	39.2	She.	
〃	〃	40	〃	〃	磨製石器	80.9	35.6	9.2	49.7	Gre-Sch.	

図	図版	番号	出土区	層位	種　類	全　長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重　量(g)	擦り面の長さ×幅(mm)
22	19	42	2号竪穴	Ⅶ1	擦り石	127	77	69	890	92×10
〃	〃	43	〃	〃	〃	155	90	70	1,190	115×16
〃	〃	44	〃	〃	〃	107	90	65	900	86×12
〃	〃	45	〃	〃	〃	168	90	66	1,380	95×12
〃	〃	46	〃	〃	〃	162	95	55	1,160	106×10
〃	〃	47	〃	Ⅶ2	砥　石	210	120	68	1,600	
〃	〃	48	〃	〃	〃	220	105	60	1,170	
〃	〃	49	〃	〃	〃	188	130	75	1,120	

第8表　2号竪穴出土図示外石器一覧表

番号	出土区	層位	種　　類	全　長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重　量(g)	石　　質	摘　　要
1	F－5	Ⅵ1	掻　　器	(36.7)	(45.6)	(13.3)	(20.7)	Rhy.	
2	F－6	〃	剝片石器	93.7	47.7	11.6	42.4	Mu.	
3	E－6	Ⅶ1	ナイフ状石器	(25.2)	(26.8)	(6.7)	(2.9)	Obs.	
4	F－6	〃	〃	(41.5)	(28.4)	(5.4)	(6.3)	She.	
5	F－5	〃	〃	(22.4)	(23.8)	(4.6)	(2.4)	She.	
6	〃	〃	〃	(45.8)	(38.8)	(6.3)	(12.6)	She.	
7	F－6	〃	〃	(29.4)	(28.6)	(6.0)	(6.2)	She.	
8	〃	〃	〃	(30.8)	(24.9)	(4.7)	(4.8)	She.	
9	〃	〃	〃	(40.5)	(22.0)	(5.6)	(5.6)	She.	
10	〃	Ⅵ1	掻　　器	28.8	27.4	7.6	6.3	Obs.	
11	E－6	〃	〃	37.2	35.0	15.5	21.7	She.	
12	F－6	〃	削　　器	114.8	45.0	15.5	61.5	She.	
13	E－6	〃	剝片石器	45.2	22.4	6.6	5.3	She.	
14	〃	〃	石器破片	(39.4)	(25.8)	(10.4)	6.3	She.	

c. 3号竪穴

覆　土

発掘区の南端の平坦地，D－3・4，E－3・4区にある。北東は2号竪穴に接し，東南はノリの崩落面，西北は平坦なシノ地に続く。C－3区の高圧電柱付近が標高23.30m，D－5区北端が22.75mで45cmの落差があり約2°の緩い斜面である。東西はF－4区23.17m，D－4区端23.10m D・E－4区中央が22.97mで僅かに窪んでいる。覆土は次のような層序で堆積する。

Ⅰ層：灰黄褐色10YR6/2の壌土で層厚20～40cm。根曲り笹が密生している。

Ⅱ層：浅黄橙色7.5YR8/4の火山灰の砂土で，D－3・4区とE－3・4区竪穴中央周辺の窪みに疎らにみられ，層厚は厚いところで3～4cm，薄くレンズ状に堆積する。

Ⅲ層：黒褐色10YR2/2の腐植に富む火山灰でⅡ層同様竪穴内だけにあり，周辺になると欠層する。層厚4～6cm。

Ⅳ層：黄橙色7.5YR7/8の火山灰の砂土で，拡がりはⅡ層と同じく疎らで薄く水平に堆積する。層厚1～2cm。

Ⅴ層：褐灰色10YR4/1の火山灰層で，竪穴中央近くは黒褐色10YR3/1と腐植に富む。白い斑点は認められない。層厚8～15cm。

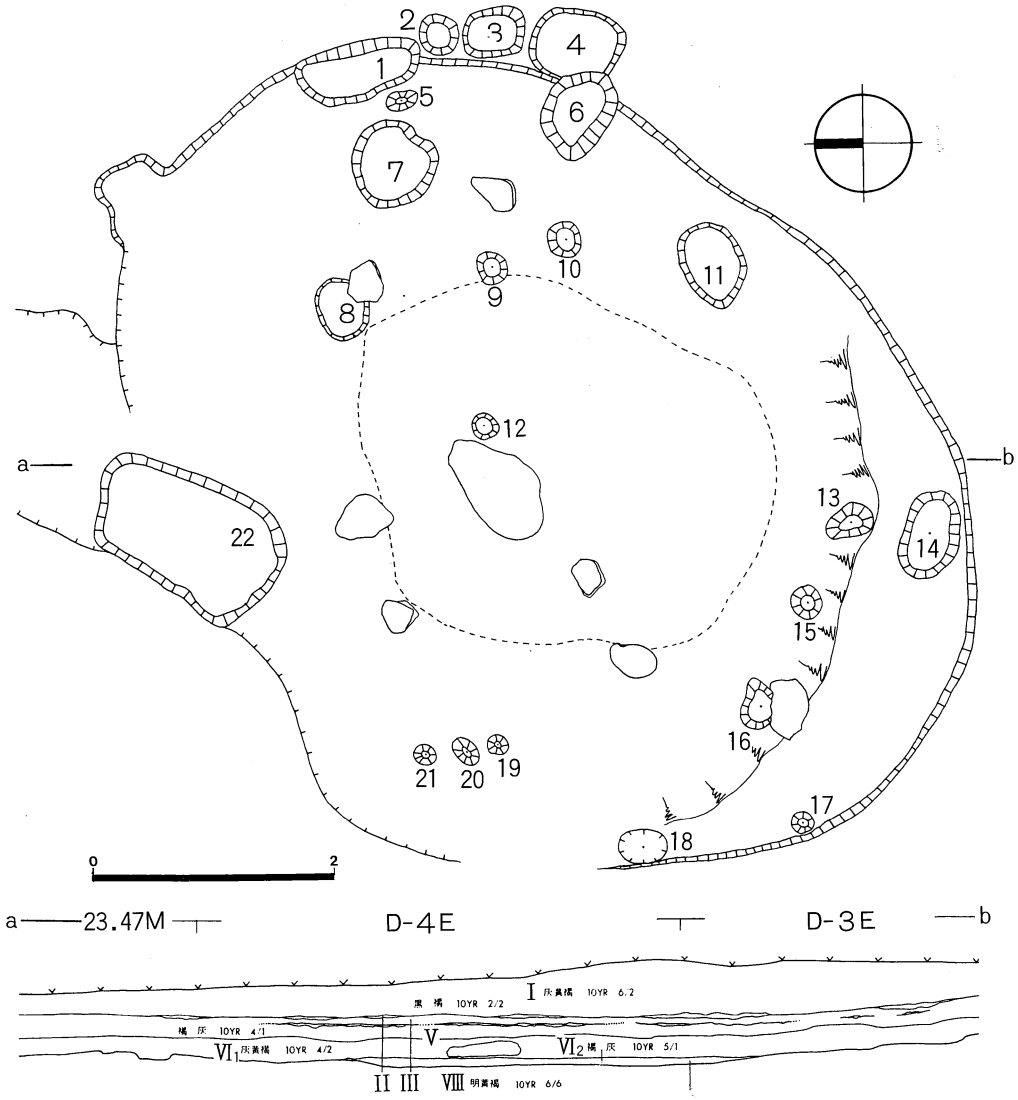
Ⅵ層：灰黄褐色10YR4/2の壌土である。堆積に小さな起伏はあるが層厚14～20cmでほぼ均一な状態にある。竪穴内は保水性があり比較的ウエットになっているが，西北の壁外やD－5区の部分などは可なりコンパクトな状態になっていて遺物を多量に包含している。これを$Ⅵ_1$層とし，竪穴中央の円状の落込みに堆積する褐灰色10YR5/1のグライ化したローム層を$Ⅵ_2$層とする層厚6cm前後。遺物を包含する。

Ⅷ層：明黄褐色10YR6/6の基盤のローム層。

遺　構（第25図・第7図版）

E－3，F－3・4区の平坦面から掘開に入ったが，各区ともⅡ・Ⅲ・Ⅳ層が欠層しており，D－3・4区の北側になって楕円状に薄く拡がるⅡ層の落ち込みを認めた。D・E－4区のほぼ中央のⅤ層に一部を突出した台石57×62×7cmがあり，その底面の深さを床面の一応の目安とし，水平に作業を進めた結果，北・東面に大小のピットを擁した高さ10～12cm，約60°前後で立上る壁を確認した。また床面を西北に向う，扇状の新らたな褐灰色粘土層の落ち込みを検出した。南西面は水平面が中心角隅から50cmほどで約4°の傾斜に移行し，再び平坦になって高さ5cm，30°の立上りの壁になっている。この斜面の基盤層には，流水によると思われる小さな開削があり，固い瘤状になっているところが多い。南西面には壁と認められるものはなく，浅い皿状になっている。ピットは22箇検出したが柱穴とみられるのは12箇，他は盆状のものである。配石は8箇ある中で原位置にあるのは中央の台石のみで，斜面のものなどは動いていると見るべきだろう。

平面の形状は東・南―西・北を長軸とし，長さ約7.8m，南・西―北東を短軸とする5.4mの長楕円形で，その内に同形の3.8m×3m，深さ6cmの皿状の窪みがある。これは人為的とする



第25図　3号竪穴実測図

よりグライ化した層に浮くようにのる台石の状態から竪穴廃棄ごにできた流入土の溜りでなかろうかと思う。

遺　物

土器（第26～29図，カラー図版ⅱ３・４，第21～23図版１～86）

出土した土器片は，口縁部88点，胴部2,789点，底部61点，総数2,938点で，その中から２個体を一部復元し，特徴のあるもの86点を拓影図示に摘出した。それらはIc：１～16・20・33～51・56・61，Ie：17～19・29・30，IIa：24・25，IIb：21～236・26a～27，IIIa：31・32・52～54，$IIIb_1$：58，$IIIb_3$：46・57・60，$IIIb_4$：62～68，$IIIb_5$：59・69～81・85，$IIIb_6$：82，$IIIb_7$：28・55・83・84・86に分けられる。これらの遺物の出土状況についてはII章２で概述したとおり，IeとIIa・IIbが南壁の斜面に張りつくように，IcはⅣ$_2$層から散点状で出土している。遺構の状態にも疑問のあるところで，この竪穴にどのタイプが伴うのか判定することはできない。ただ物量の点からすればⅥ$_1$層下部にIeとIIbが集中しており破片も大型のものが多い。なお，Ⅵ$_1$上部・Ⅴ層下部から出土するIIIa・IIIbに属する一群のものとは層位的に区分される。各個の出土区層位については第10表を参照されたい。

復元土器（第26図１・２，カラー図版ⅱ３・４）

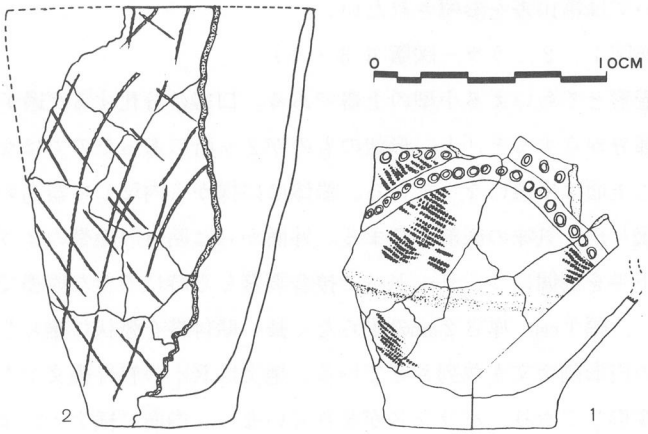
１．$IIIb_1$は無頸壺形とでもいえる小型の土器である。口縁は分化するが過半を欠失して明らかでないが，現存部分からすると「入」形状のものが２ヶ所にあったのではないかと思う。口唇断面は丸味をもち上面は平滑になっている。器体は口縁から内反して器高の2/1の胴部で外出し，「く」の字状に張り出し気味の底部に細まる。外面からは貼付の隆帯のようにも見えるが，造形のさい上半と下半を別個につくり，ドベで接合調整した時にできた段差である。施文は口縁が分化する直下に，幅１cm，厚さ２mmの平らたく長い貼付帯を弧状に垂らし，その上面と口縁下に径３mmほどの円形刺突文を並列させている。地文は$R\{^{L}_{L}$の斜行縄文である。全体としての形状は右下りに変形しており，バランスがとれていない。内面に横ナデによる調整がなされ，接合部は特に入念である。胎土に砂粒を含み焼成は硬い。器高現存12.7cm，口径は底部径と同じ位と推定される。胴部最大径12.6cm，底部径7.6cm，器厚5mm。

２．$IIIb_4$は１と共伴状態にあった深鉢形土器である。口縁は平縁で，口唇断面は切出し型に近く、上面が平らに押さえられ外にめくれ加減になっている。体部はテーパー状である。文様は$R\{^{l}_{l}$の撚糸絡条体による網目文が施されている。内面はよく調整され焼成もよい。器高18cm，口径推定13.2cm，底径6.4cm，器厚６mm。

つぎに拓影図示したもののうち特徴のあるものについて述べる。１～16はIcに属するものだが，口唇・口縁上部に数種の変化がみられる。５は内から広幅に面とりするように細められた薄いもので，口唇下に貼付帯をもっている。７も同類。６は強く外反する薄いもの，８は直立し，口唇上面が平らに調整され若干肉厚になっている。１は胴部片で縦に蛇行する細い貼付帯がある。このような貼付帯は本遺跡では少ないが施文例は多い。12～14・16は$L\{^{r}_{r}$を２本併せた絡条体による羽状文のあるもの。

24・25はIIaに属する同一個体のもので，2号竪穴出土のものと同型である。羽状文のあるIIbのように口縁部が内反状になるようなこともなく，胎土の繊維の含有量はないに等しい。またIIbとの相違点は口唇断面にも見られる。IIaでは口縁部より均一な厚さで，内外面から軽く面取りされた角形，IIbは外面からのみの面取りである。29はIIbの底部と思われる。

明らかにIIIaに属するとみられるのは，貼付帯による文様構成に特色のある32の１点であるが，口縁部に２本の平行沈線文を周らし，ｒの圧痕による網目様文を施した31も近い仲間と思われる。IIIbに属するものは便宜的に１～７に区分したもので，そのような施文のあるものといった程度にとっていただきたい。46は無文の口縁部で口唇内面が大きく面取りされた切り出し形である。面上に爪形文が並列している。内面に指頭と篦による横位の調整がなされている。57・60も同類であり，口縁部に２列単位の横位と縦位の爪形文がある。52～54は稜絡文，55は折り返し口縁のもの。58は縄端による圧痕文が縦位に列点されている。62～68は網目文のあるもので，この中には後期初頭に入るものがあるかもしれない。69～81は口縁部に１～４条の平



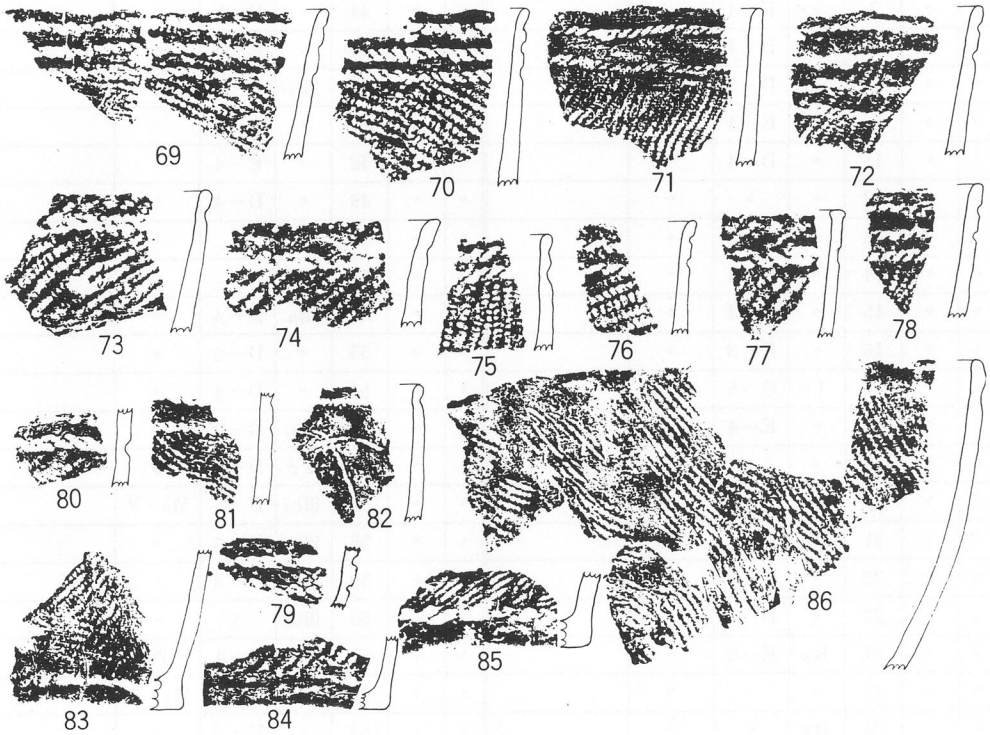
第26図　３号竪穴Ｖ層出土の復元土器

第９表　３号竪穴ピット計測一覧表

番号	形　状	上面径cm	底面径cm	深　さcm	備　　考	番号	形　状	上面径cm	底面径cm	深　さcm	備　　考
1	楕円形	104×46	90×30	18		12	円　形	22× 22	16×14	25	
2	円　形	34×40	20×20	10		13	三角状	40× 30	20×14	16	
3	方　形	50×40	40×32	10		14	楕円形	50× 70	34×60	10	
4	〃	80×56	66×54	12		15	円　形	26× 28	12×14	16	
5	楕円形	30×14	10× 4	15		16	三角状	26× 40	18×26	10	
6	〃	64×70	36×54	20		17	円　形	16× 18	10× 8	14	
7	円　形	74×72	60×60	15		18	〃	34× 30	—	6	
8	〃	48×54	40×46	15		19	〃	16× 14	6× 4	18	
9	〃	26×26	14×16	23		20	楕円形	20× 28	4× 8	14	
10	〃	30×30	14×20	23		21	円　形	18× 20	4× 6	16	
11	楕円形	56×70	44×60	20		22	方　形	178×100	158×82	8	

第27図　3号竪穴Ⅵ1・Ⅵ2・Ⅴ層出土の土器（1）

第28図　3号竪穴 VI1・VI2・V層出土の土器（2）



第29図　3号竪穴Ⅵ₁・Ⅴ層出土の土器（3）

行縄線文を施したもので，73・74・77の口唇上面には縄端が列点状に圧痕されている。この種の出現率は非常に高い。85は底部に施文したもの。82には篦がきの曲状沈線文が施されている。

（佐藤忠雄）

第10表　3号竪穴出土土器一覧表

図	図版	番号	分類	出土区	層　位	備　　考	図	図版	番号	分類	出土区	層　位	備　　考
27	21	1	Ⅰc	E－4	Ⅵ2		28	22	38	Ⅰc	D－4	Ⅵ1	
〃	〃	2	〃	D－3	〃		〃	〃	39	〃	〃	〃	
〃	〃	3	〃	E－3	〃		〃	〃	40	〃	E－4	〃	
〃	〃	4	〃	E－4	〃		〃	〃	41	〃	〃	〃	
〃	〃	5	〃	G－4	〃		〃	〃	42	〃	D－3	〃	
〃	〃	6	〃	D－3	〃		〃	〃	43	〃	E－4	〃	
〃	〃	7	〃	E－4	〃		〃	〃	44	〃	D－3	〃	
〃	〃	8	〃	D－4	〃		〃	〃	45	〃	E－4	〃	
〃	〃	9	〃	D－3	〃		〃	〃	46	Ⅲb3	D－3	Ⅵ1・Ⅴ	
〃	〃	10	〃	E－4	〃		〃	〃	47	〃	E－3	〃	
〃	〃	11	〃	D－4	〃		〃	〃	48	〃	E－4	〃	
〃	〃	12	〃	〃	〃		〃	〃	49	〃	D－4	〃	
〃	〃	13	〃	E－5	〃		〃	〃	50	〃	〃	〃	
〃	〃	14	〃	D－4	〃		〃	〃	51	〃	〃	〃	
〃	〃	15	〃	E－4	〃		〃	〃	52	Ⅲa	E－4	〃	
〃	〃	16	〃	E－3	〃		〃	〃	53	〃	D－5	〃	
〃	〃	17	Ⅰe	G－5	Ⅵ1		〃	〃	54	〃	D－4	〃	
〃	〃	18	〃	E－4	〃		〃	〃	55	Ⅲb7	D－3	〃	
〃	〃	19	〃	〃	〃		〃	〃	56	Ⅰc	D－4	Ⅵ1	
〃	〃	20	Ⅰc	〃	Ⅵ2		〃	〃	57	Ⅲb3	D－3	Ⅵ1・Ⅴ	
〃	〃	21	Ⅱb	D－4	Ⅵ1		〃	〃	58	Ⅲb1	D－5	〃	
〃	〃	22	〃	D－3	〃		〃	〃	59	Ⅲb5	D－3	〃	
〃	〃	23	〃	D－4	〃		〃	〃	60	Ⅲb3	〃	〃	
〃	〃	24	Ⅱa	E－3	〃		〃	〃	61	Ⅰc	D－4	Ⅵ1	
〃	〃	25	〃	〃	〃		〃	〃	62	Ⅲb4	〃	Ⅵ1・Ⅴ	
〃	〃	26	Ⅱb	〃	〃		〃	〃	63	〃	E－3	〃	
〃	〃	27	〃	D－4	〃		〃	〃	64	〃	D－4	〃	
〃	〃	28	Ⅲb7	D－3	Ⅵ1・Ⅴ		〃	〃	65	〃	D－3	〃	
〃	〃	29	Ⅰe	〃	Ⅵ1		〃	〃	66	〃	〃	〃	
28	22	30	〃	E－4	〃		〃	〃	67	〃	〃	〃	
〃	〃	31	Ⅲa	D－3	Ⅵ1・Ⅴ		〃	〃	68	〃	D－4	〃	
〃	〃	32	〃	〃	〃		29	23	69	Ⅲb5	〃	〃	
〃	〃	33	Ⅰc	D－4	Ⅵ2		〃	〃	70	〃	〃	〃	
〃	〃	34	〃	E－4	〃		〃	〃	71	〃	〃	〃	
〃	〃	35	〃	D－4	〃		〃	〃	72	〃	D－3	〃	
〃	〃	36	〃	D－6	〃		〃	〃	73	〃	〃	〃	
〃	〃	37	〃	E－3	〃		〃	〃	74	〃	E－3	〃	

図	図版	番号	分類	出土区	層　位	備　　考	図	図版	番号	分類	出土区	層　位	備　　考
29	23	75	IIIb5	D－3	VI1・V		29	23	81	IIIb5	D－4	VI1・V	
〃	〃	76	〃	〃	〃		〃	〃	82	IIIb6	〃	〃	
〃	〃	77	〃	D－4	〃		〃	〃	83	IIIb7	E－3	〃	
〃	〃	78	〃	D－3	〃		〃	〃	84	〃	D－3	〃	
〃	〃	79	〃	〃	〃		〃	〃	85	IIIb5	〃	〃	
〃	〃	80	〃	E－3	〃		〃	〃	86	IIIb7	D－4	〃	

石　器（第30図～第34図，第11～13表）

この竪穴は，発掘区の南側で２号竪穴に接している。定形化した石器102点，石片類15,814点が出土している。石片類が多量に出土したことと関連して，竪穴の南であるD－３，D－４に集石があり，大形剥片石器もD－４から出土している。竪穴別にみた定形化の石器出土量は２号竪穴に近い量であるが，ナイフ状石器が２号竪穴とほぼ同数の38点，石鏃も同じように18点と多い。他にあまりなかったものでは石銛が４点，大形剥片石器７点，石錐５点であるが，石銛の形態では特徴的なものがみられ，刺器としての石錐が多く出土している。

石鏃　石鏃は床面から７点，覆土から11点が出土している。床面ではI－bがおもであったが，覆土ではI－bが少なく，三角形石鏃であるI－d，I－eが多く，I－hも１点出土している。層位的には三角形石鏃のほうが時期的に新しいとみることができる。

石銛　この竪穴で出土した石銛は特徴がありII－e，II－f，II－gがあり，同じ石銛の有舌で１号竪穴から出土したII－dはみられなかった。II－eのタイプで肩部よりも基底部の幅が小さい五角形に近いものが覆土から出土している。

石錐　４点出土した石錐は覆土からのもので，III－aのタイプであった。剥片で基部が厚味をもっているが，裏面に剥離面を残しているもので，刃部の先端が非常に鋭利なものと使用によって鋭利でないものとがある。これは皮に穴をあけるなどした刺器としての用途に用いたものと考えている。床面では破損品が１点出土している。

石槍　床面から２点と覆土から１点が出土している。床面のものは柳葉形のIV－aと薄手で幅広のIV－cの２種であるが，覆土からはIV－cが出土している。

ナイフ状石器　38点出土しているうち，床面が15点で，覆土から23点出土しているが，床面の大半が定形品で，破損品がほとんどなかった。分類別にみるとV－1a，V－1bとV－2b，V－2c，V－2d，V－2fである。覆土のものはV－1a，V－1b，V－1c，V－1fとV－2a，V－2c，V－2d，V－2fであるが，V－２に大別したものでは小形のものがあり調べてみるとこの遺跡から出土したナイフ状石器では最小で２cmほどのものがあった。

掻器　床面で４点，覆土で３点出土している。床面のものはVI－a，VI－b，VI－dで，覆土のものはVI－b，VI－c，VI－dである。３号竪穴床面の27，28にみられるように円形に近いものがあり，幅広の槍状のものもある。

削器　VII－a，VII－b，VII－cが出土している。床面で７点，覆土で１点出土している。

剥片石器　床面でなく覆土から２点出土している。

大形剝片石器　この種のなかには模式図で示したようにあたかも形態が定まっているようにみえるものとそうでないものがある。3号竪穴床面の37，40は形態が定まっているようにみえるが，38，39は破損品でなくそれなりにつくられたものである。

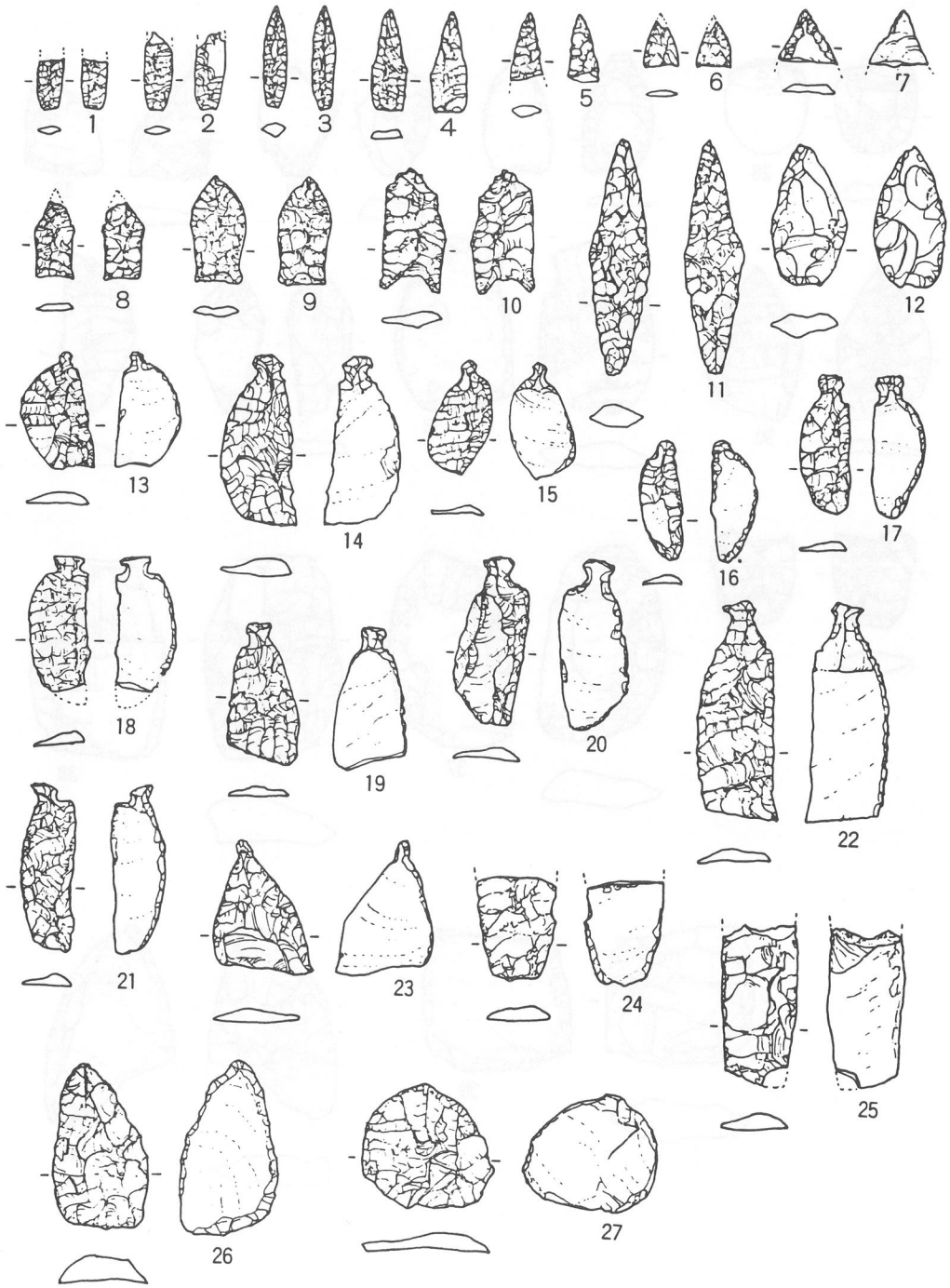
球状礫器　この竪穴では4点出土しているが類似するものをみると第26図版89は，外観が球状礫器に似ていて器面が磨かれたようになっていて，部分を擦っているのもある。

擦石類　自然石の一部分を擦ったもの4点と砥石の類が2点出土しているが，これらは床面でなくⅥ$_1$，Ⅵ$_2$層から出土している。92の砥石は，片面が研かれて平坦面になっているが，縦の平行する細い溝が何本も入っている。これは石斧の側縁を擦り研いだものと思われる。

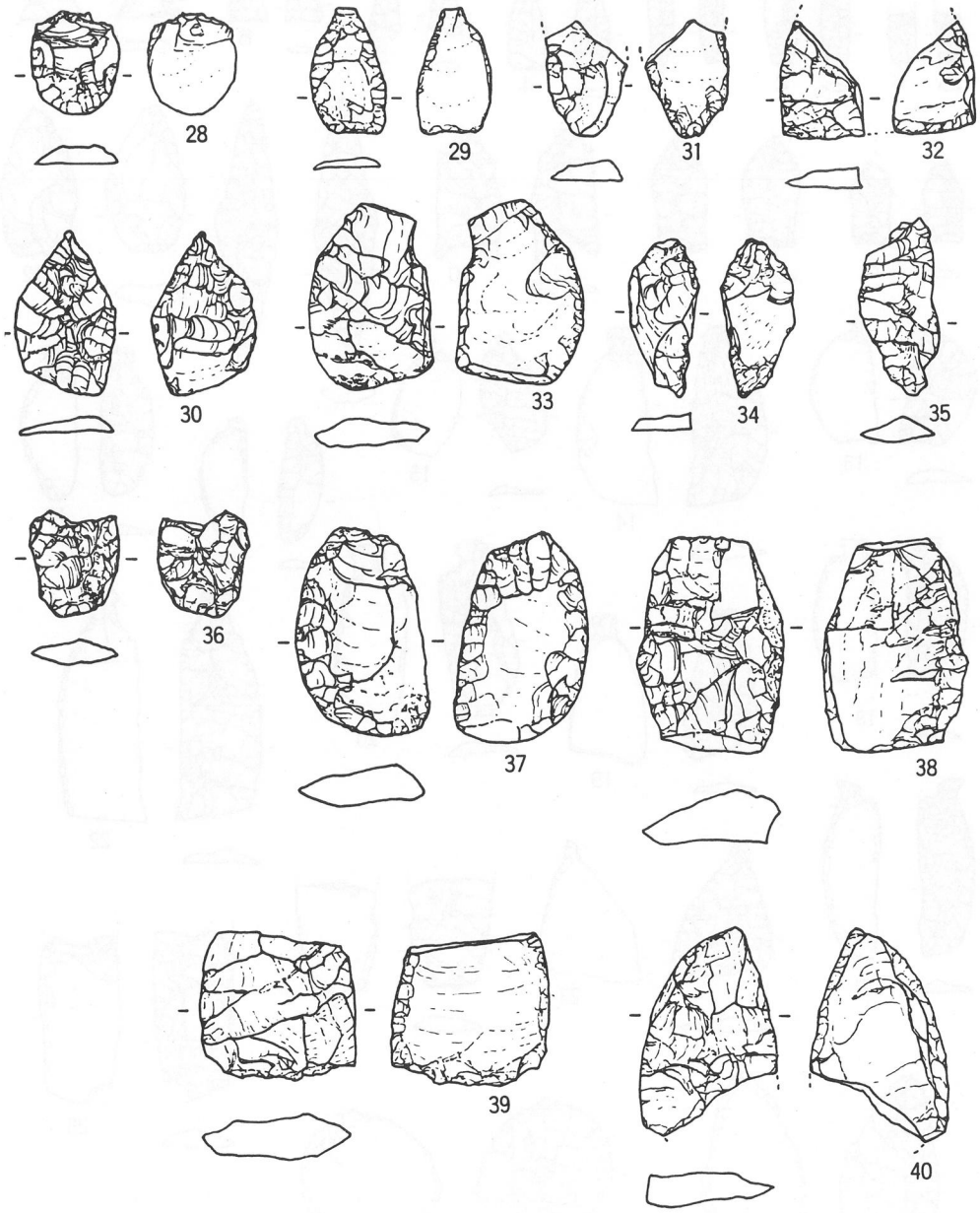
（千代　肇）

第11表　3号竪穴床面出土石器一覧表

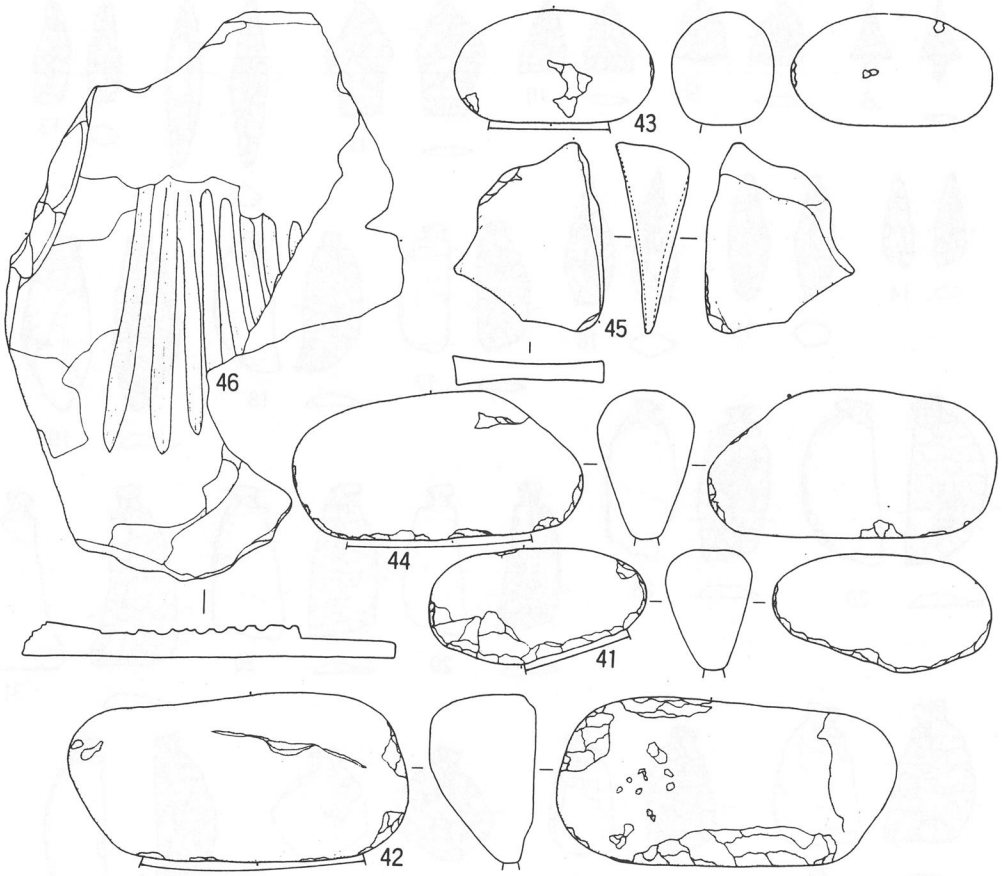
図	図版	番号	出土区	層位	種類	全長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	石質	摘要
30	24	1	D−4	Ⅵ$_1$	石鏃	(18.3)	10.1	3.2	(1.3)	She.	
〃	〃	2	E−4	〃	〃	(29.0)	11.1	2.5	(1.4)	She.	
〃	〃	3	D−4	〃	〃	37.7	9.3	5.1	1.6	She.	
〃	〃	4	〃	〃	〃	37.3	13.7	4.1	1.8	She.	
〃	〃	5	〃	〃	〃	(25.1)	12.9	5.5	(1.6)	She.	
〃	〃	6	E−4	〃	〃	17.4	12.8	3.2	1.2	Che.	
〃	〃	7	D−4	〃	石錐	(18.2)	21.6	3.4	(1.6)	She.	
〃	〃	8	E−4	〃	石銛	28.3	14.7	3.8	1.6	Obs.	
〃	〃	9	D−4	〃	〃	39.7	20.3	4.9	2.6	Obs.	
〃	〃	10	E−4	〃	〃	45.4	22.8	6.0	4.6	She.	
〃	〃	11	D−4	〃	石槍	86.5	21.6	9.3	12.4	She.	
〃	〃	12	E−3	〃	〃	52.4	27.7	8.6	9.2	She.	
〃	〃	13	D−4	〃	ナイフ状石器	43.2	23.6	3.9	3.5	She.	
〃	〃	14	〃	〃	〃	62.8	25.8	5.8	9.3	She.	
〃	〃	15	E−4	〃	〃	43.1	22.0	4.5	3.7	She.	
〃	〃	16	D−4	〃	〃	43.8	17.1	4.7	2.4	She.	
〃	〃	17	〃	〃	〃	52.4	19.5	4.8	5.0	She.	
〃	〃	18	〃	〃	〃	50.3	21.2	5.1	5.0	She.	
〃	〃	19	〃	〃	〃	52.6	25.0	5.0	6.0	She.	
〃	〃	20	〃	〃	〃	61.4	25.4	5.6	8.9	She.	
〃	〃	21	E−4	〃	〃	52.6	19.0	4.9	5.8	She.	
〃	〃	22	〃	〃	〃	81.9	28.2	6.8	15.0	She.	
〃	〃	23	D−4	〃	〃	52.1	33.1	6.9	7.6	She.	
〃	〃	24	〃	〃	〃	(37.1)	28.0	7.4	(6.4)	She.	
〃	〃	25	〃	〃	〃	57.5	27.4	7.0	13.6	She.	
〃	〃	26	E−4	〃	掻器	63.8	36.1	9.0	23.5	She.	
〃	〃	27	〃	〃	〃	50.2	41.4	5.8	13.0	She.	
31	〃	28	D−4	〃	〃	35.4	31.4	8.6	8.8	She.	



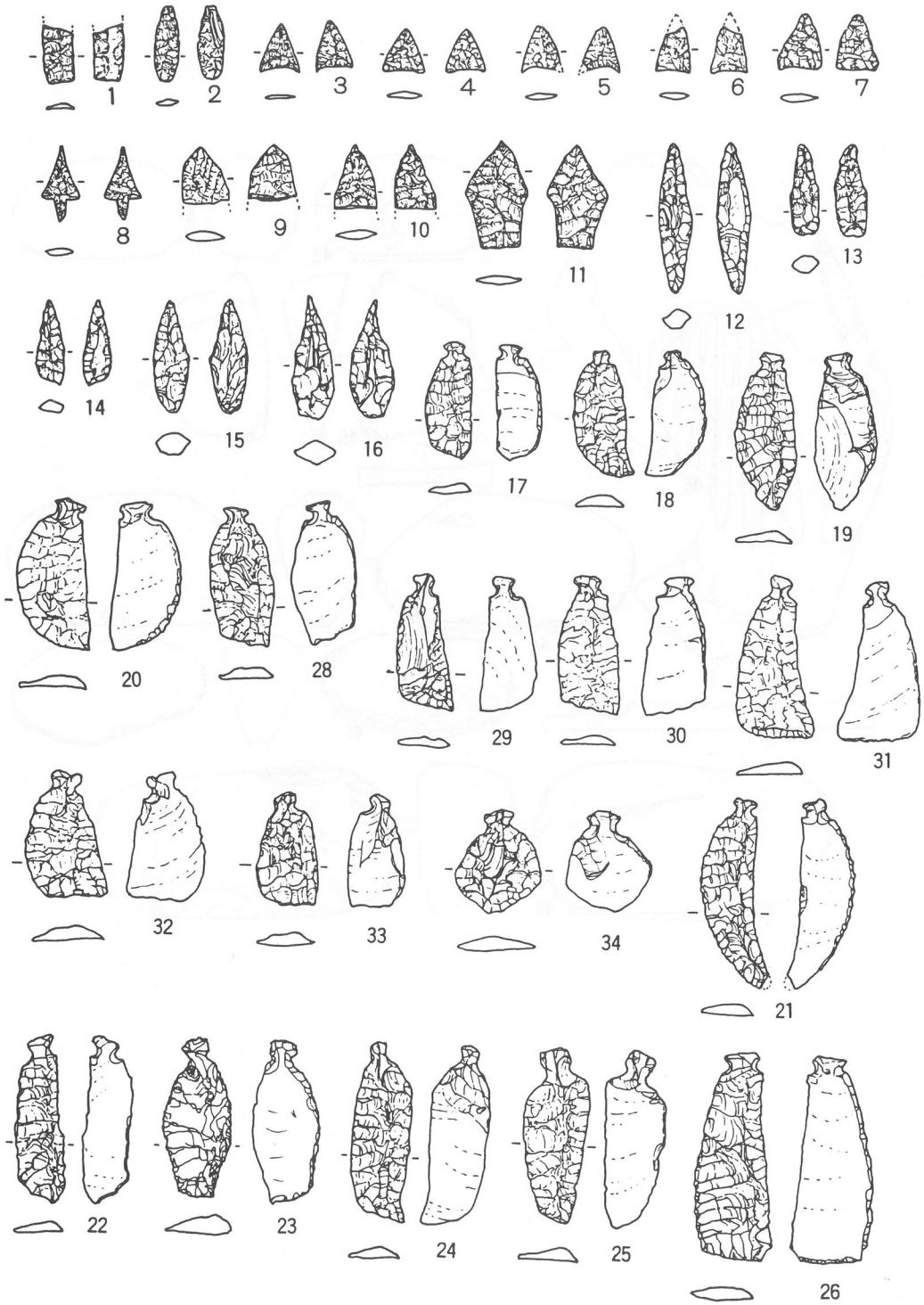
第30図　3号竪穴Ⅵ1層出土の石器（1）



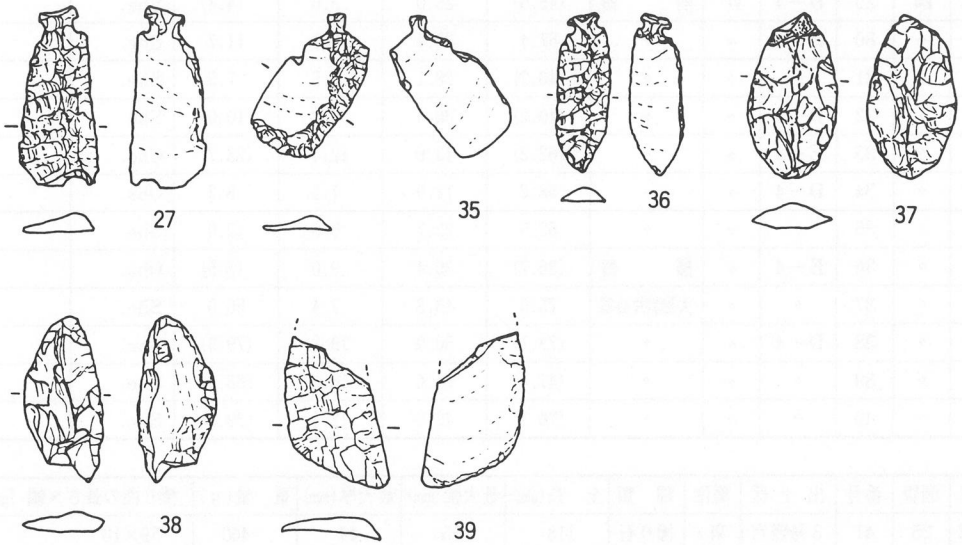
第31図　3号竪穴Ⅵ₁層出土の石器（2）



第32図　3号竪穴Ⅵ2層出土の石器（3）



第33図　3号竪穴 VI₁・V 層出土の石器（1）



第34図　3号竪穴Ⅵ₁・Ⅴ層出土の石器

図	図版	番号	出土区	層位	種　類	全　長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重　量(g)	石　質	摘　要
31	24	29	D－4	Ⅵ1	削　器	(45.5)	25.0	3.6	(4.4)	She.	
〃	〃	30	E－4	〃	〃	57.4	35.4	5.7	11.7	She.	
〃	〃	31	〃	〃	〃	(40.2)	28.1	7.5	7.5	She.	
〃	〃	32	D－4	〃	〃	(40.2)	28.4	8.2	(10.0)	She.	
〃	〃	33	E－4	〃	〃	(62.2)	43.6	12.4	(28.7)	Che.	
〃	〃	34	D－4	〃	〃	58.2	11.9	7.1	8.2	Obs.	
〃	〃	35	〃	〃	〃	62.5	25.7	5.8	12.0	She.	
〃	〃	36	E－4	〃	掻　器	(36.7)	30.4	9.0	(8.5)	Obs.	
〃	〃	37	〃	〃	大形剥片石器	75.0	43.8	7.4	55.0	She.	
〃	〃	38	D－4	〃	〃	(73.1)	50.9	19.8	(79.5)	She.	
〃	〃	39	〃	〃	〃	(47.4)	54.6	16.6	(58.4)	She.	
〃	〃	40	〃	〃	〃	(76.4)	46.0	12.4	(39.2)	She.	

図	図版	番号	出 土 区	層位	種　類	全　長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重　量(g)	擦り面の長さ×幅 (mm)
32	25	41	3号竪穴	Ⅵ2	擦り石	118	65	47	460	59×10
〃	〃	42	〃	〃	〃	183	90	56	1,140	119× 8
〃	〃	43	〃	〃	〃	108	60	55	570	64×21
〃	〃	44	〃	〃	〃	156	80	53	950	99× 7
〃	〃	45	〃	〃	砥　石	100	80	35	200	
〃	〃	46	〃	〃	〃	270	221	150	960	

第12表　3号竪穴覆土出土石器一覧表

図	図版	番号	出土区	層　位	種　類	全　長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重　量(g)	石　質	摘　要
33	26	1	E－3	Ⅵ1・Ⅴ	石　鏃	21.8	11.4	3.2	1.5	She.	
〃	〃	2	〃	〃	〃	28.2	9.9	4.1	1.5	Obs.	
〃	〃	3	〃	〃	〃	17.8	14.3	2.4	0.8	Obs.	
〃	〃	4	〃	〃	〃	17.0	15.3	2.9	1.1	Che.	
〃	〃	5	〃	〃	〃	16.8	15.1	2.0	0.8	She.	
〃	〃	6	〃	〃	〃	(16.6)	13.3	3.2	(0.6)	Che.	
〃	〃	7	〃	〃	〃	21.2	16.0	3.9	1.5	Che.	
〃	〃	8	D－4	〃	〃	28.6	15.0	3.3	1.4	Aga.	
〃	〃	9	E－3	〃	〃	(24.8)	16.4	4.0	(1.6)	Che.	
〃	〃	10	E－4	〃	〃	(21.4)	19.1	5.7	(1.8)	Obs.	
〃	〃	11	E－3	〃	〃	40.8	22.8	6.1	3.0	Obs.	
〃	〃	12	〃	〃	〃	58.2	13.2	7.4	4.6	She.	
〃	〃	13	D－5	〃	石　槍	36.2	11.7	6.4	2.0	She.	
〃	〃	14	E－4	〃	〃	33.3	11.0	4.2	1.7	She.	
〃	〃	15	D－3	〃	〃	43.2	14.2	8.7	4.1	She.	
〃	〃	16	C－4	〃	〃	45.5	16.7	8.5	3.5	She.	
〃	〃	17	E－3	〃	ナイフ状石器	45.7	17.4	4.3	2.7	She.	

図	図版	番号	出土区	層位	種類	全長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	石質	摘要
33	26	18	D−5	Ⅵ1・Ⅴ	ナイフ状石器	49.0	19.6	4.3	3.4	She.	
〃	〃	19	E−3	〃	〃	60.6	23.0	5.6	5.2	She.	
〃	〃	20	D−5	〃	〃	59.0	26.4	6.2	9.0	She.	
〃	〃	21	D−3	〃	〃	54.7	23.3	5.4	6.2	She.	
〃	〃	22	D−5	〃	〃	53.6	19.6	4.6	2.6	She.	
〃	〃	23	D−3	〃	〃	53.2	23.8	5.6	5.9	She.	
〃	〃	24	D−4	〃	〃	62.6	26.7	5.4	8.4	She.	
〃	〃	25	D−3	〃	〃	50.0	27.8	6.0	7.5	She.	
〃	〃	26	D−4	〃	〃	43.6	23.0	6.2	5.4	She.	
34	〃	27	E−3	〃	〃	38.6	31.8	5.8	6.4	She.	
〃	〃	28	D−5	〃	〃	72.6	20.7	5.5	8.2	She.	
〃	〃	29	D−4	〃	〃	63.3	17.2	5.0	5.6	She.	
〃	〃	30	D−5	〃	〃	61.4	26.2	7.2	11.7	She.	
〃	〃	31	D−3	〃	〃	69.3	22.0	6.6	9.0	She.	
〃	〃	32	D−5	〃	〃	66.9	24.2	6.0	11.6	She.	
〃	〃	33	〃	〃	〃	79.6	29.0	7.0	15.2	She.	
〃	〃	34	D−3	〃	〃	62.2	24.6	7.3	12.2	She.	
	〃	35	E−4	〃	〃	52.9	27.1	4.4	5.4	She.	
〃	〃	36	E−3	〃	〃	55.4	17.2	5.0	4.5	She.	
〃	〃	37	〃	〃	石槍	55.7	29.8	11.8	15.7	She.	
〃	〃	38	〃	〃	削器	55.2	21.9	9.6	12.2	Che.	
〃	〃	39	〃	〃	ナイフ状石器	(60.2)	30.0	7.0	(11.7)	She.	

第13表 3号竪穴出土図示外石器一覧表

番号	出土区	層位	種類	全長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	石質	摘要
1	E−4	Ⅵ1	ナイフ状石器	38.9	21.0	6.2	4.5	She.	
2	E−3	〃	〃	46.9	27.8	5.8	8.4	She.	
3	〃	〃	掻器	34.8	30.4	8.6	7.2	Che.	
4	〃	〃	〃	38.0	27.2	10.4	12.3	She.	
5	〃	〃	〃	31.9	21.9	7.0	3.6	Che.	
6	D−4	〃	剥片石器	36.2	23.9	5.0	3.6	She.	
7	D−3	〃	〃	69.2	39.6	6.6	42.0	She.	
8	D−4	〃	石鏃	22.9	11.8	2.4	1.3	Obs.	
9	〃	〃	ナイフ状石器	46.4	17.1	3.6	2.0	She.	
10	〃	〃	〃	42.4	22.2	4.0	3.0	She.	
11	E−4	〃	剥片石器	25.0	34.1	9.3	7.0	She.	
12	〃	〃	〃	49.2	32.2	9.4	12.0	She.	
13	E−3	〃	〃	53.1	36.0	11.2	12.1	She.	
14	E−5	〃	ナイフ状石器	24.1	15.6	5.0	1.8	She.	
15	F−6	〃	剥片石器	35.4	20.7	7.2	4.0	She.	

d. 4号竪穴

覆　土

K－6・7とL－6・7の一部にかけて検出された。松江原野道路を登りつめたところに接する発掘区の東端である。北8mに個人墓地があり，南北は標高23.30mで凡そ水平，東西は東が標高23.50m，西に3°で緩く長い斜面になっている。覆土は次のような層序で堆積する。

I層：灰黄褐色10YR5/2で，道路開さく工事や耕作によって攪拌された土壌でバサついて腐植も少ない。層厚10～16cm。

II～IV層は欠層。

V層：黒褐色10YR3/1の腐植に富む火山灰層で層厚6～17cm，これをV_1層とし，その下に部分的に挟在する褐灰色10YR4/1，層厚12cm前後をV_2層とした。

遺　構（第35図・第9図版）

VI_1層上面でK－6区全面に延びる古倒木の根と幹が炭化に近い状態で発見され，その間に潜り込むように多数のフレイクが出土し，また65×50×30cm，65×70×42cm，25×30×15cm，15×15×10cmの4個の山石などがあり，遺構の存在が予測されたが，落ち込みを確認したのはグリッドの南側が基盤層に達し清掃を北にすすめていく途中，弧状に落ちる薄い粘土層を検出し低い壁の立上りに突き当ってからで，東に周り込むほぼ円状のものと思われた。しかし，東南は道路ノリ面で切れ，南西は消失していた。床面には26箇のピットが認められたが，その中に規則的なものは読み取れなかった。

平面の形状は不整楕円形で東西5.8m，南北7.6m。北壁斜面の長い部分の高さ15cm，立上り角度25°。

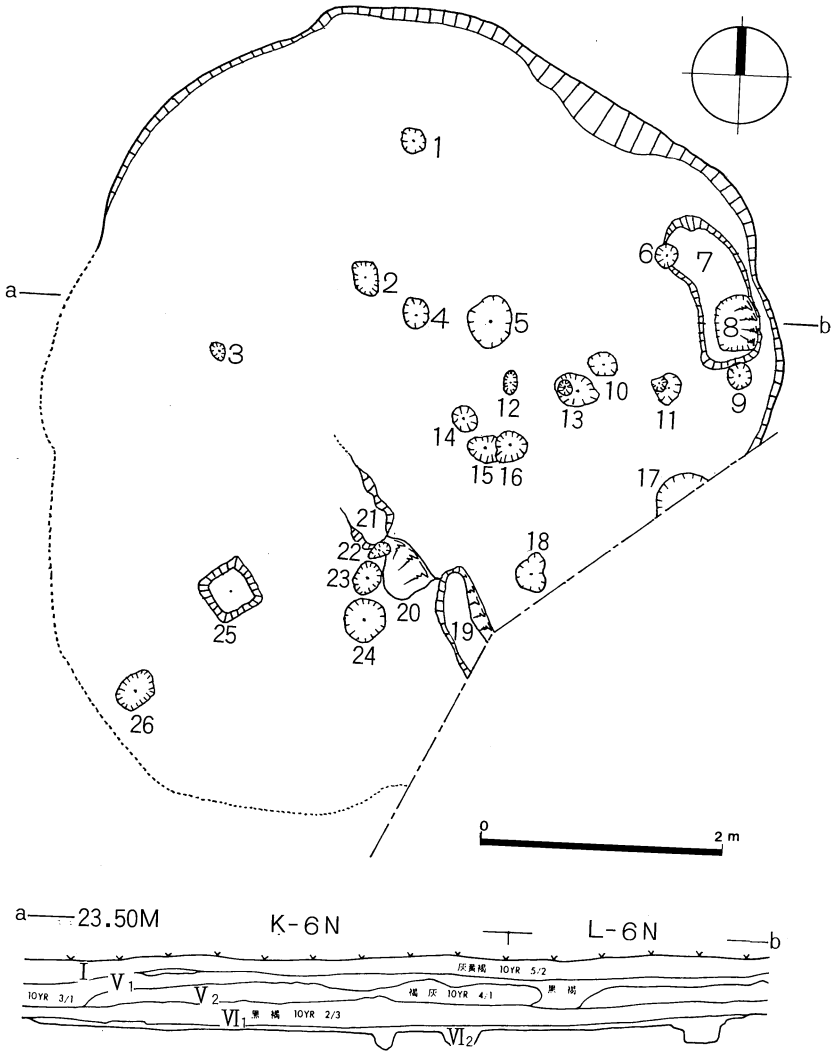
遺　物

土器

K－7区から76点の縄文のある土器小片を出土したが，全べて小片で文様による型式の判別はできない。

第14表　4号竪穴ピット計測一覧表

番号	形　状	上面径cm	底面径cm	深　さcm	備　考	番号	形　状	上面径cm	底面径cm	深　さcm	備　考
1	方　形	44×40	—	26		14	円　形	20×20	—	7	
2	〃	130×60	114×48	7		15	楕円形	44×32	—	8	
3	円　形	20×20	—	5		16	円　形	22×20	—	5	
4	〃	20×20	—	5		17	〃	16×14	—	6	
5	〃	28×26	12× 8	15		18	方　形	24×20	—	8	
6	半円形	40×20	—	10		19	円　形	12×10	—	5	
7	楕円形	24×16	—	8		20	方　形	20×10	—	5	
8	〃	36×20	—	5		21	不整方形	30×90	24×86	8	西北開口
9	円　形	12×10	—	12		22	円　形	26×22	—	4	東開口
10	不整方形	30×20	—	12		23	〃	30×32	—	5	北東開口
11	楕円形	20×23	—	15		24	楕円形	36×78	20×72	12	南東開口
12	〃	20×28	—	13		25	方　形	40×40	38×36	19	
13	〃	14× 8	—	6		26	〃	18×14	—	4	北東開口



第35図　4号竪穴実測図

石　器（第36図～第37図，第27図版～第28図版，第15・16表）

この竪穴は，１号，２号，３号から離れた北東で確認されたもので，覆土をほとんど除去したために，出土した石器は床面のものを扱うことにした。37点中，ナイフ状石器15点，石鏃７点，掻器３点，削器２点と擦石類10点である。

石鏃　石鏃は五角形石鏃のＩ－ａが１点，三角形石鏃のＩ－ｄ，Ｉ－ｅ，Ｉ－ｆが６点の７点であった。特色は三角形石鏃が多いのと黒曜石製が石鏃７点のうち５点であった。

ナイフ状石器　15点出土のなかでＶ－1b，Ｖ－1c，Ｖ－1dとＶ－2b，Ｖ－2d，Ｖ－2eがあり，特徴はＶ－1cのように先端部が多く水平である。これはＶ－2eのように一端が必らずしも尖っていることを必要としなかったもので，むしろ先端部が水平であるために使用に便利であったことを考えさせられるものである。刃部の稜線が左側に走るのが1例あった。

掻器　掻器と分類した石器が３点出土している。Ⅵ－ｃのタイプと形がさだかでないが刃部が厚く，裏面が平坦に作られているものを含めた。

削器　２点であるが，27は形態的にはⅥ－ｅやヘラ状石器のⅧ－ｂに似ているが，側縁の刃部と先端の水平部分に刃部があり，刃部が薄いため削器として使用したものと考えられるものである。

擦石類　図版には32の球状礫器が１点含まれている。そのほかは砥石が１点で，その他は自然石の側縁を擦ったもので，擦痕の外縁に打撃による打欠きがみられるものである。

第15表　４号竪穴床面出土石器一覧表

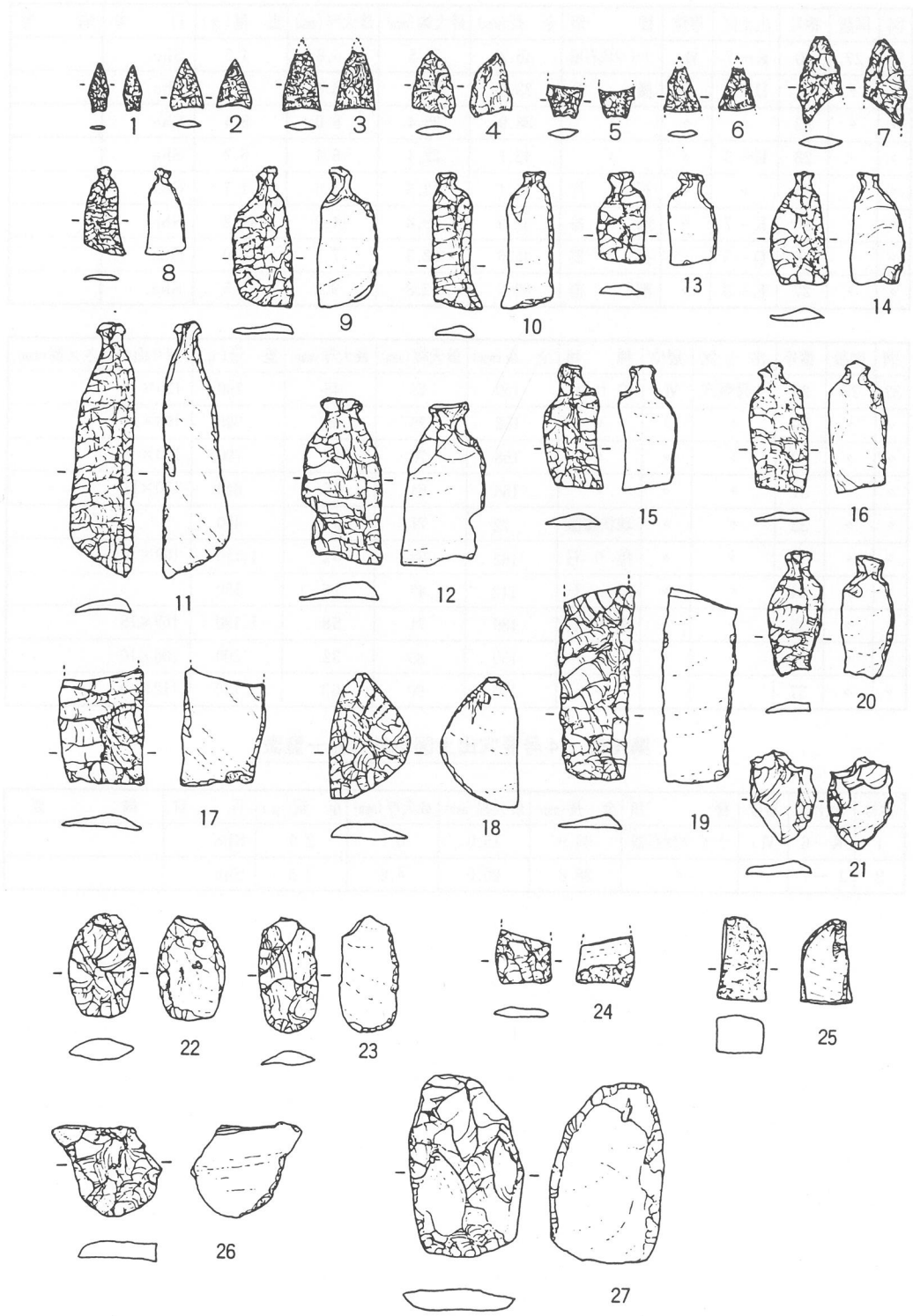
図	図版	番号	出土区	層位	種　類	全　長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重　量(g)	石　質	摘　要
36	27	1	K－7	Ⅵ1	石　鏃	18.0	7.4	2.0	0.5	Obs.	
〃	〃	2	K－6	〃	〃	19.8	13.2	3.1	1.1	Che.	
〃	〃	3	K－7	〃	〃	23.4	14.0	2.6	1.4	Obs.	
〃	〃	4	〃	〃	〃	21.2	16.2	3.9	1.6	Che.	
〃	〃	5	〃	〃	〃	(12.3)	14.2	3.1	(1.0)	Obs.	
〃	〃	6	〃	〃	〃	(15.9)	12.9	3.4	(1.3)	Obs.	
〃	〃	7	K－6	〃	〃	32.1	15.7	5.4	1.9	Obs.	
〃	〃	8	〃	〃	ナイフ状石器	31.5	13.0	2.8	1.7	She.	
〃	〃	9	K－7	〃	〃	53.6	23.0	5.1	5.8	Che.	
〃	〃	10	K－6	〃	〃	52.4	18.8	4.2	3.8	She.	
〃	〃	11	K－7	〃	〃	100.4	24.2	6.8	14.7	She.	
〃	〃	12	J－6	〃	〃	64.0	30.8	7.0	12.9	Che.	
〃	〃	13	K－7	〃	〃	34.1	18.4	8.2	2.2	She.	
〃	〃	14	〃	〃	〃	42.0	20.0	4.3	3.2	She.	
〃	〃	15	〃	〃	〃	57.1	22.0	4.0	3.6	She.	
〃	〃	16	〃	〃	〃	49.6	—	4.5	4.4	Che.	
〃	〃	17	K－6	〃	〃	(40.2)	32.6	(5.4)	11.8	She.	
〃	〃	18	K－7	〃	〃	48.2	31.2	5.7	7.4	She.	
〃	〃	19	K－6	〃	〃	75.1	28.2	6.0	17.1	She.	

図	図版	番号	出土区	層位	種　類	全　長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重　量(g)	石　質	摘　要
36	27	20	K－7	Ⅵ1	ナイフ状石器	46.2	20.5	5.8	4.5	She.	
〃	〃	21	D－5	〃	掻　器	33.9	26.1	8.0	5.0	She.	
〃	〃	22	〃	〃	〃	38.9	25.4	8.6	8.4	She.	
〃	〃	23	E－3	〃	〃	43.1	22.4	6.4	6.2	She.	
〃	〃	24	〃	〃	石　片	19.4	12.6	3.6	1.7	Obs.	
〃	〃	25	K－7	〃	削　器	32.9	19.8	14.2	12.2	She.	
〃	〃	26	D－5	〃	掻　器	45.6	32.3	7.3	12.0	Obs.	
〃	〃	27	E－3	〃	削　器	69.8	42.8	9.2	42.5	She.	

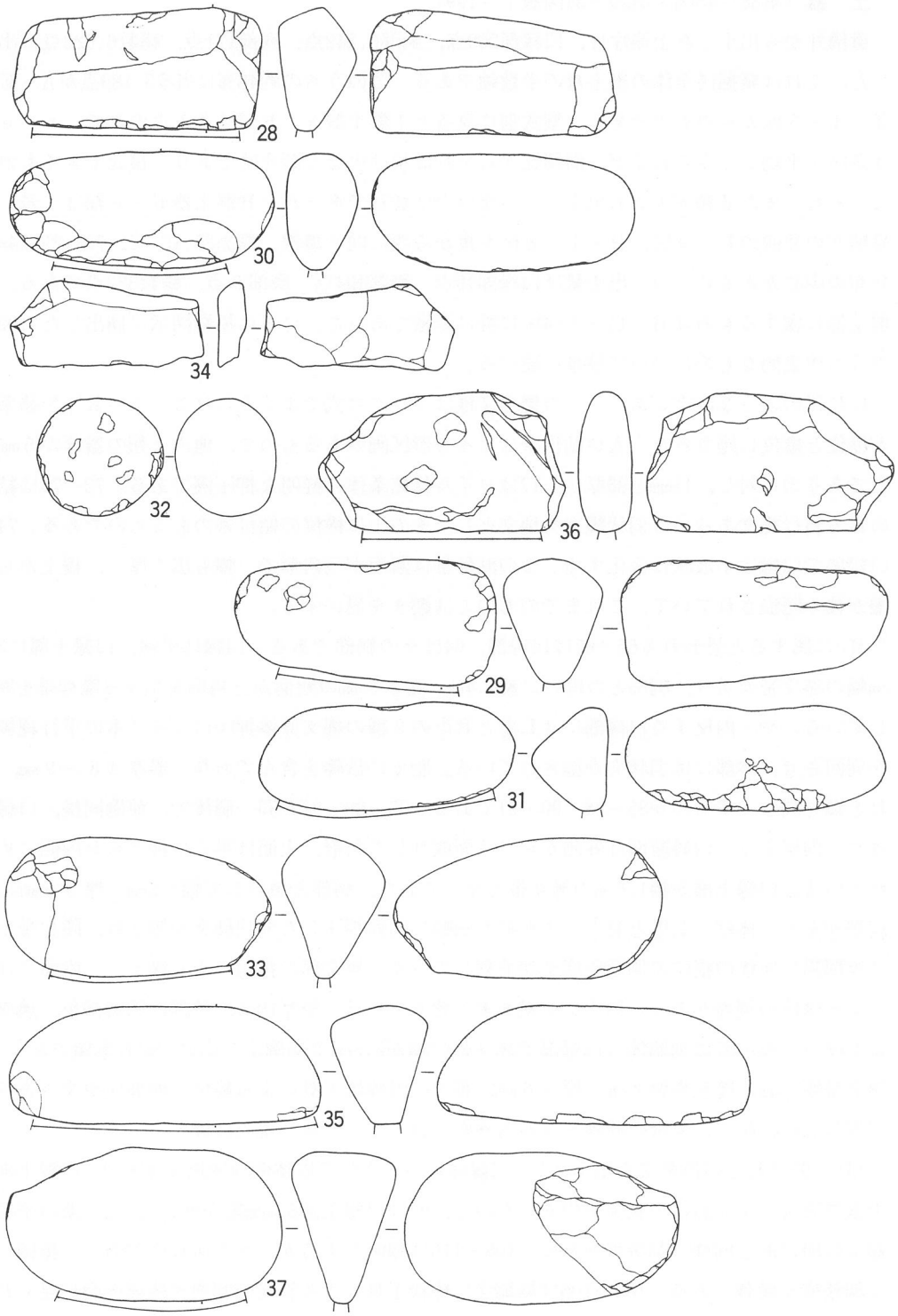
図	図版	番号	出土区	層位	種　類	全　長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重　量(g)	擦り面の長さ×幅(mm)
37	28	28	4号竪穴	Ⅵ2	擦り石	150	75	45	790	125× 9
〃	〃	29	〃	〃	〃	158	75	60	940	108×12
〃	〃	30	〃	〃	〃	158	70	42	790	103× 9
〃	〃	31	〃	〃	〃	155	64	45	640	130×11
〃	〃	32	〃	〃	球状礫器	72	71	62	450	
〃	〃	33	〃	〃	擦り石	162	85	62	1,110	109× 6
〃	〃	34	〃	〃	砥　石	112	47	16	150	
〃	〃	35	〃	〃	擦り石	189	71	58	1,130	169×15
〃	〃	36	〃	〃	〃	150	85	32	300	108×10
〃	〃	37	〃	〃	〃	165	90	63	1,120	112× 9

第16表　4号竪穴出土図示外石器一覧表

番号	出土区	層位	種　類	全　長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重　量(g)	石　質	摘　要
1	K－6	Ⅵ1	ナイフ状石器	33.9	15.0	6.1	2.0	She.	
2	J－7	〃	〃	38.8	20.0	4.8	3.3	She.	



第36図　4号竪穴Ⅵ2層出土の石器（1）



第37図　4号竪穴Ⅵ2層出土の石器（2）

e. 遺構外の遺物

土　器（第38～43図・第29～34図版１～199）

遺構外から出土した土器片は，口縁部209点，胴部6,242点，底部171点，総数6,622点が出土した。これは発掘区全体の出土量の半数強である。このうちの約48％に当る3,189点がA～E－3・4・5区からのものである。型式別に見るとI群土器a・b類は各１点のみで，c・e類は各区に平均してみられるが，面積比からすれば量は少なく断片的であり，復元できるものはなかった。またd類が１点も出土していないのは意外であった。II群土器b・c類は１号，２号竪穴の北側のL－９区，H・１－８区を東から西に向う稜線，標高23.10～22.78～22.54mに分布の中心があるらしい。出土量は口縁部19点，胴部494点，底部９点，総数522点である。III群土器に属するものはB・C－3・4区に特に濃密であった。つぎに拓影図示に摘出した199点のうち代表的なものについて簡単に述べる。

Icに12のような施文がある。この種の文様はコッタロ式でよくみられる。太いR{L/l}の絡条体が横位と縦位に施された，太い貼付帯による方形区画のあるもので，他のc類の器厚が５mmほどであるのに対し，11mmと部厚い。17はコイル状絡条体の鮮明な押圧例である。72～74は結束のある斜行縄文あるいは羽状縄文を地文とし，その上に横位の貼付帯のあるものである。74は口縁部で口縁は小波状に分化する。この貼付帯は断面が三角形で，幅も広く厚く，稜上から縄端が強く圧痕されていて，これまでのものとは趣きを異にする。

IIcに属すると思われる66・67は口縁部，64はその胴部である。口縁は平縁，口縁上部に3.3cm幅の無文帯があり，胴部との境いに幅1.4cm，高さ９mmの断面が三角形を呈する隆起帯を周らしている。やゝ内反する口縁部にはL{R/R}とR{L/L}の２種の縄文原体押圧による２本の平行縄線文を周回させ，体部には羽状文が施されている。胎土に砂礫を含んでおり，器厚は８～９mm。これと類を同じくするのが85～88・90・91である。85・88・90が同一個体で，前例同様，口縁部はやゝ内反する。口唇断面は外側からだけ面取りした角形，上面は平らに押えられ内側にめくれている。口縁上部が幅1.6cmの無文帯となっており，胴部と境いして幅1.5cm，厚さ６mmの隆起帯がある。体部にL{R/R}とR{L/L}により約５cm幅に回転押圧した羽状縄文が施され，隆起帯上には等間隔に原体の縦位の側面圧痕文が並列している。無文部に指頭による横ナデ，内面には篦による横位の調整がある。胎土に砂粒を多く含んでいる。器厚10mm，色調は灰黄褐色，焼成はよく硬い。86・87は別個体の口縁部で無文帯の幅が2.5cmで前例より広い。92も本類であろう。無文帯幅３cm，隆起帯幅２cm，厚さ６mm，帯上に円棒状工具による縦位の側面圧痕文がある。器厚は12mm，胎土に多量の砂礫を含み内外面に浮きでている。焼成は硬い。

IIIbの95はL{r/r}の撚糸文を地文とし，口縁部にハの字状の原体側面圧痕文があり，口縁上部に半截竹管文による斜位の刺突列のあるもので，97は口縁上部3.5cm幅が無地文で，2条の平行縄線文の間に95と同様の刺突列がある。108・110は類例であるが，その何れの内面にも指頭による調整痕が顕著である。103～106は無地文に棒状工具による斜位の刺突が体部全面に見られる。100は工具が板状のもの。刺突の方向はすべて右から左である。109・112・113・114は縄線文と

円形竹管文が組まれたもので,115の隆起帯上にも見られる。

116・117は網目状撚糸文のある口縁部に円形刺突文を周回させたもので，口唇は切り出し形に面取りされ，上面にも刺突が施されている。118は薄い広幅の折り返し口縁に網目状文があり，下に1.5cm幅の無文帯がある。円筒下層b式のものかも知れない。123・130は全面に施したもの。

131・141は無地文の口縁部に平行縄線文と篦がき沈線文のあるもの。

147は外反する口縁部で口唇は角形，R$\frac{L}{L}$の斜行縄文と縦位の蛇行する縄圧痕文のあるもの。

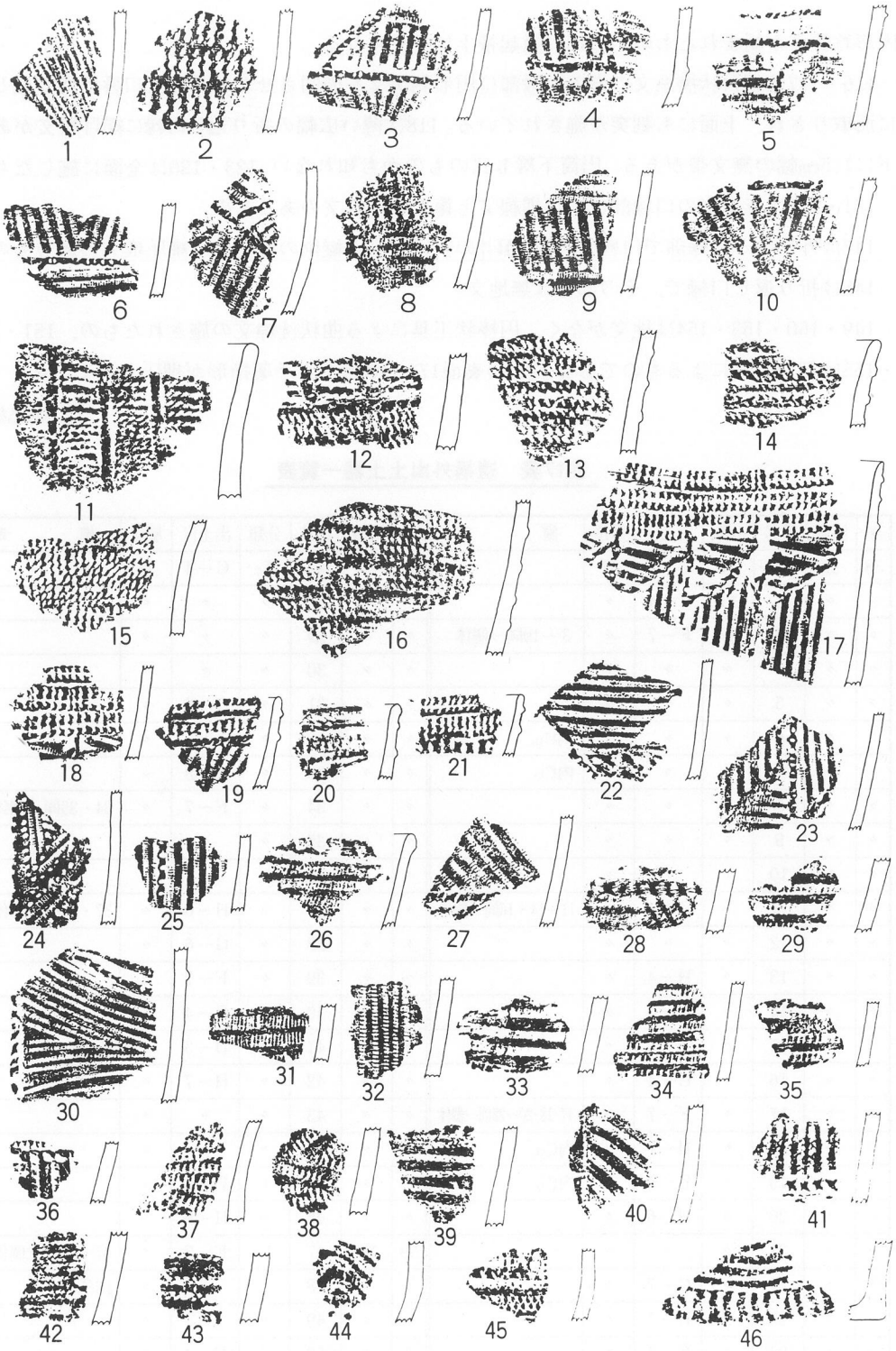
148は折り返し口縁で，その部分は無地文。

149・150・153・154は地文がなく，円棒状工具による曲状沈線文の施されたもの，151・152・155は細い工具によるものである。173の裏面174に華奢な右手薬指形が押圧されている。

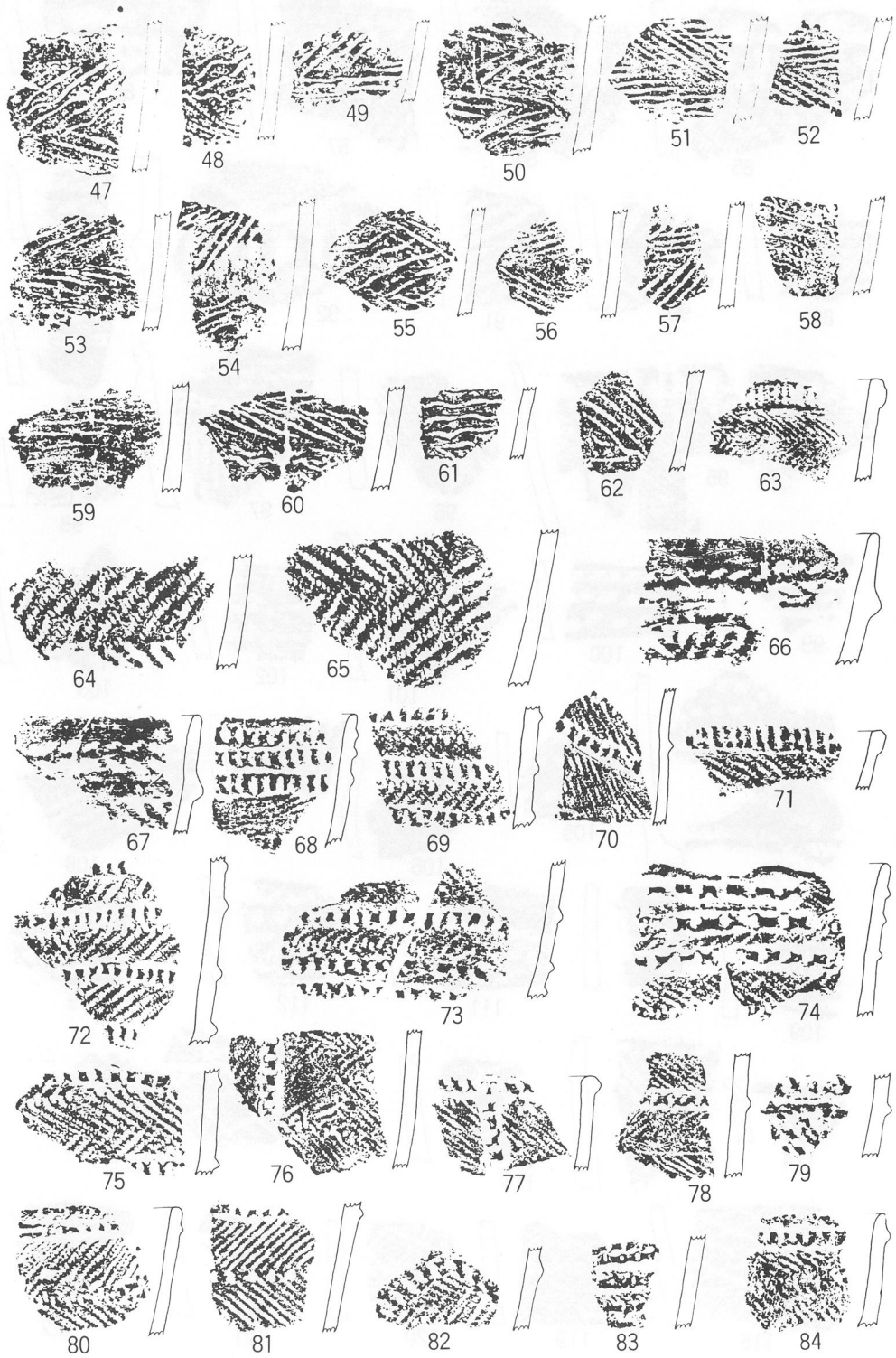
（佐藤忠雄）

第17表　遺構外出土土器一覧表

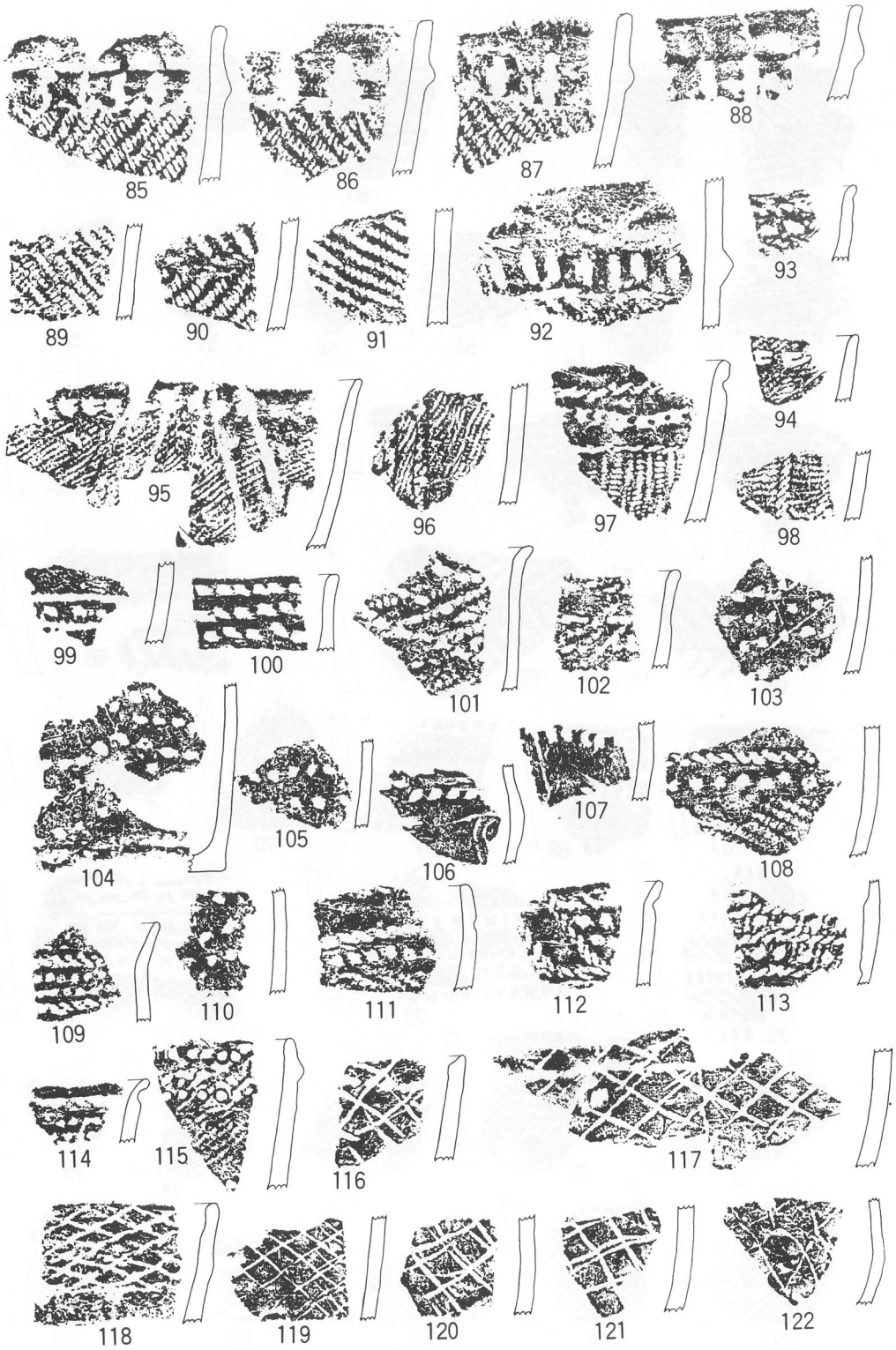
図	図版	番号	分類	出土区	層位	備　　考	図	図版	番号	分類	出土区	層位	備　　考
38	29	1	Ia	C－3	Ⅵ		38	29	27	Ic	C－4	Ⅵ	
〃	〃	2	Ib	C－4	〃		〃	〃	28	〃	〃	〃	
〃	〃	3	Ic	F－7	〃	3～10同一個体	〃	〃	29	〃	〃	〃	
〃	〃	4	〃	〃	〃		〃	〃	30	〃	〃	〃	
〃	〃	5	〃	〃	〃		〃	〃	31	〃	G－8	〃	
〃	〃	6	〃	〃	〃	内Co.	〃	〃	32	〃	〃	〃	
〃	〃	7	〃	〃	〃	内Co.	〃	〃	33	〃	F－8	〃	
〃	〃	8	〃	〃	〃		〃	〃	34	〃	F－7	〃	34・35同一個体
〃	〃	9	〃	〃	〃		〃	〃	35	〃	〃	〃	
〃	〃	10	〃	〃	〃		〃	〃	36	〃	〃	〃	
〃	〃	11	〃	C－4	〃	11～14・16同一個体	〃	〃	37	〃	H－6	〃	37・38同一個体
〃	〃	12	〃	〃	〃		〃	〃	38	〃	G－6	〃	
〃	〃	13	〃	H－4	〃		〃	〃	39	〃	F－7	〃	
〃	〃	14	〃	C－4	〃		〃	〃	40	〃	C－4	〃	
〃	〃	15	〃	I－5	〃		〃	〃	41	〃	D－5	〃	内Co.
〃	〃	16	〃	C－4	〃		〃	〃	42	〃	H－7	〃	
〃	〃	17	〃	F－7	〃	17・18・20～25同一個体	〃	〃	43	〃	〃	〃	
〃	〃	18	〃	H－7	〃	内Co.	〃	〃	44	〃	〃	〃	
〃	〃	19	〃	E－6	〃	内Co.	〃	〃	45	〃	F－6	〃	
〃	〃	20	〃	H－6	〃		〃	〃	46	〃	H－6	〃	
〃	〃	21	〃	〃	〃		39	30	47	Ie	F－3	〃	47～49同一個体
〃	〃	22	〃	G－7	〃		〃	〃	48	〃	〃	〃	内Co.
〃	〃	23	〃	H－7	〃		〃	〃	49	〃	〃	〃	
〃	〃	24	〃	E－5	〃		〃	〃	50	〃	F－4	〃	
〃	〃	25	〃	H－6	〃		〃	〃	51	〃	G－8	〃	
〃	〃	26	〃	E－4	〃		〃	〃	52	〃	F－8	〃	



第38図　遺構外出土の土器（1）



第39図　遺構外出土の土器（2）



第40図　遺構外出土の土器（3）

第41図　遺構外出土の土器（４）

第42図　遺構外出土の土器（５）

第43図　遺構外出土の土器（6）

図	図版	番号	分類	出土区	層位	備　　考	図	図版	番号	分類	出土区	層位	備　　考
38	29	53	Ⅰc	F－4	Ⅵ		40	31	92	Ⅱc	F－8	Ⅵ	
〃	〃	54	〃	H－7	〃		〃	〃	93	Ⅲb	C－4	Ⅵ・Ⅴ	
〃	〃	55	〃	G－8	〃	内Co.	〃	〃	94	〃	B－4	〃	95・96・98同一個体
〃	〃	56	〃	F－3	〃		〃	〃	95	〃	〃	〃	
〃	〃	57	〃	H－7	〃	内Co.	〃	〃	96	〃	〃	〃	
〃	〃	58	〃	F－4	〃		〃	〃	97	〃	B－3	〃	
〃	〃	59	〃	F－7	〃		〃	〃	98	〃	B－4	〃	
〃	〃	60	〃	〃	〃		〃	〃	99	〃	C－4	〃	
〃	〃	61	〃	F－3	〃		〃	〃	100	〃	C－3	〃	
〃	〃	62	〃	〃	〃	内Co.	〃	〃	101	〃	B－4	〃	101・102同一個体
〃	〃	63	〃	〃	〃		〃	〃	102	〃	〃	〃	
〃	〃	64	Ⅱc	H－8	〃		〃	〃	103	〃	C－4	〃	103～106同一個体
〃	〃	65	Ⅱb	C－3	〃	内Co.	〃	〃	104	〃	〃	〃	
〃	〃	66	Ⅱc	H－8	〃	66・67同一個体	〃	〃	105	〃	〃	〃	
〃	〃	67	〃	〃	〃		〃	〃	106	〃	C－3	〃	
〃	〃	68	Ⅰc	〃	〃		〃	〃	107	〃	〃	〃	
〃	〃	69	〃	F－8	〃		〃	〃	108	〃	B－4	〃	
〃	〃	70	〃	C－4	〃		〃	〃	109	〃	C－4	〃	109・114同一個体
〃	〃	71	〃	G－7	〃		〃	〃	110	〃	〃	〃	
〃	〃	72	〃	C－4	〃		〃	〃	111	〃	B－4	〃	
〃	〃	73	〃	G－7	〃		〃	〃	112	〃	C－4	〃	112・113同一個体
〃	〃	74	〃	C－4	〃		〃	〃	113	〃	B－4	〃	
39	30	75	〃	〃	〃		〃	〃	114	〃	C－4	〃	
〃	〃	76	〃	〃	〃		〃	〃	115	〃	〃	〃	115～117同一個体
〃	〃	77	〃	〃	〃		〃	〃	116	〃	〃	〃	116・117・120同一個体
〃	〃	78	〃	E－7	〃		〃	〃	117	〃	B－4	〃	
〃	〃	79	〃	G－3	〃		〃	〃	118	〃	C－3	〃	
〃	〃	80	〃	C－4	〃		〃	〃	119	〃	〃	〃	
〃	〃	81	〃	〃	〃		〃	〃	120	〃	B－4	〃	
〃	〃	82	〃	F－7	〃		〃	〃	121	〃	C－4	〃	
〃	〃	83	〃	C－4	〃		〃	〃	122	〃	C－3	〃	
〃	〃	84	〃	〃	〃		41	32	123	〃	B－4	〃	
40	31	85	Ⅱc	L－9	〃	85～88・90・91同一個体	〃	〃	124	〃	D－6	〃	
〃	〃	86	〃	〃	〃		〃	〃	125	〃	B－3	〃	
〃	〃	87	〃	〃	〃		〃	〃	126	〃	C－4	〃	
〃	〃	88	〃	〃	〃		〃	〃	127	〃	〃	〃	
〃	〃	89	〃	B－4	〃		〃	〃	128	〃	B－3	〃	
〃	〃	90	〃	L－9	〃		〃	〃	129	〃	C－4	〃	
〃	〃	91	〃	〃	〃		〃	〃	130	〃	B－3	〃	

図	図版	番号	分類	出土区	層位	備　　考	図	図版	番号	分類	出土区	層位	備　　考
41	32	131	IIIb	B－3	VI・V		42	33	166	III	L－9	VI・V	
〃	〃	132	〃	〃	〃		〃	〃	167	〃	B－4	〃	
〃	〃	133	〃	B－4	〃		〃	〃	168	〃	D－6	〃	
〃	〃	134	〃	G－6	〃		〃	〃	169	〃	〃	〃	
〃	〃	135	〃	C－4	〃		〃	〃	170	〃	B－3	〃	
〃	〃	136	〃	〃	〃		〃	〃	171	〃	C－4	〃	
〃	〃	137	〃	B－4	〃		〃	〃	172	〃	B－3	〃	
〃	〃	138	〃	B－3	〃		〃	〃	173	〃	C－3	〃	
〃	〃	139	〃	B－4	〃		〃	〃	174	〃	E－6	〃	
〃	〃	140	〃	〃	〃		〃	〃	175	IIc	C－4	VI	
〃	〃	141	〃	B－3	〃		〃	〃	176	III	〃	VI・V	
〃	〃	142	〃	B－4	〃		〃	〃	177	〃	B－4	〃	
〃	〃	143	〃	F－3	〃		〃	〃	178	〃	D－4	〃	
〃	〃	144	〃	C－4	〃		〃	〃	179	〃	C－4	〃	
〃	〃	145	〃	B－4	〃		〃	〃	180	〃	B－3	〃	
〃	〃	146	〃	〃	〃		〃	〃	181	Ic	C－4	VI	
〃	〃	147	〃	〃	〃		〃	〃	182	〃	〃	〃	
〃	〃	148	〃	A－3	〃		〃	〃	183	〃	〃	〃	
〃	〃	149	〃	B－3	〃	149～155同一個体	〃	〃	184	〃	E－3	〃	
〃	〃	150	〃	〃	〃		〃	〃	185	〃	〃	〃	
〃	〃	151	〃	G－3	〃		〃	〃	186	〃	〃	〃	
〃	〃	152	〃	〃	〃		〃	〃	187	〃	G－7	〃	
〃	〃	153	〃	C－3	〃		〃	〃	188	〃	C－4	〃	
〃	〃	154	〃	〃	〃		43	34	189	〃	H－6	〃	
〃	〃	155	〃	G－3	〃		〃	〃	190	II	L－9	〃	
42	33	156	III	B－4	〃		〃	〃	191	Ic	F－4	〃	
〃	〃	157	〃	C－4	〃		〃	〃	192	〃	B－3	〃	
〃	〃	158	〃	B－3	〃		〃	〃	193	II	J－8	〃	
〃	〃	159	〃	C－4	〃		〃	〃	194	III	C－4	VI・V	
〃	〃	160	〃	〃	〃		〃	〃	195	〃	B－3	〃	
〃	〃	161	〃	〃	〃		〃	〃	196	〃	B－4	〃	
〃	〃	162	〃	〃	〃		〃	〃	197	〃	C－4	〃	
〃	〃	163	〃	〃	〃		〃	〃	198	〃	〃	〃	
〃	〃	164	〃	〃	〃		〃	〃	199	〃	C－3	〃	
〃	〃	165	〃	B－3	〃								

石　器（第44～50図，第35～38図版，第18～19表）

竪穴以外の遺構外の石器は，全体出土量の半数強の量である。定形化の石器が414点，石片類が15,937点であった。定形化のなかで多いのは球状礫器が159点で最も多く，次いでナイフ状石器の141点，石鏃28点，掻器22点，削器21点，擦石類19点，ヘラ状石器9点，大形剝片石器８点，石銛７点，石槍５点，石錐３点，磨製石斧１点の順になっているが，ここでは石器別のおもなものについて記述する。

石鏃　石鏃は有柄石鏃が１点も出土しなかった。これは，竪穴から出土した例も少いが，Ⅰ－g，Ⅰ－hといったタイプがあってもよいのに意外であった。Ⅰ－bの細形のものとⅠ－eの三角形石鏃が多く，黒曜石製が30パーセントをしめていた。

石銛　石銛はⅡ－a，Ⅱ－b，Ⅱ－eがあって，Ⅱ－d，Ⅱ－fがみられなかった。多いのはⅡ－aの幅広の木の葉状のもので，ここでも石鏃と同じように黒曜石製がある。

石錐　錐はⅢ－aに属するもので，先端部が細くて鋭利なものと鈍いものがある。特色は基部に加工が加えられていないで薄手のものと厚味のあるもので刃部が槍先のように尖っているものがほとんどである。

石槍　定形品が少なく，Ⅳ－a，Ⅳ－bのタイプである。図版などに示していない石器で，槍の未完形品と思われる長さが11cmのⅣ－aが１例あった。

ナイフ状石器　この石器は遺構外でも量的にもっとも多く出土したものである。Ⅴ－１ではⅤ－1a，Ⅴ－1b，Ⅴ－1c，Ⅴ－1d，Ⅴ－1e，Ⅴ－1fとあるが，刃部稜線が左側にあるものは少なく４例しかなかった。Ⅴ－２の幅の広いものでは，Ⅴ－2a，Ⅴ－2b，Ⅴ－2c，Ⅴ－2d，Ⅴ－2eで，刃部稜線が左側にあるものは２例しかなかった。先端部が水平なものは４号竪穴でみられた幅の細いものでなく，Ⅴ－２の幅の広いものに多くみられる。

掻器　円形か幅の広い槍状のものが多い。Ⅵ－a，Ⅵ－c，Ⅵ－dと分類したものである。円形のものは竪穴からも出土しているが，Ⅵ－bのように大きいものはなかった。Ⅵ－cでも形が槍に似て刃部が厚くつくられているものが比較的多かった。

削器　短柵形，長方形に近いものなどⅦ－a，Ⅶ－b，Ⅶ－cが多く，Ⅶ－dはみられなかった。側縁の片側か両側が刃部となっているが，片側だけが意識的に刃部をなしているものは少なく，その多くは両側が刃部となっていて，先端も機能を果していたのもある。

ヘラ状石器　撥形や丸味のある短柵形でⅧ－a，Ⅷ－cがおもである。片面が厚くなっていて横断面が蒲鉾形をしている。水平な先端部の刃が厚くなっているもので，形態的には遺構から出土したものより，整っているものが多かった。

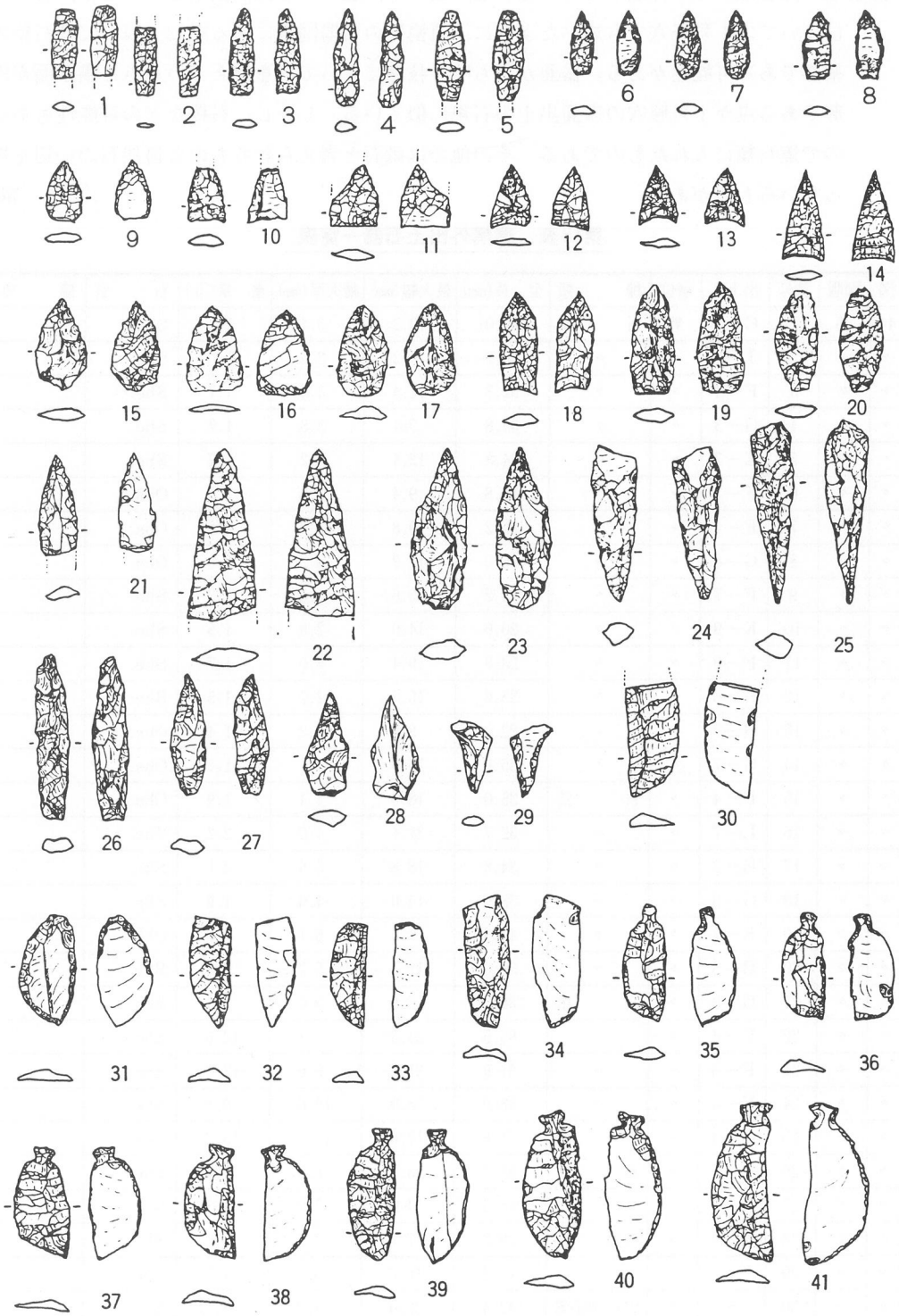
大形剝片石器　扁桃形で大形の幅広い槍のような石器や長方形に近い大形の剝片石器であるが，刃部には細かな再加工がなく，刃部の作り出しだけがあるもので，それなりにある用途があったものと思われる。その代表的なものを図示し，図版にのせた。

球状礫器　遺構外の石器，No.100・101に示したものは球状であるが，扁平な球状礫器の１例であるが，器面が磨耗している。球体，扁平なものを含めて159点出土している。

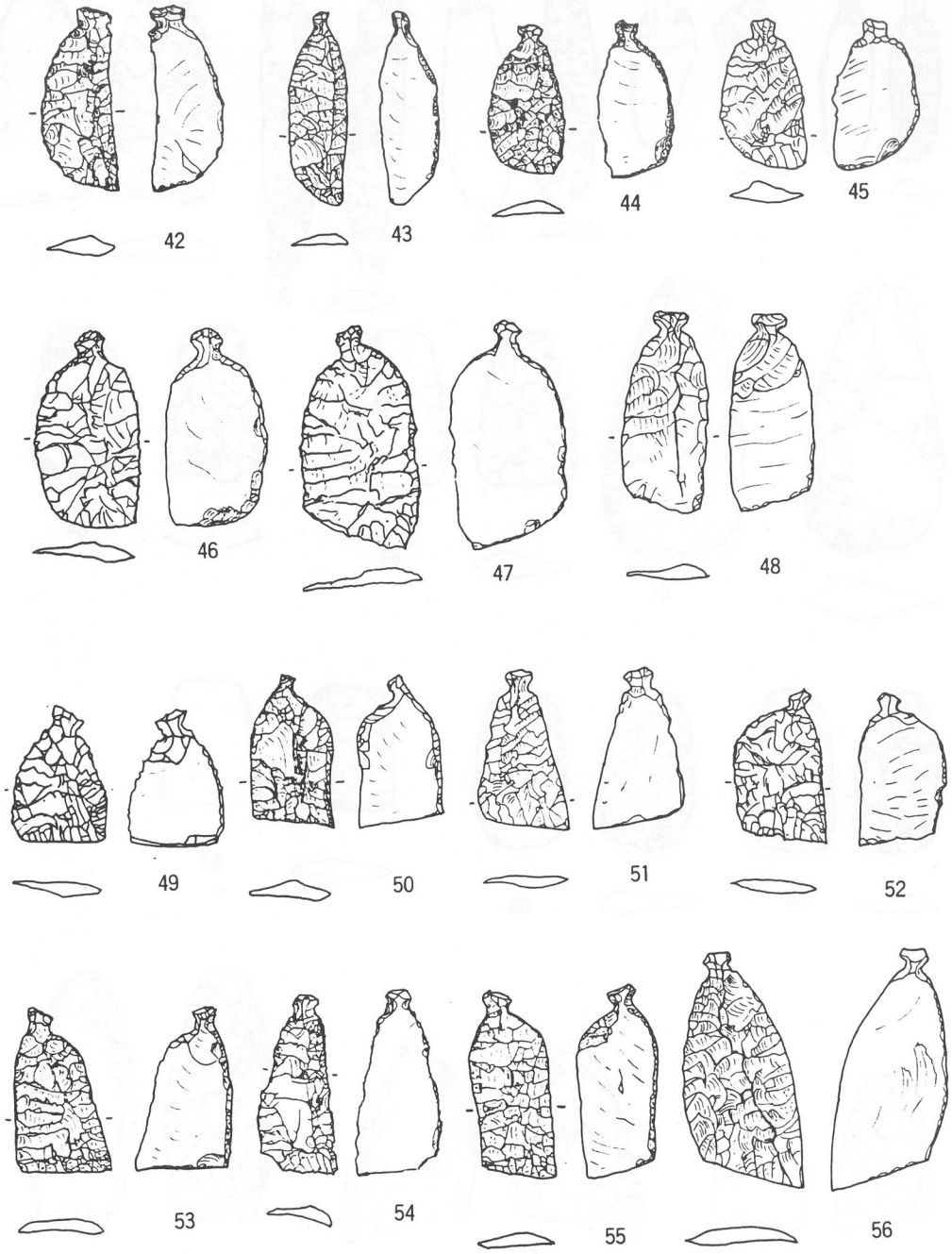
擦石類　擦石類には３種類がある。XI－ａ，XI－ｂ，XI－ｃで19点出土しているが，XI－ｂについては１号竪穴でも述べたように，遺構外の石器図版にあるNo.93・94・95は石斧の基部である可能性がある。器面が打ち叩き技法によって形を整えている点と横断面が円形である点が１号竪穴の床面出土の石斧に似ている。しかし，石棒などの可能性もあるので擦石類に入れたものである。その他では砥石と考えられるものと自然石の一辺を擦っているものがある。（千代　肇）

第18表　遺構外出土石器一覧表

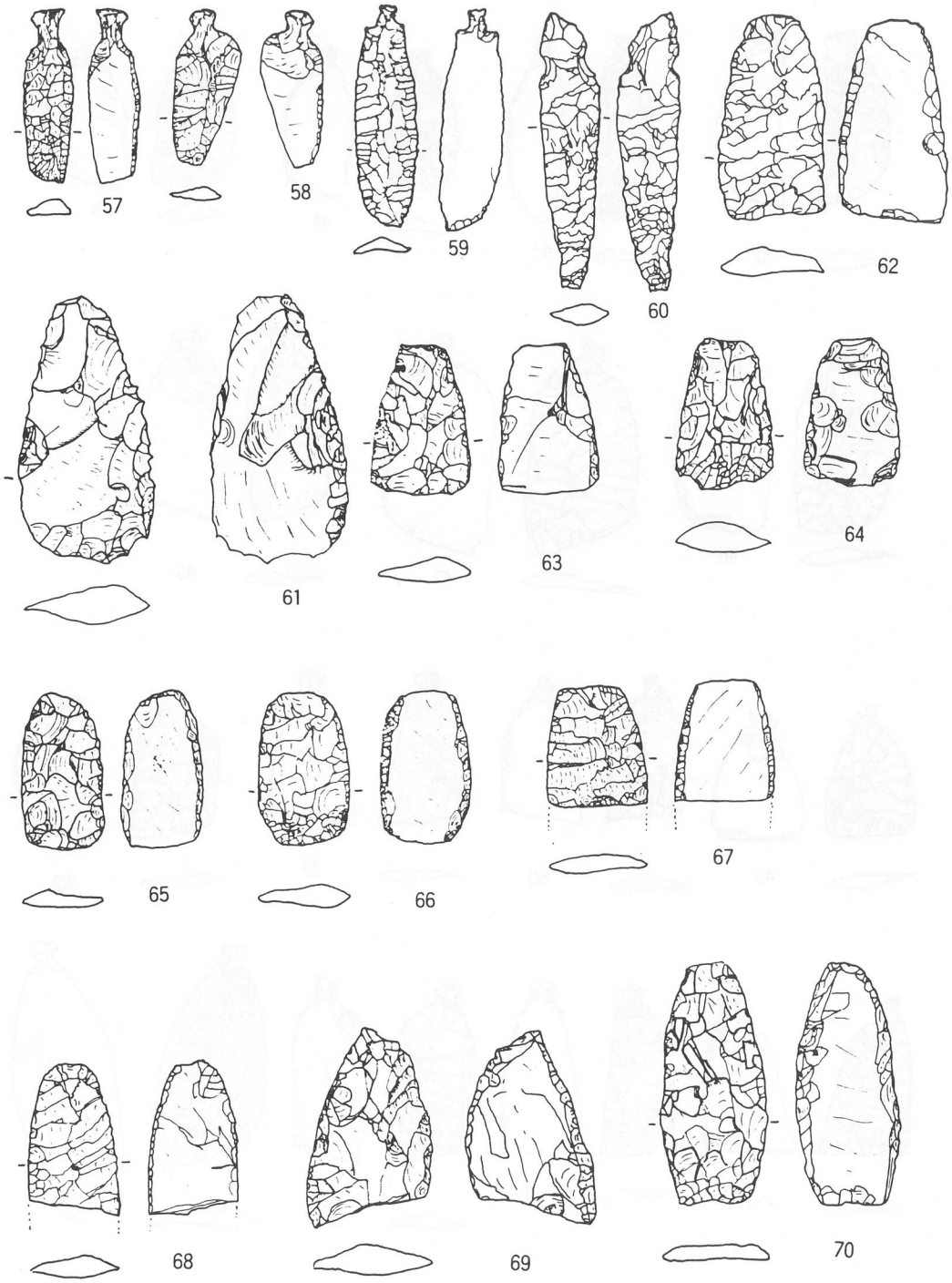
図	図版	番号	出土区	層位	種　類	全　長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重　量(g)	石　質	摘　要
44	35	1	C－4	Ⅵ	石　鏃	(27.0)	10.2	3.4	1.3	She.	
〃	〃	2	I－8	〃	〃	26.2	9.2	2.6	1.5	She.	
〃	〃	3	F－4	〃	〃	32.3	11.4	3.6	1.7	She.	
〃	〃	4	G－3	〃	〃	36.8	9.4	3.8	1.7	She.	
〃	〃	5	E－7	〃	〃	34.8	12.4	4.2	1.7	She.	
〃	〃	6	F－7	〃	〃	23.8	9.4	2.9	1.3	Obs.	
〃	〃	7	F－4	〃	〃	25.2	9.8	3.8	1.6	Obs.	
〃	〃	8	G－8	〃	〃	25.0	11.3	3.2	1.6	Obs.	
〃	〃	9	F－7	〃	〃	23.2	13.6	4.0	1.3	She.	
〃	〃	10	K－9	〃	〃	20.0	14.0	2.0	1.5	She.	
〃	〃	11	F－8	〃	〃	23.8	19.4	4.0	1.7	She.	
〃	〃	12	H－6	〃	〃	23.6	15.3	2.7	1.5	She.	
〃	〃	13	H－7	〃	〃	22.0	8.8	3.2	1.4	Obs.	
〃	〃	14	G－7	〃	〃	35.6	16.0	4.1	1.7	Obs.	
〃	〃	15	F－4	〃	石　銛	35.0	18.9	4.4	1.9	Obs.	
〃	〃	16	L－7	〃	〃	32.7	21.1	4.0	2.2	She.	
〃	〃	17	H－7	〃	〃	34.8	18.8	5.6	2.1	She.	
〃	〃	18	G－3	〃	〃	38.0	14.0	4.6	1.9	She.	
〃	〃	19	E－7	〃	〃	42.3	17.0	6.1	3.0	Obs.	
〃	〃	20	B－3	〃	〃	39.0	17.1	5.7	2.2	She.	
〃	〃	21	G－8	〃	石　槍	(38.0)	15.8	9.0	2.3	She.	
〃	〃	22	F－4	〃	〃	65.5	24.3	7.2	12.6	She.	
〃	〃	23	F－3	〃	〃	61.9	21.2	9.6	12.0	She.	
〃	〃	24	F－4	〃	〃	58.0	18.9	10.6	9.1	She.	
〃	〃	25	C－4	〃	石　錐	71.6	17.0	12.0	13.2	She.	
〃	〃	26	F－7	〃	石　槍	62.7	13.8	8.0	8.6	She.	
〃	〃	27	H－8	〃	〃	46.6	14.8	7.8	4.8	She.	
〃	〃	28	E－7	〃	石錐　錐	39.0	17.7	7.5	3.2	She.	
〃	〃	29	〃	〃	〃	(22.8)	16.2	5.4	(1.7)	She.	
〃	〃	30	〃	〃	ﾅｲﾌ状石器	(42.4)	20.0	3.2	(3.2)	She.	
〃	〃	31	H－9	〃	〃	(42.0)	21.7	4.2	(3.3)	She.	
〃	〃	32	C－4	〃	〃	(40.0)	15.8	5.0	(2.2)	She.	



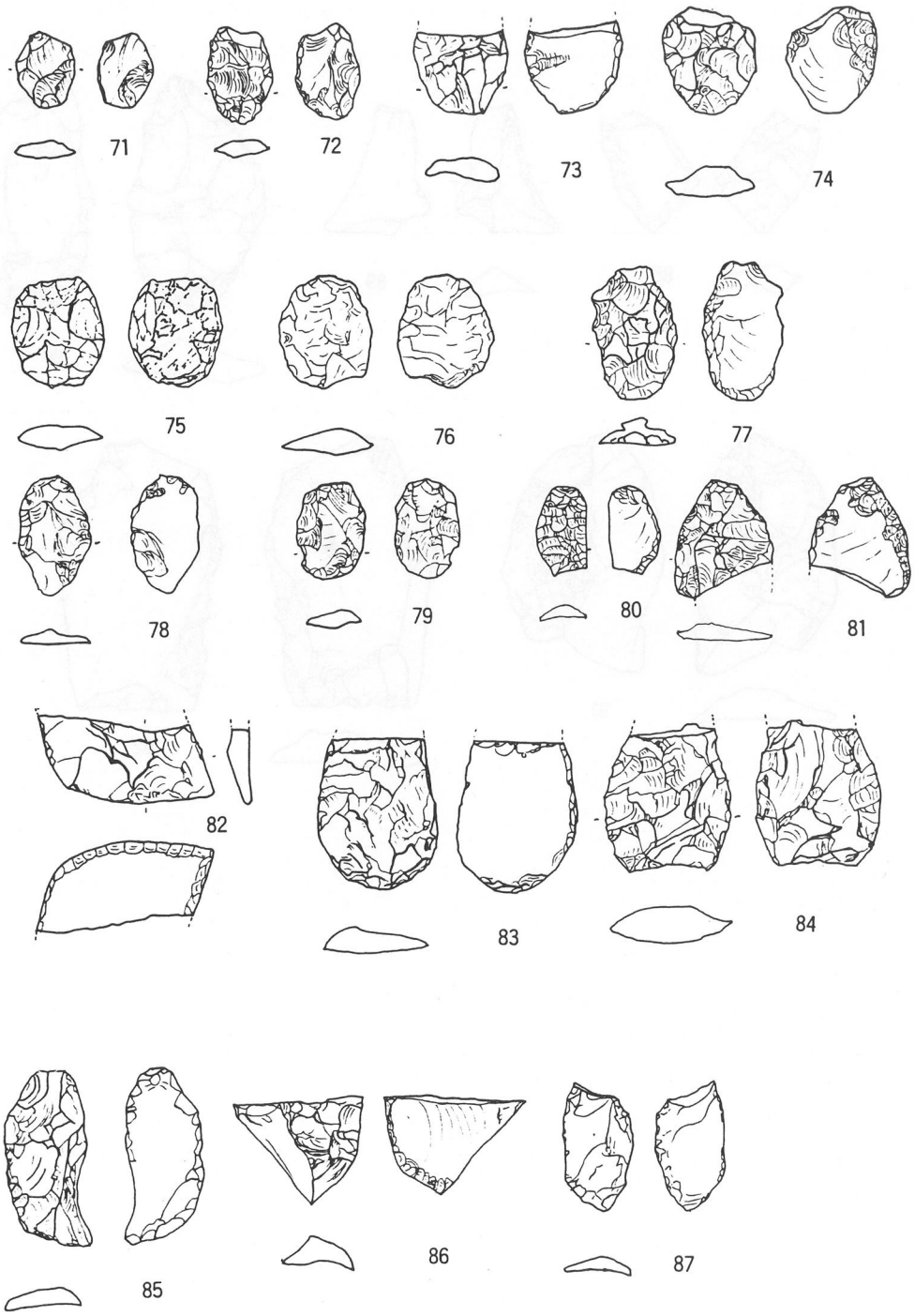
第44図　遺構外出土の石器（1）



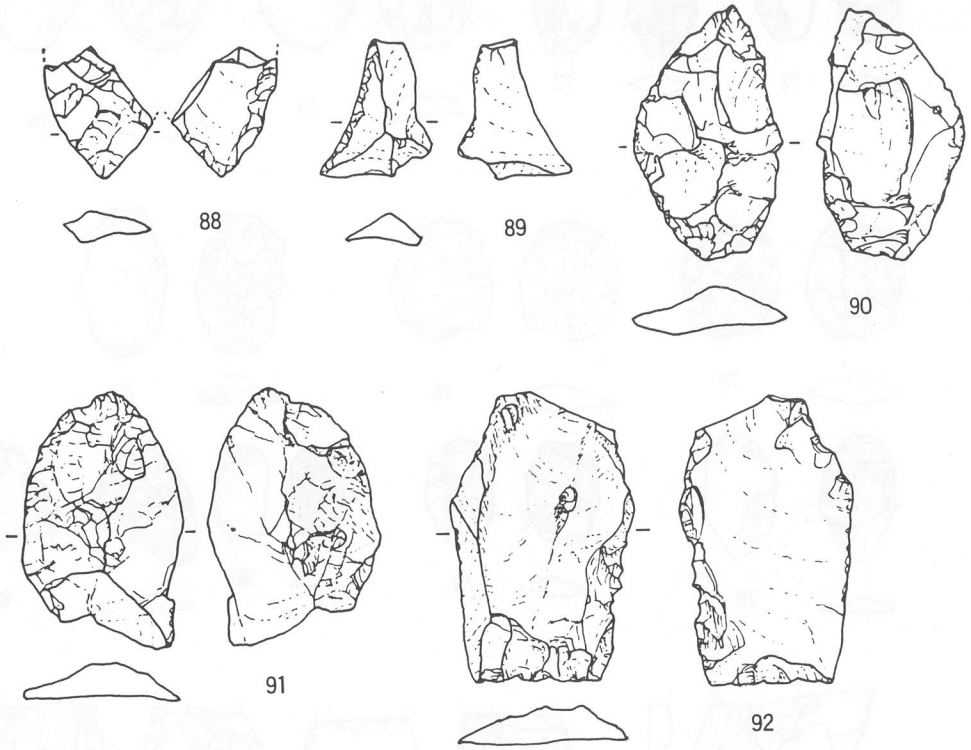
第45図　遺構外出土の石器（２）



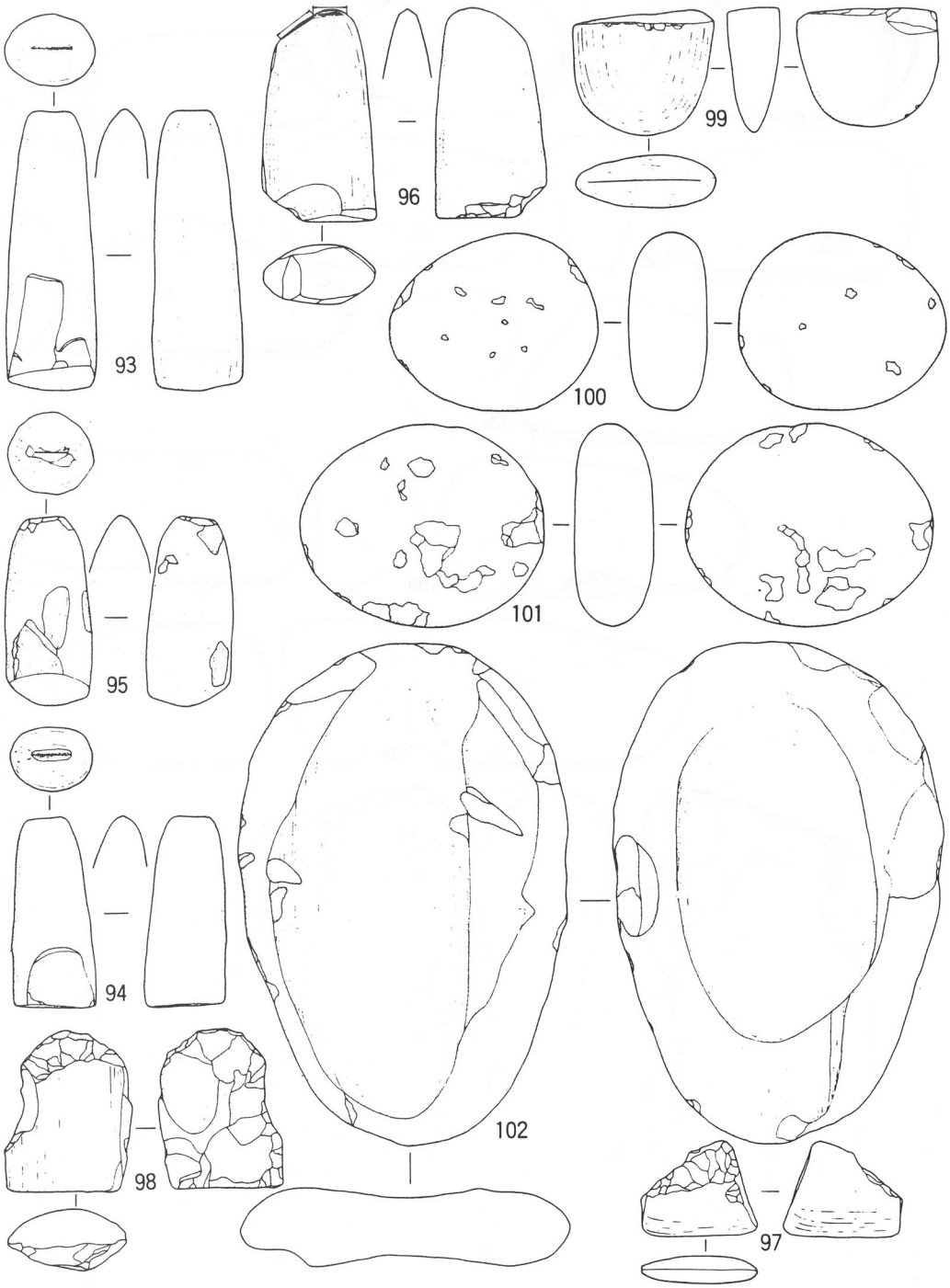
第46図　遺構外出土の石器（3）



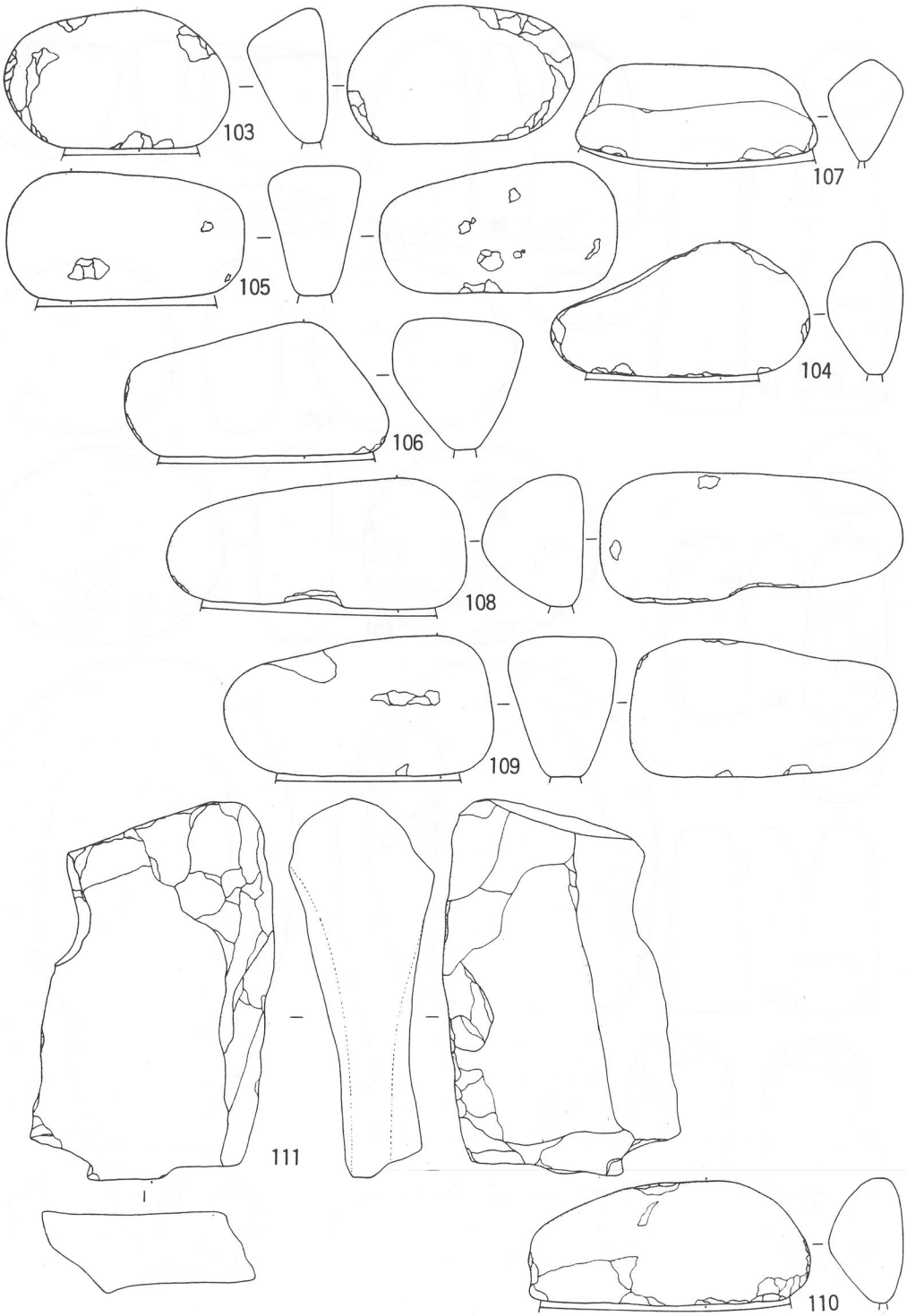
第47図　遺構外出土の石器（４）



第48図　遺構外出土の石器（５）



第49図　遺構外出土の石器（6）



第50図　遺構外出土の石器（７）

図	図版	番号	出土区	層位	種　　類	全　長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重　量(g)	石　　質	摘　　要
44	35	33	D－5	Ⅵ	ナイフ状石器	40.0	8.6	5.2	2.1	She.	
〃	〃	34	〃	〃	削　　器	51.4	17.0	4.6	4.0	She.	
〃	〃	35	H－6	〃	ナイフ状石器	44.6	17.0	4.0	1.9	She.	
〃	〃	36	J－8	〃	〃	40.8	17.4	4.2	2.0	She.	
〃	〃	37	H－6	〃	〃	43.0	20.0	4.0	2.1	She.	
〃	〃	38	H－7	〃	〃	42.7	19.2	6.4	3.7	She.	
〃	〃	39	H－6	〃	〃	50.4	19.0	4.6	3.8	She.	
〃	〃	40	H－5	〃	〃	55.0	21.7	5.2	5.8	She.	
〃	〃	41	G－3	〃	〃	60.5	23.1	5.8	6.5	She.	
45	〃	42	H－4	〃	〃	65.4	25.0	6.0	11.8	She.	
〃	〃	43	L－6	〃	〃	69.6	21.6	5.1	8.1	She.	
〃	〃	44	I－8	〃	〃	53.4	27.8	6.0	6.6	She.	
〃	〃	45	G－3	〃	〃	54.0	30.0	8.1	9.6	She.	
〃	〃	46	F－7	〃	〃	73.0	38.0	6.0	19.4	She.	
〃	〃	47	〃	〃	〃	81.4	41.6	5.3	21.8	She.	
〃	〃	48	H－4	〃	〃	73.4	31.5	4.2	14.1	She.	
〃	〃	49	H－3	〃	〃	48.9	34.3	6.0	7.7	She.	
〃	〃	50	G－8	〃	〃	53.0	29.3	7.0	11.7	She.	
〃	〃	51	I－8	〃	〃	56.7	33.4	5.6	8.4	She.	
〃	〃	52	G－3	〃	〃	54.3	30.4	5.4	8.8	She.	
〃	〃	53	K－6	〃	〃	62.4	30.8	5.7	11.6	She.	
〃	〃	54	G－3	〃	〃	66.0	27.4	5.6	9.4	She.	
〃	〃	55	K－6	〃	〃	70.7	28.6	4.8	11.8	She.	
〃	〃	56	F－4	〃	〃	91.4	40.0	5.2	18.5	She.	
46	〃	57	G－8	〃	〃	64.6	19.2	7.4	7.3	She.	
〃	〃	58	G－3	〃	〃	58.5	23.5	6.8	8.0	She.	
〃	〃	59	E－7	〃	〃	84.5	23.6	7.9	15.0	She.	
〃	〃	60	G－7	〃	〃	104.2	22.8	7.0	18.2	She.	
〃	36	61	D－5	〃	ヘラ状石器	99.0	50.1	18.6	84.2	She.	
〃	〃	62	F－4	〃	〃	73.7	41.0	12.0	41.7	She.	
〃	〃	63	F－4	〃	〃	55.5	35.3	12.6	24.6	She.	
〃	〃	64	F－8	〃	〃	53.2	36.8	13.5	28.8	She.	
〃	〃	65	C－4	〃	〃	58.0	30.6	8.9	18.3	She.	
〃	〃	66	I－9	〃	〃	52.8	35.2	8.6	23.8	She.	
〃	〃	67	K－9	〃	ナイフ状石器	(45.0)	39.0	7.8	(18.3)	She.	
〃	〃	68	G－7	〃	〃	(57.2)	34.0	8.0	(16.6)	She.	
〃	〃	69	E－3	〃	ヘラ状石器	80.4	45.3	13.0	43.5	She.	
〃	〃	70	G－8	〃	〃	90.5	40.0	12.9	51.8	She.	
47	〃	71	H－6	〃	掻　　器	28.0	23.0	7.4	3.5	Obs.	
〃	〃	72	F－7	〃	〃	34.8	23.4	7.4	4.2	Obs.	

図	図版	番号	出土区	層位	種　類	全　長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重　量(g)	石　質	摘　要
47	36	73	F－4	Ⅵ	掻　器	(37.8)	37.4	14.2	(16.8)	She.	
〃	〃	74	I－8	〃	〃	31.0	34.9	10.6	11.9	Obs.	
〃	〃	75	K－9	〃	〃	39.9	34.9	10.8	15.4	Obs.	
〃	〃	76	H－6	〃	〃	40.9	34.4	9.4	14.2	She.	
〃	〃	77	F－7	〃	〃	47.5	30.0	13.1	14.0	She.	
〃	〃	78	E－7	〃	〃	43.2	25.2	7.4	7.0	She.	
〃	〃	79	H－4	〃	〃	33.6	25.0	8.1	6.2	She.	
〃	〃	80	C－4	〃	〃	31.0	19.4	7.0	2.9	She.	
〃	〃	81	G－8	〃	〃	(43.6)	34.5	8.0	(11.7)	She.	
〃	〃	82	F－8	〃	ナイフ状石器	(59.2)	29.1	6.7	(21.6)	She.	
〃	〃	83	F－3	〃	削　器	(55.7)	44.1	9.6	(28.8)	She.	
〃	〃	84	H－9	〃	ヘラ状石器	(48.6)	46.5	15.5	(41.8)	She.	
〃	〃	85	F－4	〃	削　器	65.6	31.6	9.5	22.6	She.	
〃	〃	86	E－7	〃	〃	(49.1)	42.6	11.6	(22.2)	She.	
〃	〃	87	H－4	〃	〃	40.4	25.9	8.6	8.1	She.	
48	〃	88	〃	〃	〃	(41.6)	28.8	11.2	(16.1)	She.	
〃	〃	89	I－9	〃	石　片	47.6	38.9	15.4	13.6	She.	
〃	〃	90	H－6	〃	大形剝片石器	86.5	50.7	16.9	66.9	She.	
〃	〃	91	I－8	〃	〃	88.4	55.4	19.1	86.7	She.	
〃	〃	92	F－4	〃	〃	101.4	61.1	16.2	12.4	She.	

図	図版	番号	出土区	層位	種　類	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重　量(g)	擦り面の長さ×幅 (mm)
49	37	93	J－6	Ⅶ2	擦り石？	138	42	36	360	
〃	〃	94	〃	〃	〃 ？	95	40	31	200	
〃	〃	95	F－8	〃	〃 ？	95	42	39	210	
〃	〃	96	H－6	〃	石　斧	105	56	30	250	
〃	〃	97	L－9	Ⅵ2	〃	60	45	15	50	
〃	〃	98	〃	〃	石斧？	79	58	32	200	
〃	〃	99	H－9	〃	石　斧	69	60	25	150	
〃	〃	100	J－5	Ⅵ	礫　器	105	89	40	1,680	
〃	〃	101	〃	〃	〃	123	100	40	790	
〃	〃	102	L－9	Ⅵ2	石　皿	249	165	40	1,900	
50	38	103	F－7	Ⅶ1	擦り石	135	79	42	750	89×10
〃	〃	104	H－9	Ⅵ2	〃	155	80	45	780	103× 8
〃	〃	105	G－6	Ⅶ2	〃	142	72	56	920	106×20
〃	〃	106	L－9	Ⅵ2	〃	159	80	78	1,180	128×13
〃	〃	107	H－9	〃	〃	140	60	45	500	137× 3
〃	〃	108	F－8	Ⅶ1	〃	180	80	60	1,280	140×13
〃	〃	109	D－6	Ⅵ1	〃	160	84	64	1,280	109×18
〃	〃	110	K－8	Ⅵ2	砥　石	170	75	45	880	150× 4
〃	〃	111	H－7	Ⅶ1	〃	228	135	85	370	

第19表　遺構外出土図示外石器一覧表

番号	出土区	層位	種　　類	全　長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重　量(g)	石　　質	摘　　要
1	F－4	Ⅵ	石　　鏃	40.1	16.6	5.4	2.1	She.	
2	K－9	〃	〃	23.0	15.2	3.2	1.7	Che.	
3	H－8	〃	〃	26.6	13.0	4.5	1.7	Obs.	
4	H－6	〃	〃	19.0	11.5	3.4	1.2	Obs.	
5	G－8	〃	〃	36.7	11.6	4.0	1.6	She.	
6	E－7	〃	〃	16.7	22.4	4.1	1.8	Che.	
7	D－5	〃	〃	28.2	16.7	4.5	1.9	She.	
8	C－4	〃	〃	30.4	16.0	4.0	1.7	She.	
9	H－6	〃	〃	16.4	19.0	4.9	1.8	Obs.	
10	C－4	〃	〃	25.9	9.2	2.6	1.3	She.	
11	〃	〃	〃	(24.5)	14.0	4.8	(1.8)	She.	
12	〃	〃	〃	(28.9)	10.8	6.2	(1.9)	She.	
13	〃	〃	〃	(17.4)	13.6	2.9	(1.2)	Obs.	
14	G－7	〃	〃	25.5	15.7	2.4	1.4	Obs.	
15	H－5	〃	石　　錐	(31.4)	15.8	4.9	(2.0)	Obs.	
16	L－6	〃	ナイフ状石器	36.2	18.6	3.6	1.9	She.	
17	H－3	〃	〃	44.0	18.6	3.0	2.1	She.	
18	K－6	〃	〃	22.9	17.9	3.0	1.7	She.	
19	G－8	〃	〃	47.6	24.5	5.5	5.3	She.	
20	G－3	〃	〃	53.8	23.8	5.4	6.9	She.	
21	F－4	〃	〃	63.0	22.2	7.8	8.4	She.	
22	H－3	〃	〃	60.2	31.7	6.2	13.0	She.	
23	F－9	〃	〃	68.9	12.0	6.4	7.7	She.	
24	F－8	〃	〃	52.0	24.4	5.0	4.9	She.	
25	C－4	〃	〃	54.2	23.1	5.6	7.3	She.	
26	E－3	〃	〃	55.2	24.4	5.5	7.4	She.	
27	F－3	〃	〃	54.4	25.8	6.2	6.4	She.	
28	J－8	〃	〃	66.6	30.7	6.0	8.7	She.	
29	G－8	〃	〃	(46.4)	22.2	6.6	(6.0)	She.	
30	F－5	〃	〃	56.5	16.7	4.4	2.3	She.	
31	C－3	〃	〃	51.2	17.2	5.3	4.4	She.	
32	C－4	〃	〃	46.0	17.8	3.9	2.8	She.	
33	H－6	〃	〃	47.2	18.6	4.0	2.0	She.	
34	G－8	〃	〃	48.2	16.4	4.6	2.3	She.	
35	F－3	〃	〃	56.4	37.9	5.2	13.0	She.	
36	H－3	〃	〃	41.4	18.9	5.0	4.7	She.	
37	C－3	〃	〃	47.9	26.0	6.0	5.0	She.	

番号	出土区	層位	種　　類	全　長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重　量(g)	石　　質	摘　　要
38	C－4	Ⅵ	ナイフ状石器	55.4	17.2	4.5	6.8	She.	
39	H－6,	〃	〃	55.1	20.0	4.6	4.3	She.	
40	G－4	〃	〃	40.6	20.2	4.8	2.3	She.	
41	H－6	〃	〃	35.0	21.8	4.8	3.2	She.	
42	F－8	〃	〃	(34.9)	20.8	3.2	(2.2)	She.	頭部
43	H－7	〃	〃	(20.9)	21.4	4.4	(1.7)	She.	
44	G－7	〃	〃	(32.8)	17.0	5.4	(2.1)	She.	
45	H－7	〃	〃	(28.4)	16.4	6.2	(1.9)	She.	
46	H－6	〃	〃	(42.2)	23.3	5.0	(6.2)	She.	
47	〃	〃	〃	(36.4)	22.4	5.6	(4.6)	She.	
48	F－8	〃	〃	(38.8)	23.4	6.4	(6.8)	She.	
49	E－7	〃	〃	(22.8)	17.6	2.8	(1.4)	Che.	
50	F－7	〃	〃	(34.0)	20.6	7.0	(4.7)	She.	
51	F－8	〃	〃	(23.4)	31.4	4.8	(2.1)	She.	
52	G－3	〃	〃	(32.0)	14.6	3.2	(1.6)	She.	
53	H－6	〃	〃	(25.0)	23.3	7.2	(2.8)	She.	
54	F－7	〃	〃	(46.1)	20.0	4.8	(4.9)	She.	
55	L－7	〃	〃	(43.0)	21.9	6.0	(7.9)	She.	
56	F－4	〃	〃	(32.5)	19.0	4.2	(2.0)	She.	
57	F－8	〃	〃	(23.0)	34.6	7.5	(5.5)	She.	
58	G－7	〃	〃	(49.8)	27.8	6.5	(12.0)	She.	
59	D－5	〃	〃	(56.0)	19.8	6.7	(4.3)	She.	
60	C－4	〃	〃	(35.0)	21.8	5.7	(3.4)	She.	
61	F－7	〃	〃	(37.6)	21.4	9.0	(4.9)	She.	
62	H－7	〃	〃	19.6	12.1	2.1	1.0	She.	
63	I－5	〃	〃	95.4	38.6	7.4	29.0	She.	
64	I－8	〃	〃	87.0	31.0	5.9	17.4	She.	
65	F－4	〃	〃	72.1	34.8	5.2	14.3	She.	
66	〃	〃	〃	71.6	36.0	5.1	13.2	She.	
67	〃	〃	〃	78.8	19.6	6.7	11.5	She.	
68	〃	〃	〃	67.7	28.7	6.9	11.9	She.	
69	〃	〃	〃	66.0	28.8	6.4	11.2	She.	
70	〃	〃	〃	59.0	26.7	8.0	12.6	She.	
71	F－3	〃	〃	57.6	21.6	5.0	6.1	She.	
72	F－7	〃	〃	52.7	25.0	6.0	6.7	She.	
73	E－7	〃	〃	69.2	20.8	5.8	8.7	She.	
74	〃	〃	〃	61.0	23.6	4.8	6.1	She.	
75	F－7	〃	〃	70.0	19.6	5.4	7.5	She.	
76	E－7	〃	〃	46.6	23.0	6.1	5.1	She.	

番品	出土区	層位	種　　類	全　長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重　量(g)	石　　質	摘　　要
77	E－7	Ⅵ	ナイフ状石器	56.4	22.0	5.0	6.0	She.	
78	H－6	〃	〃	54.2	16.5	4.0	2.5	She.	
79	H－7	〃	〃	51.4	23.8	4.8	5.8	She.	
80	〃	〃	〃	54.8	17.2	3.9	3.1	She.	
81	H－8	〃	〃	55.2	19.7	4.0	4.2	She.	
82	F－7	〃	〃	60.2	24.3	6.0	5.7	She.	
83	G－7	〃	〃	57.9	17.9	4.6	5.1	She.	
84	G－3	〃	〃	66.4	18.8	4.5	6.3	She.	
85	〃	〃	〃	66.9	21.0	4.6	5.9	She.	
86	G－7	〃	〃	49.6	22.9	6.0	6.7	She.	
87	H－5	〃	〃	45.7	19.2	4.8	3.0	She.	
88	F－4	〃	〃	50.6	15.0	5.4	3.1	She.	
89	I－8	〃	〃	61.9	20.8	5.5	8.6	She.	
90	G－7	〃	〃	48.7	23.4	6.4	6.0	She.	
91	G－3	〃	〃	51.6	21.2	6.4	5.5	She.	
92	F－4	〃	〃	51.5	18.6	6.0	5.4	She.	
93	〃	〃	〃	45.2	15.6	3.0	2.2	She.	
94	〃	〃	〃	52.8	15.4	5.2	3.6	She.	
95	F－7	〃	〃	40.0	16.8	3.6	2.0	She.	
96	G－7	〃	〃	30.9	21.9	3.9	2.5	She.	
97	〃	〃	〃	50.8	24.8	6.0	7.8	She.	
98	E－7	〃	〃	42.4	20.2	4.4	2.2	She.	
99	F－4	〃	〃	46.0	21.4	4.0	3.0	She.	
100	H－6	〃	〃	38.0	14.5	4.6	2.0	She.	
101	G－3	〃	〃	46.6	23.2	4.8	2.9	She.	
102	G－7	〃	〃	44.8	16.8	4.0	2.5	She.	
103	I－5	〃	〃	58.6	23.0	6.4	7.9	She.	
104	F－4	〃	〃	34.4	27.0	5.0	4.2	She.	
105	E－7	〃	〃	42.0	16.4	3.4	2.0	She.	
106	G－7	〃	〃	35.7	19.0	4.0	2.0	She.	
107	K－6	〃	〃	32.0	18.2	4.9	1.9	She.	
108	C－4	〃	〃	35.9	19.2	4.8	2.0	She.	
109	〃	〃	〃	(30.0)	13.8	3.8	(1.8)	She.	頭部
110	H－6	〃	〃	(34.2)	30.8	9.4	(5.4)	She.	
111	D－5	〃	〃	(31.7)	26.0	4.4	(2.5)	She.	
112	I－7	〃	〃	(37.4)	32.8	5.0	(4.8)	She.	
113	F－4	〃	〃	(28.0)	21.0	5.7	(2.3)	She.	
114	E－3	〃	〃	(26.0)	22.8	6.2	(2.1)	She.	
115	〃	〃	〃	(40.0)	26.0	6.2	(4.0)	She.	
116	F－4	〃	〃	(48.9)	30.0	6.0	(6.2)	She.	

番号	出土区	層位	種　　類	全　長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重　量(g)	石　　質	摘　　要
117	E－3	Ⅵ	ナイフ状石器	(37.4)	28.9	7.0	(3.8)	She	
118	F－4	〃	〃	(39.3)	21.4	6.8	(4.7)	She.	
119	E－7	〃	〃	(37.2)	26.2	6.0	(3.4)	She.	
120	C－6	〃	〃	(37.8)	22.0	6.0	(3.3)	She.	
121	D－4	〃	〃	(23.6)	19.6	5.0	(1.9)	She.	
122	H－6	〃	〃	(28.8)	32.6	5.6	(3.7)	She.	
123	F－7	〃	〃	(28.8)	16.0	4.6	(1.8)	She.	
124	H－6	〃	掻　　器	61.6	34.8	12.4	24.5	She.	
125	F－8	〃	〃	51.0	32.4	6.2	12.0	Che.	
126	F－7	〃	〃	56.8	20.6	5.0	4.5	She.	
127	F－5	〃	〃	52.2	43.2	10.0	21.8	She.	
128	L－7	〃	〃	(20.4)	15.0	4.6	(1.6)	Obs.	
129	H－6	〃	〃	(40.7)	29.2	6.7	(6.6)	She.	
130	L－7	〃	〃	37.4	30.5	9.6	9.4	She.	
131	G－3	〃	〃	56.2	27.4	10.6	16.9	She.	
132	H－3	〃	〃	(49.8)	30.2	12.0	13.2	She.	
133	K－9	〃	〃	35.4	25.0	10.2	6.4	Obs.	
134	H－8	〃	〃	37.2	27.8	11.0	12.1	She.	
135	D－5	〃	削　　器	46.0	22.0	5.4	4.8	She.	
136	〃	〃	〃	41.8	27.7	11.6	7.8	She.	
137	E－7	〃	〃	(32.0)	25.6	5.9	(2.3)	Che.	
138	F－8	〃	〃	43.8	11.8	6.4	2.8	She.	
139	〃	〃	〃	(16.0)	23.4	1.9	(1.6)	She.	
140	E－7	〃	〃	39.0	25.4	8.2	6.8	She.	
141	H－8	〃	〃	27.0	12.4	3.0	1.1	Obs.	
142	F－8	〃	〃	46.0	23.8	9.4	8.2	She.	
143	J－9	〃	〃	41.0	26.6	7.0	5.9	Che.	
144	C－3	〃	〃	(43.5)	44.5	10.9	(18.0)	She.	
145	I－8	〃	〃	(42.2)	38.4	12.8	(22.5)	She.	
146	E－7	〃	〃	(49.8)	46.4	11.0	(25.0)	She.	
147	J－9	〃	〃	(40.4)	48.6	9.6	(18.8)	She.	
148	F－7	〃	〃	60.2	23.2	21.6	32.4	She.	
149	F－8	〃	〃	54.2	39.0	15.4	34.2	She.	
150	H－8	〃	大形剝片石器	(59.2)	62.0	13.2	(45.3)	She.	
151	D－5	〃	〃	(63.2)	54.6	24.3	(76.8)	She.	
152	〃	〃	〃	73.8	50.4	15.1	71.8	She.	
153	H－8	〃	〃	65.0	45.7	9.0	43.0	She.	
154	H－4	〃	〃	(72.0)	39.8	1.0	(22.2)	She.	
155	F－7	〃	石　　片	90.5	52.1	19.4	94.4	Che.	
156	F－7	〃	〃	(74.9)	56.4	22.6	(136.7)	Ba.	

第20表　土器片出土量一覧表

出土区	口縁部	胴　部	底　部	数　量	出土区	口縁部	胴　部	底　部	数　量	出土区	口縁部	胴　部	底　部	数　量
A－3	1	94	5	100	F－4	9	355	10	374	H－8	3	123	2	128
B－3	21	639	17	677	5	8	439	14	461	9		26		26
4	18	314	6	338	6	20	299	26	345	I－4		115		115
C－3	11	507	10	528	7	12	349	6	367	5	2	171	2	175
4	71	1,101	52	1,224	8	1	307	1	309	6	2	32		34
5		18		18	G－3	4	102	4	110	7		31		31
D－3	26	841	24	891	4	10	175	3	188	8	8	234	7	249
4	44	907	30	981	5	5	451	8	464	9		10		10
5	8	288	8	304	6	11	277	7	295	J－6		6		6
6	2	79		81	7	8	319	7	334	7		9		9
E－3		704		704	8	4	122	2	128	8	1	3		4
4	18	337	7	362	H－3	1	23		24	K－7		76		76
5	16	445	16	477	4		37		37	8		4		4
6	15	183	11	209	5	5	161	3	169	9		7	1	8
7		383		383	6	6	14	16	36	L－9	8	89		97
F－3	1	148	7	156	7	7	220	8	235	合　計	387	11,574	320	12,281

第21表　Flake 出土量一覧表

出 土 区	点　数	重量(g)	出 土 区	点　数	重量(g)	出 土 区	点　数	重量(g)
1号竪穴	559	4,799	F － 4	891	6,630	I － 9	112	1,120
2号竪穴	1,339	12,671	F － 5	602	7,680	小　計	266	3,060
3号竪穴	1,657	15,814	F － 8	399	5,110	J － 4	95	820
小　計	3,555	33,284	小　計	2,501	25,270	J － 5	40	590
B － 3	4	90	G － 3	341	3,060	J － 7	6	40
小　計	4	90	G － 4	764	4,390	J － 8	8	70
C － 3	239	2,260	G － 5	583	4,000	J － 9	49	690
C － 4	786	9,631	G － 6	491	5,487	小　計	198	2,210
小　計	1,025	11,891	G － 7	611	5,070	K － 6	340	3,510
D － 3	360	4,140	G － 8	271	3,120	K － 7	208	1,420
D － 4	390	6,010	小　計	3,061	25,127	K － 8	6	140
D － 5	592	6,660	H － 3	76	860	K － 9	187	2,390
D － 6	325	3,400	H － 4	1,255	8,100	小　計	741	7,460
小　計	1,667	20,210	H － 5	290	2,690	L － 7	393	2,760
E － 3	944	9,190	H － 6	597	5,920	L － 9	13	160
E － 4	41	540	H － 7	323	3,490	小　計	406	2,920
E － 5	419	4,410	H － 8	708	6,030			
E － 6	147	1,460	H － 9	70	900			
E － 7	437	3,990	小　計	3,319	27,990			
小　計	1,988	19,590	I － 7	14	450			
F － 3	609	5,850	I － 8	140	1,490	合　計	18,731	179,102

第22表　球状礫器出土一覧表

出土区	点数	重量(g)	層	出土区	点数	重量(g)	層	出土区	点数	重量(g)	層
1号竪穴	8	5,640	Ⅵ	E — 6	1	540	Ⅵ	H — 4	7	5,280	Ⅵ
2号竪穴	12	10,570	〃	E — 7	8	5,330	〃	H — 5	11	1,310	〃
3号竪穴	4	2,280	〃	F — 3	3	1,520	〃	H — 6	20	12,850	〃
B — 3	3	1,440	〃	F — 4	3	1,680	〃	H — 7	4	1,780	〃
B — 4	2	1,260	〃	F — 5	2	1,510	〃	H — 8	1	690	〃
C — 3	2	1,290	〃	F — 7	2	1,500	〃	I — 6	5	3,750	〃
C — 4	1	670	〃	G — 3	2	1,520	〃	I — 8	1	630	〃
D — 4	8	4,970	〃	G — 4	9	5,940	〃	J — 5	5	2,960	〃
D — 5	4	2,330	〃	G — 5	7	4,240	〃	J — 6	5	3,090	〃
D — 6	2	1,170	〃	G — 6	10	6,930	〃	J — 9	3	1,380	〃
E — 3	2	1,090	〃	G — 7	2	1,020	〃	K — 6	1	1,120	〃
E — 4	2	1,860	〃	G — 8	3	2,180	〃	K — 7	8	5,910	〃
E — 5	7	2,770	〃	G — 9	2	1,850	〃	L — 8	1	1,900	〃

第23表　石器出土一覧表

種類 出土区	石鏃 (Ⅰ)	石銛 (Ⅱ)	石錐 (Ⅲ)	石槍 (Ⅳ)	ナイフ状石器 (Ⅴ)	掻器 (Ⅵ)	削器 (Ⅶ)	ヘラ状石器 (Ⅷ)	剥片石器	大形剥片石器 (Ⅸ)	磨製石斧	球状礫器 (Ⅹ)	擦石類	石片類	計
1号竪穴	5	3	3	—	22	4	—	1	—	—	2	8	7	559	(55) 614
2号竪穴	18	1	3	—	39	5	12	4	5	3	3	12	8	1,340	(113) 1,453
3号竪穴	18	4	5	3	38	7	8	—	2	7	—	4	6	15,814	(102) 15,916
4号竪穴	7	—	—	—	15	3	2	—	—	—	—	—	10	—	(37) 37
遺構外	28	7	3	5	141	22	21	9	—	8	1	15 9	19	15,937	(414) 16,360
計	76	15	14	8	255	41	41	14	7	18	6	18 3	50	33,650	(730) 34,380

III. 総　括

この発掘調査で検出された竪穴は４軒であるが，周壁を完全に確認したものはない。プランは１号・不整楕円形，２号・円形と長楕円形，３号，４号・長楕円形であるが，開口部や消失箇所があり一様でなく判然としたものではない。大きさは長楕円形のものが平均長軸7.4m，短軸5.8m，円形は直径7.0mで軸の方位は区区である。２号竪穴は，東側の一部と南から西にかけての高い斜面側にテラス状の面がある。縄文中期のベンチを擁した竪穴を思わせるが，既に遺物の出土状況，遺構で解れたように，２基の竪穴が重複したものとして取扱った。これらの竪穴の中で炉址のあるものは，１号竪穴の３個の石組みを残す半壊したものだけで，他は石組みはもとより焼土も検出されなかった。また柱穴と考えられるもので規則性が窮えるのは，２号竪穴壁内外の５対と３号竪穴床面にある，北の２個，東３個，南３個の柱列である。１，２号竪穴床面は検出された個数も少なく，主柱と認められるものはない。４号竪穴も同様で浅い窪みが多く，それから作意を汲み取ることはできない。上述のような床面の，とくに１・２号竪穴床面の状態は，覆土の層序が示すように，凍上，匍行，流土，削土，再堆積等の痕跡があり，自然の営力が大きく関与しているからであろう。各竪穴の時期は，出土遺物から１号竪穴はVII_1層：Ic，VI_2層上半：Ieで早期末と早期末～前期初頭のものの重複，２号竪穴はVII_1層：Ic・Id，VI_2層下半：Ie，上半～VI_1層下半：IIaで早期末・早期末～前期初頭・前期の重複であり，３号竪穴はVI_1層下半：Ic・Ie，VI_1層上半：IIcで早期末～前期の構築と考えられる。４号竪穴では援用し得る土器の出土がなかったが，隣接区からIIcに属する土器片があり，前期――円筒土器下層ａ式直前――としておきたい。

出土した土器は，口縁部387点，胴部11,574点，底部320点，総数12,281点である。その分布は第７図，第20表に示したように遺構中心に濃密であり，発掘区の南端に集中している。分類に摘出した土器は，復元した６個体と特徴のある437点で，縄文時代早期末から後期に亘る。

松江遺跡の第１群土器は，全道的分布の趨勢にある東釧路３，４式土器に対比されるものである。東釧路３，４式土器は1962年東釧路貝塚で型式設定されたもので，（河野・沢1962）中茶路遺跡の調査を経て（富永・沢1966）東釧路３式から４式への移行過程は，東釧路３式，コッタロ式，中茶路式，東釧路４式という序列をたどることが示された。（沢1969a，b）そのご1970年代の後半になって道央，道南地方に開発行為に伴う大規模な緊急発掘調査が集中し，苫小牧工業地帯，（佐藤1976）新千歳空港建設用地，（北海道教育委員会1976～1979b，北海道埋蔵文化センター1980c）函館空港拡張，（市立函館博物館1977）北海道自動車縦貫道，（北海道埋蔵文化財センター1981）等によって膨大な資料がもたらされた。これらの成果から東釧路３式と４式の間に一型式を設定しても良いのではないかという提起もなされているが，（木村1980）東北地方前期との関係に問題が多く（沢1982，林1982）未だ解決をみていない。したがって第１群土器の分類は，Ia：貝殻式土器，以下，通説に依ってIb：東釧路３式，Ic：コッタロ式，Id：中茶路式，Ie：東釧路４式とした。その中でIaとIbは５点の小片のみで，遺構に定着したもの

として把えられるのはIcからである。それを代表するものが1号竪穴出土の復元土器2であり他の破片資料も推定される器形，施文形態などから美沢2遺跡（北海道教育委員会1977）のIb－2類に同定される。Idは2号竪穴の最下層からIcと混在していたもので，施文形態から中野A遺跡8号住居址の土器（市立函館博物館1977）に近似する。中茶路式の一般的施文は，微隆起線状の細い貼付帯を並行，波状，曲状に多重に周らすのが特徴で，方形の区画をもったものは少ない。また中野遺跡の場合は，コッタロ式，東釧路4式等の近縁的なものを含まない完全なセットで注目されている。Ieの主体をなすものは体部に羽状撚糸文を施文する丸底の土器で，2号竪穴出土の復元土器3がそれである。口縁部に撚糸絡条体の側面を縦位に圧痕したもので，類例は大麻遺跡P－10にみられる。（北海道埋蔵文化財センター1980b）このほか2号竪穴36～40のような撚紐原体側面押圧による平行縄線文のあるものは栄浜遺跡第1群土器C類（蜂山巌1977）松前町建石遺跡のII群第1・2類（久保1975）元和遺跡第5地点のA群土器第2類の復元土器（大沼1976）に類別を求めることができる。また1号竪穴18～22，2号竪穴30～35のような羽状撚糸文のみのものは美々7遺跡のIb－4（北海道教育委員会1979b）にあるが量的には少ない。1号竪穴では体部に隆帯状の脹らみをもつ無文の円底土器が伴出している。道内では初見の資料ではないだろうか。Ieには2号竪穴71～73の横位に流れる粗い撚糸文も含まれている。この土器は前者より器厚があり，大型のもののようである。器形も丸底ではなく，静川8遺跡C地区第17号ピット出土土器（佐藤1976）のような平底でないかと思う。なお東釧路4式に併行か先行すると見られる器形が正三角形に近い斜行縄文を施す，大津遺跡A地点第2群土器（斉藤1974），白坂遺跡第1地点遺構外等に見られるような尖底土器の出土はなく，東釧路3式も断片的で極めて稀薄なことから，松江遺跡はコッタロ式を上限とする可能性が強い。

第II群土器は意図した交叉状斜行縄文のあるもの，羽状縄文のみを施すもので無文の口縁部に隆起帯を周らし，体部に羽状縄文を施した前期初頭に位置すると思われるものである。IIaは交叉状斜行縄文の大型の丸底土器で2号竪穴から出土し復元されたものであり，3号竪穴にも2点の出土があった。器高と口径の比率は静川8遺跡B地区包含層出土8の斜行縄文を施した丸底土器や大曲洞窟出土の綱文式土器（児玉・大場1955)に似るが，繊維の含有を認めない。器壁は大型土器の割には薄く，底部まで均一な厚さを保っている。IIbは1号竪穴の24～26，2号竪穴21～23bで，口唇，口縁の違いからIIaと区分したものである。美々7遺跡XH－4に類例がある。（北海道教育委員会1979b）この土器の特徴は2種の原体を用いて斜行縄文を羽状に施文している点で，IIcの胴部施文も同じである。IIcは遺構外出土の66・67・85～91で，口縁上部に隆起帯を周らし，その上を無文帯，下の胴部にIIbにみる羽状文を施したものである。この種の口縁部形態から円筒土器下層a・b式を想起させるが，その胴部施文は斜縄文，撚糸文，複節縄文等によっており，本類のような羽状縄文の施文例は皆無に等しく，胎土に繊維を全く含まない等を考慮して，円筒土器下層式に先行するものではないかと思う。III，IV群土器に関しては頁の都合により割愛した後日稿を改めたい。

（佐藤忠雄）

発掘区内から出土した石器類の総点数は34,380点である。このなかで定形化した石器を選び出した。石片として調査の対象外としたものは32,650点であるが，さらに分類したとき定形化の種類として抽出できるものもある。これらから石器製作技術，石器使用法の参考資料となるものもあるが，時間などの関係で除外した。報告書に記載の対象とした点数は721点であるが，これは竪穴別に分類して記載したが，その竪穴および覆土に時代差があり，竪穴の床面と覆土というように分けて整理した。しかし，石器組成の傾向は共通するものと竪穴別の傾向とがみられるので，出土した土器型式との関係も考慮する必要がある。

総点数34,380点は，１号・２号・３号竪穴の集中的傾向と離れた４号竪穴ならびに竪穴から離れた位置から出土することもあり，これらは遺物分布図を参考にされたい。発掘面積1,116㎡から発掘された石器点数の比率は他の遺跡からみて最も高い例といえよう。定形化および記載の対象とした721点については,第23表で示しておいた。

1）１号竪穴　石器の総点数614点であるが，定形化したもの55点である。石器分類で特徴的なものは，石鏃Ⅰ－ａ，Ⅰ－ｂ，Ⅰ－ｄがあり，石銛ではⅡ－ｃ，Ⅱ－ｄがあることといえよう。黒曜石製品は石銛だけで他の石器種類には用いられていない。その他では幅が細い特色ある石斧と磨製の有孔石斧などがある。種類別ではナイフ状石器が22点と定形石器の大半をしめているが，石鏃，球状礫器，擦石類も多い割合をしめている。

2）２号竪穴　石器の総点教1,453点であるが，定形化したもの113点である。数量的には１号竪穴の２倍である。その中で床面出土が72点と半数をしめている。特徴的なものは，石鏃，ナイフ状石器，球状礫器であり，石鏃はⅠ－ａ，Ⅰ－ｂ，Ⅰ－ｃがほとんどでⅠ－ｅとⅠ－ｇがわずかに出土している。ナイフ状石器はⅤ－１，Ⅴ－２の比率が床面と覆土では床面でⅤ－２が多い傾向にある。そのほかではヘラ状石器が４点出土し，２点が床面，２点が覆土で遺構から出土したものとしては多い。他の遺構と比較して石斧の総点数６点の内３点がこの竪穴から出土しているが，２点は床面で，１点は覆土であり，床面のものは熱変化を受けている。また，遺構のなかでの定形化した石器数はもっとも多く，ナイフ状石器は39点とそのしめる割合が高い。

3）３号竪穴　この竪穴から出土した石器は，総点数15,814点と量的には圧倒的に多く出土している。しかし，定形化した石器はその１割にもみたない102点であり，多くは石片で，竪穴では石器加工をした可能性が考えられる。多く出土した石器は石鏃とナイフ状石器，石槍，大形剝片石器である。石鏃は２号竪穴ではⅠ－ａ，Ⅰ－ｂが多いのにⅠ－ｄ，Ⅰ－ｅといった三角形石鏃の多いのが特徴といえよう。ナイフ状石器では幅の狭いⅤ－１が多い傾向にある。大形剝片石器は他の竪穴では２号竪穴で３点しか出土していないが，７点の出土とその形態が一様でなくあるいは石器製造と関連があるようにも思われる。特徴ある石器では石銛をあげることができる。石銛は分類したⅡ－ｅ，Ⅱ－ｆ，Ⅱ－ｇが出土し，道南の他遺跡ではみられなかったものである。

4）４号竪穴　この竪穴は最終的に遺構確認がなされたもので，石片などは遺構外に区分した。

石器総数は37点であるが，これらはすべて定形化した石器数で，多いのは石鏃、ナイフ状石器，擦石類である。他の竪穴と比較して擦石類が多いのも特色といえよう。石鏃はⅠ－eが多く，1例Ⅰ－fが出土している。ナイフ状石器の出土率は，他の遺構と同様にその大半をしめていて，Ⅰ－1のタイプが多い。

5）遺構外の石器　総点数16,360点中定形化の石器414点がある。石片の数は15,937点で3号竪穴出土の15,814点に近い。このことは3号竪穴をより特色づけるものといえる。414点のなかで多いものをみると球状礫器159点，ナイフ状石器141点，石鏃28点，掻器22点，削器21点，ヘラ状石器9点で，球状礫器に次いでナイフ状石器が大半をしめている。石鏃は総体的にⅠ－b，Ⅰ－eが多く，五角形石鏃に近いものと三角形石鏃がおもなものであり，石銛ではⅡ－a，Ⅱ－b，Ⅱ－eがある。Ⅱ－bは遺構であまり出土しなかったものである。石器分類では表示しなかったが，石槍とした先端が鋭利であるいは石錐としたほうが適当と思われるものが出土した。掻器ではⅥ－a，Ⅵ－cと分類したものが多く，ヘラ状石器は総点数14点の内9点が遺構外から出土している。そのほか大形剝片石器も特徴的なものがある。遺構外の特色は球状礫器が多いことと石槍に類するもの円形掻器，ヘラ状石器が多く出土したことといえよう。

総体的にみた石器の特色は，石鏃の形態が一定でなく下北半島の白浜式と呼ばれた細長の五角形石鏃，無柄三角形石鏃があるほか，石銛も形態に種類があって，道南地方ではこれまでにない種類が出土している。量的には石小刀とか縦形石匙と呼ばれてきたナイフ状石器が255点出土していることである。この数は記載の対象とした730点の3分の1にあたるが，礫器を除くと497点で，その2分の1に相当する。この点でナイフ状石器の分類と用途，すなわち使用に関する研究も可能であるが，別の機会にゆずることにする。　（千代　肇）

Ⅳ．結　語

松江遺跡の一部分の発掘調査であったが，縄文時代早期末から前期にかけての4軒の竪穴住居と後期に及ぶ多数の出土遺物を得ることができた。早期末のコッタロ式，中茶路式，東釧路4式は道内各地から出土しているものと殆んど変らない斉一性をもっている。注目されたのはⅡ群土器で，a類は特徴的施文であるが綱文式に並行，b類は美沢7に比定して大過ないが，c類は美沢7のもつ羽状縄文，円筒土器下層式のもつ口縁部の隆起帯や縄線文，圧痕文との関連から円筒土器下層式直前に位置するのではないかとしておいたが，中野式に前後する可能性もあり，今後に類例の出土が俟たれる。遺構では決して良い状態とは云えなかったが，1号竪穴でコッタロ式→東釧路4式→綱文式並行序列を層位的に把握することができたのは一応の成果であった。　（佐藤忠雄）

参考文献

宇田川　洋　1977　『北海道の考古学』　1，2

江坂輝弥　1970　『石神遺跡』　ニュー・サイエンス社

大場利夫ほか　1955　『函館市梁川町遺跡』　市立函館博物館

――――　1958　『サイベ沢遺跡』　市立函館博物館

大沼忠春　1976　『元和』　乙部町教育委員会

――――　1977　『元和(続)』　乙部町教育委員会

――――　1978　「道央部の前期縄文土器群の編年について」　『北海道考古学』　17

奥尻町史編さん委員会　1969　『奥尻町史』

加藤邦雄　1980　「縄文文化後期・晩期」　『北海道考古学講座』

木村尚俊　1980　「縄文文化早期」　『北海道考古学講座』

久保　泰・小柳正夫・桐谷賢一　1975　『松前町建石遺跡・松前町大尽内遺跡発掘報告』　松前町教育委員会

久保　泰ほか　1981　『白坂』　松前町教育委員会

――――　1982　『白坂』　松前町教育委員会

桑原　護　1966　「北筒式土器」　『考古学雑誌』　51－4

――――　1968　「余市式土器」　『考古学雑誌』　54－1

河野広道・沢　四郎ほか　1962　『東釧路』　釧路市教育委員会

河野広道・佐藤忠雄ほか　1963　『名寄日進遺跡』　名寄市教育委員会

児玉作左衛門・大場利夫　1953　「函館市住吉町遺跡の発掘について」　『北方文化研究報告』　8

――――・――――　1954　「函館市春日町出土の遺物について」　『北方文化研究報告』　9

――――・――――　1955　「網走市大曲洞窟出土の遺物について」　『北方文化研究報告』　10

斉藤　傑・氏江敏文　1974　『松前町大津遺跡発掘調査報告』　松前町教育委員会

佐藤一夫　1976　「静川８遺跡」　『苫小牧東部工業地帯埋蔵文化財発掘調査概要報告書』Ⅳ　苫小牧市教育委員会

――――　1976　『植苗貝塚』　苫小牧市教育委員会

佐藤忠雄　1975　『館崎』　福島町教育委員会

――――　1975　『鳥崎遺跡』　森町教育委員会

――――　1981　『奥尻島青苗遺跡』　奥尻町教育委員会

――――　1982　『奥尻島東風泊遺跡』奥尻町教育委員会

沢　四郎　1979　「北海道の土器」　『日本原始』　世界陶磁全集　1　小学館

沢　四郎　　1982　「縄文早・前期の土器—北海道東北部—」　『縄文土器大成』　1
講談社
市立函館博物館　1977　『函館空港第４地点・中野遺跡』
高橋正勝ほか　1971　『柏木川』　北海道文化財保護協会
高橋正勝　　1972　「北海道における縄文時代中期の終末」　『北海道青年人類科学研究会誌』　9，10
高橋正勝・小笠原忠久　1980　「縄文文化前期・中期」　『北海道考古学講座』
竹田輝雄　　1976　「中野式土器」　『北海道考古学』　12
千代　肇　　1956　「北海道奥尻島遺跡調査概要」　『考古学雑誌』　41－2
———　　1972　『涌元遺跡』　知内町教育委員会
———　　1974　『西桔梗』　函館圏開発事業団
富永慶一・沢　四郎　1966　「中茶路遺跡調査報告」　『北海道白糠町の先史時代』
中田幹雄・中村　斉・山田悟郎・金森典夫　1977　『ウナベツ遺跡』　斜里町教育委員会
野村　崇　　1977　『長沼町幌内タンネトウ遺跡の発掘調査』　空知地方史研究協議会
秦　光男・瀬川秀良・矢島淳吉　1982　『奥尻島北部および南部地域の地質』　地質調査所
林　謙作　　1982　「縄文早・前期の土器—北海道南部，東北地方—」『縄文土器大成』1
北海道教育委員会　1977　『美沢川流域の遺跡群』　I
————　1978　『美沢川流域の遺跡群』　II
————　1979a　『有珠川２・植苗１遺跡』
————　1979b　『美沢川流域の遺跡群』　III
北海道埋蔵文化財センター　1980a　『杜台１遺跡・虎杖浜４遺跡・千歳４遺跡・富岸遺跡』
第１集
————　1980b　『大麻１遺跡』第２集
————　1980c　『美沢川流域の遺跡群』　IV　第３集
————　1981　『吉井の沢の遺跡』　第５集
北海道文化財保護協会　1981　『館野２遺跡』　上磯町教育委員会
北海道千歳市教育委員会　1976　『美沢川流域の遺跡群』
松下　亘ほか　1974　『西股』　北海道第４紀研究会
松崎岩穂ほか　1959　「北海道椴川・十兵衛沢・勝山館遺跡」『考古学雑誌』　44－4
松前町教育委員会　1978　『鬼沢Ｂ遺跡・棚石遺跡調査報告』
峰山　巖ほか　1977　『栄浜遺跡』　乙部町教育委員会
村越　潔　　1968　「浮橋貝塚」　『岩木山』　岩木山刊行会
———　　1974　『円筒土器文化』　雄山閣
森田知忠・高橋正勝　1967　『サイベ沢Ｂ遺跡調査報告』　亀田町教育委員会
吉崎昌一　　1965　「縄文文化の発展と地域性—北海道—」　『日本の考古学』　2

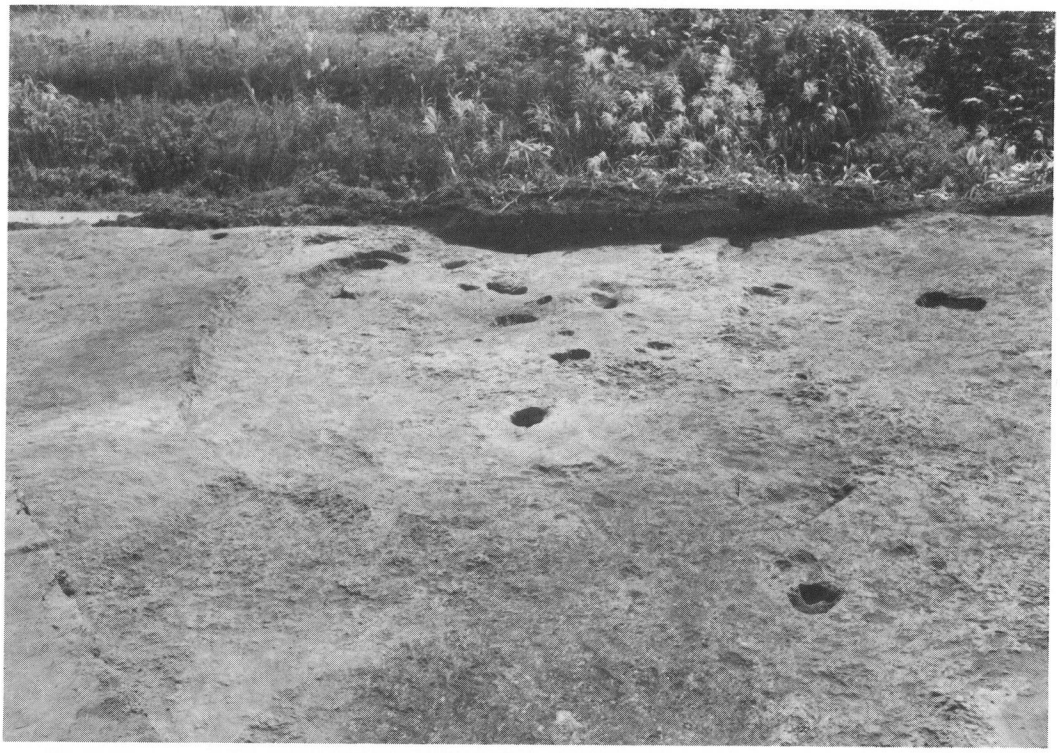
図　版

第１図版　調査前の発掘区近景
第２図版　調査終了時の発掘区近景（東から南を望む）

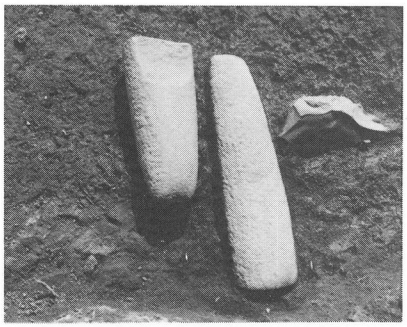
第３図版　発掘区東隅に検出された沢址
第４図版　１号竪穴全景

第５図版　２号竪穴全景
第６図版　２号竪穴遺物の出土状況

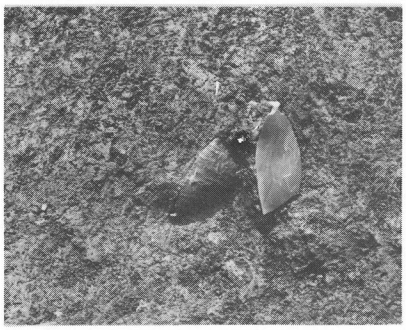
第７図版　３号竪穴全景
第８図版　３号竪穴遺物の出土状況



第９図版　４号竪穴全景
第10図版　発掘作業の状況

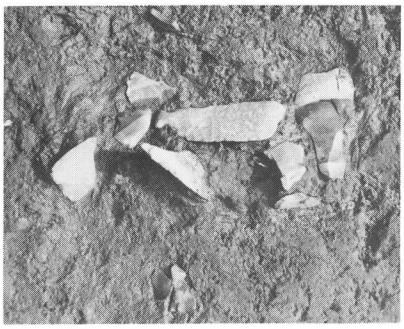


1

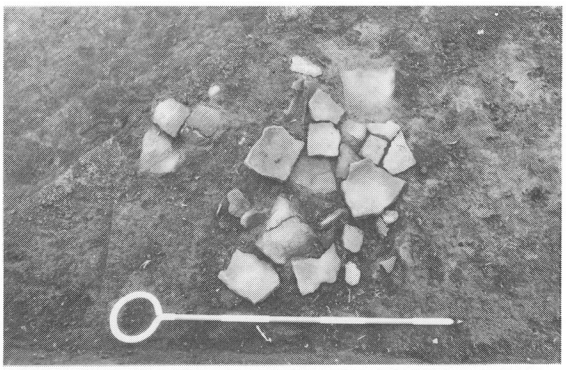


2

3



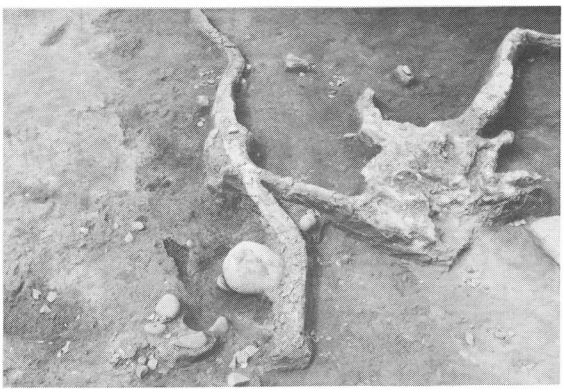
4



5

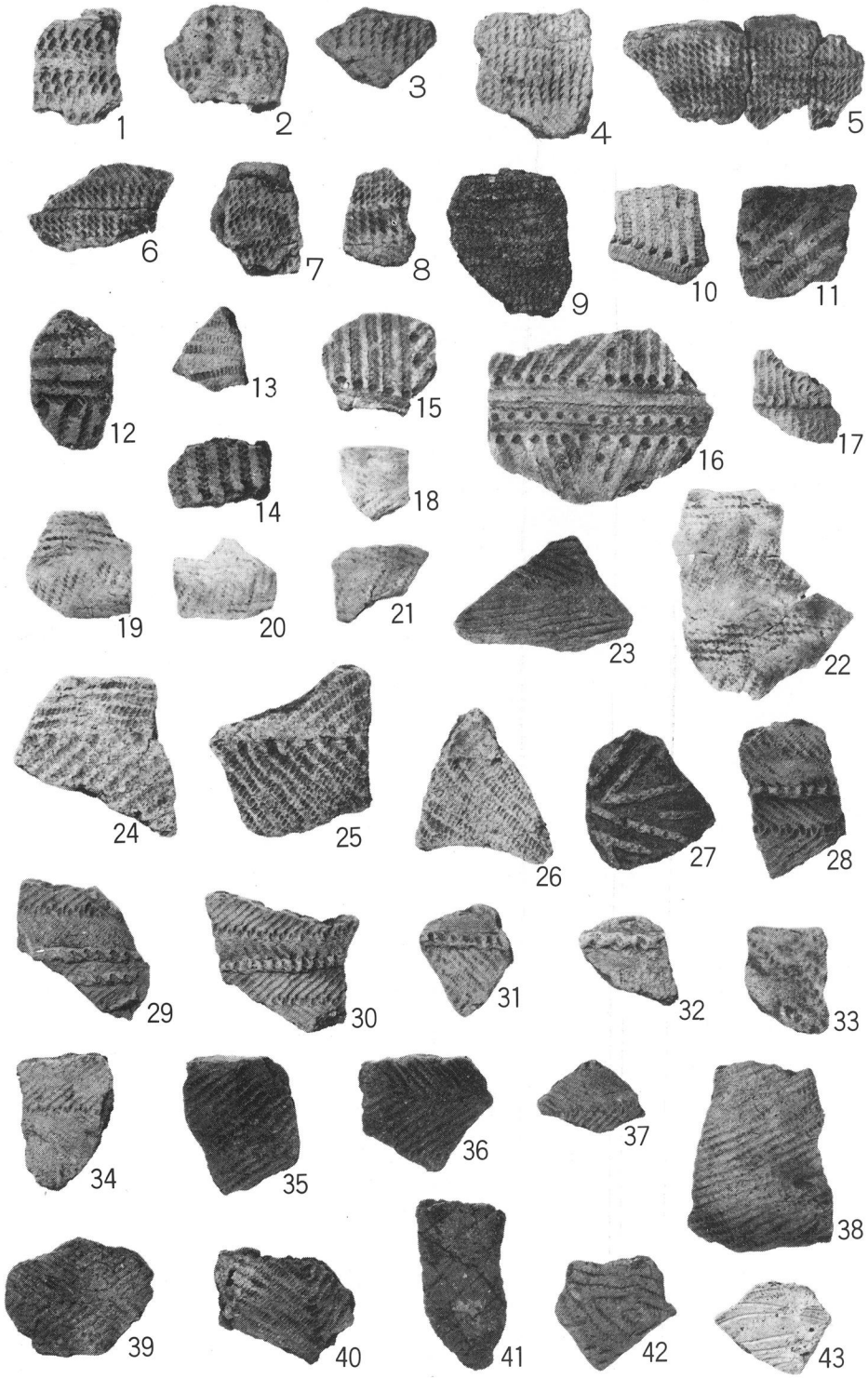
6

7

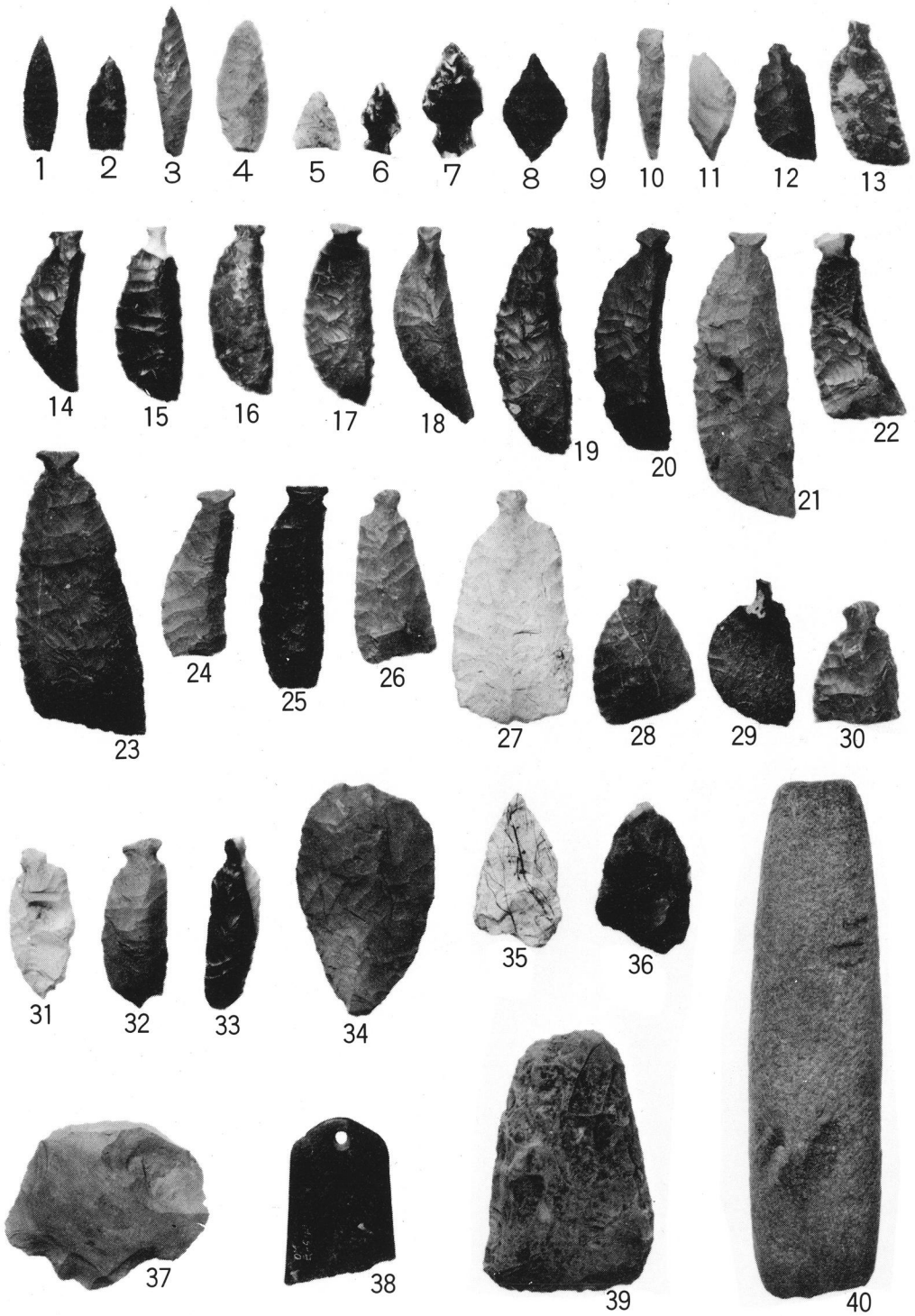


8

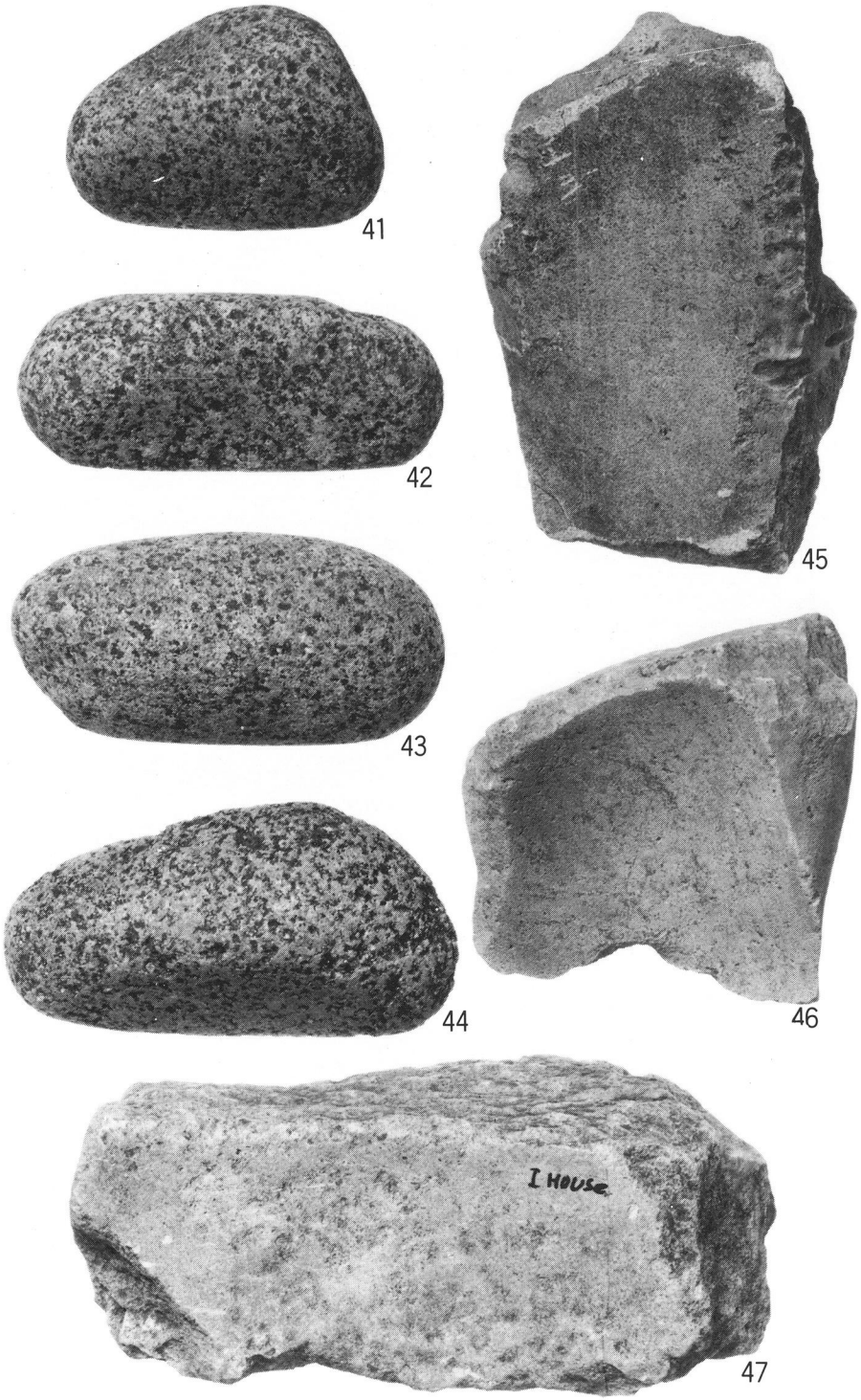
第11図版　発掘区の遺物出土状態



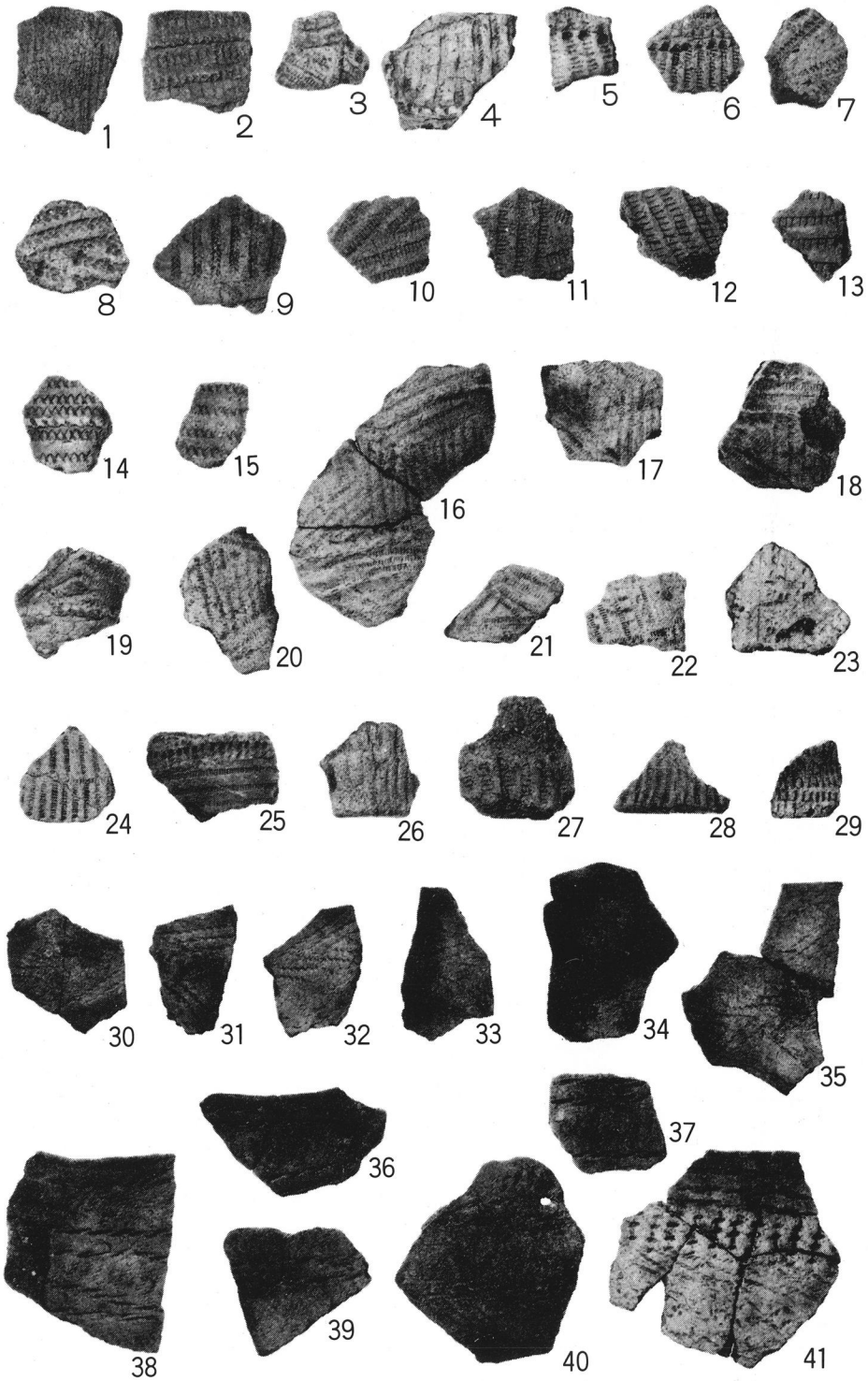
第12図版　　1号竪穴Ⅶ$_1$・Ⅵ$_3$・Ⅵ$_1$・Ⅴ層出土の土器



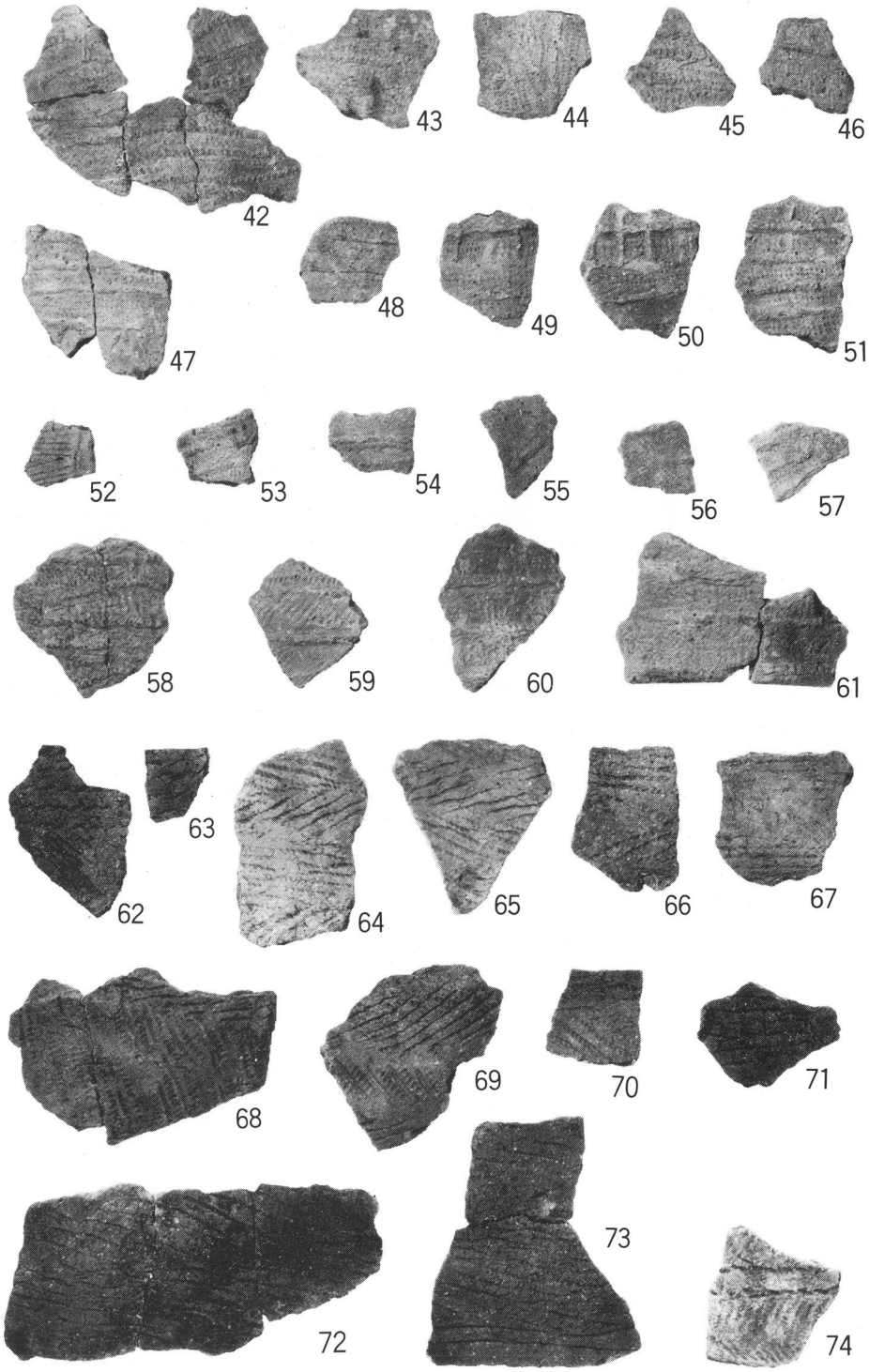
第13図版　　1号竪穴Ⅶ・Ⅵ層出土の石器（1）



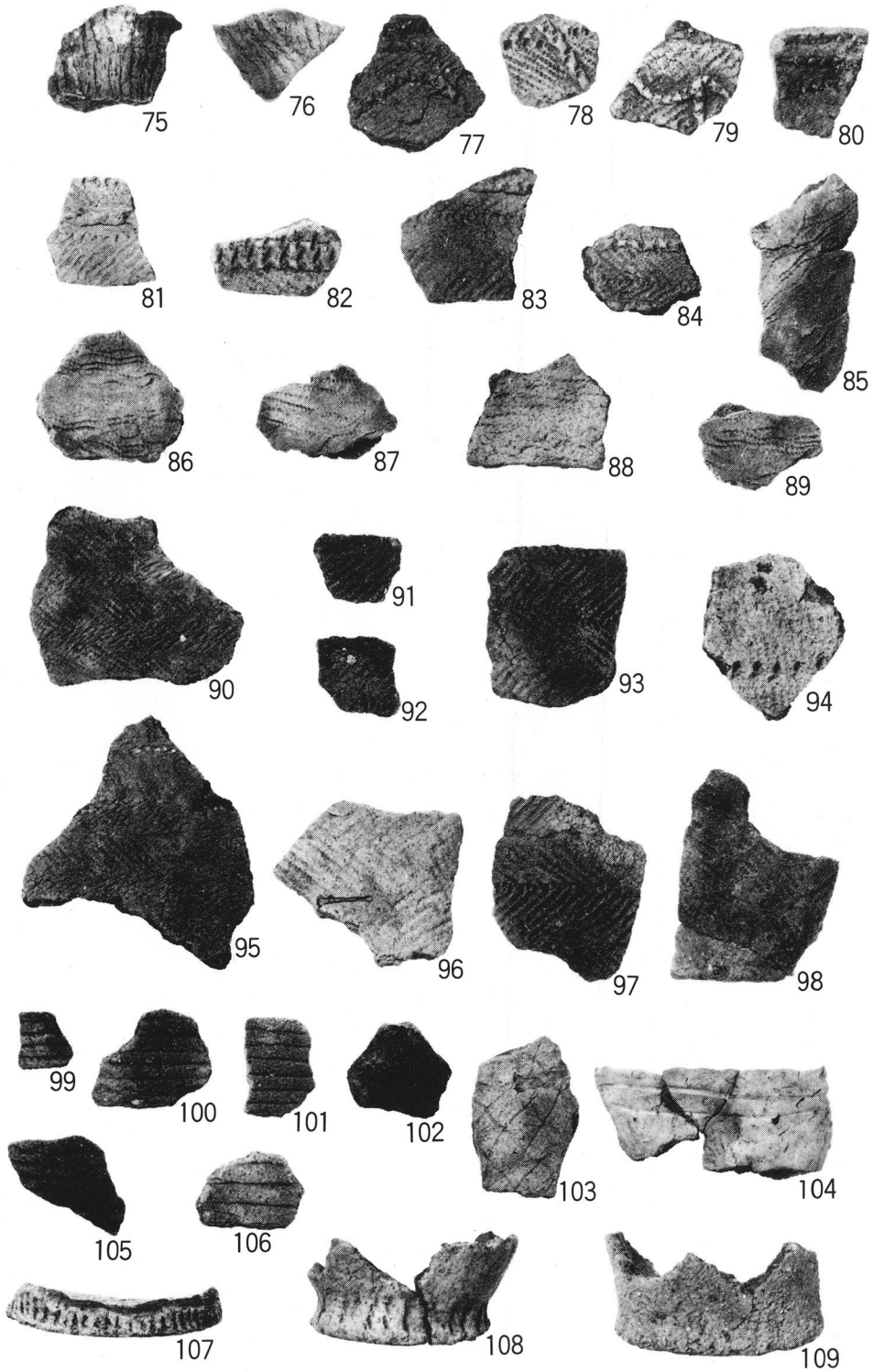
第14図版　１号竪穴Ⅶ・Ⅵ₁層出土の石器（２）



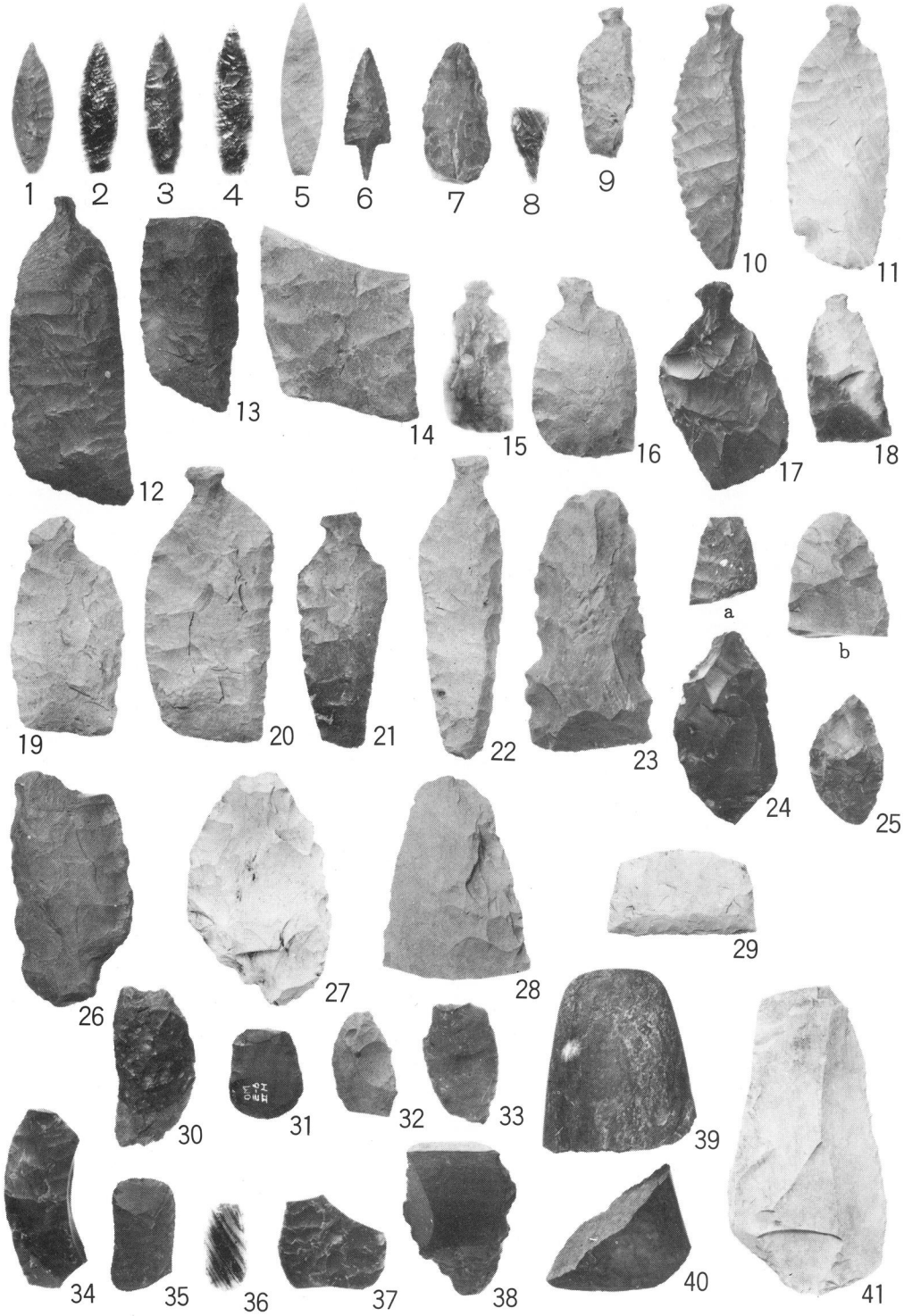
第15図版　２号竪穴Ⅶ₁・Ⅵ層出土の土器（１）



第16図版　２号竪穴Ⅶ₁・Ⅵ層出土の土器（２）

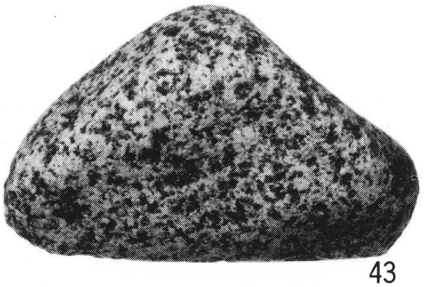


第17図版　２号竪穴Ⅶ・Ⅵ₂層出土の土器（３）



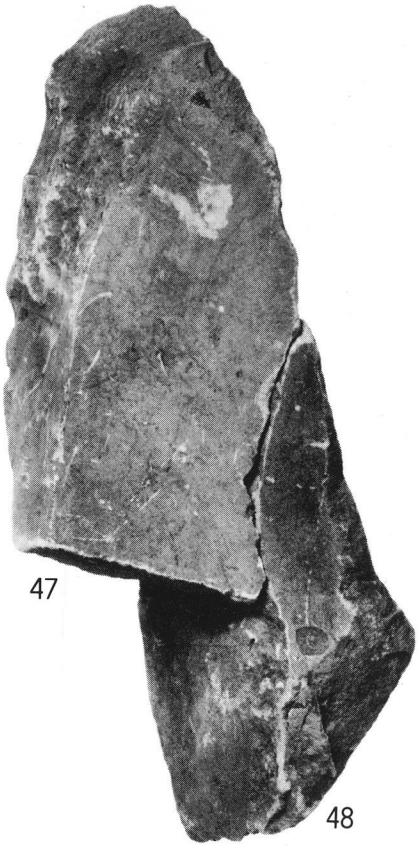
第18図版　２号竪穴Ⅶ₁層出土の石器（１）

42


43

44

45

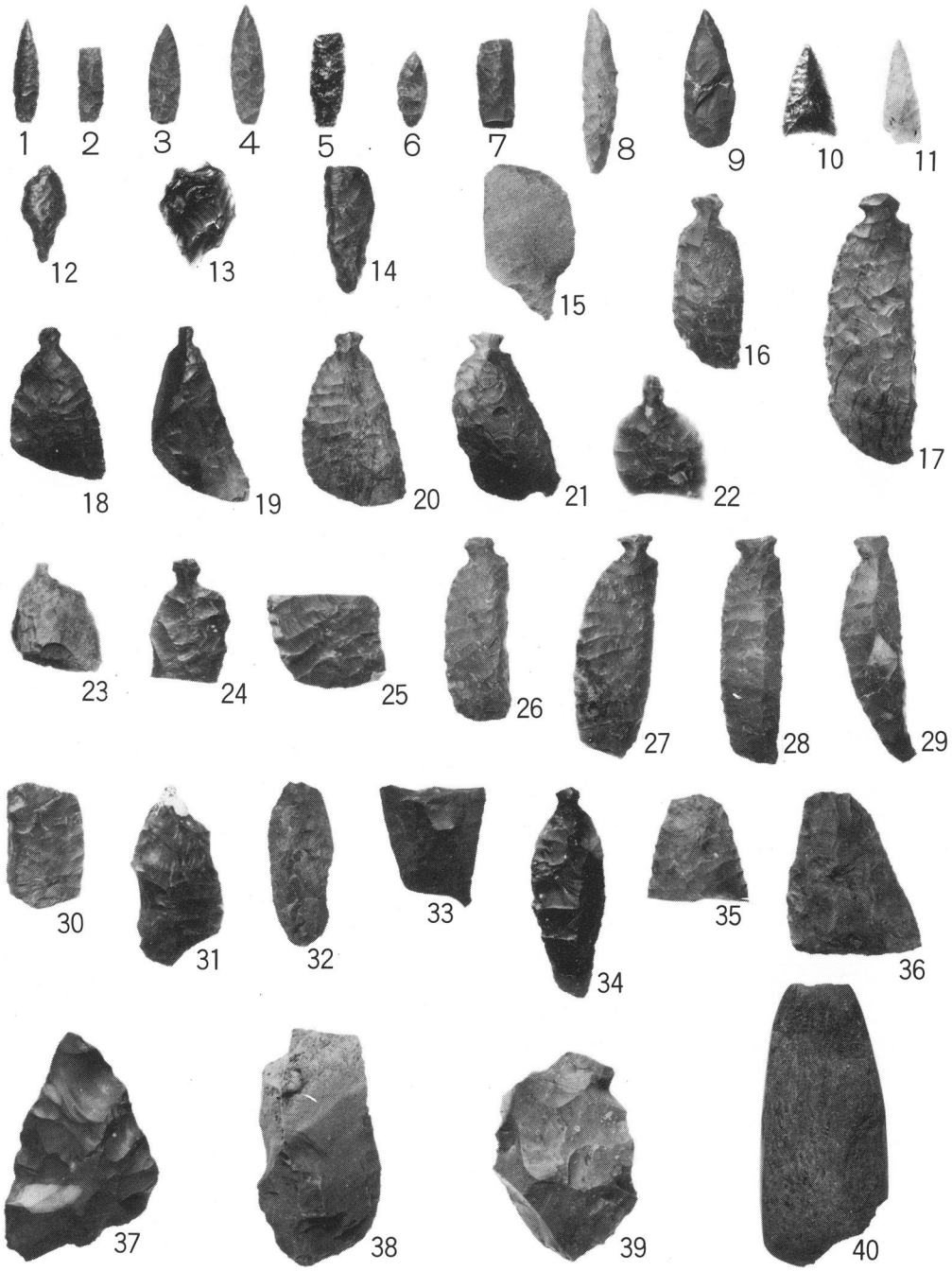

47

48

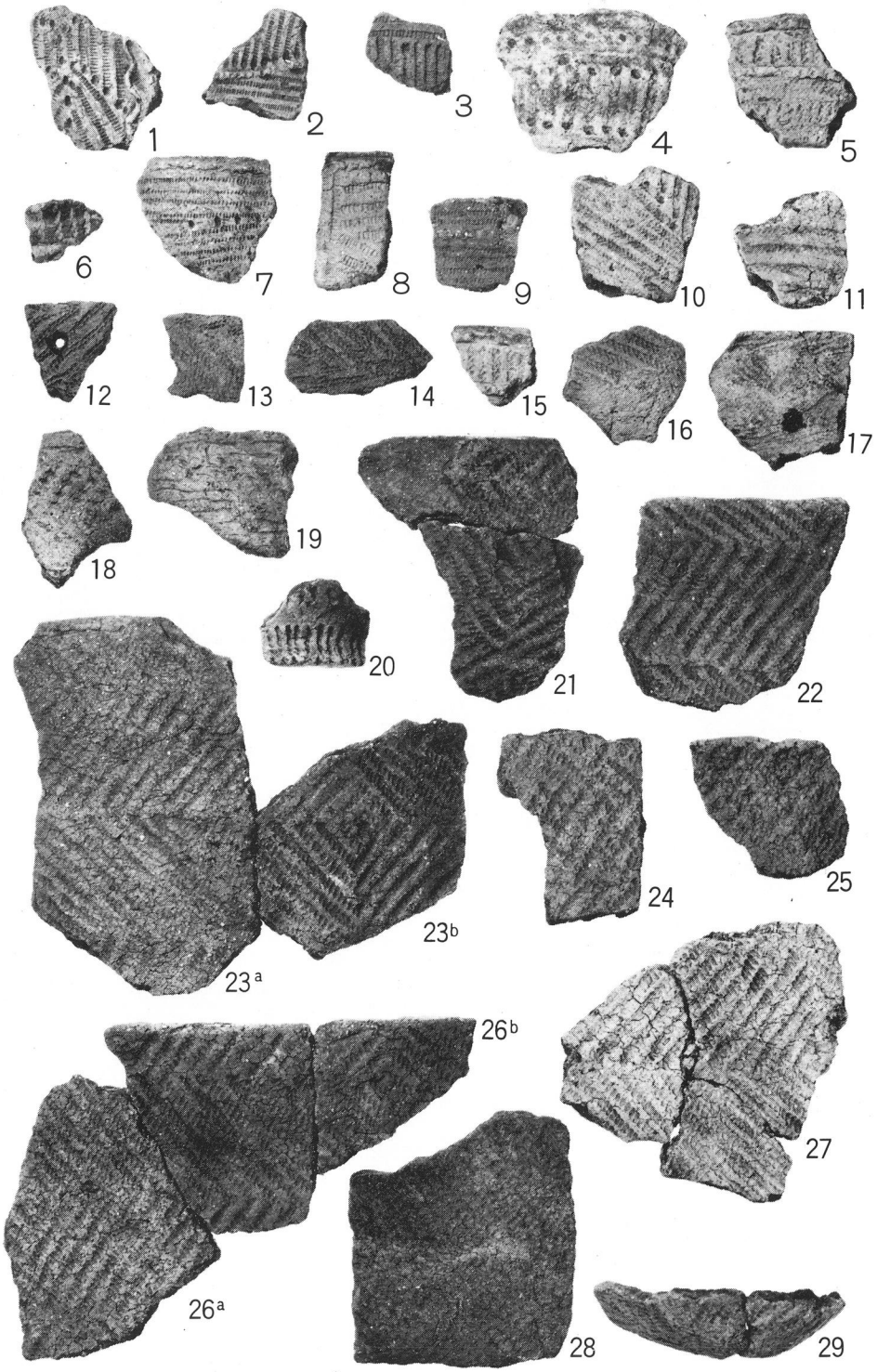
46

49

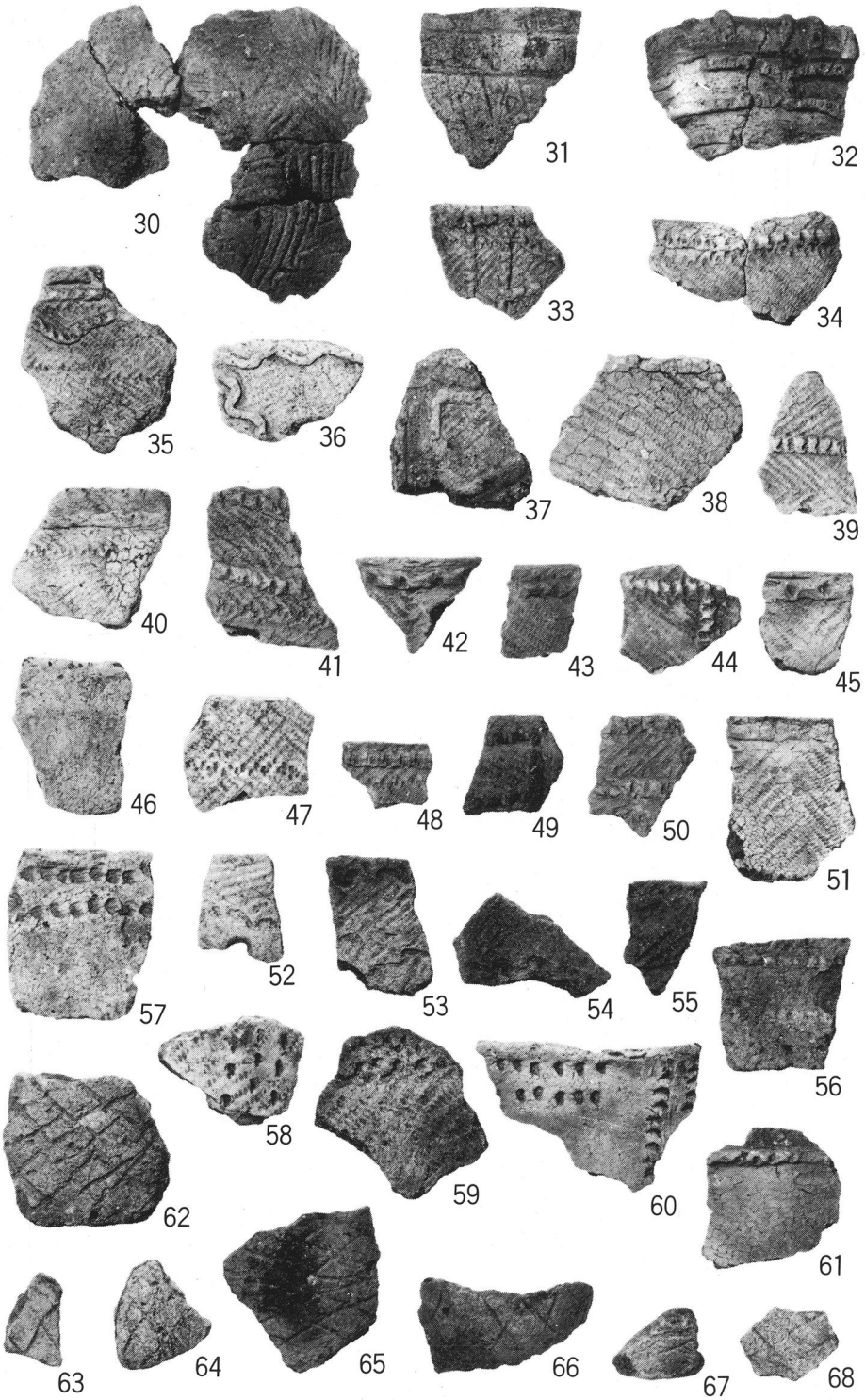
第19図版　２号竪穴Ⅶ$_1$・Ⅶ$_2$層出土の石器（２）



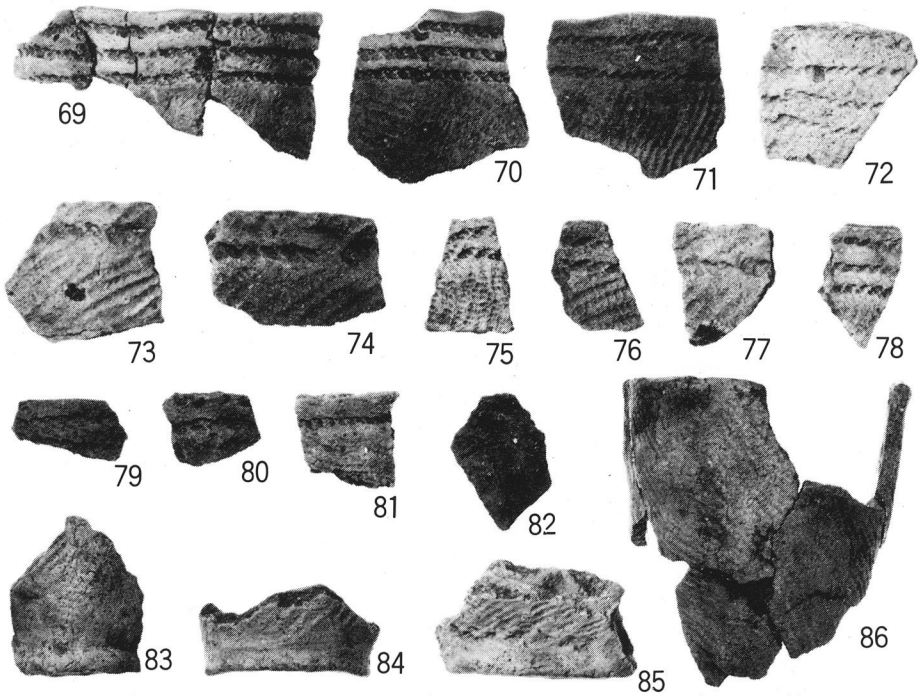
第20図版　２号竪穴Ⅵ₁層出土の石器



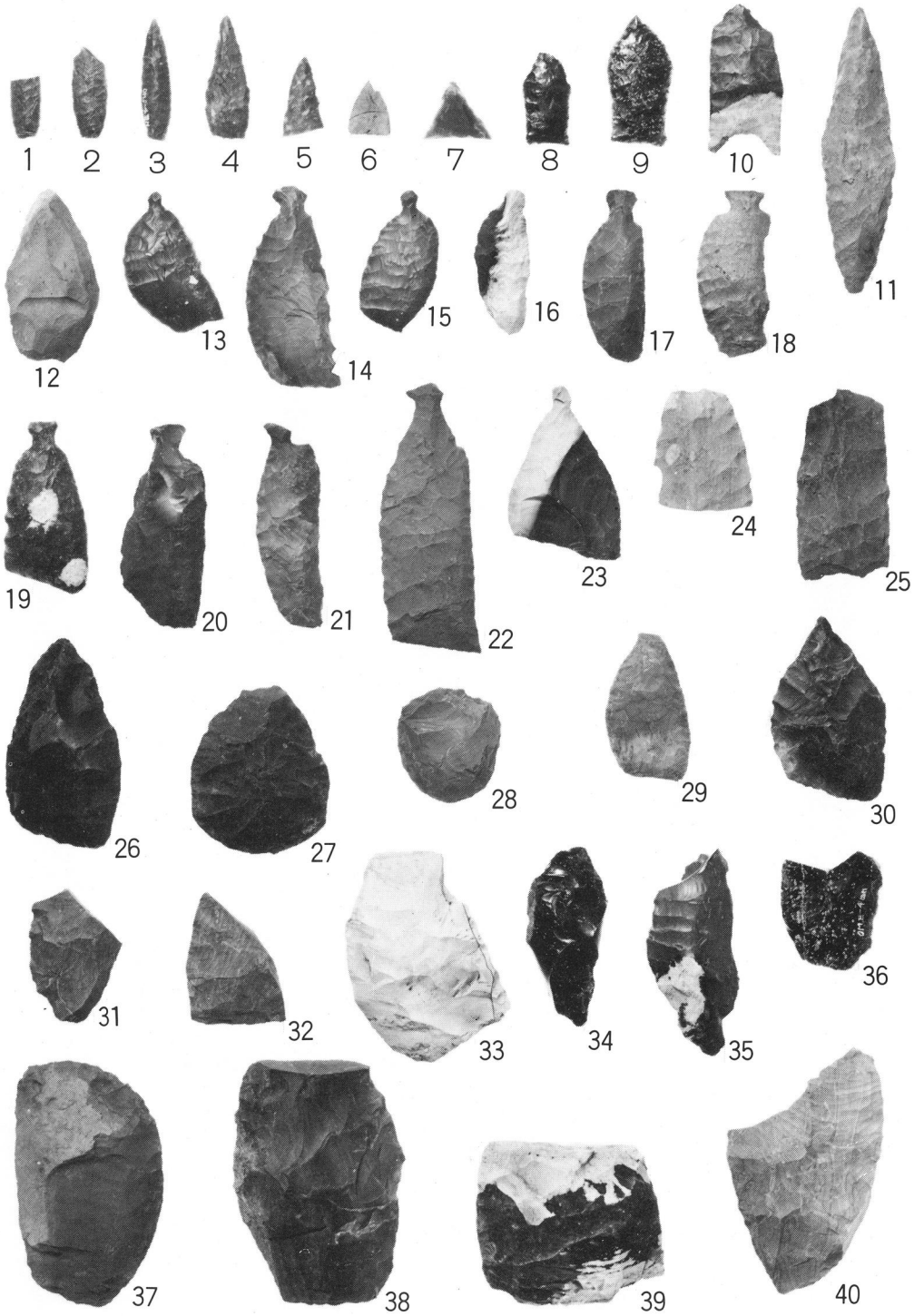
第21図版　３号竪穴Ⅵ₁・Ⅵ₂・Ⅴ層出土の土器（１）



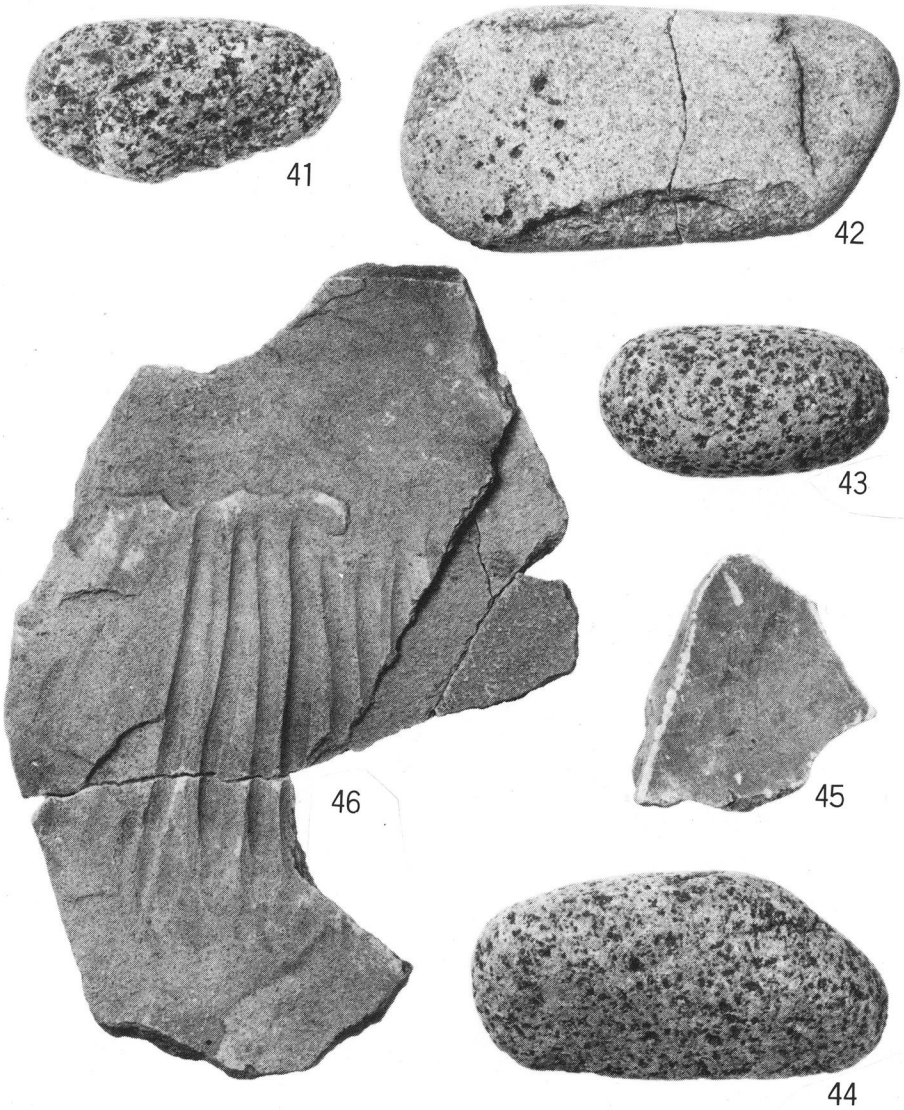
第22図版　３号竪穴Ⅳ$_1$・Ⅵ$_2$・Ⅴ層出土の土器（２）



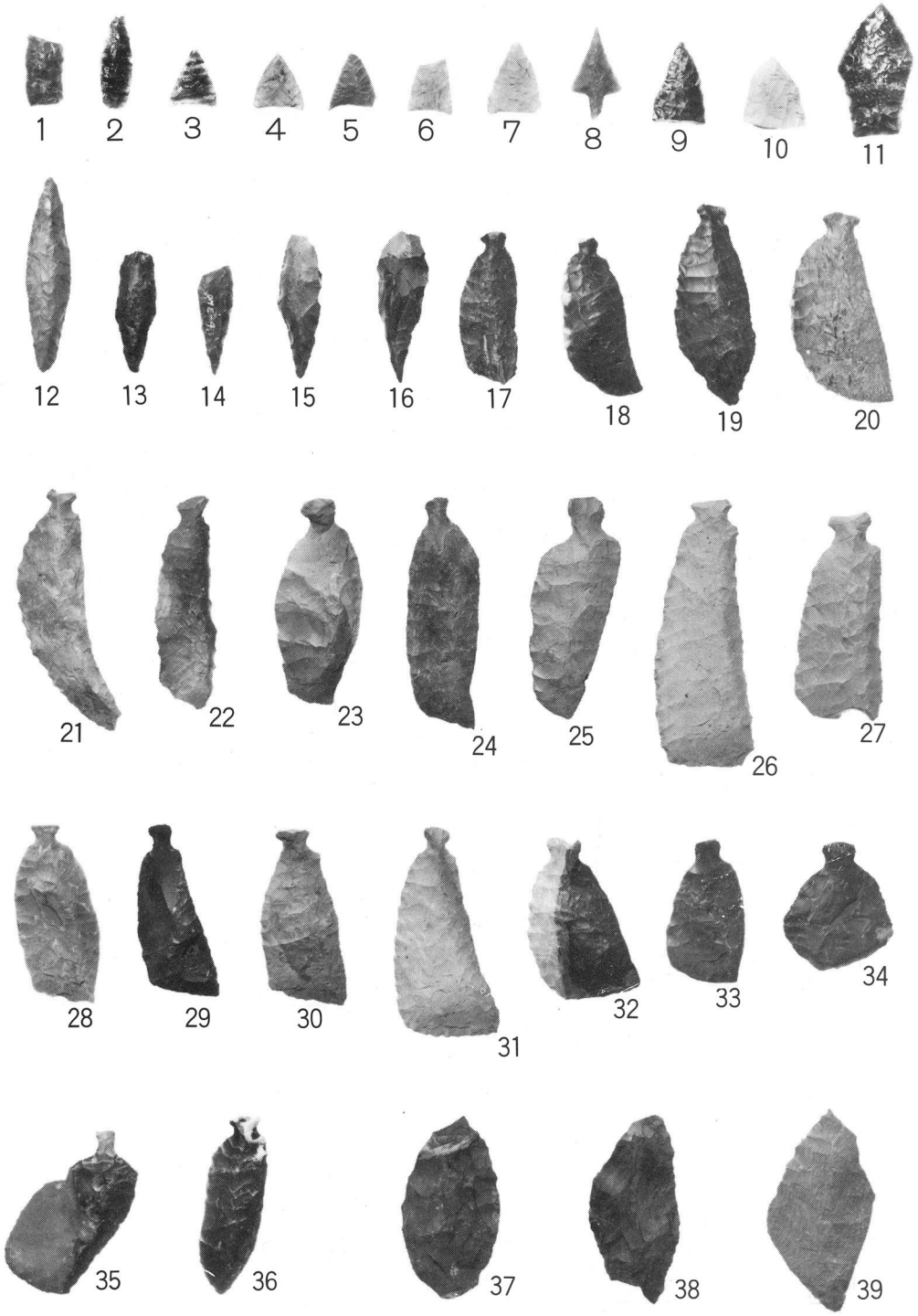
第23図版　３号竪穴Ⅵ$_1$・Ⅴ層出土の土器（３）



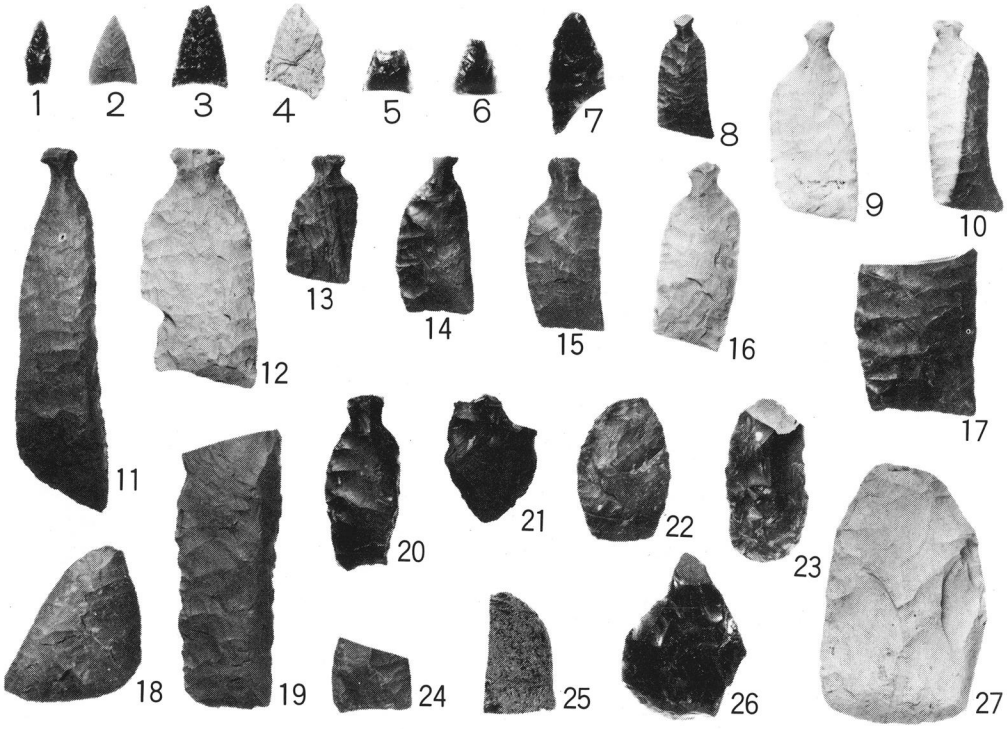
第24図版　３号竪穴Ⅳ層出土の石器（１）



第25図版　３号竪穴 Ⅵ$_2$層出土の石器（２）

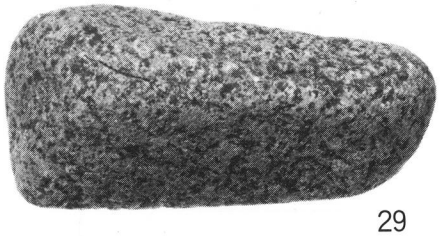


第26図版　３号竪穴Ⅵ₁・Ⅴ層出土の石器

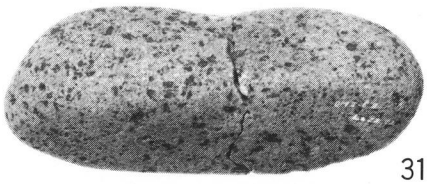


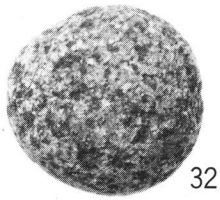
第27図版　４号竪穴Ⅵ層出土の石器（１）

28

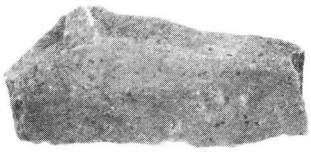

29

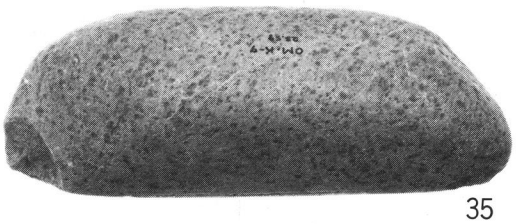
30

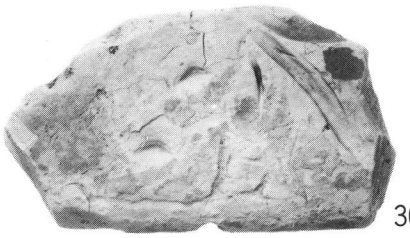

31


32

33

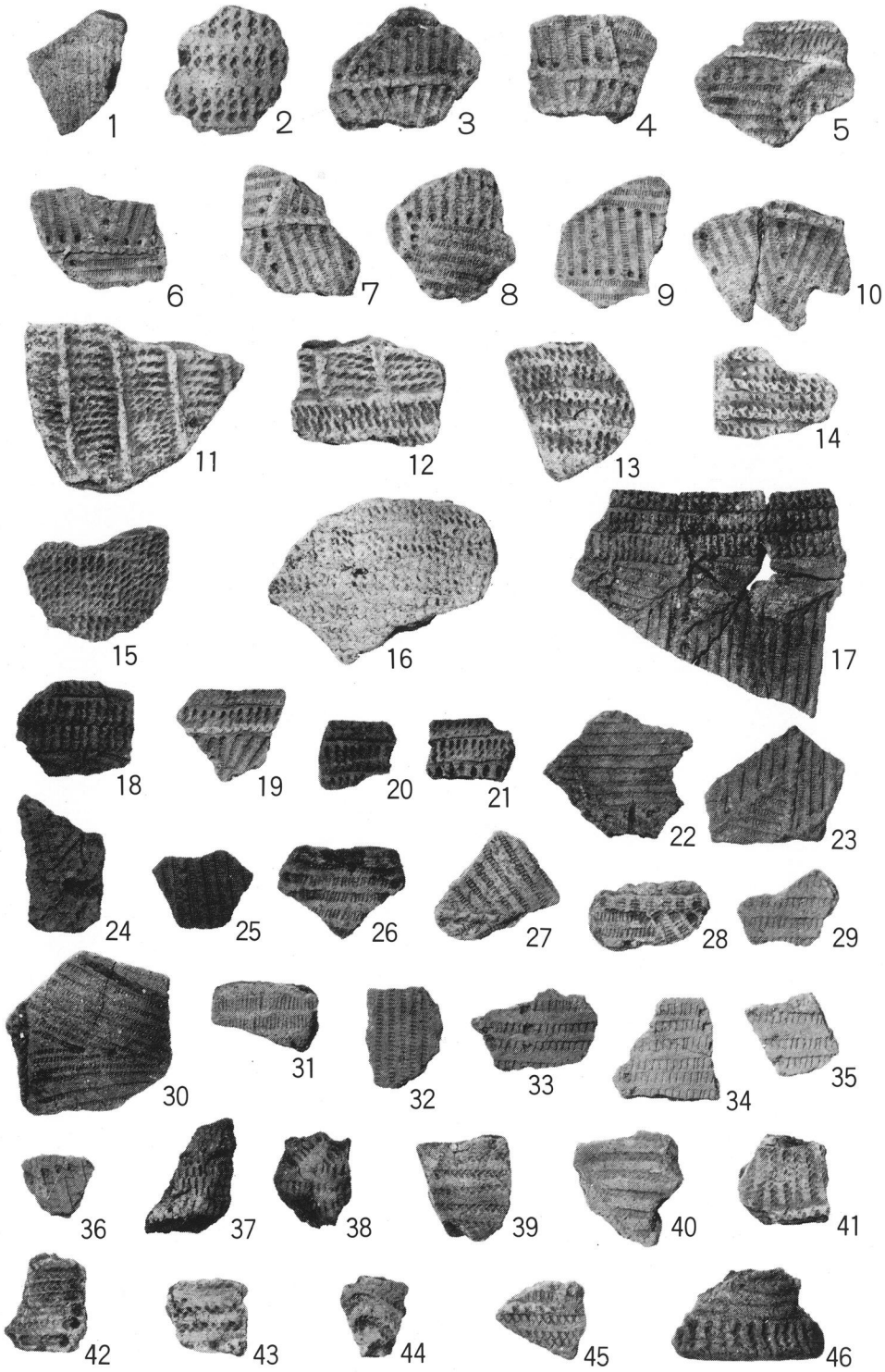

34


35

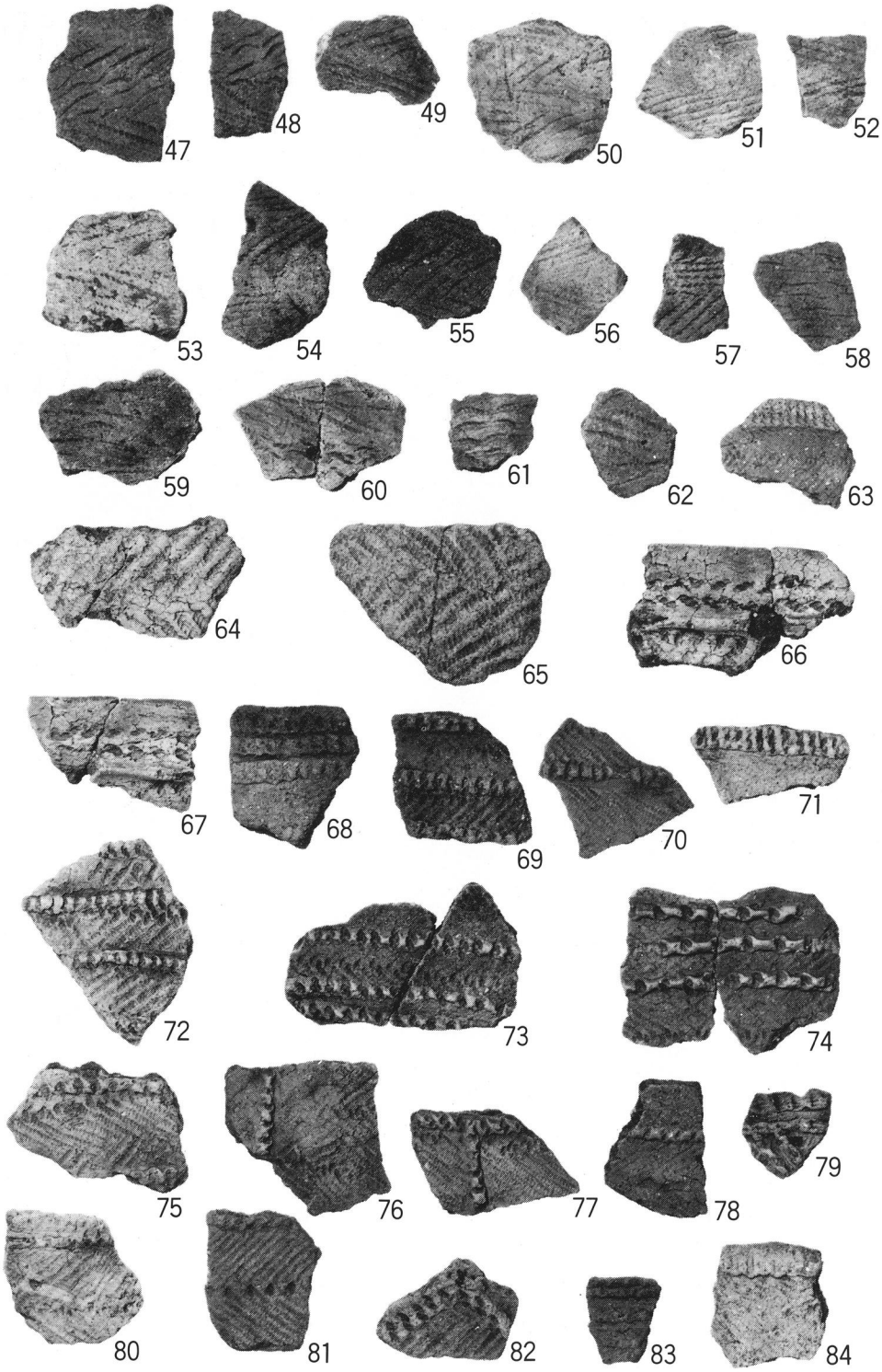

36

37

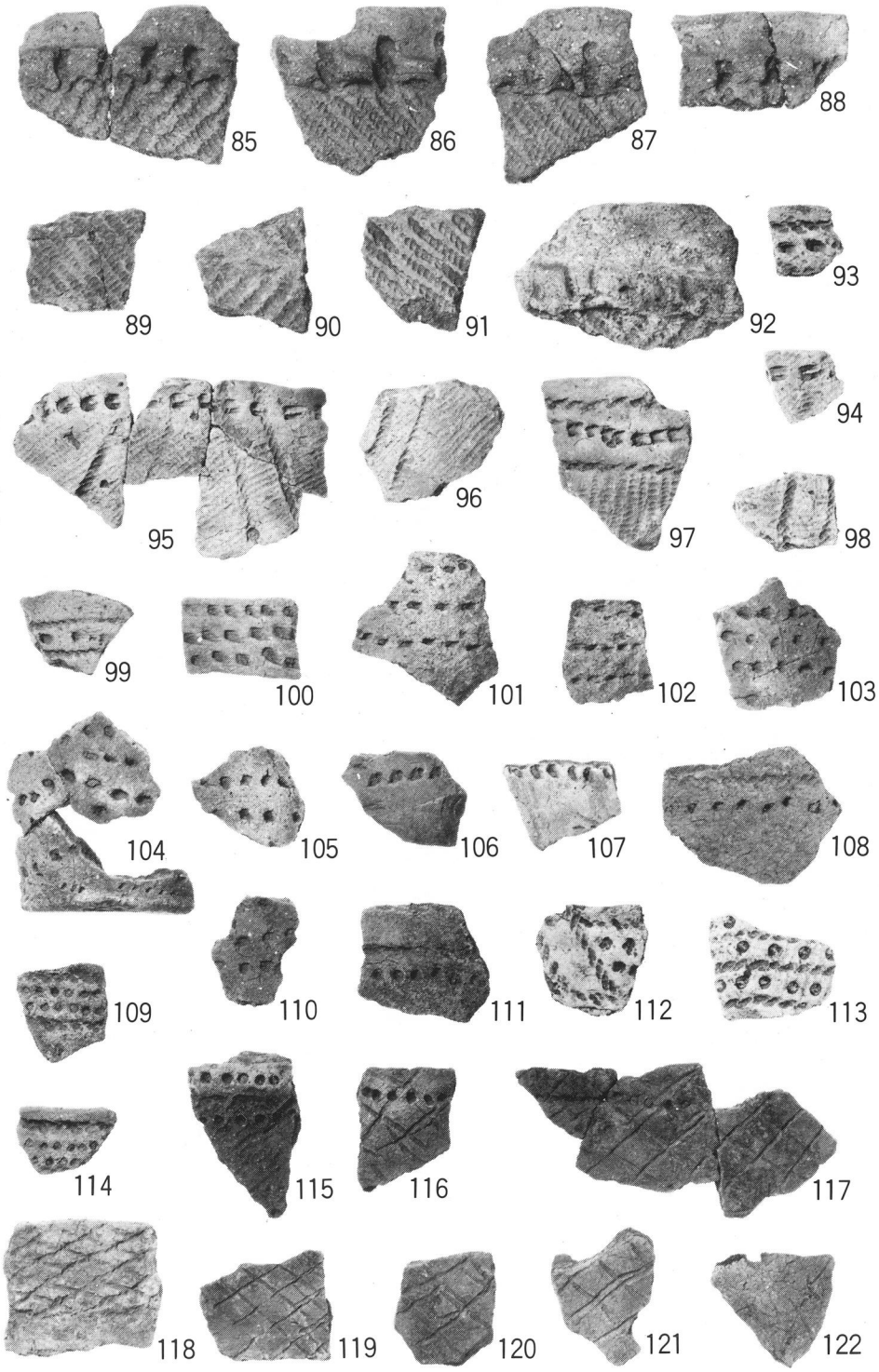
第28図版　４号竪穴Ⅵ$_2$層出土の石器（２）



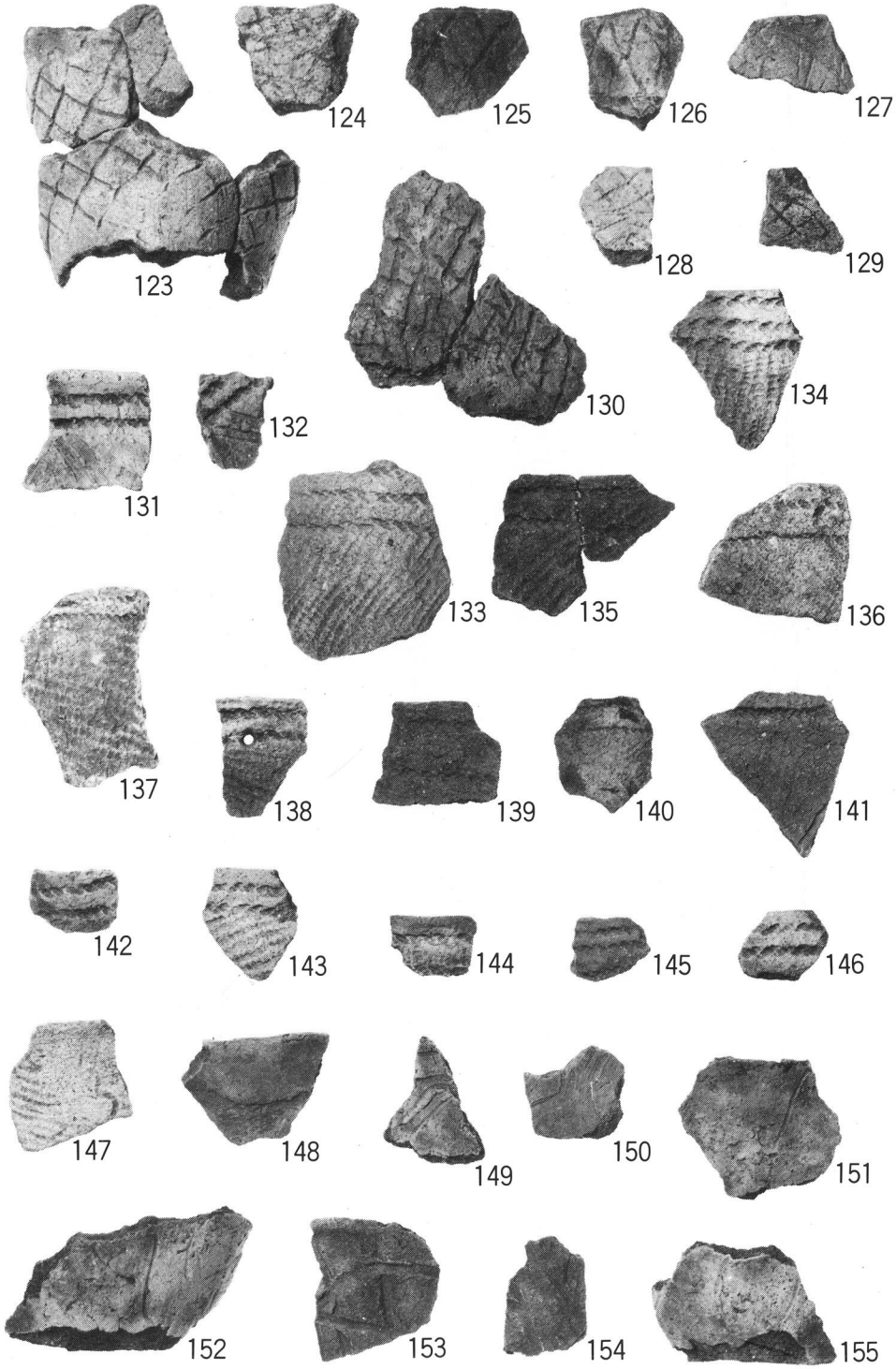
第29図版　遺構外出土の土器（1）



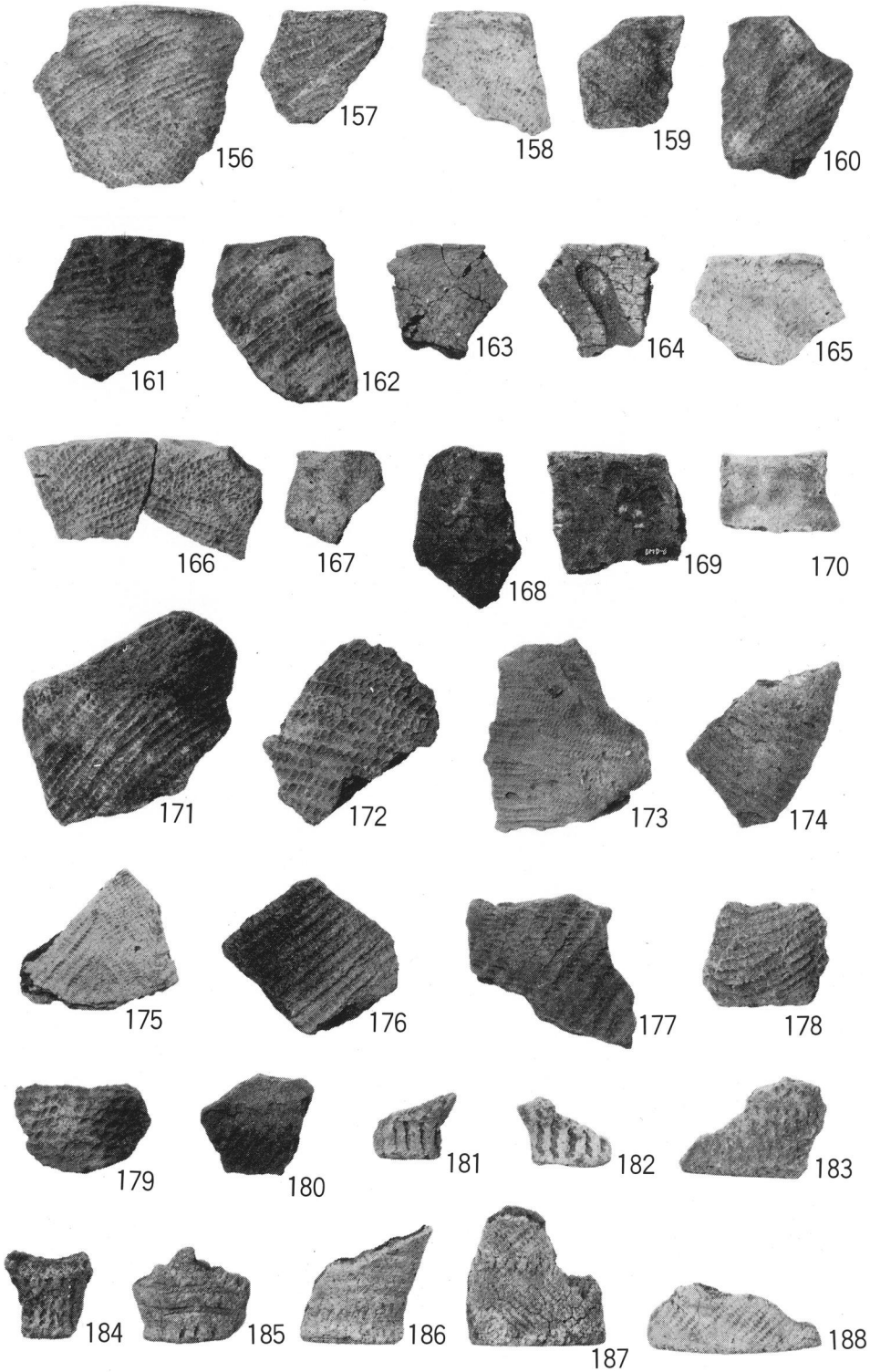
第30図版　遺構外出土の土器（2）



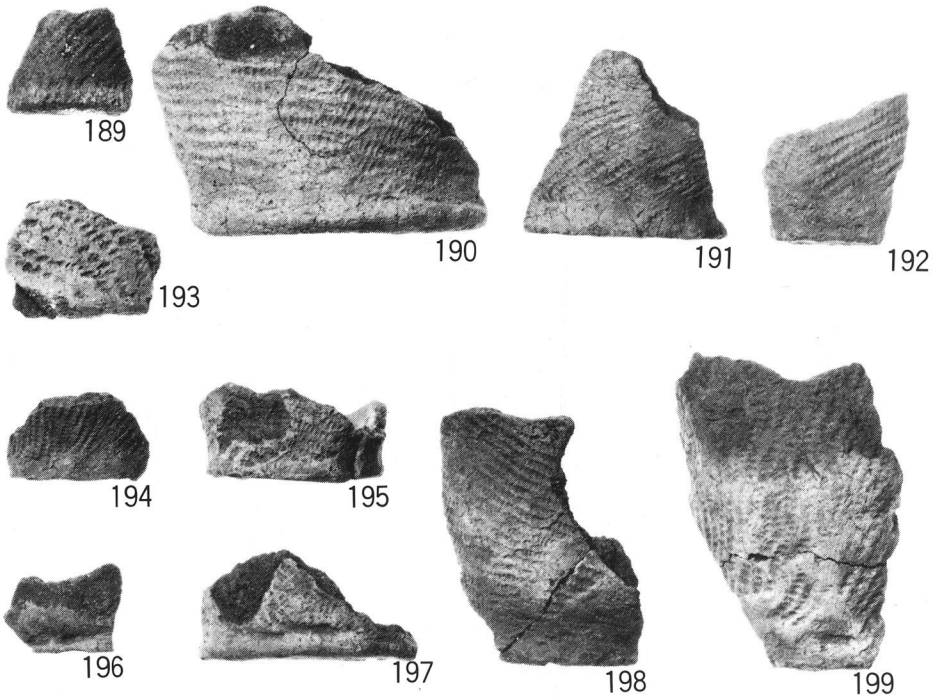
第31図版　遺構外出土の土器（3）



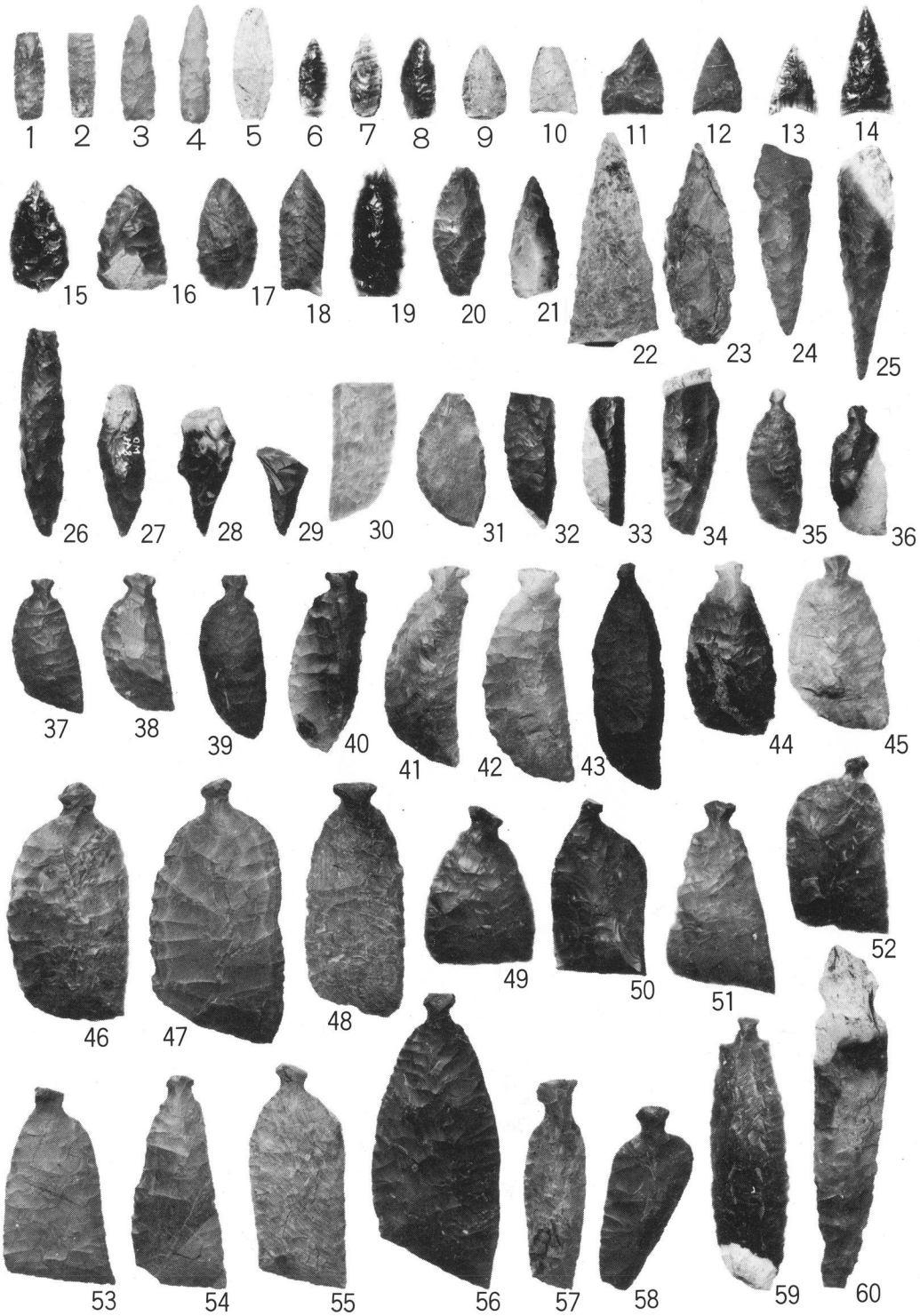
第32図版　遺構外出土の土器（4）



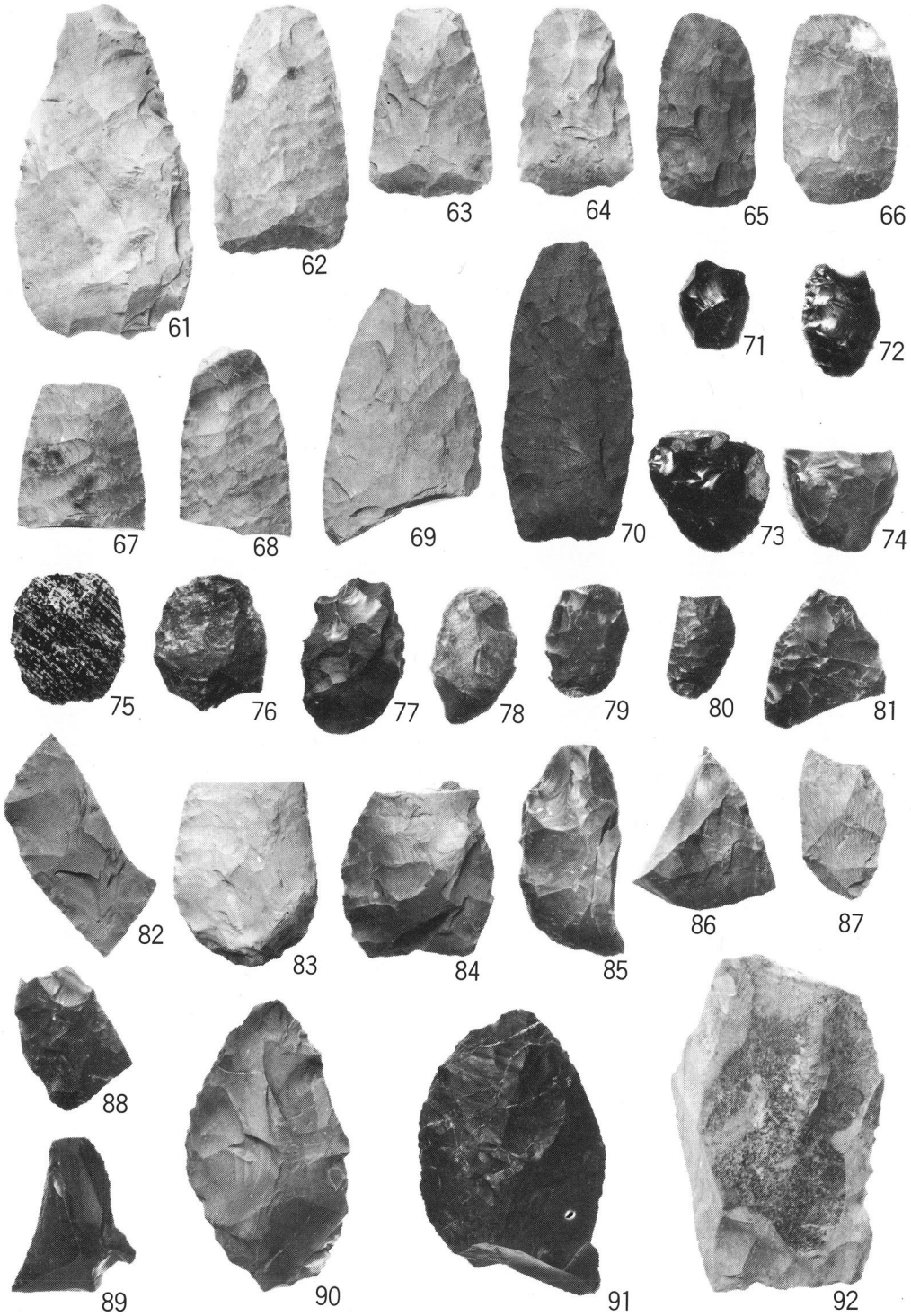
第33図版　遺構外出土の土器（5）



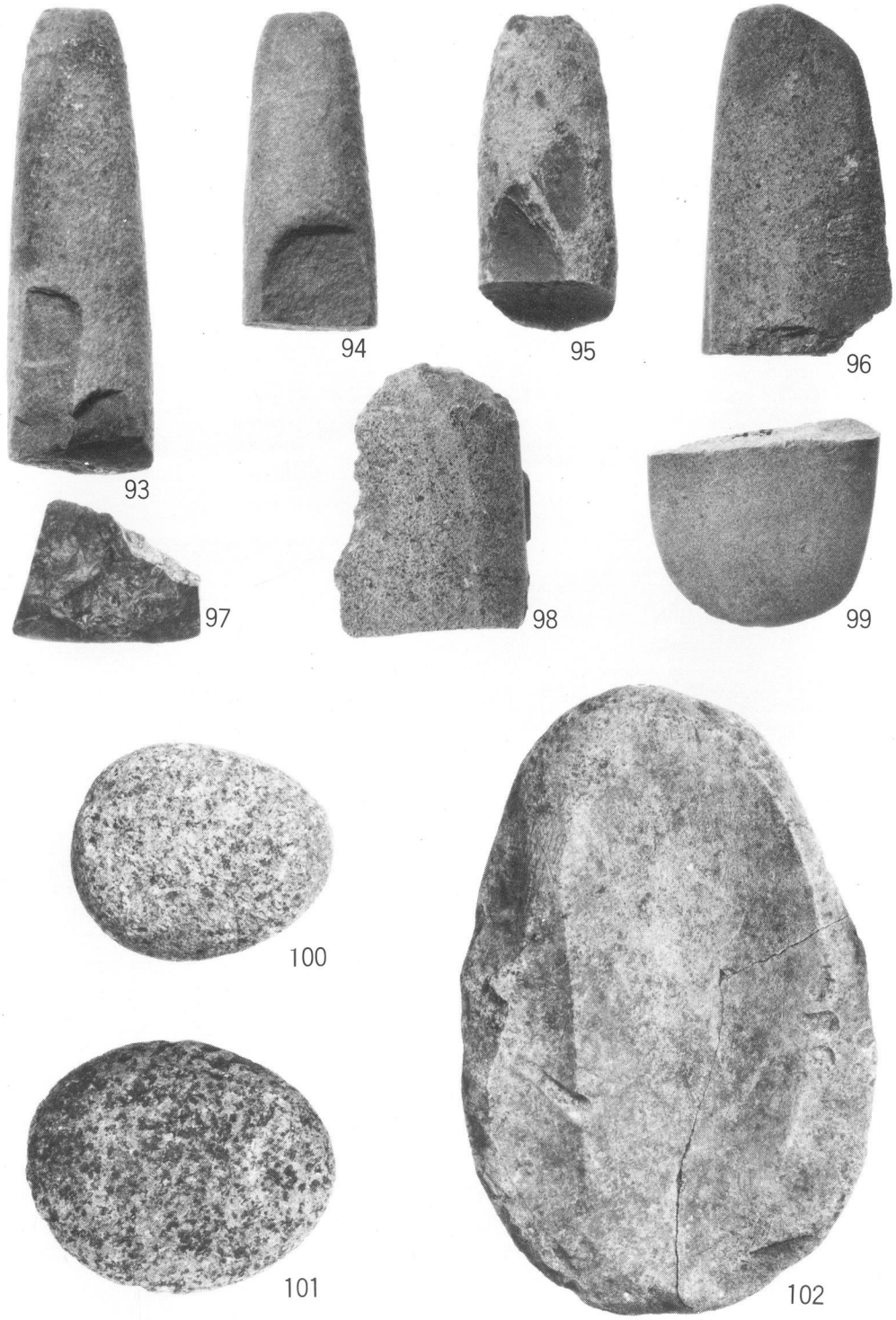
第34図版　遺構外出土の土器（6）



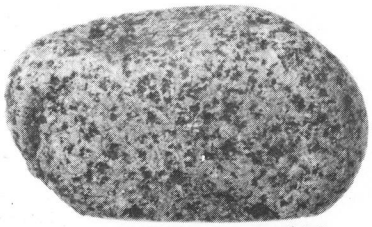
第35図版　遺構外出土の石器（1）

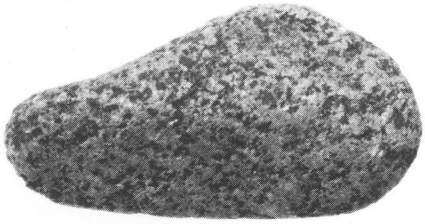


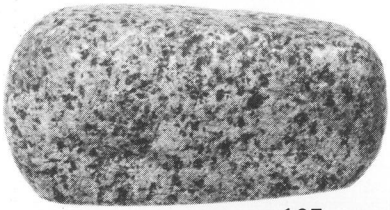
第36図版　遺構外出土の石器（2）

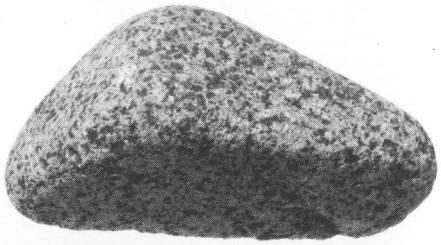


第37図版　遺構外出土の石器.(3)

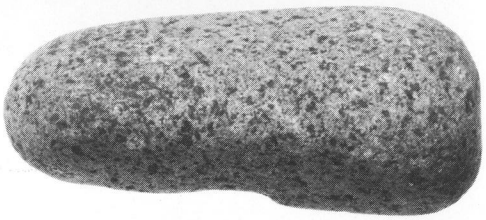

103


104

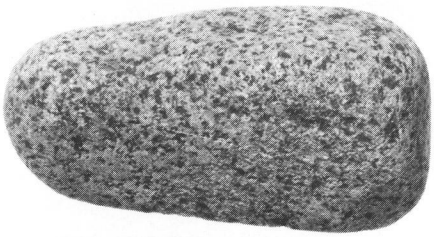

105

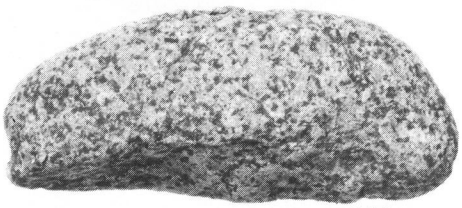

106

107


108

111


109


110

第38図版　遺構外出土の石器（4）

奥尻島松江遺跡

――松江原野１号線道路改良工事に伴なう記録保存の発掘調査報告――

昭和58年３月１日　印刷

昭和58年３月15日　発行

編 著 者　佐藤忠雄

発 行 者　奥尻町教育委員会

奥尻郡奥尻町奥尻

印 刷 所　三栄プロセス株式会社

札幌市白石区菊水４条１丁目